お客様各位

カタログ等資料中の旧社名の扱いについて

2010年4月1日を以ってNECエレクトロニクス株式会社及び株式会社ルネサステクノロジが合併し、両社の全ての事業が当社に承継されております。従いまして、本資料中には旧社名での表記が残っておりますが、当社の資料として有効ですので、ご理解の程宜しくお願い申し上げます。

ルネサスエレクトロニクス ホームページ（http://www.renesas.com）

2010年4月1日
ルネサスエレクトロニクス株式会社

【発行】ルネサスエレクトロニクス株式会社（http://www.renesas.com）

【問い合わせ先】http://japan.renesas.com/inquiry

RENESAS

ご注意書き

1. 本資料に記載されている内容は本資料発行時点のものであり、予告なく変更することがあります。当社製品のご購入およびご使用にあたりましては、事前に当社営業窓口で最新の情報をご確認いただきますとともに、当社ホームページなどを通じて公開される情報に常にご注意ください。
2. 本資料に記載された当社製品および技術情報の使用に関連し発生した第三者の特許権、著作権その他の知的財産権の侵害等に関し、当社は、一切その責任を負いません。当社は、本資料に基づき当社または第三者の特許権、著作権その他の知的財産権を何ら許諾するものではありません。
3. 当社製品を改造、改変、複製等しないでください。
4. 本資料に記載された回路、ソフトウェアおよびこれらに関連する情報は、半導体製品の動作例、応用例を説明するものです。お客様の機器の設計において、回路、ソフトウェアおよびこれらに関連する情報を使用する場合には、お客様の責任において行ってください。これらの使用に起因しお客様または第三者に生じた損害に関し、当社は、一切その責任を負いません。
5. 輸出に際しては、「外国為替及び外国貿易法」その他輸出関連法令を遵守し、かかる法令の定めるところにより必要な手続を行ってください。本資料に記載されている当社製品および技術を大量破壊兵器の開発等の目的、軍事利用の目的その他軍事用途の目的で使用しないでください。また、当社製品および技術を国内外の法令および規則により製造・使用・販売を禁止されている機器に使用することができません。
6. 本資料に記載されている情報は、正確を期すため慎重に作成したものですが、誤りがないことを保証するものではありません。万一、本資料に記載されている情報の誤りに起因する損害がお客様に生じた場合においても、当社は、一切その責任を負いません。
7. 当社は、当社製品の品質水準を「標準水準」、「高品質水準」および「特定水準」に分類しております。また、各品質水準は、以下に示す用途に製品が使われることを意図しておりますので、当社製品の品質水準をご確認ください。お客様は、当社の文書による事前の承諾を得ることなく、「特定水準」に分類された用途に当社製品を使用することができません。また、お客様は、当社の文書による事前の承諾を得ることなく、意図されていない用途に当社製品を使用することができません。当社の文書による事前の承諾を得ることなく、「特定水準」に分類された用途または意図されていない用途に当社製品を使用したことによりお客様または第三者に生じた損害等に関し、当社は、一切その責任を負いません。なお、当社製品のデータ・シート、データ・ブック等の資料で特に品質水準の表示がない場合は、標準水準製品であることを表します。

   標準水準：　コンピュータ、OA 機器、通信機器、計測機器、AV 機器、家電、工作機械、パーソナル機器、産業用ロボット

   高品質水準：輸送機器（自動車、電車、船舶等）、交通用信号機器、防災・防犯装置、各種安全装置、生命維持を目的として設計されていない医療機器（厚生労働省定義の管理医療機器に相当）

   特定水準：　航空機器、航空宇宙機器、海底中継機器、原子力制御システム、生命維持のための医療機器（生命維持装置、人体に埋め込み使用するもの、治療行為（患部切り出し等）を行うもの、その他直接人命に影響を与えるもの）（厚生労働省定義の高度管理医療機器に相当）またはシステム等
8. 本資料に記載された当社製品のご使用につき、特に、最大定格、動作電源電圧範囲、放熱特性、実装条件その他諸条件につきましては、当社保証範囲内でご使用ください。当社保証範囲を超えて当社製品をご使用された場合の故障および事故につきましては、当社は、一切その責任を負いません。
9. 当社は、当社製品の品質および信頼性の向上に努めておりますが、半導体製品はある確率で故障が発生したり、使用条件によっては誤動作したりする場合があります。また、当社製品は耐放射線設計については行っておりません。当社製品の故障または誤動作が生じた場合も、人身事故、火災事故、社会的損害などを生じさせないようお客様の責任において冗長設計、延焼対策設計、誤動作防止設計等の安全設計およびエージング処理等、機器またはシステムとしての出荷保証をお願いいたします。特に、マイコンソフトウェアは、単独での検証は困難なため、お客様が製造された最終の機器・システムとしての安全検証をお願いいたします。
10. 当社製品の環境適合性等、詳細につきましては製品個別に必ず当社営業窓口までお問合せください。ご使用に際しては、特定の物質の含有・使用を規制する RoHS 指令等、適用される環境関連法令を十分調査のうえ、かかる法令に適合するようご使用ください。お客様がかかる法令を遵守しないことにより生じた損害に関して、当社は、一切その責任を負いません。
11. 本資料の全部または一部を当社の文書による事前の承諾を得ることなく転載または複製することを固くお断りいたします。
12. 本資料に関する詳細についてのお問い合わせその他お気付きの点等がございましたら当社営業窓口までご照会ください。

注 1. 本資料において使用されている「当社」とは、ルネサスエレクトロニクス株式会社およびルネサスエレクトロニクス株式会社がその総株主の議決権の過半数を直接または間接に保有する会社をいいます。

注 2. 本資料において使用されている「当社製品」とは、注 1 において定義された当社の開発、製造製品をいいます。

お客様各位

資料中の「三菱電機」、「三菱XX」等名称の株式会社ルネサス テクノロジへの変更について

2003年4月1日を以って株式会社日立製作所及び三菱電機株式会社のマイコン、ロジック、アナログ、ディスクリート半導体、及びDRAMを除くメモリ(フラッシュメモリ・SRAM等)を含む半導体事業は株式会社ルネサス テクノロジに承継されました。
従いまして、本資料中には「三菱電機」、「三菱電機株式会社」、「三菱半導体」、「三菱XX」といった表記が残っておりますが、これらの表記は全て「株式会社ルネサス テクノロジ」に変更されておりますのでご理解の程お願い致します。尚、会社商標・ロゴ・コーポレートステートメント以外の内容については一切変更しておりませんので資料としての内容更新ではありません。

注:「高周波・光素子事業、パワーデバイス事業については三菱電機にて引き続き事業運営を行います。」

2003年4月1日
株式会社ルネサス テクノロジ
カスタマサポート部

RENESAS

概　要

M16C/30Lグループは、高性能シリコンゲートCMOSプロセスを採用しM16C/60シリーズ CPUコアを搭載したシングルチップマイクロコンピュータで、100ピンプラスチックモールドQFPに収められています。このシングルチップマイクロコンピュータは、高機能命令を持ちながら高い命令効率を持ち、1Mバイトのアドレス空間、低電圧(2.2V～3.6V)かつ命令を高速に実行する能力を備えています。また、乗算器やDMACを内蔵しており、高速な演算処理が必要なOA、通信機器、産業機器の制御に適したシングルチップマイクロコンピュータです。

M16C/30Lグループは内蔵するメモリの容量、パッケージの異なる複数の品種があります。

特　長

- メモリ容量 …… ROM　(ROM展開の図を参照してください)
  RAM　2Kバイト、3Kバイト
- 最短命令実行時間 …… 62.5ns(f(XIN)=16MHz、VCC=3.0V～3.6V)
  142.9ns(f(XIN=7MHz、VCC=2.4V～3.6V、ウエイトなし)
- 電源電圧 …… 3.0V～3.6V(f(XIN)=16MHz、ウエイトなし)
  2.4V～3.6V(f(XIN)=7MHz、ウエイトなし)
  2.2V～3.6V(f(XIN)=7MHz、1ウエイト)
- 低消費電力 …… 34.0mW(VCC=3V、f(XIN)=10MHz、ウエイトなし)
  66.0mW(VCC=3.3V、f(XIN)=16MHz、ウエイトなし)
- 割り込み …… 内部16要因、外部5要因、ソフトウエア4要因、7レベル
  (キー入力割り込みを含む)
- 多機能16ビットタイマ …… 出力系3本 + 入力系2本
- シリアルI/O…… 3本(UART/クロック 同期　3本)
- DMAC …… 1チャネル(スタート条件:14要因)
- A-D 変換器 …… 10ビット×8チャネル(最大10チャネルまで拡張可)
- 監視タイマ …… 1本
- プログラマブル入出力 ポート…… 87本
- 入力ポート …… 1本(P85、$\overline{\text{NMI}}$端子と兼用)
- メモリ拡張 …… 可能(最大1Mバイトのメモリ空間で拡張可能)
- チップセレクト出力…… 4本
- クロック発生回路 …… 2回路内蔵(帰還抵抗内蔵、セラミック共振子、または水晶発振子外付け)

応　用

オーディオ、カメラ、事務機器、通信機器、携帯機器、他

——— 目　次 ———

中央演算処理装置 11
リセット 14
プロセッサモード 21
クロック発生回路 34
プロテクト 43
割り込み 44
監視タイマ 63
DMAC 65
タイマ 74
シリアルI/O 92
A-D変換器 129
プログラマブル入出力ポート 135
電気的特性 145

ピン接続図

図1.1.1および図1.1.2にピン接続図(上面図)を示します。

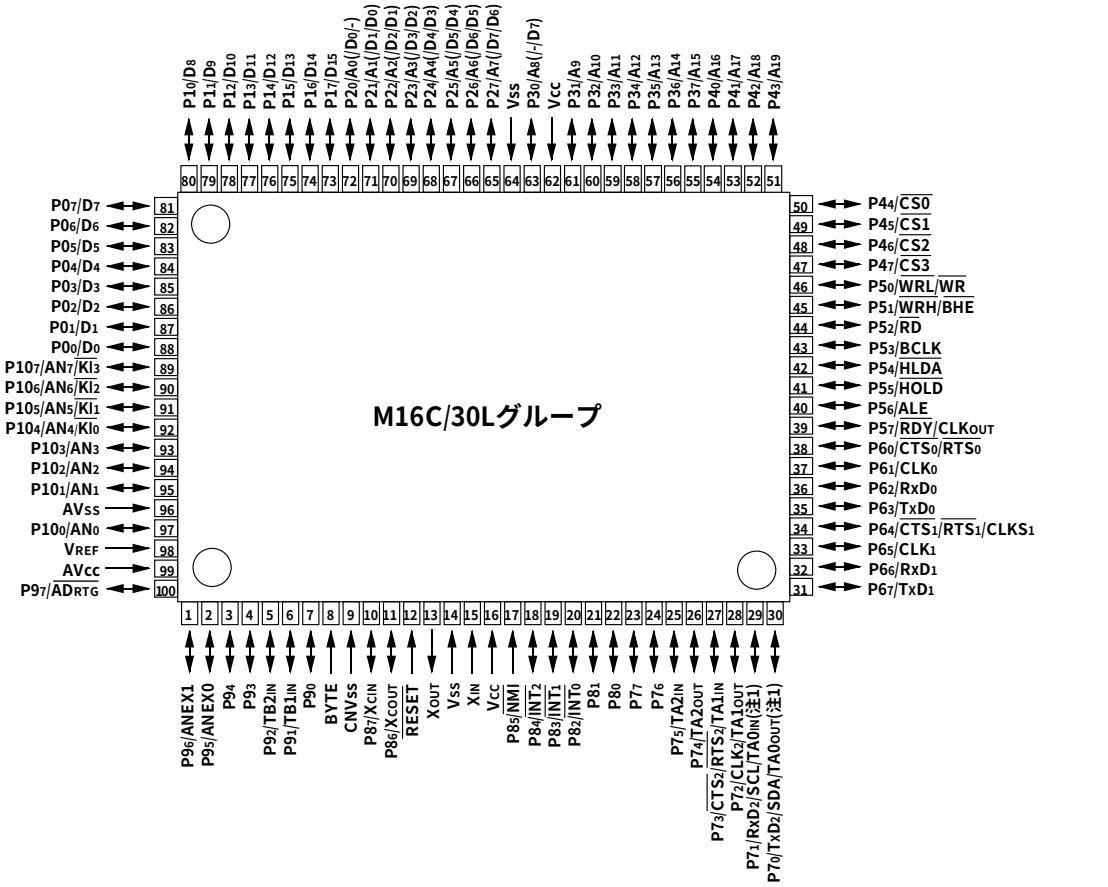
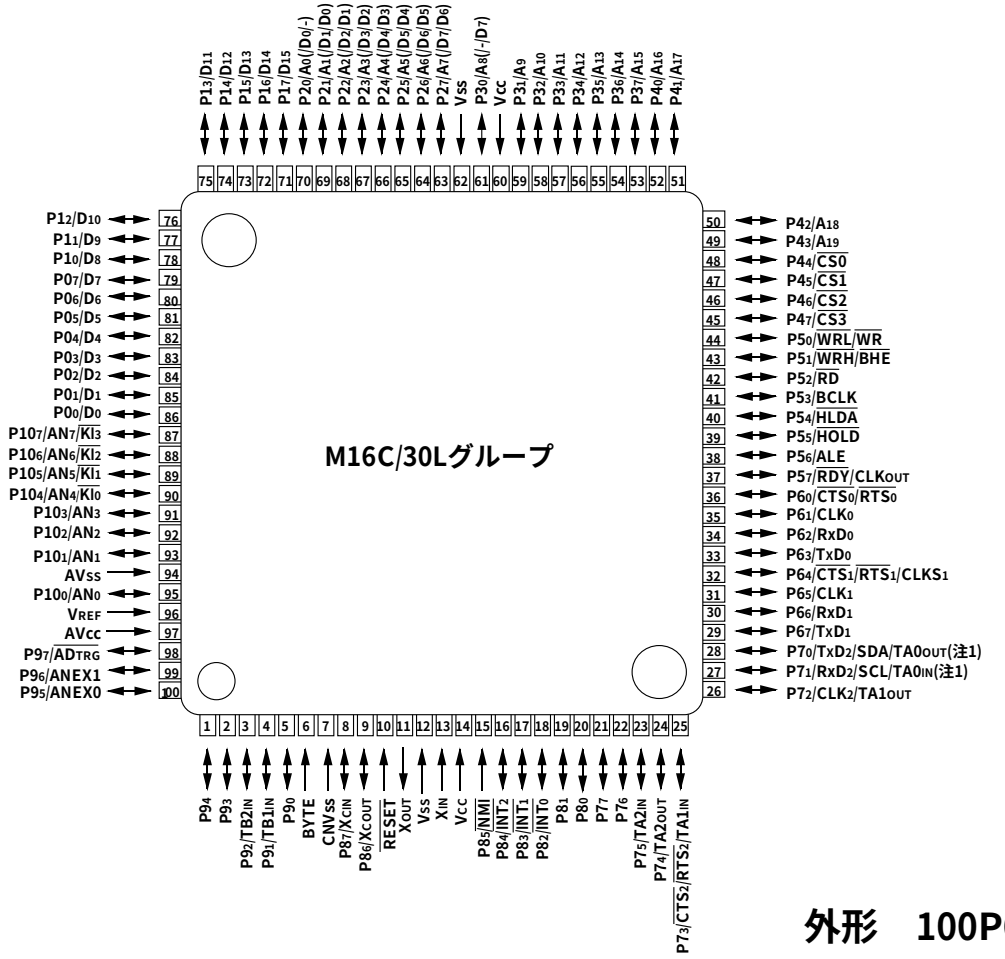


図1.1.1. ピン接続図(上面図)

ピン接続図(上面図)



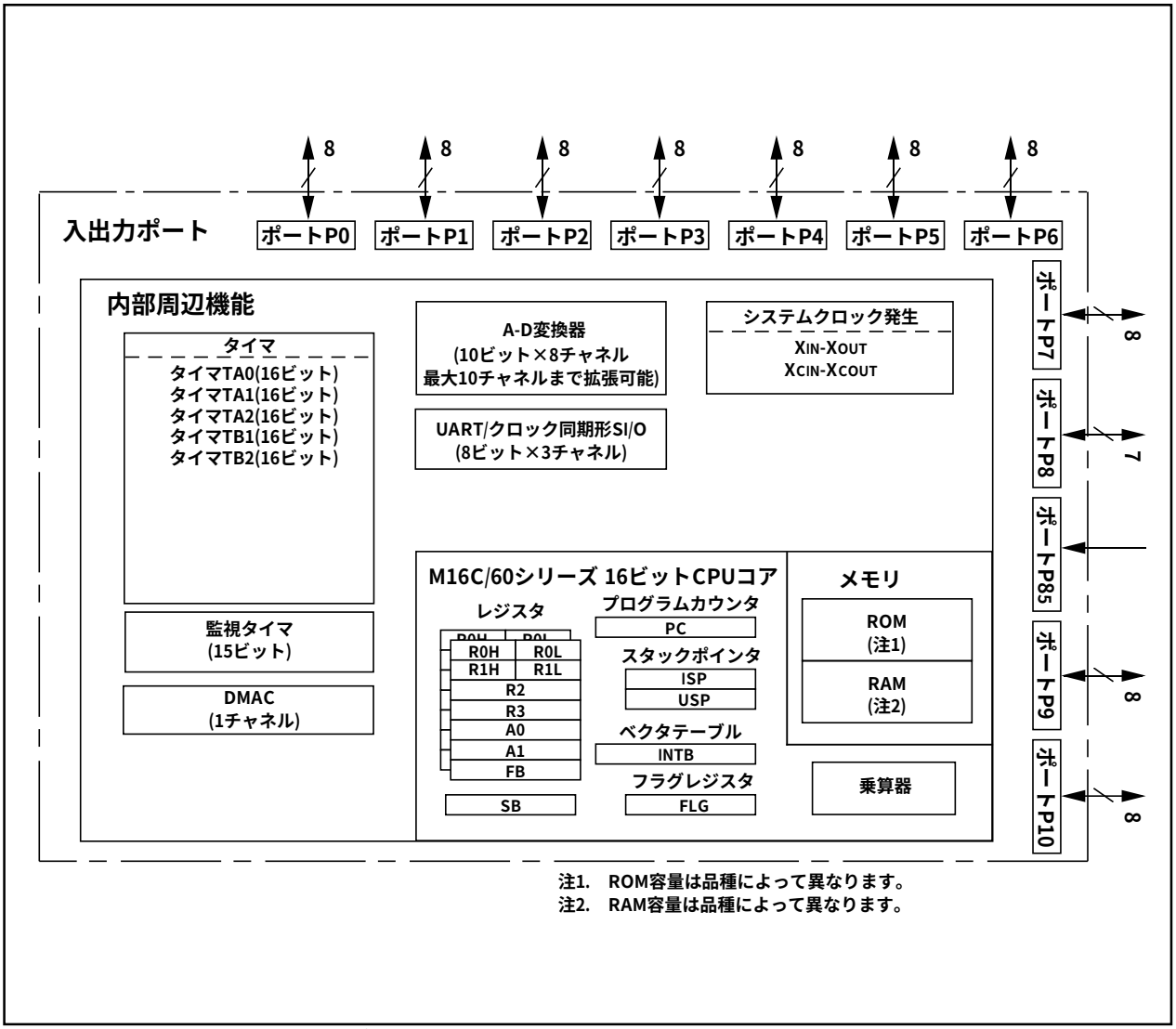
外形　100P6Q-A

注1.　Nチャネルオープンドレイン出力です。

図1.1.2.　ピン接続図(上面図)

ブロック図

図1.1.3にM16C/30Lグループのブロック図を示します。



注1.　ROM容量は品種によって異なります。
注2.　RAM容量は品種によって異なります。

図1.1.3.　M16C/30Lグループのブロック図

性能概要

表1.1.1にM16C/30Lグループの性能概要を示します。

表1.1.1. M16C/30Lグループの性能概要

項　　目		性　　能
基本命令数		91命令
最短命令実行時間		62.5ns(f(XIN)=16MHz、VCC=3.0V～3.6V) 142.9ns(f(XIN)=7MHz、VCC=2.4V～3.6V、ウエイトなし)
メモリ容量	ROM	ROM展開の図を参照してください
	RAM	2Kバイト、3Kバイト
入出力ポート	P0～P10(ただしP85は除く)	8ビット×10、7ビット×1
入力ポート	P85	1ビット×1
多機能タイマ	TA0,TA1,TA2	16ビット×3
	TB1,TB2	16ビット×2
シリアルI/O	UART0,UART1,UART2	(UARTまたはクロック同期形)×3
A-D変換器		10ビット×(8＋2)チャネル
DMAC		1チャネル(スタート条件:14要因)
監視タイマ		15ビット×1(プリスケーラ付)
割り込み		内部16要因、外部5要因、ソフトウエア4要因、7レベル
クロック発生回路		2回路内蔵 (帰還抵抗内蔵、セラミック共振子、または水晶発振子外付け)
電源電圧		3.0V～3.6V(f(XIN)=16MHz、ウエイトなし) 2.4V～3.6V(f(XIN)=7MHz、ウエイトなし) 2.2V～3.6V(f(XIN)=7MHz、1ウエイト)
消費電力		34.0mW(VCC=3V、f(XIN)=10MHz、ウエイトなし) 66.0mW(VCC=3.3V、f(XIN)=16MHz、ウエイトなし)
入出力特性	入出力耐電圧	3.3V
	出力電流	1mA
メモリ拡張		可能(最大1Mバイトのメモリ空間で拡張可能)
素子構造		CMOS高性能シリコンゲート
パッケージ		100ピンプラスチックモールドQFP

M16C/30Lグループでは次のような展開を計画しています。

(1)　マスクROM版

(2)　ROM容量

(3)　パッケージ

100P6S-A ..... プラスチックモールドQFP

100P6Q-A ..... プラスチックモールドQFP

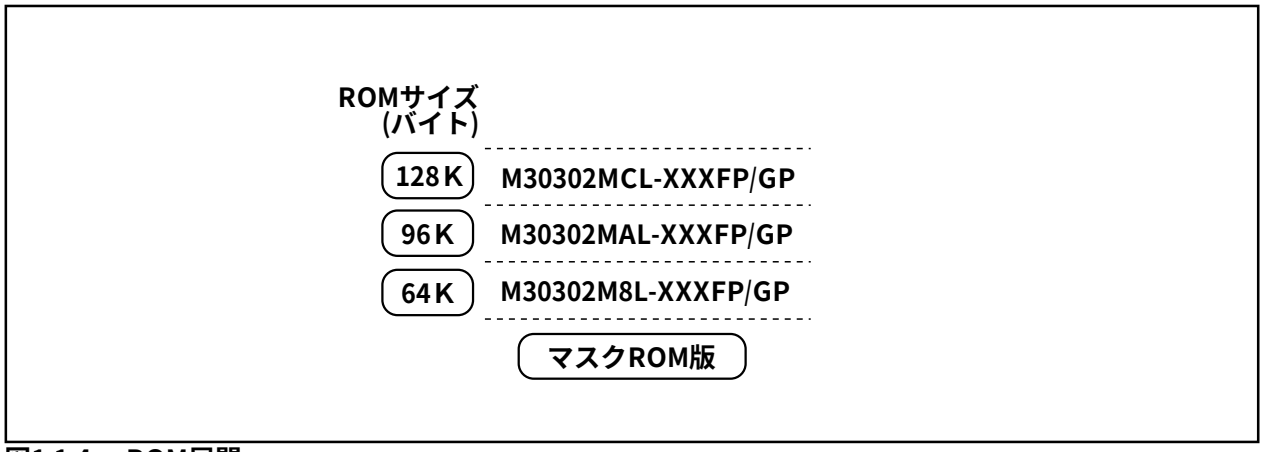


図1.1.4.　ROM展開

サポートを行う予定の製品を以下に示します。

表1.1.2. 製品一覧表　　2002年6月現在

形　　名	ROM容量	RAM容量	パッケージ	備　　考
M30302M8L-XXXFP ★★	64Kバイト	2Kバイト	100P6S-A	マスクROM版
M30302M8L-XXXGP ★★			100P6Q-A	
M30302MAL-XXXFP ★★	96Kバイト	3Kバイト	100P6S-A	
M30302MAL-XXXGP ★★			100P6Q-A	
M30302MCL-XXXFP ★	128Kバイト		100P6S-A	
M30302MCL-XXXGP ★			100P6Q-A	

★★ : 開発中
★　 : 新製品

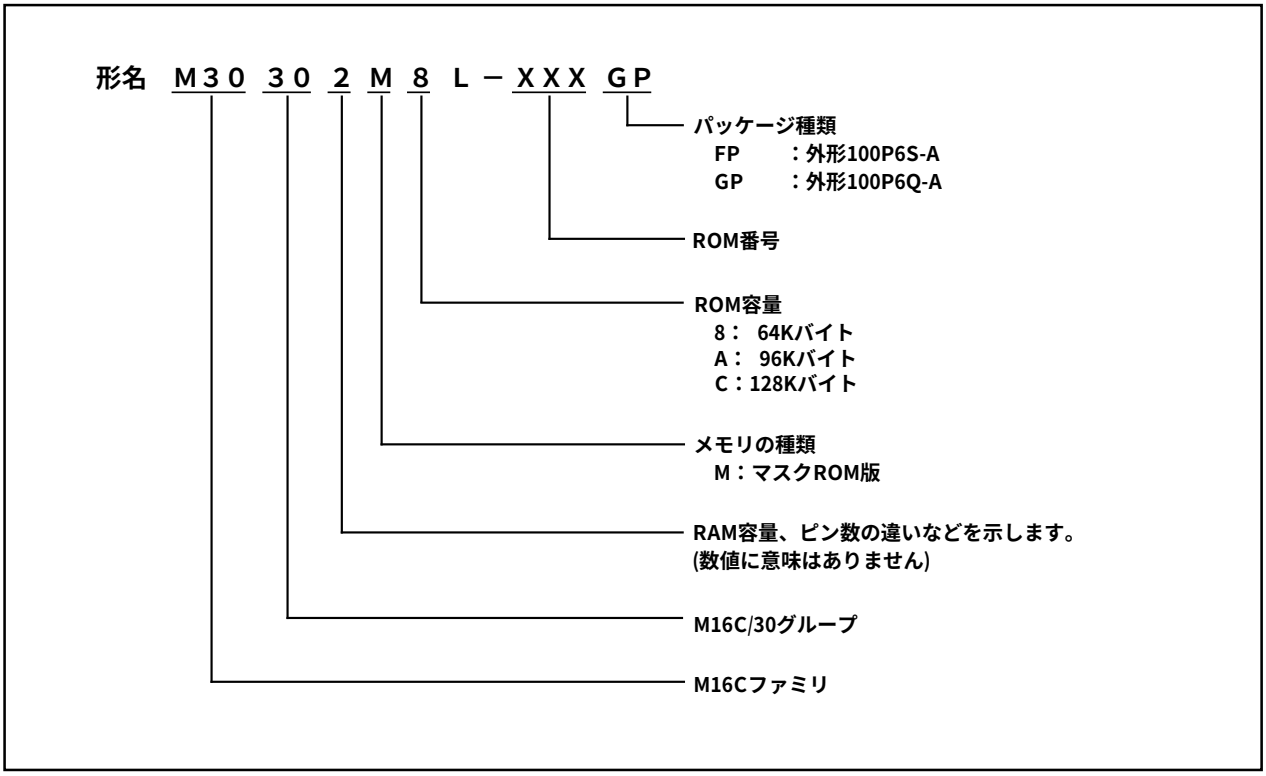


図1.1.5. 形名とメモリサイズ・パッケージ

端子の機能説明

端子名	名　称	入出力	機　　能
V_{CC}, V_{SS}	電源入力		V_{CC}端子には、2.2V～3.6Vを印加してください。V_{SS}端子には、0Vを印加してください。
CNV$_{SS}$	CNV$_{SS}$	入力	プロセッサモードを切り替えるための端子です。リセット解除後、シングルチップモード（メモリ拡張モード）で動作を開始する場合V_{SS}端子に、マイクロプロセッサモードで動作を開始する場合V_{CC}端子に接続してください。
$\overline{RESET}$	リセット入力	入力	この端子に“L”を入力すると、マイクロコンピュータはリセット状態になります。
X_{IN} X_{OUT}	クロック入力 クロック出力	入力 出力	メインクロック発振回路の入出力端子です。X_{IN}端子とX_{OUT}端子の間にはセラミック共振子、または水晶発振子を接続してください。外部で生成したクロックを入力する場合は、X_{IN}端子からクロックを入力し、X_{OUT}端子は開放にしてください。
BYTE	外部データバス幅切り替え入力	入力	外部データバス幅を切り替えるための端子です。この端子のレベルが“L”のとき16ビット幅、“H”のとき8ビット幅になります。どちらかのレベルに固定してください。外部データバスを使用しない場合、V_{SS}端子に接続してください。
AV$_{CC}$	アナログ電源入力		A-D変換器の電源入力端子です。V_{CC}端子に接続してください。
AV$_{SS}$	アナログ電源入力		A-D変換器の電源入力端子です。V_{SS}端子に接続してください。
V_{REF}	基準電圧入力	入力	A-D変換器の基準電圧入力端子です。
$P0_0$～$P0_7$	入出力ポートP0	入出力	CMOSの8ビット入出力ポートです。入出力を選択するための方向レジスタを持ち、1端子ごとに入力、または出力ポートに設定できます。 シングルチップモードの入力ポートでは、ソフトウエアにて4ビット単位でプルアップ抵抗の有無を設定できます。メモリ拡張モード、マイクロプロセッサモードでは、内蔵プルアップ抵抗は選択できません。
D_0～D_7		入出力	セパレートバス設定時データ(D_0～D_7)の入出力を行います。
$P1_0$～$P1_7$	入出力ポートP1	入出力	P0と同等の機能を持つ8ビット入出力ポートです。
D_8～D_{15}		入出力	セパレートバス設定時データ(D_8～D_{15})の入出力を行います。
$P2_0$～$P2_7$	入出力ポートP2	入出力	P0と同等の機能を持つ8ビット入出力ポートです。
A_0～A_7		出力	アドレスの下位8ビット(A_0～A_7)の出力を行います。
A_0/D_0～ A_7/D_7		入出力	外部データバス幅が8ビットでマルチプレクスバス設定時、データ(D_0～D_7)の入出力と、アドレスの下位8ビット(A_0～A_7)の出力を時分割で行います。
A_0 A_1/D_0～ A_7/D_6		出力 入出力	外部データバス幅が16ビットでマルチプレクスバス設定時、データ(D_0～D_6)の入出力と、アドレス(A_1～A_7)の出力を時分割で行います。また、アドレス(A_0)の出力を行います。
$P3_0$～$P3_7$	入出力ポートP3	入出力	P0と同等の機能を持つ8ビット入出力ポートです。
A_8～A_{15}		出力	アドレスの中位8ビット(A_8～A_{15})の出力を行います。
A_8/D_7、 A_9～A_{15}		入出力 出力	外部データバス幅が16ビットでマルチプレクスバス設定時、データ(D_7)の入出力と、アドレス(A_8)の出力を時分割で行います。また、アドレス(A_9～A_{15})の出力を行います。
$P4_0$～$P4_7$	入出力ポートP4	入出力	P0と同等の機能を持つ8ビット入出力ポートです。
A_{16}～A_{19}、 $\overline{CS_0}$～$\overline{CS_3}$		出力 出力	A_{16}～A_{19}、$\overline{CS_0}$～$\overline{CS_3}$信号を出力します。A_{16}～A_{19}はアドレスの上位4ビットです。$\overline{CS_0}$～$\overline{CS_3}$はチップセレクト信号でアクセス空間の指定に使用します。

端子の機能説明

端子名	名　称	入出力	機　　能
$P5_0$～$P5_7$	入出力ポートP5	入出力	P0と同等の機能を持つ8ビット入出力ポートです。シングルチップモード時、ソフトウエアで選択することによって、$P5_7$からXINの8分周、32分周または、XCINと同じ周期をもつクロックを出力します。
$\overline{WRL}$/$\overline{WR}$、 $\overline{WRH}$/$\overline{BHE}$、 $\overline{RD}$、 BCLK、 $\overline{HLDA}$、 $\overline{HOLD}$、 ALE、 $\overline{RDY}$		出力 出力 出力 出力 出力 入力 出力 入力	$\overline{WRL}$、$\overline{WRH}$、($\overline{WR}$、$\overline{BHE}$)、$\overline{RD}$、BCLK、$\overline{HLDA}$、ALE信号を出力します。なお、ソフトウエアによって$\overline{WRL}$、$\overline{WRH}$または、$\overline{BHE}$、$\overline{WR}$を切り替えることができます。 ■$\overline{WRL}$、$\overline{WRH}$、$\overline{RD}$選択時 外部データバス幅が16ビットの場合、$\overline{WRL}$信号が“L”レベルのとき偶数番地に、$\overline{WRH}$信号が“L”レベルのときは奇数番地に書き込みを行います。$\overline{RD}$信号が“L”レベルのとき読み出しを行います。 ■$\overline{WR}$、$\overline{BHE}$、$\overline{RD}$選択時 $\overline{WR}$信号が“L”レベルのとき書き込みを行います。$\overline{RD}$信号が“L”レベルのとき読み出しを行います。$\overline{BHE}$信号が“L”レベルのとき奇数番地をアクセスします。外部データバス幅が8ビットのときは、このモードを使用してください。 $\overline{HOLD}$端子の入力レベルが“L”の期間、マイクロコンピュータはホールド状態になります。ホールド状態の期間、$\overline{HLDA}$は“L”レベルを出力します。ALEはアドレスをラッチするための信号です。$\overline{RDY}$端子の入力レベルが“L”の期間、マイクロコンピュータはレディー状態になります。
$P6_0$～$P6_7$	入出力ポートP6	入出力	P0と同等の機能を持つ8ビット入出力ポートです。シングルチップモード、マイクロプロセッサモード、メモリ拡張モードの入力ポートでは、ソフトウエアにて4ビット単位でプルアップ抵抗の有無を設定できます。ソフトウエアで選択することによって、UART0、UART1の入出力端子として機能します。
$P7_0$～$P7_7$	入出力ポートP7	入出力	P6と同等の機能を持つ8ビット入出力ポートです(ただし、$P7_0$および$P7_1$はNチャネルオープンドレイン出力)。ソフトウエアで選択することによって、タイマA0～A2、またはUART2の入出力端子として機能します。
$P8_0$～$P8_4$、 $P8_6$、 $P8_7$、 $P8_5$	入出力ポートP8 入力ポート$P8_5$	入出力 入出力 入出力 入力	$P8_0$～$P8_4$、$P8_6$、$P8_7$はP6と同等の機能を持つ入出力ポートです。ソフトウエアで選択することによって、外部割り込みの入力端子として機能します。$P8_6$、$P8_7$はソフトウエアで選択することによってサブクロック発振回路の入出力端子として機能します。この場合、$P8_6$(XCOUT端子)と$P8_7$(XCIN端子)の間には水晶発振子を接続してください。$P8_5$は$\overline{NMI}$と兼用の入力専用のポートです。この端子の入力が“H”レベルから“L”レベルに変化したとき$\overline{NMI}$割り込みが発生します。$\overline{NMI}$の機能はソフトウエアで解除することはできません。この端子は、プルアップ抵抗は設定できません。
$P9_0$～$P9_7$	入出力ポートP9	入出力	P6と同等の機能を持つ8ビット入出力ポートです。ソフトウエアで選択することによって、タイマB1、B2の入力端子、およびA-D変換器の拡張入力端子、A-Dトリガ入力端子として機能します。
$P10_0$～$P10_7$	入出力ポートP10	入出力	P6と同等の機能を持つ8ビット入出力ポートです。ソフトウエアで選択することによってA-D変換器の入力端子として機能します。また、$P10_4$～$P10_7$はキー入力割り込み機能の入力端子としても機能します。

機能ブロック動作説明

M16C/30Lグループは、次のような装置をシングルチップ内に収めています。命令またはデータを記憶するためのメモリであるROMとRAM、演算を実行するための中央演算処理装置、そして、タイマ、シリアルI/O、DMAC、A-D変換器、入出力ポートなどの周辺装置です。

次に各装置について説明します。

メモリ

メモリ配置図を図1.3.1に示します。アドレス空間は0000_{16}番地から$FFFFF_{16}$番地までの1Mバイトあります。

$FFFFF_{16}$番地から番地の小さい方向にROMが配置されています。例えばM30302MCL-XXXGPでは、$E000_{16}$番地から$FFFFF_{16}$番地まで128Kバイトの内部ROMが配置されています。

$FFFDC_{16}$番地から$FFFFF_{16}$番地はリセットおよび$\overline{NMI}$などの固定割り込みベクタテーブルの番地で、ここに割り込みルーチンの先頭アドレスを格納します。また、タイマ割り込みなどのベクタテーブルの番地は、内部レジスタ(INTB)により任意に設定することができます。詳細は割り込みの項を参照してください。

0040_{16}番地から番地の大きい方向にRAMが配置されています。例えばM30302MCL-XXXGPでは、0040_{16}番地から$00FFF_{16}$番地まで3Kバイトの内部RAMが配置されています。RAMはデータ格納以外にサブルーチン呼び出しや、割り込み時のスタックとしても使用します。

0000_{16}番地から$003FF_{16}$番地は入出力ポート、A-D変換器、シリアルI/O、タイマなどの周辺装置の制御レジスタが割り付けられているSFR領域です。図1.6.1～図1.6.3に周辺装置制御レジスタの配置を示します。SFR領域のうち何も配置されていない領域はすべて予約領域となっており、使用することができません。

$FFE00_{16}$番地から$FFFDB_{16}$番地はスペシャルページベクタテーブルで、ここにサブルーチンの先頭番地またはジャンプ先の番地を格納すれば、サブルーチンコール命令やジャンプ命令を2バイトで使用でき、プログラムステップ数の節減に役立ちます。

メモリ拡張モードまたはマイクロプロセッサモード時、一部の領域は内部予約領域となっており使用できません。

・01800_{16}番地から$03FFF_{16}$番地(メモリ拡張モード時およびマイクロプロセッサモード時)

・$D0000_{16}$番地から$DFFFF_{16}$番地(メモリ拡張モード時)

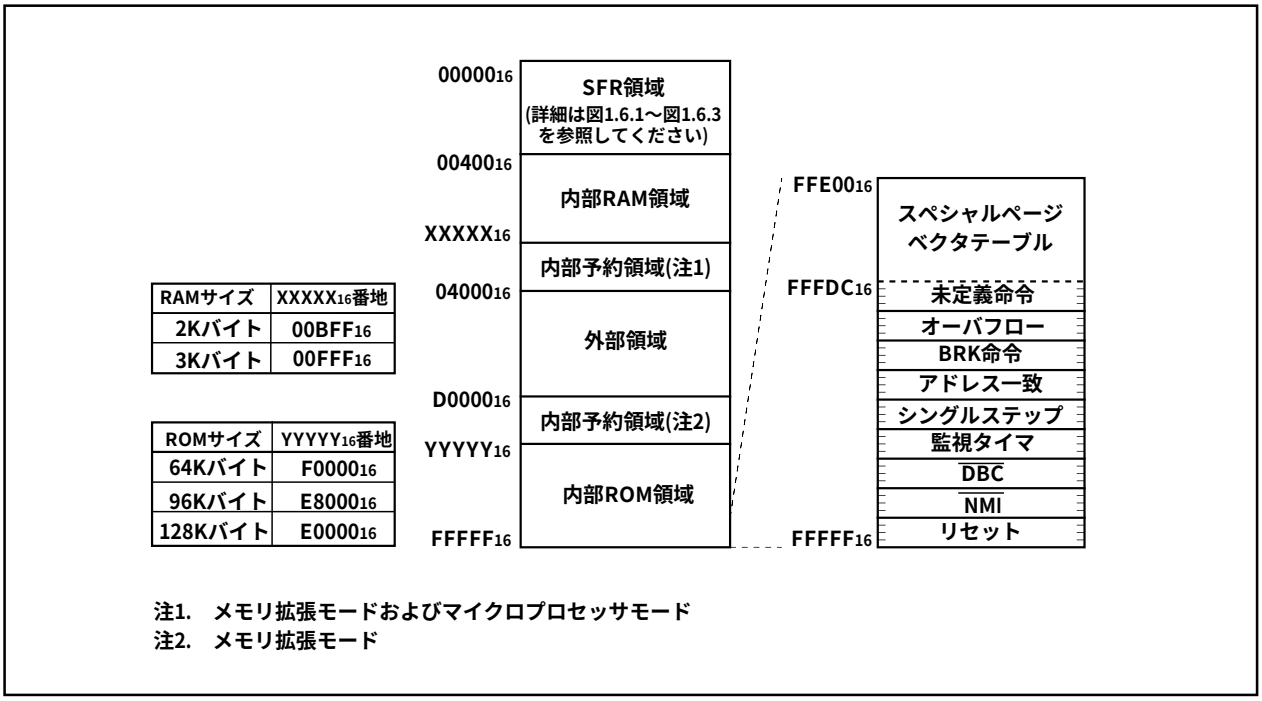


図1.3.1. メモリ配置図

中央演算処理装置

中央演算処理装置には図1.4.1に示す13個のレジスタがあります。これらのうち、R0,R1,R2,R3,A0,A1,FBの7個は2セットあり、2つのレジスタバンクを構成しています。

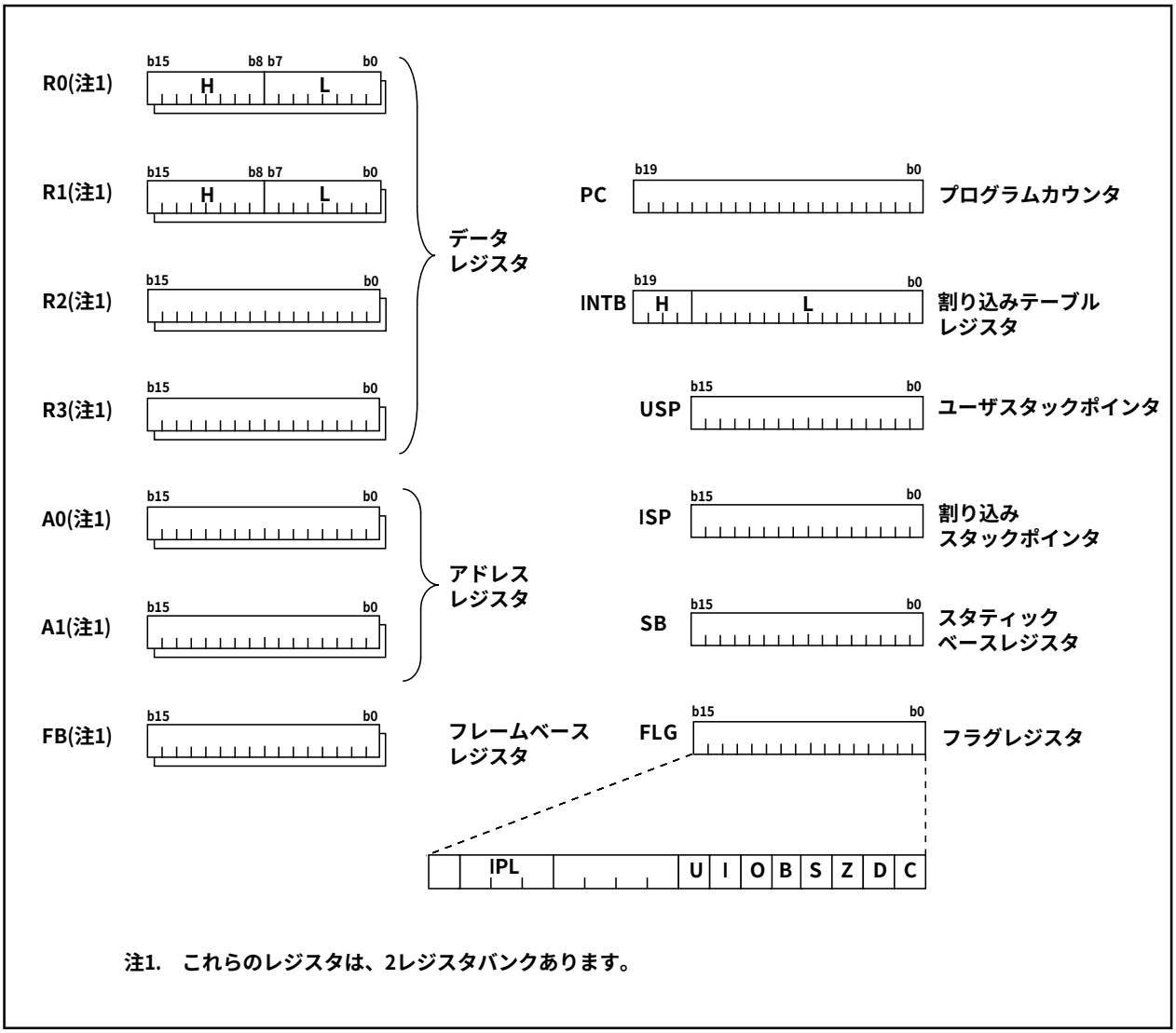


図1.4.1. 中央演算処理装置のレジスタ構成

(1) データレジスタ(R0, R1, R2, R3)

データレジスタ(R0, R1, R2, R3)は16ビットで構成されており、主に転送や算術、論理演算に使用します。

R0は、R0HとR0Lを別々に8ビットのデータレジスタとして使用することができます。R1は、R1HとR1Lを別々に8ビットのデータレジスタとして使用することができます。また、一部の命令ではR2とR0、R3とR1を組合せて32ビットのデータレジスタ(R2R0, R3R1)としても使用できます。

(2) アドレスレジスタ(A0, A1)

アドレスレジスタ(A0, A1)は16ビットで構成されており、データレジスタと同等の機能を持ちます。また、アドレスレジスタ間接アドレッシングおよびアドレスレジスタ相対アドレッシングに使用します。

一部の命令ではA1とA0とを組合せて32ビットのアドレスレジスタ(A1A0)としても使用できます。

(3) フレームベースレジスタ(FB)

フレームベースレジスタ(FB)は16ビットで構成されており、FB相対アドレッシングに使用します。

(4) プログラムカウンタ(PC)

プログラムカウンタ(PC)は20ビットで構成されており、次に実行する命令の番地を示します。

(5) 割り込みテーブルレジスタ(INTB)

割り込みテーブルレジスタ(INTB)は20ビットで構成されており、割り込みベクタテーブルの先頭番地を示します。

(6) スタックポインタ(USP, ISP)

スタックポインタは、ユーザスタックポインタ(USP)と割り込みスタックポインタ(ISP)の2種類があり、共に16ビットで構成されています。

使用するスタックポインタ(USP, ISP)はスタックポインタ指定フラグ(Uフラグ)によって切り替えられます。

スタックポインタ指定フラグ(Uフラグ)は、フラグレジスタ(FLG)のビット7です。

(7) スタティックベースレジスタ(SB)

スタティックベースレジスタ(SB)は16ビットで構成されており、SB相対アドレッシングに使用します。

(8) フラグレジスタ(FLG)

フラグレジスタ(FLG)は11ビットで構成されており、1ビット単位でフラグとして使用します。

フラグレジスタ(FLG)の構成を図1.4.2に示します。また、各フラグの機能を以下に示します。

●ビット0：キャリーフラグ(Cフラグ)

算術論理ユニットで発生したキャリー、ボロー、シフトアウトしたビット等を保持します。

●ビット1：デバッグフラグ(Dフラグ)

シングルステップ割り込みを許可するフラグです。

このフラグが“1”のとき、命令実行後シングルステップ割り込みが発生します。割り込みを受け付けると、このフラグは“0”になります。

●ビット2：ゼロフラグ(Zフラグ)

演算の結果が0のとき“1”になり、それ以外のとき“0”になります。

●ビット3：サインフラグ(Sフラグ)

演算の結果が負のとき“1”になり、それ以外のとき“0”になります。

●ビット4：レジスタバンク指定フラグ(Bフラグ)

レジスタバンクの選択を行います。このフラグが“0”のときレジスタバンク0が指定され、“1”のときレジスタバンク1が指定されます。

●ビット5：オーバフローフラグ(Oフラグ)

演算の結果がオーバフローしたときに“1”になります。

●ビット6：割り込み許可フラグ(Iフラグ)

マスカブル割り込みを許可するフラグです。

このフラグが“0”のとき割り込みは禁止され、“1”のとき許可されます。

割り込みを受け付けると、このフラグは“0”になります。

●ビット7：スタックポインタ指定フラグ(Uフラグ)

このフラグが“0”のとき割り込みスタックポインタ(ISP)が指定され、“1”のときユーザスタックポインタ(USP)が指定されます。

ハードウエア割り込みを受け付けたとき、またはソフトウエア割り込み番号0～31のINT命令を実行したとき、このフラグは“0”になります。

●ビット8～ビット11：予約領域

●ビット12～ビット14：プロセッサ割り込み優先レベル(IPL)

プロセッサ割り込み優先レベル(IPL)は3ビットで構成されており、レベル0～レベル7までの8段階のプロセッサ割り込み優先レベルを指定します。

要求があった割り込みの優先レベルが、プロセッサ割り込み優先レベル(IPL)より大きい場合、その割り込みは許可されます。

●ビット15：予約領域

C、Z、S、O各フラグは、命令により変化します。変化の詳細はソフトウエアマニュアルを参照してください。

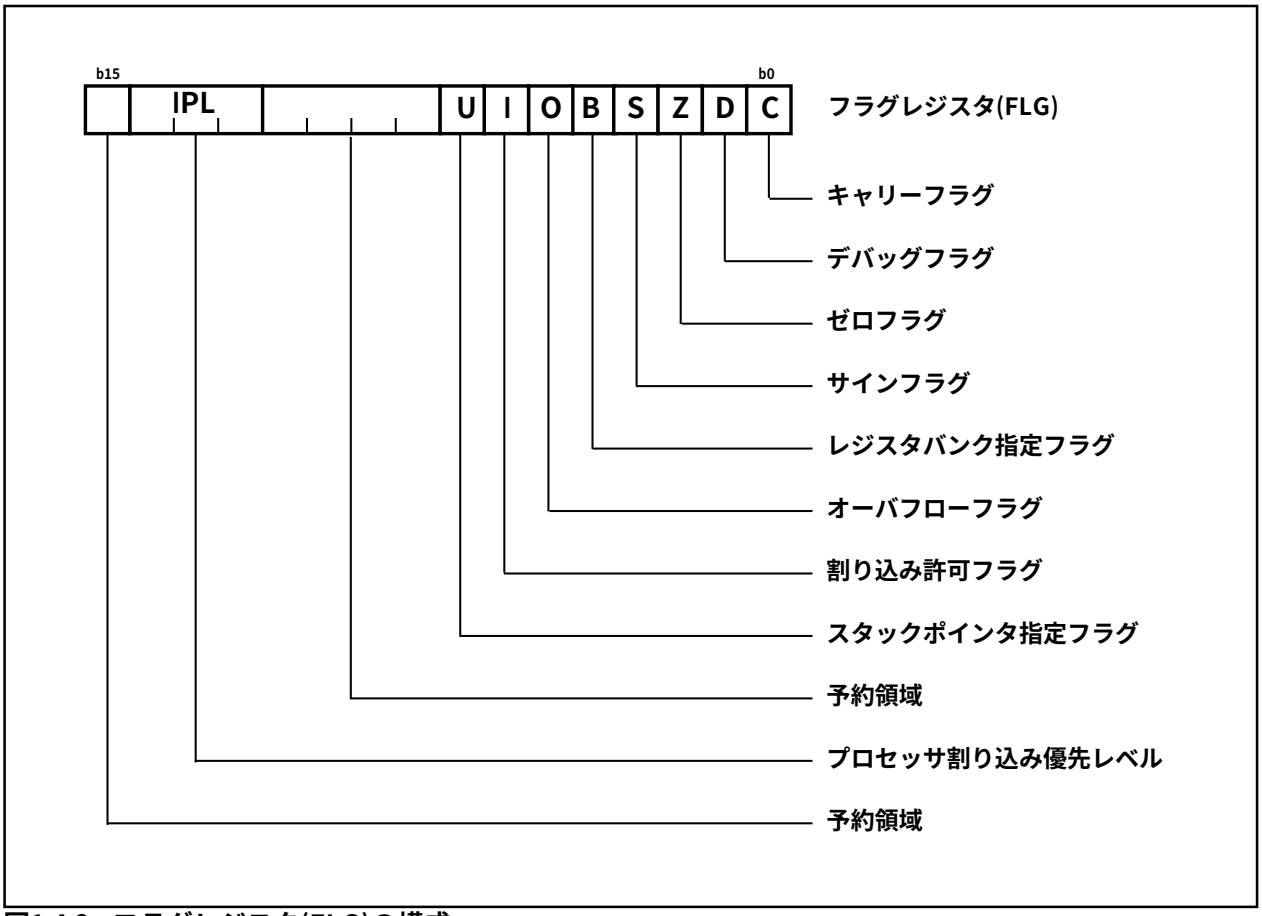


図1.4.2. フラグレジスタ(FLG)の構成

リセット

リセットは、ハードウエアによるリセットとソフトウエアによるリセットの2種類あります。ソフトウエアリセット、ハードウエアリセットともリセット解除後の動作は同じです(ソフトウエアリセットの詳細は「ソフトウエアリセット」を参照)。この項では、ハードウエアリセットを中心に説明します。

電源電圧が動作保証電圧であるとき、リセット端子を20サイクル以上“L”レベル(0.2Vcc以下)に保つとリセット状態になります。その後、メインクロックが充分に安定しているときにリセット端子を“H”レベルに戻すとリセットが解除され、リセットベクタテーブルで示される番地からプログラムを実行します。

電源投入後、RAMは不定ですので、初期値を設定してください。また、RAMに書き込みを行っているときにリセット信号が入ると、RAMへの書き込みが中断されるため、書き込みを行っていたRAMが意図しない値に変化する場合があります。

リセット回路の一例を図1.5.1、リセットシーケンスを図1.5.2に示します。

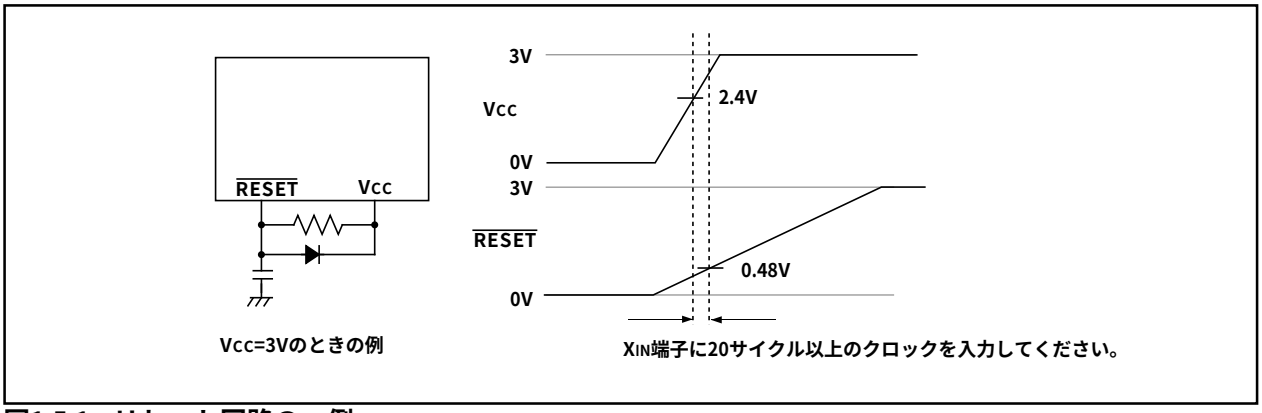


図1.5.1. リセット回路の一例

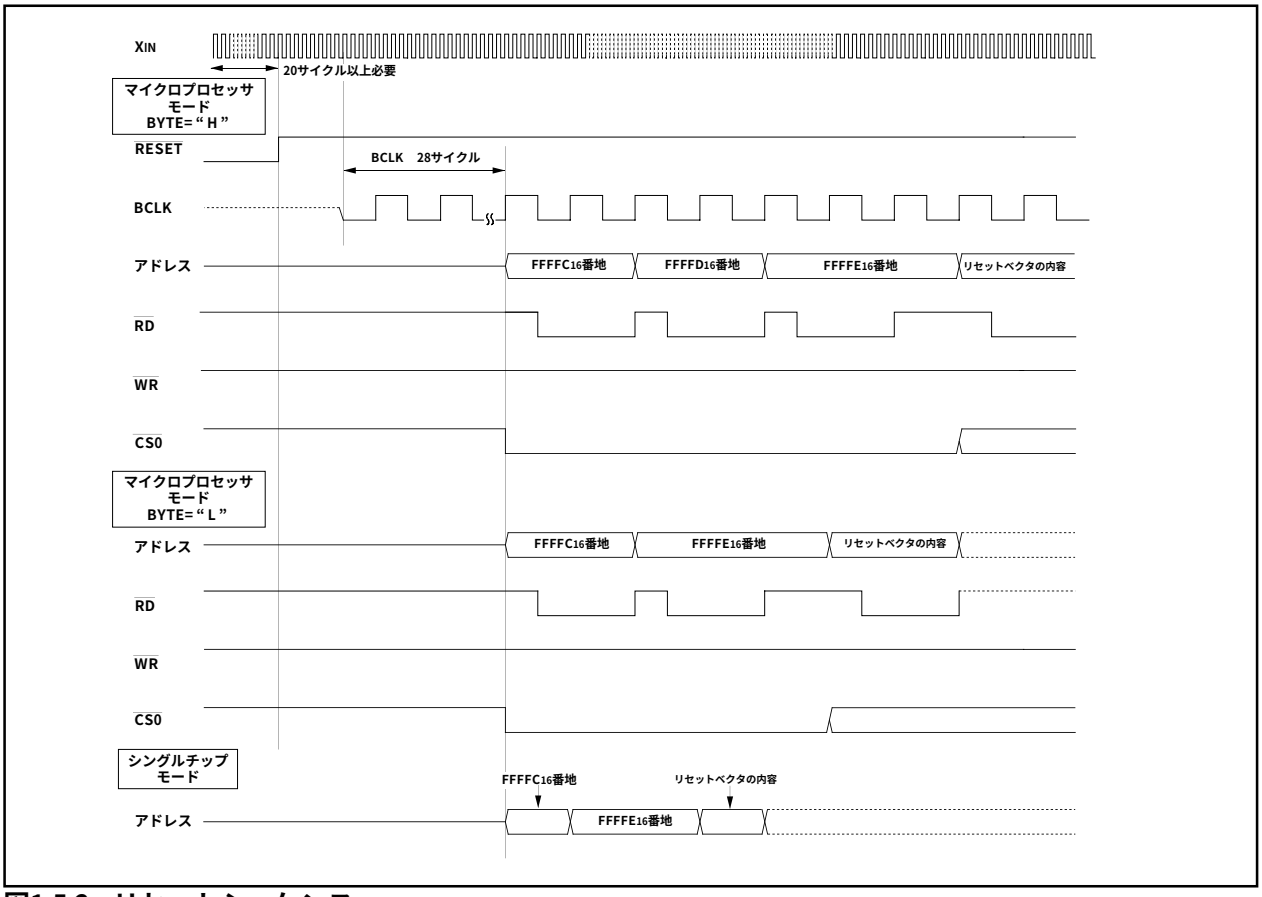


図1.5.2. リセットシーケンス

$\overline{\text{RESET}}$端子のレベルが“L”の期間の端子の状態を表1.5.1、リセット解除直後のマイクロコンピュータの内部状態を図1.5.3、図1.5.4に示します。

表1.5.1. $\overline{\text{RESET}}$端子のレベルが“L”の期間の端子の状態

端子名	端子の状態		
	CNVss = Vss	CNVss = Vcc	
		BYTE = Vss	BYTE = Vcc
P0	入力ポート(フローティング)	データ入力(フローティング)	データ入力(フローティング)
P1	入力ポート(フローティング)	データ入力(フローティング)	入力ポート(フローティング)
P2, P3, P40～P43	入力ポート(フローティング)	アドレス出力(不定)	アドレス出力(不定)
P44	入力ポート(フローティング)	$\overline{\text{CS0}}$出力(“H”レベルを出力)	$\overline{\text{CS0}}$出力(“H”レベルを出力)
P45～P47	入力ポート(フローティング)	入力ポート(フローティング) (ただし、プルアップ抵抗ON状態)	入力ポート(フローティング) (ただし、プルアップ抵抗ON状態)
P50	入力ポート(フローティング)	$\overline{\text{WR}}$出力(“H”レベルを出力)	$\overline{\text{WR}}$出力(“H”レベルを出力)
P51	入力ポート(フローティング)	$\overline{\text{BHE}}$出力(不定)	$\overline{\text{BHE}}$出力(不定)
P52	入力ポート(フローティング)	$\overline{\text{RD}}$出力(“H”レベルを出力)	$\overline{\text{RD}}$出力(“H”レベルを出力)
P53	入力ポート(フローティング)	BCLK出力	BCLK出力
P54	入力ポート(フローティング)	$\overline{\text{HLDA}}$出力(出力値は$\overline{\text{HOLD}}$端子の入力に依存)	$\overline{\text{HLDA}}$出力(出力値は$\overline{\text{HOLD}}$端子の入力に依存)
P55	入力ポート(フローティング)	$\overline{\text{HOLD}}$入力(フローティング)	$\overline{\text{HOLD}}$入力(フローティング)
P56	入力ポート(フローティング)	ALE出力(“L”レベルを出力)	ALE出力(“L”レベルを出力)
P57	入力ポート(フローティング)	$\overline{\text{RDY}}$入力(フローティング)	$\overline{\text{RDY}}$入力(フローティング)
P6, P7, P80～P84, P86, P87, P9, P10	入力ポート(フローティング)	入力ポート(フローティング)	入力ポート(フローティング)

(1)	プロセッサモードレジスタ0(注1)	(0004_{16})・・・	00_{16}
(2)	プロセッサモードレジスタ1	(0005_{16})・・・	0 0 0 0 0 0 × 0
(3)	システムクロック制御レジスタ0	(0006_{16})・・・	0 1 0 0 1 0 0 0
(4)	システムクロック制御レジスタ1	(0007_{16})・・・	0 0 1 0 0 0 0 0
(5)	チップセレクト制御レジスタ	(0008_{16})・・・	0 0 0 0 0 0 0 1
(6)	アドレス一致割り込み許可レジスタ	(0009_{16})・・・	× × × × × × 0 0
(7)	プロテクトレジスタ	($000A_{16}$)・・・	× × × × × 0 0 0
(8)	監視タイマ制御レジスタ	($000F_{16}$)・・・	0 0 0 ? ? ? ? ?
(9)	アドレス一致割り込みレジスタ0	(0010_{16})・・・	00_{16}
		(0011_{16})・・・	00_{16}
		(0012_{16})・・・	× × × × 0 0 0 0
(10)	アドレス一致割り込みレジスタ1	(0014_{16})・・・	00_{16}
		(0015_{16})・・・	00_{16}
		(0016_{16})・・・	× × × × 0 0 0 0
(11)	DMA0制御レジスタ	($002C_{16}$)・・・	0 0 0 0 0 ? 0 0
(12)	バス衝突検出割り込み制御レジスタ	($004A_{16}$)・・・	× × × × ? 0 0 0
(13)	DMA0割り込み制御レジスタ	($004B_{16}$)・・・	× × × × ? 0 0 0
(14)	キー入力割り込み制御レジスタ	($004D_{16}$)・・・	× × × × ? 0 0 0
(15)	A-D変換割り込み制御レジスタ	($004E_{16}$)・・・	× × × × ? 0 0 0
(16)	UART2送信割り込み制御レジスタ	($004F_{16}$)・・・	× × × × ? 0 0 0
(17)	UART2受信割り込み制御レジスタ	(0050_{16})・・・	× × × × ? 0 0 0
(18)	UART0送信割り込み制御レジスタ	(0051_{16})・・・	× × × × ? 0 0 0
(19)	UART0受信割り込み制御レジスタ	(0052_{16})・・・	× × × × ? 0 0 0
(20)	UART1送信割り込み制御レジスタ	(0053_{16})・・・	× × × × ? 0 0 0
(21)	UART1受信割り込み制御レジスタ	(0054_{16})・・・	× × × × ? 0 0 0
(22)	タイマA0割り込み制御レジスタ	(0055_{16})・・・	× × × × ? 0 0 0
(23)	タイマA1割り込み制御レジスタ	(0056_{16})・・・	× × × × ? 0 0 0
(24)	タイマA2割り込み制御レジスタ	(0057_{16})・・・	× × × × ? 0 0 0
(25)	タイマB1割り込み制御レジスタ	($005B_{16}$)・・・	× × × × ? 0 0 0
(26)	タイマB2割り込み制御レジスタ	($005C_{16}$)・・・	× × × × ? 0 0 0
(27)	INT0割り込み制御レジスタ	($005D_{16}$)・・・	× × 0 0 ? 0 0 0
(28)	INT1割り込み制御レジスタ	($005E_{16}$)・・・	× × 0 0 ? 0 0 0
(29)	INT2割り込み制御レジスタ	($005F_{16}$)・・・	× × 0 0 ? 0 0 0
(30)	割り込み要因選択レジスタ	($035F_{16}$)・・・	00_{16}
(31)	UART2特殊モードレジスタ3	(0375_{16})・・・	00_{16}
(32)	UART2特殊モードレジスタ2	(0376_{16})・・・	00_{16}
(33)	UART2特殊モードレジスタ	(0377_{16})・・・	80_{16}
(34)	UART2送受信モードレジスタ	(0378_{16})・・・	00_{16}
(35)	UART2送受信制御レジスタ0	($037C_{16}$)・・・	0 0 0 0 1 0 0 0
(36)	UART2送受信制御レジスタ1	($037D_{16}$)・・・	0 0 0 0 0 0 1 0
(37)	カウント開始フラグ	(0380_{16})・・・	00_{16}
(38)	時計用プリスケーラリセットフラグ	(0381_{16})・・・	0 × × × × × × ×
(39)	ワンショット開始フラグ	(0382_{16})・・・	0 0 × 0 0 0 0 0
(40)	トリガ選択レジスタ	(0383_{16})・・・	00_{16}
(41)	アップダウンフラグ	(0384_{16})・・・	00_{16}

×：このビットは何も配置されていません。
？：不定です。

リセット解除後、これ以外のレジスタは不定ですので、初期値を設定してください。
電源投入後、RAMは不定ですので、初期値を設定してください。また、RAMに書き込みを行っているときにリセット信号が入ると、RAMへの書き込みが中断されるため、書き込みを行っていたRAMが意図しない値に変化する場合があります。

注1.　CNVss端子にVccレベルを印加しているときは、リセット時03_{16}になります。

図1.5.3. リセット解除後のマイクロコンピュータの内部状態(1)

(42) タイマA0モードレジスタ	(0396$_{16}$)・・・	00$_{16}$								(62) ポートP4方向レジスタ	(03EA$_{16}$)・・・	00$_{16}$					
(43) タイマA1モードレジスタ	(0397$_{16}$)・・・	00$_{16}$								(63) ポートP5方向レジスタ	(03EB$_{16}$)・・・	00$_{16}$					
(44) タイマA2モードレジスタ	(0398$_{16}$)・・・	00$_{16}$								(64) ポートP6方向レジスタ	(03EE$_{16}$)・・・	00$_{16}$					
(45) タイマB1モードレジスタ	(039C$_{16}$)・・・	0	0	?	×	0	0	0	0	(65) ポートP7方向レジスタ	(03EF$_{16}$)・・・	00$_{16}$					
(46) タイマB2モードレジスタ	(039D$_{16}$)・・・	0	0	?	×	0	0	0	0	(66) ポートP8方向レジスタ	(03F2$_{16}$)・・・	0	0	×	0	0	0	0	0
(47) UART0送受信モードレジスタ	(03A0$_{16}$)・・・	00$_{16}$								(67) ポートP9方向レジスタ	(03F3$_{16}$)・・・	00$_{16}$					
(48) UART0送受信制御レジスタ0	(03A4$_{16}$)・・・	0	0	0	0	1	0	0	0	(68) ポートP10方向レジスタ	(03F6$_{16}$)・・・	00$_{16}$					
(49) UART0送受信制御レジスタ1	(03A5$_{16}$)・・・	0	0	0	0	0	0	1	0	(69) プルアップ制御レジスタ0	(03FC$_{16}$)・・・	00$_{16}$					
(50) UART1送受信モードレジスタ	(03A8$_{16}$)・・・	00$_{16}$								(70) プルアップ制御レジスタ1(注1)	(03FD$_{16}$)・・・	00$_{16}$					
(51) UART1送受信制御レジスタ0	(03AC$_{16}$)・・・	0	0	0	0	1	0	0	0	(71) プルアップ制御レジスタ2	(03FE$_{16}$)・・・	00$_{16}$					
(52) UART1送受信制御レジスタ1	(03AD$_{16}$)・・・	0	0	0	0	0	0	1	0	(72) ポート制御レジスタ	(03FF$_{16}$)・・・	00$_{16}$					
(53) UART送受信制御レジスタ2	(03B0$_{16}$)・・・	×	0	0	0	0	0	0	0	(73) データレジスタ(R0/R1/R2/R3)		0000$_{16}$					
(54) DMA0要因選択レジスタ	(03B8$_{16}$)・・・	00$_{16}$								(74) アドレスレジスタ(A0/A1)		0000$_{16}$					
(55) A-D制御レジスタ2	(03D4$_{16}$)・・・	0	0	0	0	?	?	?	0	(75) フレームベースレジスタ(FB)		0000$_{16}$					
(56) A-D制御レジスタ0	(03D6$_{16}$)・・・	0	0	0	0	0	?	?	?	(76) 割り込みテーブルレジスタ(INTB)		00000$_{16}$					
(57) A-D制御レジスタ1	(03D7$_{16}$)・・・	00$_{16}$								(77) ユーザスタックポインタ(USP)		0000$_{16}$					
(58) ポートP0方向レジスタ	(03E2$_{16}$)・・・	00$_{16}$								(78) 割り込みスタックポインタ(ISP)		0000$_{16}$					
(59) ポートP1方向レジスタ	(03E3$_{16}$)・・・	00$_{16}$								(79) スタティックベースレジスタ(SB)		0000$_{16}$					
(60) ポートP2方向レジスタ	(03E6$_{16}$)・・・	00$_{16}$								(80) フラグレジスタ(FLG)		0000$_{16}$					
(61) ポートP3方向レジスタ	(03E7$_{16}$)・・・	00$_{16}$															

×：このビットは何も配置されていません。
？：不定です。

リセット解除後、これ以外のレジスタは不定ですので、初期値を設定してください。
電源投入後、RAMは不定ですので、初期値を設定してください。また、RAMに書き込みを行っているときにリセット信号が入ると、RAMへの書き込みが中断されるため、書き込みを行っていたRAMが意図しない値に変化する場合があります。

注1.　CNVss端子にVccレベルを印加しているときは、リセット時02$_{16}$になります。

図1.5.4. リセット解除後のマイクロコンピュータの内部状態(2)

0000₁₆	
0001₁₆	
0002₁₆	
0003₁₆	
0004₁₆	プロセッサモードレジスタ0(PM0)
0005₁₆	プロセッサモードレジスタ1(PM1)
0006₁₆	システムクロック制御レジスタ０(CM0)
0007₁₆	システムクロック制御レジスタ１(CM1)
0008₁₆	チップセレクト制御レジスタ１(CSR)
0009₁₆	アドレス一致割り込み許可レジスタ(AIER)
000A₁₆	プロテクトレジスタ(PRCR)
000B₁₆	
000C₁₆	
000D₁₆	
000E₁₆	監視タイマスタートレジスタ(WDTS)
000F₁₆	監視タイマ制御レジスタ(WDC)
0010₁₆	アドレス一致割り込みレジスタ0(RMAD0)
0011₁₆	
0012₁₆	
0013₁₆	
0014₁₆	アドレス一致割り込みレジスタ1(RMAD1)
0015₁₆	
0016₁₆	
0017₁₆	
0018₁₆	
0019₁₆	
001A₁₆	
001B₁₆	
001C₁₆	
001D₁₆	
001E₁₆	
001F₁₆	
0020₁₆	DMA0ソースポインタ(SAR0)
0021₁₆	
0022₁₆	
0023₁₆	
0024₁₆	DMA0ディスティネーションポインタ(DAR0)
0025₁₆	
0026₁₆	
0027₁₆	
0028₁₆	DMA0転送カウンタ(TCR0)
0029₁₆	
002A₁₆	
002B₁₆	
002C₁₆	DMA0制御レジスタ(DM0CON)
002D₁₆	
002E₁₆	
002F₁₆	
0030₁₆	
0031₁₆	
0032₁₆	
0033₁₆	
0034₁₆	
0035₁₆	
0036₁₆	
0037₁₆	
0038₁₆	
0039₁₆	
003A₁₆	
003B₁₆	
003C₁₆	
003D₁₆	
003E₁₆	
003F₁₆	

0040₁₆	
0041₁₆	
0042₁₆	
0043₁₆	
0044₁₆	
0045₁₆	
0046₁₆	
0047₁₆	
0048₁₆	
0049₁₆	
004A₁₆	バス衝突検出割り込み制御レジスタ (BCNIC)
004B₁₆	DMA0割り込み制御レジスタ (DM0IC)
004C₁₆	
004D₁₆	キー入力割り込み制御レジスタ(KUPIC)
004E₁₆	A-D変換割り込み制御レジスタ(ADIC)
004F₁₆	UART2送信割り込み制御レジスタ(S2TIC)
0050₁₆	UART2受信割り込み制御レジスタ(S2RIC)
0051₁₆	UART0送信割り込み制御レジスタ(S0TIC)
0052₁₆	UART0受信割り込み制御レジスタ(S0RIC)
0053₁₆	UART1送信割り込み制御レジスタ(S1TIC)
0054₁₆	UART1受信割り込み制御レジスタ(S1RIC)
0055₁₆	タイマA0割り込み制御レジスタ(TA0IC)
0056₁₆	タイマA1割り込み制御レジスタ(TA1IC)
0057₁₆	タイマA2割り込み制御レジスタ(TA2IC)
0058₁₆	
0059₁₆	
005A₁₆	
005B₁₆	タイマB1割り込み制御レジスタ(TB1IC)
005C₁₆	タイマB2割り込み制御レジスタ(TB2IC)
005D₁₆	INT0割り込み制御レジスタ(INT0IC)
005E₁₆	INT1割り込み制御レジスタ(INT1IC)
005F₁₆	INT2割り込み制御レジスタ(INT2IC)
0060₁₆	
0061₁₆	
0062₁₆	
0063₁₆	
0064₁₆	
0065₁₆	
≈	≈
032A₁₆	
032B₁₆	
032C₁₆	
032D₁₆	
032E₁₆	
032F₁₆	
0330₁₆	
0331₁₆	
0332₁₆	
0333₁₆	
0334₁₆	
0335₁₆	
0336₁₆	
0337₁₆	
0338₁₆	
0339₁₆	
033A₁₆	
033B₁₆	
033C₁₆	
033D₁₆	
033E₁₆	
033F₁₆	

注1.　SFR領域のうち、何も配置されていない領域は予約領域です。読み出しおよび書き込みを行わないでください。

図1.6.1.　周辺装置制御レジスタの配置(1)

0340₁₆	
0341₁₆	
0342₁₆	
0343₁₆	
0344₁₆	
0345₁₆	
0346₁₆	
0347₁₆	
0348₁₆	
0349₁₆	
034A₁₆	
034B₁₆	
034C₁₆	
034D₁₆	
034E₁₆	
034F₁₆	
0350₁₆	
0351₁₆	
0352₁₆	
0353₁₆	
0354₁₆	
0355₁₆	
0356₁₆	
0357₁₆	
0358₁₆	
0359₁₆	
035A₁₆	
035B₁₆	
035C₁₆	
035D₁₆	
035E₁₆	
035F₁₆	割り込み要因選択レジスタ(IFSR)
0360₁₆	
0361₁₆	
0362₁₆	
0363₁₆	
0364₁₆	
0365₁₆	
0366₁₆	
0367₁₆	
0368₁₆	
0369₁₆	
036A₁₆	
036B₁₆	
036C₁₆	
036D₁₆	
036E₁₆	
036F₁₆	
0370₁₆	
0371₁₆	
0372₁₆	
0373₁₆	
0374₁₆	
0375₁₆	UART2特殊モードレジスタ3(U2SMR3)
0376₁₆	UART2特殊モードレジスタ2(U2SMR2)
0377₁₆	UART2特殊モードレジスタ(U2SMR)
0378₁₆	UART2送受信モードレジスタ(U2MR)
0379₁₆	UART2転送速度レジスタ(U2BRG)
037A₁₆ 037B₁₆	UART2送信バッファレジスタ(U2TB)
037C₁₆	UART2送受信制御レジスタ0(U2C0)
037D₁₆	UART2送受信制御レジスタ1(U2C1)
037E₁₆ 037F₁₆	UART2受信バッファレジスタ(U2RB)

0380₁₆	カウント開始フラグ(TABSR)
0381₁₆	時計用プリスケーラリセットフラグ(CPSRF)
0382₁₆	ワンショット開始フラグ(ONSF)
0383₁₆	トリガ選択レジスタ(TRGSR)
0384₁₆	アップダウンフラグ(UDF)
0385₁₆	
0386₁₆ 0387₁₆	タイマA0レジスタ(TA0)
0388₁₆ 0389₁₆	タイマA1レジスタ(TA1)
038A₁₆ 038B₁₆	タイマA2レジスタ(TA2)
038C₁₆	
038D₁₆	
038E₁₆	
038F₁₆	
0390₁₆	
0391₁₆	
0392₁₆ 0393₁₆	タイマB1レジスタ(TB1)
0394₁₆ 0395₁₆	タイマB2レジスタ(TB2)
0396₁₆	タイマA0モードレジスタ(TA0MR)
0397₁₆	タイマA1モードレジスタ(TA1MR)
0398₁₆	タイマA2モードレジスタ(TA2MR)
0399₁₆	
039A₁₆	
039B₁₆	
039C₁₆	タイマB1モードレジスタ(TB1MR)
039D₁₆	タイマB2モードレジスタ(TB2MR)
039E₁₆	
039F₁₆	
03A0₁₆	UART0送受信モードレジスタ(U0MR)
03A1₁₆	UART0転送速度レジスタ(U0BRG)
03A2₁₆ 03A3₁₆	UART0送信バッファレジスタ(U0TB)
03A4₁₆	UART0送受信制御レジスタ0(U0C0)
03A5₁₆	UART0送受信制御レジスタ1(U0C1)
03A6₁₆ 03A7₁₆	UART0受信バッファレジスタ(U0RB)
03A8₁₆	UART1送受信モードレジスタ(U1MR)
03A9₁₆	UART1転送速度レジスタ(U1BRG)
03AA₁₆ 03AB₁₆	UART1送信バッファレジスタ(U1TB)
03AC₁₆	UART1送受信制御レジスタ0(U1C0)
03AD₁₆	UART1送受信制御レジスタ1(U1C1)
03AE₁₆ 03AF₁₆	UART1受信バッファレジスタ(U1RB)
03B0₁₆	UART送受信制御レジスタ2(UCON)
03B1₁₆	
03B2₁₆	
03B3₁₆	
03B4₁₆	
03B5₁₆	
03B6₁₆	
03B7₁₆	
03B8₁₆	DMA0要因選択レジスタ(DM0SL)
03B9₁₆	
03BA₁₆	
03BB₁₆	
03BC₁₆	
03BD₁₆	
03BE₁₆	
03BF₁₆	

注1.　SFR領域のうち、何も配置されていない領域は予約領域です。読み出しおよび書き込みを行わないでください。

図1.6.2.　周辺装置制御レジスタの配置(2)

03C0$_{16}$	A-Dレジスタ0(AD0)
03C1$_{16}$	
03C2$_{16}$	A-Dレジスタ1(AD1)
03C3$_{16}$	
03C4$_{16}$	A-Dレジスタ2(AD2)
03C5$_{16}$	
03C6$_{16}$	A-Dレジスタ3(AD3)
03C7$_{16}$	
03C8$_{16}$	A-Dレジスタ4(AD4)
03C9$_{16}$	
03CA$_{16}$	A-Dレジスタ5(AD5)
03CB$_{16}$	
03CC$_{16}$	A-Dレジスタ6(AD6)
03CD$_{16}$	
03CE$_{16}$	A-Dレジスタ7(AD7)
03CF$_{16}$	
03D0$_{16}$	
03D1$_{16}$	
03D2$_{16}$	
03D3$_{16}$	
03D4$_{16}$	A-D制御レジスタ2(ADCON2)
03D5$_{16}$	
03D6$_{16}$	A-D制御レジスタ0(ADCON0)
03D7$_{16}$	A-D制御レジスタ1(ADCON1)
03D8$_{16}$	
03D9$_{16}$	
03DA$_{16}$	
03DB$_{16}$	
03DC$_{16}$	
03DD$_{16}$	
03DE$_{16}$	
03DF$_{16}$	
03E0$_{16}$	ポートP0レジスタ(P0)
03E1$_{16}$	ポートP1レジスタ(P1)
03E2$_{16}$	ポートP0方向レジスタ(PD0)
03E3$_{16}$	ポートP1方向レジスタ(PD1)
03E4$_{16}$	ポートP2レジスタ(P2)
03E5$_{16}$	ポートP3レジスタ(P3)
03E6$_{16}$	ポートP2方向レジスタ(PD2)
03E7$_{16}$	ポートP3方向レジスタ(PD3)
03E8$_{16}$	ポートP4レジスタ(P4)
03E9$_{16}$	ポートP5レジスタ(P5)
03EA$_{16}$	ポートP4方向レジスタ(PD4)
03EB$_{16}$	ポートP5方向レジスタ(PD5)
03EC$_{16}$	ポートP6レジスタ(P6)
03ED$_{16}$	ポートP7レジスタ(P7)
03EE$_{16}$	ポートP6方向レジスタ(PD6)
03EF$_{16}$	ポートP7方向レジスタ(PD7)
03F0$_{16}$	ポートP8レジスタ(P8)
03F1$_{16}$	ポートP9レジスタ(P9)
03F2$_{16}$	ポートP8方向レジスタ(PD8)
03F3$_{16}$	ポートP9方向レジスタ(PD9)
03F4$_{16}$	ポートP10レジスタ(P10)
03F5$_{16}$	
03F6$_{16}$	ポートP10方向レジスタ(PD10)
03F7$_{16}$	
03F8$_{16}$	
03F9$_{16}$	
03FA$_{16}$	
03FB$_{16}$	
03FC$_{16}$	プルアップ制御レジスタ０(PUR0)
03FD$_{16}$	プルアップ制御レジスタ１(PUR1)
03FE$_{16}$	プルアップ制御レジスタ２(PUR2)
03FF$_{16}$	ポート制御レジスタ(PCR)

注1.　SFR領域のうち、何も配置されていない領域は予約領域です。読み出しおよび書き込みを行わないでください。

図1.6.3.　周辺装置制御レジスタの配置(3)

ソフトウエアリセット

プロセッサモードレジスタ0(0004$_{16}$番地)のビット3を“1”にすると、マイクロコンピュータにリセットをかけることができます(ソフトウエアリセット)。ソフトウエアリセットは、マイコンのハードウエアリセットと同様の動作を行います。ただし、内部RAM領域の内容は保持します。

プロセッサモード

(1) プロセッサモードの種類

プロセッサモードは、シングルチップモード、メモリ拡張モード、およびマイクロプロセッサモードの3つのモードから選択することができます。プロセッサモードによって、一部の端子機能、メモリ配置、およびアクセス空間が異なります。

●シングルチップモード

シングルチップモードは、内部領域(SFR、内部RAM、内部ROM)だけのアクセスが可能なモードです。ただし、リセット解除後CNVSS端子を“H”の状態でマイクロプロセッサモードから動作を開始した場合は、その後シングルチップモードに移行しても内部ROMのアクセスはできません。

このモードでは、P0～P10をプログラマブル入出力ポートまたは内蔵周辺機能の入出力ポートとして使用することができます。

●メモリ拡張モード

メモリ拡張モードは、内部領域(SFR、内部RAM、内部ROM)および外部領域のアクセスが可能なモードです。ただし、リセット解除後CNVSS端子を“H”の状態でマイクロプロセッサモードから動作を開始した場合は、その後メモリ拡張モードに移行しても内部ROMのアクセスはできません。

このモードでは、一部の端子がアドレスバス、データバス、および制御信号用の端子となります。その本数は、バスやレジスタの設定によって異なります(詳細は、「バス設定」を参照してください)。

●マイクロプロセッサモード

マイクロプロセッサモードは、SFRおよび内部RAM領域と外部領域のアクセスが可能なモードです(内部ROM領域はアクセスできません)。

このモードでは、一部の端子がアドレスバス、データバス、および制御信号用の端子となります。その本数は、バス幅やレジスタの設定によって異なります(詳細は、「バス設定」を参照してください)。

(2) 各モードの設定

各モードの設定は、CNVSS端子およびプロセッサモードビット(0004$_{16}$番地のビット1、ビット0)によって行います。プロセッサモードビットを“10$_2$”にしないでください。

CNVSS端子のレベルにかかわらず、プロセッサモードビットを書き替えると、対応するモードになります。したがって、プロセッサモードビット以外のビットを書き替えるとき、プロセッサモードビットが変化しないように注意してください。プロセッサモードビットを“01$_2$”または“11$_2$”に書き替えるときは、他のビットと同時にプロセッサモードビットを書き替えないでください。他のビットを書き替えてから、プロセッサモードビットを書き替えてください。また、内部ROM領域でのマイクロプロセッサモードへの移行、およびマイクロプロセッサモードからの移行は行わないでください。

●CNVss端子にVssを印加

リセット後シングルチップモードで動作を開始します。動作開始後、プロセッサモードビットを“01$_2$”にするとメモリ拡張モードへ切り替えることができます。

●CNVss端子にVccを印加

リセット後マイクロプロセッサモードで動作を開始します。

図1.7.1にプロセッサモードレジスタ0、プロセッサモードレジスタ1の構成を示します。

図1.7.2に各プロセッサモードのメモリ配置図を示します。

プロセッサモードレジスタ0(注1)

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0

シンボル	アドレス	リセット時
PM0	0004_{16}番地	00_{16}(注2)

ビットシンボル	ビット名	機　　能	R	W
PM00	プロセッサモードビット	b1 b0 0 0 : シングルチップモード 0 1 : メモリ拡張モード 1 0 : 設定しないでください 1 1 : マイクロプロセッサモード	○	○
PM01			○	○
PM02	R/Wモード選択ビット	0 : $\overline{RD}$,$\overline{BHE}$,$\overline{WR}$ 1 : RD,WRH,WRL	○	○
PM03	ソフトウエアリセットビット	このビットに“1”を書き込むとマイクロコンピュータはリセットされる。 読み出し時の値は“0”。	○	○
PM04	マルチプレクスバス空間選択ビット	b5 b4 0 0 : マルチプレクスバスを使用しない 0 1 : CS2の空間に割り当てる 1 0 : CS1の空間に割り当てる 1 1 : 全空間に割り当てる (注4)	○	○
PM05			○	○
PM06	ポートP4_0～P4_3機能選択ビット(注3)	0 : アドレス出力 1 : ポート機能 (アドレスは出力されません)	○	○
PM07	BCLK出力禁止ビット	0 : 出力する 1 : 出力しない (端子はフローティングになります)	○	○

注1.　このレジスタを書き替える場合、プロテクトレジスタ($000A_{16}$番地)のビット1を“1”にしてください。
注2.　CNVss端子にVccレベルを印加しているときは、リセット時03_{16}になります(PM00およびPM01が“1”になります)。
注3.　マイクロプロセッサモード、メモリ拡張モード時有効。
注4.　メモリ拡張モード時、全空間マルチプレクスバスの場合は、8ビット幅を選択してください。
リセット解除後、セパレートバスで動作しますので、マイクロプロセッサモード時、全空間マルチプレクスバスは選択できません。
全空間マルチプレクスバスを選択した場合、P3_1～P3_7はポートとなりますので、各チップセレクトごとに256バイトしか使えません。

プロセッサモードレジスタ1(注1)

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	0	0	0	0		X	0

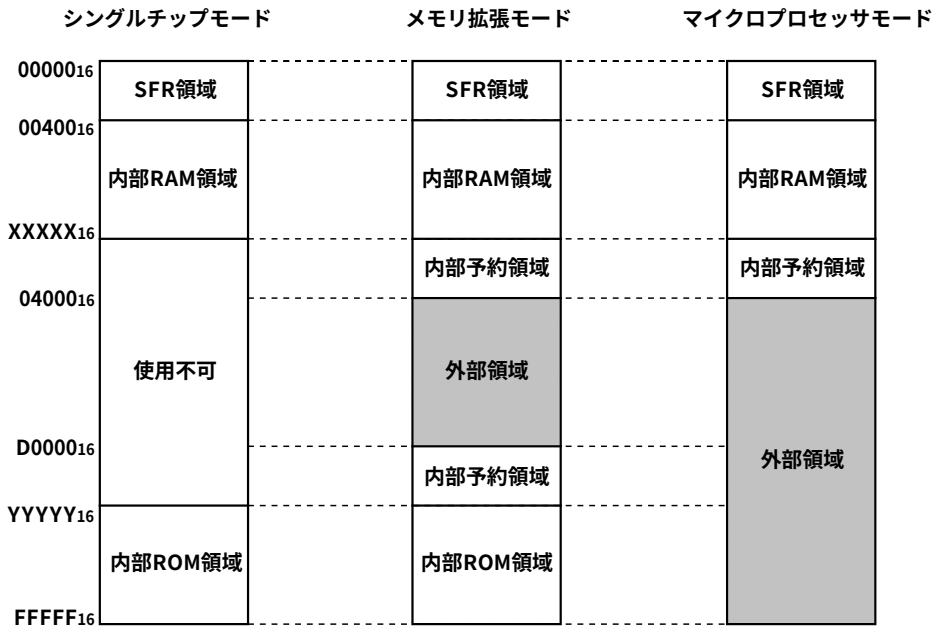
シンボル	アドレス	リセット時
PM1	0005_{16}番地	000000X0_2

ビットシンボル	ビット名	機　　能	R	W
予約ビット		必ず“0”を設定してください	○	○
何も配置されていない。 書き込む場合、“0”を書き込んでください。読み出した場合、その値は不定。			—	—
PM12	監視タイマ機能選択ビット	0 : 割り込み 1 : リセット(注2)	○	○ (注2)
予約ビット		必ず“0”を設定してください	○	○
PM17	ウエイトビット	0 : ウエイトなし 1 : ウエイトあり	○	○

注1.　このレジスタを書き替える場合、プロテクトレジスタ($000A_{16}$番地)のビット1を“1”にしてください。
注2.　“1”だけ書き込み可。

図1.7.1.　プロセッサモードレジスタ0、プロセッサモードレジスタ1の構成

プロセッサモード



RAMサイズ	XXXXX₁₆番地
2Kバイト	00BFF₁₆
3Kバイト	00FFF₁₆

ROMサイズ	YYYYY₁₆番地
64Kバイト	F0000₁₆
96Kバイト	E8000₁₆
128Kバイト	E0000₁₆

外部領域：この領域をアクセスすると、外部に接続したデバイスをアクセスすることができます。

図1.7.2. 各プロセッサモード時のメモリ配置

バス設定

バスの設定はBYTE端子とプロセッサモードレジスタ0(0004_{16}番地)のビット4～ビット6で切り替えることができます。

表1.8.1に各バスの設定と切り替え要因を示します。

表1.8.1. バスの設定と切り替え要因

バスの設定	切り替え要因
外部アドレスバス幅切り替え	プロセッサモードレジスタ0のビット6
外部データバス幅切り替え	BYTE端子
セパレートバス／マルチプレクスバス切り替え	プロセッサモードレジスタ0のビット4、ビット5

(1) 外部アドレスバス幅の選択

1Mバイトのアドレス空間のうち外部に出力されるアドレスバス幅は、16ビット(アドレス空間64Kバイト)と20ビット(アドレス空間1Mバイト)を選択することができます。プロセッサモードレジスタ0のビット6が“1”のとき、外部アドレスバス幅は16ビットになりP2とP3がアドレスバスとなります。$P4_0$～$P4_3$は、プログラマブル入出力ポートとして使用することができます。プロセッサモードレジスタ0のビット6が“0”のとき、外部アドレスバス幅は20ビットになり、P2、P3、および$P4_0$～$P4_3$がアドレスバスとなります。

(2) 外部データバス幅の選択

外部データバス幅は8ビットと16ビットを選択することができます(ただし、外部データバス幅を選択できるのは、セパレートバスだけです)。BYTE端子が“L”のとき16ビットに、“H”のときは8ビットになります。バス幅の選択は、外部バスだけで有効になります(内部バス幅は常に16ビットです)。

動作時は、BYTE端子を“H”または“L”に固定してください。

(3) セパレートバス／マルチプレクスバスの選択

バスの形式は、マルチプレクスバスとセパレートバスを選択することができます。マルチプレクスバスまたはセパレートバスはプロセッサモードレジスタ0のビット4、ビット5で選択します。

●セパレートバス

データとアドレスを分離して入出力するバスの形式です。データバスは、BYTE端子により8ビットまたは16ビットを選択できます。BYTE端子が“H”のときは、データバスは8ビットになりP0がデータバス、P1がプログラマブル入出力ポートとなります。BYTE端子が“L”のときは、データバスは16ビットになりP0およびP1がデータバスとなります。

セパレートバスでアクセスする場合、ソフトウエアウエイトの有無を選択できます。

●マルチプレクスバス

データとアドレスを時分割で入出力するバスの形式です。BYTE端子が“H”レベルのとき、D_0～D_7の8ビットがA_0～A_7とマルチプレクスされます。

BYTE端子が“L”レベルのとき、D_0～D_7の8ビットがA_1～A_8とマルチプレクスされD_8～D_{15}はマルチプレクスされません。このとき、マルチプレクスバスに接続した外部デバイスは、マイコンの偶数番地(2番地おき)に配置されますので、マルチプレクスバスに接続した外部デバイスをアクセスする場合、偶数番地をバイト単位でアクセスしてください。

ALE信号は、アドレスをラッチする信号で、$P5_6$から出力します。

マルチプレクスバスでアクセスする場合、必ずソフトウエアウエイトを挿入してください。

メモリ拡張モード時、全空間マルチプレクスバスの場合は、8ビット幅を選択してください。

リセット解除後、セパレートバスで動作しますので、マイクロプロセッサモード時、全空間マルチプレクスバスは選択できません。

全空間マルチプレクスバスを選択した場合、$P3_1$～$P3_7$はポートとなりますので、各チップセレクトごとに256バイトしか使えません。

表1.8.2. 各プロセッサモードと端子の機能表

プロセッサモード	シングルチップモード	メモリ拡張モード／マイクロプロセッサモード				メモリ拡張モード
マルチプレクスバス空間選択ビット		“01”、“10” (CS1またはCS2はマルチプレクスバスで、それ以外はセパレートバス)		“00” (セパレートバス)		“11”(注1) (全空間マルチプレクスバス)
データバス幅 BYTE端子レベル		8ビット “H”	16ビット “L”	8ビット “H”	16ビット “L”	8ビット “H”
$P0_0$～$P0_7$	入出力ポート	データバス	データバス	データバス	データバス	入出力ポート
$P1_0$～$P1_7$	入出力ポート	入出力ポート	データバス	入出力ポート	データバス	入出力ポート
$P2_0$	入出力ポート	アドレスバス／データバス(注2)	アドレスバス	アドレスバス	アドレスバス	アドレスバス／データバス
$P2_1$～$P2_7$	入出力ポート	アドレスバス／データバス(注2)	アドレスバス／データバス(注2)	アドレスバス	アドレスバス	アドレスバス／データバス
$P3_0$	入出力ポート	アドレスバス	アドレスバス／データバス(注2)	アドレスバス	アドレスバス	A_8/D_7
$P3_1$～$P3_7$	入出力ポート	アドレスバス	アドレスバス	アドレスバス	アドレスバス	入出力ポート
$P4_0$～$P4_3$ ポート$P4_0$～$P4_3$機能選択ビット=“1”	入出力ポート	入出力ポート	入出力ポート	入出力ポート	入出力ポート	入出力ポート
$P4_0$～$P4_3$ ポート$P4_0$～$P4_3$機能選択ビット=“0”	入出力ポート	アドレスバス	アドレスバス	アドレスバス	アドレスバス	入出力ポート
$P4_4$～$P4_7$	入出力ポート	$\overline{CS}$(チップセレクト）またはプログラマブル入出力ポートの選択 （詳細は「バス制御」を参照）				
$P5_0$～$P5_3$	入出力ポート	$\overline{RD}$、$\overline{WRL}$、$\overline{WRH}$、BCLK出力または$\overline{RD}$、$\overline{BHE}$、$\overline{WR}$、BCLK出力 （詳細は「バス制御」を参照）				
$P5_4$	入出力ポート	$\overline{HLDA}$	$\overline{HLDA}$	$\overline{HLDA}$	$\overline{HLDA}$	$\overline{HLDA}$
$P5_5$	入出力ポート	$\overline{HOLD}$	$\overline{HOLD}$	$\overline{HOLD}$	$\overline{HOLD}$	$\overline{HOLD}$
$P5_6$	入出力ポート	ALE	ALE	ALE	ALE	ALE
$P5_7$	入出力ポート	$\overline{RDY}$	$\overline{RDY}$	$\overline{RDY}$	$\overline{RDY}$	$\overline{RDY}$

注1. メモリ拡張モード時、全空間マルチプレクスバスの場合は、8ビット幅を選択してください。
リセット解除後、セパレートバスで動作しますので、マイクロプロセッサモード時、全空間マルチプレクスバスは選択できません。
全空間マルチプレクスバスを選択した場合、$P3_1$～$P3_7$はポートとなりますので、各チップセレクトごとに256バイトしか使えません。

注2. セパレートバスではアドレスバスになります。

バス制御

外部デバイスのアクセスに必要な信号、およびソフトウエアウエイトについて説明します。外部デバイスのアクセスに必要な信号は、プロセッサモードが、メモリ拡張モードおよびマイクロプロセッサモードのとき有効です。ソフトウエアウエイトは全プロセッサモードで有効です。

(1) アドレスバス／データバス

アドレスバスは、1Mバイトの空間をアクセスするための端子で、A_0～A_{19}の20本あります。

データバスは、データの入出力を行う端子です。BYTE端子が“H”のときはD_0～D_7の8本がデータバスに、BYTE端子が“L”のときはD_0～D_{15}の16本がデータバスになります。

シングルチップモードからメモリ拡張モードに変更したとき、外部領域をアクセスするまでアドレスバスの値は不定です。

(2) チップセレクト信号

チップセレクト信号はP_{44}～P_{47}と兼用で、チップセレクト制御レジスタ(0008_{16}番地)のビット0～ビット3によって、ポートにするかチップセレクト信号を出力するかを端子ごとに選択できます。チップセレクト制御レジスタは、メモリ拡張モードとマイクロプロセッサモードで有効です。シングルチップモードでは、チップセレクト制御レジスタの内容にかかわらずP_{44}～P_{47}はプログラマブル入出力ポートになります。

マイクロプロセッサモードの場合、リセット解除のとき$\overline{CS0}$だけチップセレクト信号を出力し、$\overline{CS1}$～$\overline{CS3}$は入力ポートになっています。チップセレクト制御レジスタの構成を図1.9.1に示します。

チップセレクト信号によって外部領域を最大4つに分割することができます。チップセレクト信号によって指定する外部領域を表1.9.1に示します。

表1.9.1. チップセレクト信号によって指定する外部領域

<table>
<tr><th rowspan="2">プロセッサモード</th><th colspan="4">チップセレクト信号</th></tr>
<tr><th>$\overline{CS0}$</th><th>$\overline{CS1}$</th><th>$\overline{CS2}$</th><th>$\overline{CS3}$</th></tr>
<tr><td>メモリ拡張モード</td><td>30000_{16}～$CFFFF_{16}$
(640Kバイト)</td><td rowspan="2">28000_{16}～$2FFFF_{16}$
(32Kバイト)</td><td rowspan="2">08000_{16}～$27FFF_{16}$
(128Kバイト)</td><td rowspan="2">04000_{16}～$07FFF_{16}$
(16Kバイト)</td></tr>
<tr><td>マイクロプロセッサモード</td><td>30000_{16}～$FFFFF_{16}$
(832Kバイト)</td></tr>
</table>

チップセレクト制御レジスタ

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0

シンボル	アドレス	リセット時
CSR	0008_{16}番地	01_{16}

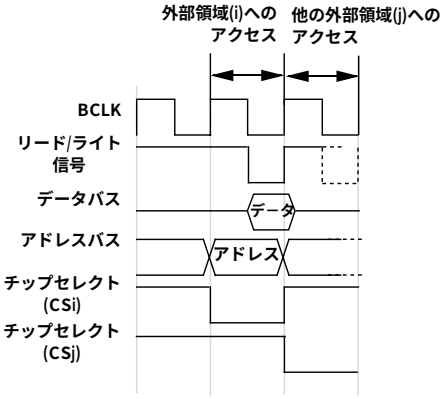
ビットシンボル	ビット名	機　　能	R	W
CS0	$\overline{CS0}$出力許可ビット	0 : チップセレクト出力禁止 (通常のポート端子) 1 : チップセレクト出力許可	○	○
CS1	$\overline{CS1}$出力許可ビット		○	○
CS2	$\overline{CS2}$出力許可ビット		○	○
CS3	$\overline{CS3}$出力許可ビット		○	○
CS0W	$\overline{CS0}$ウエイトビット	0 : ウエイトあり 1 : ウエイトなし	○	○
CS1W	$\overline{CS1}$ウエイトビット		○	○
CS2W	$\overline{CS2}$ウエイトビット		○	○
CS3W	$\overline{CS3}$ウエイトビット		○	○

図1.9.1. チップセレクト制御レジスタの構成

チップセレクト信号が“L”(アクティブ)になるタイミングは、アドレスバスに同期します。しかし、チップセレクトが“H”になるタイミングは、次のサイクルでアクセスされる領域に依存します。アドレスバスとチップセレクト信号の出力例を図1.9.2に示します。

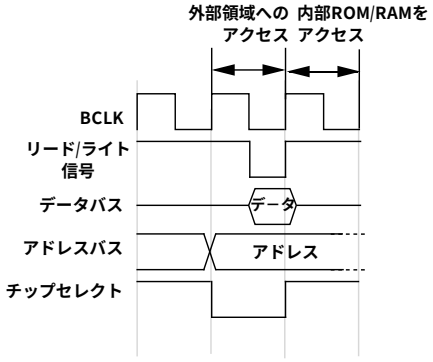
(例1) 外部領域へアクセス後、次のサイクルでアドレス信号、チップセレクト信号が共に変化

外部領域(i)へアクセス後、次のサイクルで他のチップセレクト信号が示す領域(j)へアクセスする場合の例を以下に示します。
この場合、この２つのサイクル間でアドレスバス、チップセレクト信号が共に変化します。



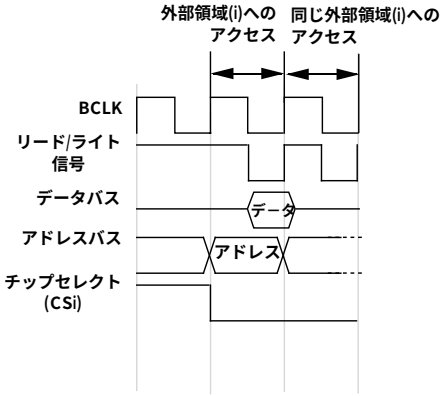
(例2) 外部領域へアクセス後、次のサイクルチップセレクト信号のみ変化（アドレスバスは変化しない）

外部領域へアクセス後、次のサイクルで内部ROMまたは内部RAMへアクセスする場合の例を以下に示します。
この場合、この２つのサイクル間でチップセレクト信号は変化しますがアドレスバスは変化しません。



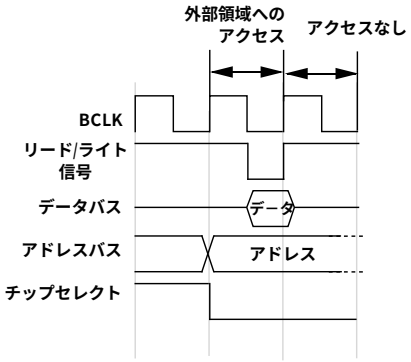
(例3) 外部領域へアクセス後、次のサイクルでアドレスバスのみ変化(チップセレクト信号は変化しない)

外部領域(i)へアクセス後、次のサイクルで同じチップセレクト信号が示す領域(i)へアクセスする場合の例を以下に示します。
この場合、この２つのサイクル間でアドレスバスは変化しますがチップセレクト信号は変化しません。



(例4) 外部領域へアクセス後、次のサイクルでアドレスバス、チップセレクト信号が共に変化しない

外部領域へアクセス後、次のサイクルでいずれの領域にもアクセスしない(命令のプリフェッチも発生しない)場合の例を以下に示します。
この場合、この２つのサイクル間でアドレスバス、チップセレクト信号は共に変化しません。



注：これらの例は、連続する２つのサイクルのアドレスバスおよびチップセレクト信号を示しています。
これらの例の組み合わせにより、チップセレクトは２サイクル以上伸びる場合があります。

図1.9.2. アドレスバスとチップセレクト信号の出力例 (セパレートバス ウエイトなし)

(3) リード／ライト信号

データバスが16ビット(BYTE端子が“L”レベル)のとき、リード／ライト信号はプロセッサモードレジスタ0(0004$_{16}$番地)のビット2によって、$\overline{RD}$、$\overline{BHE}$、$\overline{WR}$の組み合わせ、または$\overline{RD}$、$\overline{WRL}$、$\overline{WRH}$の組み合わせを選択することができます。データバスが8ビット(BYTE端子が“H”レベル)のとき、リード／ライト信号は$\overline{RD}$、$\overline{WR}$、$\overline{BHE}$の組み合わせを使用してください(プロセッサモードレジスタ0(0004$_{16}$番地)のビット2に“0”を設定してください)。各信号の動作を表1.9.3、表1.9.4に示します。

リセット解除後、リード／ライト信号は$\overline{RD}$、$\overline{WR}$、$\overline{BHE}$の組み合わせです。

$\overline{RD}$、$\overline{WRL}$、$\overline{WRH}$の組み合わせに切り替える場合、プロセッサモードレジスタ0(0004$_{16}$番地)(注1)のビット2を切り替えるまで、外部のメモリに対しての書き込み動作を行わないでください。

注1. プロセッサモードレジスタ0を書き替える場合、プロテクトレジスタ(000A$_{16}$番地)のビット1を“1”にしてください。

表1.9.3. $\overline{RD}$、$\overline{WRL}$、$\overline{WRH}$信号の動作

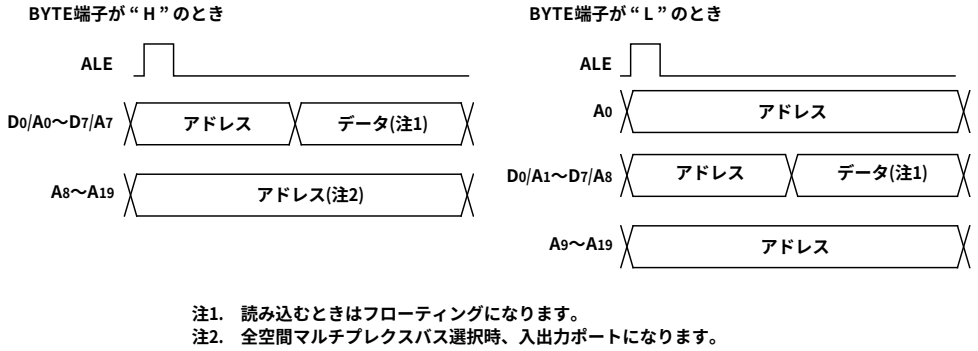
データバス幅	$\overline{RD}$	$\overline{WRL}$	$\overline{WRH}$	外部データバスの状態
16ビット (BYTE=“L”)	L	H	H	データを読み出す
	H	L	H	偶数番地に1バイトデータを書き込む
	H	H	L	奇数番地に1バイトデータを書き込む
	H	L	L	偶数番地、奇数番地ともにデータを書き込む

表1.9.4. $\overline{RD}$、$\overline{WR}$、$\overline{BHE}$信号の動作

データバス幅	$\overline{RD}$	$\overline{WR}$	$\overline{BHE}$	A0	外部データバスの状態
16ビット (BYTE=“L”)	H	L	L	H	奇数番地に1バイトデータを書き込む
	L	H	L	H	奇数番地に1バイトデータを読み出す
	H	L	H	L	偶数番地に1バイトデータを書き込む
	L	H	H	L	偶数番地に1バイトデータを読み出す
	H	L	L	L	偶数番地、奇数番地ともにデータを書き込む
	L	H	L	L	偶数番地、奇数番地ともにデータを読み出す
8ビット (BYTE=“H”)	H	L	使用しない	H／L	1バイトのデータを書き込む
	L	H	使用しない	H／L	1バイトのデータを読み出す

(4) ALE信号

マルチプレクスバスの空間をアクセスするとき、アドレスをラッチするための信号です。ALE信号の立ち下がりでアドレスをラッチしてください。



注1. 読み込むときはフローティングになります。
注2. 全空間マルチプレクスバス選択時、入出力ポートになります。

図1.9.3. ALE信号とアドレスバス/データバス

(5) $\overline{\text{RDY}}$信号

$\overline{\text{RDY}}$は、アクセス時間が長い外部デバイスへのアクセスを容易にするための信号です。図1.9.4に示すようにBCLKの立ち下がりで$\overline{\text{RDY}}$端子に“L”が入力されているとき、バスはウエイト状態になります。BCLKの立ち下がりで$\overline{\text{RDY}}$端子に“H”が入力されているとき、バスはウエイト状態を解除します。表1.9.5にバスのウエイト状態におけるマイクロコンピュータの状態、図1.9.4に$\overline{\text{RD}}$信号が$\overline{\text{RDY}}$信号によってのびた例を示します。

$\overline{\text{RDY}}$信号は、チップセレクト制御レジスタ(0008_{16}番地)のビット4～ビット7に“0”を設定している領域のバスサイクルで、外部領域をアクセスするときに有効です。チップセレクト制御レジスタ(0008_{16}番地)のビット4～ビット7に全て“1”を設定している場合は、$\overline{\text{RDY}}$信号は無効ですが、$\overline{\text{RDY}}$端子の未使用端子の処理が必要です。

表1.9.5. バスのウエイト状態におけるマイクロコンピュータの状態(注1)

項　目	状　態
発振	動作
R/$\overline{\text{W}}$信号、アドレスバス、データバス、$\overline{\text{CS}}$ ALE信号、$\overline{\text{HLDA}}$ プログラマブル入出力ポート	$\overline{\text{RDY}}$信号を受け付けたときの状態を保持
内蔵周辺回路	動作

注1.　ソフトウエアウエイトによるウエイトの直前には$\overline{\text{RDY}}$信号は受け付けられません。

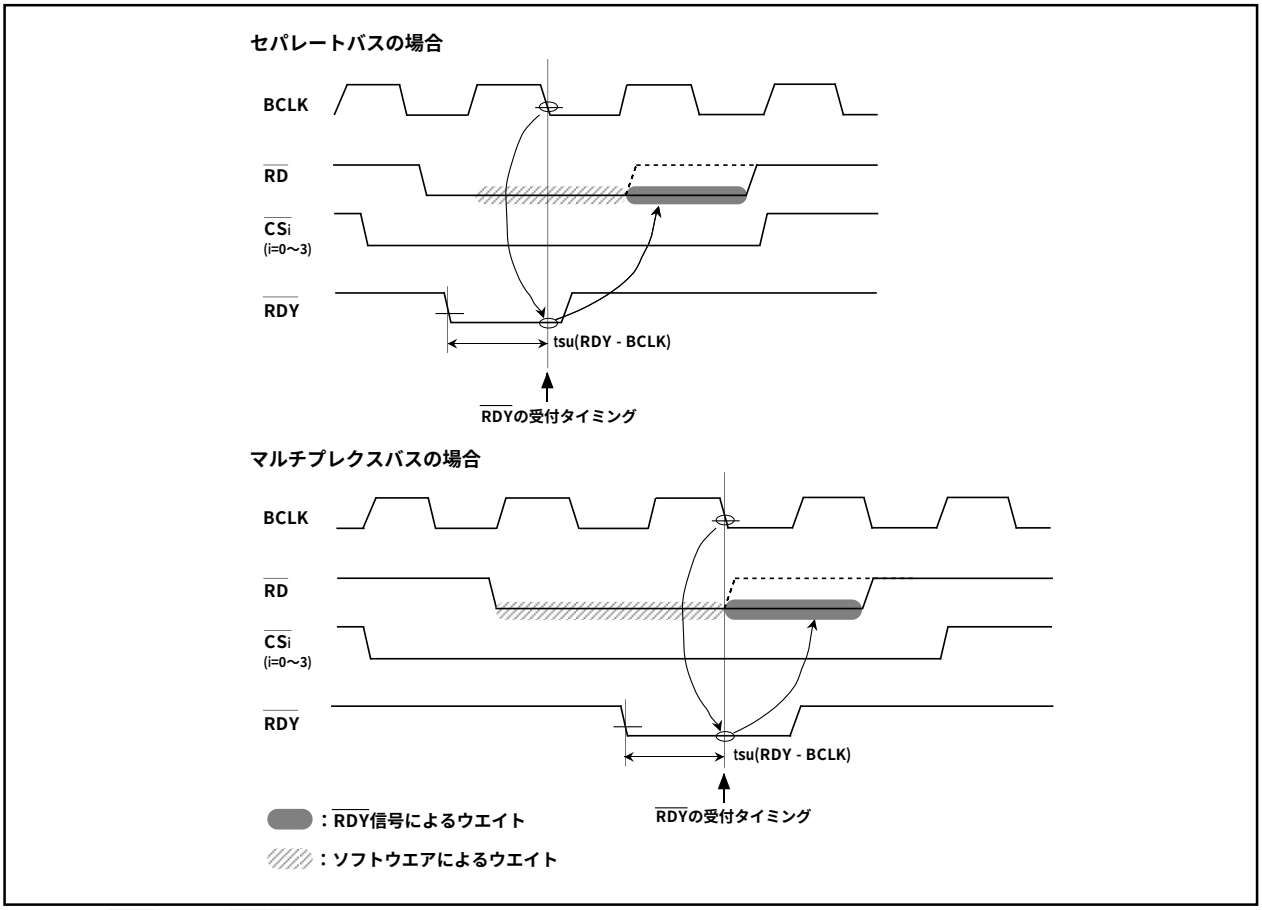


図1.9.4. $\overline{\text{RD}}$信号が$\overline{\text{RDY}}$信号によってのびた例

(6) ホールド信号

ホールドは、バスの使用権をCPUから外部回路へ移行するための信号です。$\overline{\text{HOLD}}$端子に“L”を入力するとその時点のバスアクセスを終了した後、マイクロコンピュータはホールド状態になり、$\overline{\text{HOLD}}$端子が“L”の期間その状態を保持します。また、その間$\overline{\text{HLDA}}$端子から“L”を出力します。表1.9.6にホールド状態におけるマイクロコンピュータの状態を示します。

なお、バスの使用優先順位は高い方から順に、$\overline{\text{HOLD}}$、DMAC、CPUとなっています。

$\overline{\text{HOLD}}$ > DMAC > CPU

図1.9.5. バス使用優先順位

表1.9.6. ホールド状態におけるマイクロコンピュータの状態

項　目		状　態
発振		動作
R/$\overline{\text{W}}$信号、アドレスバス、データバス、$\overline{\text{CS}}$、$\overline{\text{BHE}}$		フローティング
プログラマブル入出力ポート	P0, P1, P2, P3, P4, P5	フローティング
	P6, P7, P8, P9, P10	ホールド信号を受け付けた状態を保持
$\overline{\text{HLDA}}$		“L”を出力
内蔵周辺回路		動作(ただし監視タイマは停止)
ALE信号		不定

(7) 内部領域をアクセスしたときの外部バスの状態

内部領域をアクセスしたときの外部バスの状態を表1.9.7に示します。

表1.9.7. 内部領域をアクセスしたときの外部バスの状態

項　目		SFRをアクセスしたときの状態	内部ROM/RAMをアクセスしたときの状態
アドレスバス		アドレスを出力	直前にアクセスされた外部領域のアドレスを保持
データバス	リード時	フローティング	フローティング
	ライト時	データを出力	不定
$\overline{\text{RD}}$, $\overline{\text{WR}}$, $\overline{\text{WRL}}$, $\overline{\text{WRH}}$		$\overline{\text{RD}}$, $\overline{\text{WR}}$, $\overline{\text{WRL}}$, $\overline{\text{WRH}}$を出力	“H”を出力
$\overline{\text{BHE}}$		$\overline{\text{BHE}}$を出力	直前にアクセスされた外部領域の状態を保持
$\overline{\text{CS}}$		“H”を出力	“H”を出力
ALE		“L”を出力	“L”を出力

(8) BCLK出力

BCLKの出力をプロセッサモードレジスタ0(0004$_{16}$番地)(注1)のビット7によって選択でき、“1”を選択した場合はフローティングになります。

注1. プロセッサモードレジスタ0を書き替える場合、プロテクトレジスタ(000A$_{16}$番地)のビット1を“1”にしてください。

(9) ソフトウエアウエイト

プロセッサモードレジスタ1(0005$_{16}$番地)(注1)のウエイトビット(ビット7)とチップセレクト制御レジスタ(0008$_{16}$番地)のビット4～ビット7によって、ソフトウエアウエイトを挿入することができます。

プロセッサモードレジスタ1のウエイトビットによって、内部ROM/RAM領域、および外部メモリ領域に対してソフトウエアウエイトを挿入することができます。このビットが“0”のときバスサイクルはBCLKの1サイクルで実行され、“1”にするとバスサイクルがBCLKの2サイクルまたは3サイクルになります。リセット解除後、このビットは“0”になっています。このビットが“1”のとき、チップセレクト制御レジスタのビット4～ビット7の内容によらず、全領域ウエイトあり(BCLKの2サイクルまたは3サイクル)で動作します。このビットの値については、電気的特性の推奨動作条件(メインクロック入力発振周波数)を参照の上、設定してください。ただし、$\overline{\text{RDY}}$信号を使用する場合、チップセレクト制御レジスタのビット4～ビット7の該当するビットに“0”を設定する必要があります。

プロセッサモードレジスタ1のウエイトビットが“0”のとき、チップセレクト制御レジスタのビット4～ビット7の値によって、チップセレクト信号で選択された4つの領域ごとにソフトウエアウエイトの有無を選択することができます。チップセレクト制御レジスタのビット4～ビット7はそれぞれチップセレクト$\overline{\text{CS0}}$～$\overline{\text{CS3}}$に対応します。これらのビットが“1”のときバスサイクルはBCLKの1サイクルで実行され、“0”にするとバスサイクルがBCLKの2サイクルまたは3サイクルになります。リセット解除後、これらのビットは“0”になっています。

SFR領域は、これらの制御ビットの影響を受けず、常にBCLKの2サイクルでアクセスされます。また、外部メモリ領域で、マルチプレクスバスを選択する場合は、必ずソフトウエアウエイトを挿入してください。

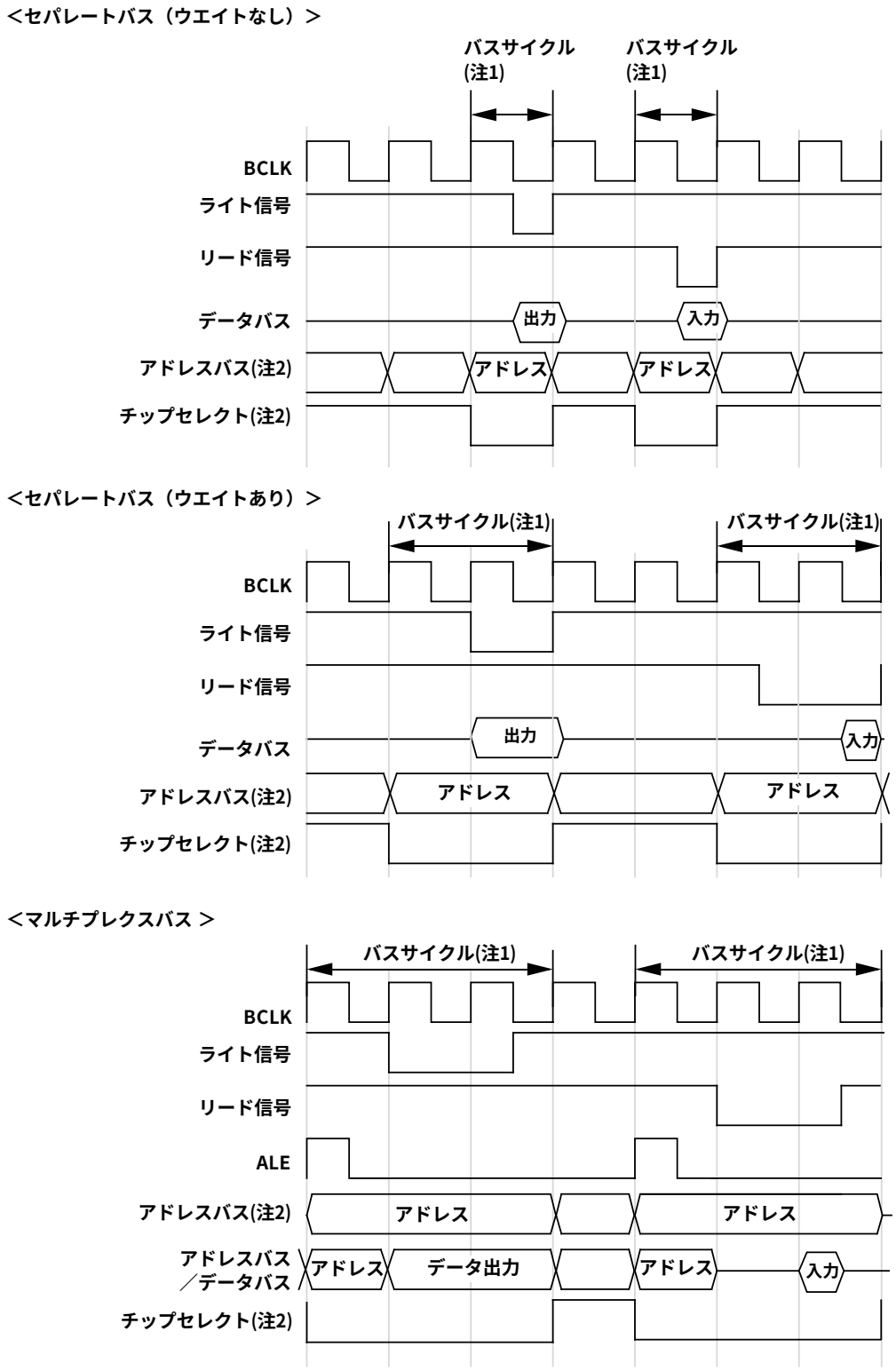
表1.9.8にソフトウエアウエイトとバスサイクル、図1.9.6にソフトウエアウエイトを使用した場合のバスタイミング例を示します。

注1. プロセッサモードレジスタ1を書き替える場合、プロテクトレジスタ(000A$_{16}$番地)のビット1を“1”にしてください。

表1.9.8. ソフトウエアウエイトとバスサイクル

領　域	バス形状	ウエイトビット	チップセレクト制御レジスタビット4～ビット7	バスサイクル
SFR	―――	無効	無効	BCLKの2サイクル
内部ROM/RAM	―――	0	無効	BCLKの1サイクル
	―――	1	無効	BCLKの2サイクル
外部メモリ領域	セパレートバス	0	1	BCLKの1サイクル
	セパレートバス	0	0	BCLKの2サイクル
	セパレートバス	1	0(注1)	BCLKの2サイクル
	マルチプレクスバス	0	0	BCLKの3サイクル
	マルチプレクスバス	1	0(注1)	BCLKの3サイクル

注1. $\overline{\text{RDY}}$信号を使用する場合“0”を設定してください。



注1. 本タイミング例はバスサイクルの長さを示したものです。本バスサイクルの後にリードサイクル、ライトサイクルが連続する場合もあります。
注2. 命令キューバッファなどのCPUの状態により、アドレスバスおよびチップセレクトは、伸びる場合があります。

図1.9.6. ソフトウエアウエイトを使用した場合のバスタイミング例

クロック発生回路

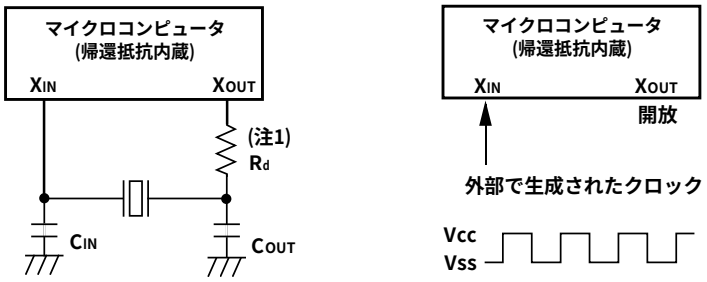
クロック発生回路は、CPU、内蔵周辺装置などの動作クロック源を供給する発振回路を2回路内蔵しています。

表1.10.1. メインクロック発振回路、サブクロック発振回路

	メインクロック発振回路	サブクロック発振回路
クロックの用途	●CPUの動作クロック源 ●内蔵周辺装置の動作クロック源	●CPUの動作クロック源 ●タイマA、タイマBのカウントクロック源
接続できる発振子	セラミック発振子、水晶発振子	水晶発振子
発振子の接続端子	XIN、XOUT	XCIN、XCOUT
発振の停止/再開機能	あり	あり
リセット直後の発振子の状態	発振	停止
その他	外部で生成されたクロックを入力することが可能	

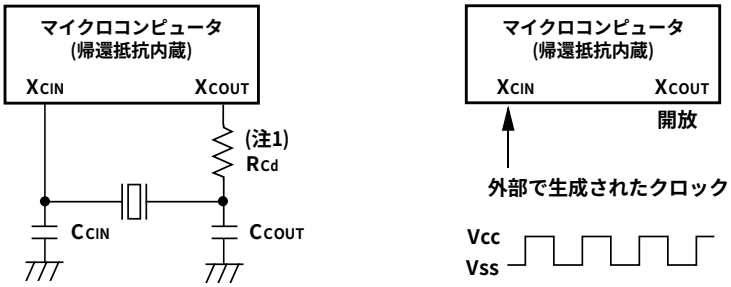
発振回路例

図1.10.1にメインクロックに発振子を接続した場合および外部で生成されたクロックを入力した場合の回路例を示します。図1.10.2にサブクロックに発振子を接続した場合および外部で生成されたクロックを入力した場合の回路例を示します。図1.10.1中および図1.10.2中の回路定数は発振子によって異なりますので、発振子メーカの推奨する値に設定してください。



注1. 必要に応じてダンピング抵抗を挿入してください。抵抗値は発振子および発振駆動能力によって異なりますので、発振子メーカの推奨する値に設定してください。発振駆動能力をLOWで使用する場合には、LOWの状態でも安定して発振するか確認してください。また、発振子メーカから外部に帰還抵抗を追加する旨の指示があった場合は、その指示に従ってXIN、XOUT間に、帰還抵抗を付加してください。

図1.10.1. メインクロックの接続例



注1. 必要に応じてダンピング抵抗を挿入してください。抵抗値は発振子および発振駆動能力によって異なりますので、発振子メーカの推奨する値に設定してください。発振駆動能力をLOWで使用する場合には、LOWの状態でも安定して発振するか確認してください。また、発振子メーカから外部に帰還抵抗を追加する旨の指示があった場合は、その指示に従ってXCIN、XCOUT間に、帰還抵抗を付加してください。

図1.10.2. サブクロックの接続例

クロックの制御

図1.10.3にクロック発生回路のブロック図を示します。

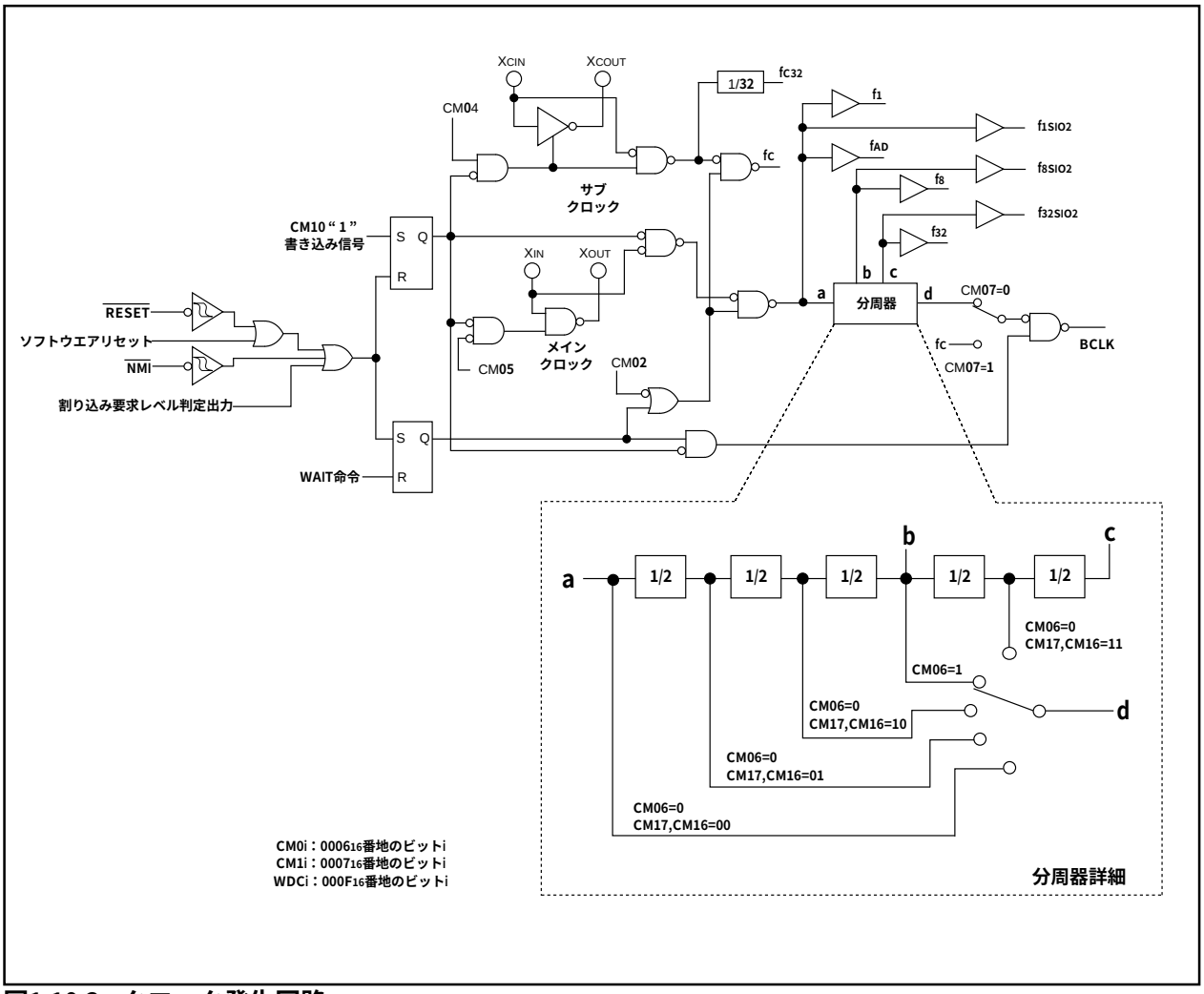


図1.10.3. クロック発生回路

クロック発生回路で発生するクロックを順に説明します。

(1) メインクロック

メインクロック発振回路が供給するクロックです。リセット直後は、このクロックの8分周がBCLKになります。メインクロック停止ビット(000616番地のビット5)によってこのクロックの供給を停止することができます。CPUの動作クロック源をサブクロックに切り替えた後、このクロックの供給を停止すると消費電力は低減します。

メインクロック発振回路の発振が安定した後は、XIN-XOUT駆動能力選択ビット(000716番地のビット5)によってメインクロック発振回路の駆動能力を弱めることができます。メインクロック発振回路の駆動能力を弱めると消費電力は低減します。高速モード、中速モードからストップモードへの移行時、低消費電力モードへの移行時、およびリセット時、このビットは“1”になります。低速モードでは保持されます。

(2) サブクロック

サブクロック発振回路が供給するクロックです。リセット直後は、このクロックは供給されていません。ポートXC切り替えビット(000616番地のビット4)で発振を開始した後、システムクロック選択ビット(000616番地のビット7)によって、サブクロックをBCLKにすることができます。ただし、サブクロックの発振が充分に安定してから切り替えるようにしてください。

サブクロック発振回路の発振が安定した後は、XCIN-XCOUT駆動能力選択ビット(000616番地のビット3)によってサブクロック発振回路の駆動能力を弱めることができます。サブクロック発振回路の駆動能力を弱めると消費電力はさらに低減します。このビットは、ポートXC切り替えビット(000616番地のビット4)を“0”にした時、ストップモードへの移行時、およびリセット時、“1”になります。

XCIN/XCOUTを使用する場合、ポートP86、P87は入力ポートで、プルアップなしを設定してください。

(3) BCLK

メインクロックの1、2、4、8、16分周、またはfCをクロック源とするCPUの動作クロックです。リセット直後、メインクロックの8分周がBCLKになります。メモリ拡張モード時、マイクロプロセッサモード時、BCLK出力禁止ビット(000416番地のビット7)によって、BCLK端子からこの信号を出力することができます。

高速モード、中速モードからストップモードへの移行時、低消費電力モードへの移行時、およびリセット時、メインクロック分周比選択ビット0(000616番地のビット6)は“1”になります。低速モードでは保持されます。

(4) 周辺機能クロック(f1、f8、f32、f1SIO2、f8SIO2、f32SIO2、fAD)

それぞれメインクロックを、1分周、8分周、32分周した内蔵周辺装置の動作クロックです。このクロックは、メインクロックを停止させるか、またはWAIT時周辺機能クロック停止ビット(000616番地のビット2)を“1”にした後、WAIT命令を実行すると供給が停止します。

(5) fC32

サブクロックを32分周したクロックです。タイマAとタイマBのカウントに使用します。

(6) fC

サブクロックと同一周波数のクロックです。BCLKや監視タイマに使用します。

図1.10.4にシステムクロック制御レジスタ0、システムクロック制御レジスタ1の構成を示します。

システムクロック制御レジスタ0(注1)

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0

シンボル	アドレス	リセット時
CM0	0006_{16}番地	48_{16}

ビットシンボル	ビット名	機　　能	R	W
CM00	クロック出力機能選択ビット(シングルチップモード時のみ有効)	b1 b0 0 0 : 入出力ポートP5_7 0 1 : fcを出力 1 0 : f_8を出力 1 1 : f_{32}を出力	○	○
CM01			○	○
CM02	WAIT時周辺機能クロック停止ビット	0 : ウエイトモード時、周辺機能クロック停止しない 1 : ウエイトモード時、周辺機能クロック停止する(注8)	○	○
CM03	XCIN-XCOUT駆動能力選択ビット(注2)	0 : LOW 1 : HIGH	○	○
CM04	ポートXc切り替えビット(注10)	0 : 入出力ポート機能 1 : XCIN-XCOUT発振機能(注9)	○	○
CM05	メインクロック (XIN-XOUT)停止ビット(注3、注4、注5)	0 : 発振 1 : 停止	○	○
CM06	メインクロック分周比選択ビット0(注7)	0 : CM16,CM17有効 1 : 8分周モード	○	○
CM07	システムクロック選択ビット(注6)	0 : XIN,XOUT選択 1 : XCIN,XCOUT選択	○	○

注1. このレジスタを書き替える場合、プロテクトレジスタ($000A_{16}$番地)のビット0を“1”にしてください。
注2. ポートXc切り替えビット(CM04)を“0”にした時、ストップモードへの移行時、およびリセット時、“1”になります。
注3. このビットは低消費電力モードにするときに、メインクロックを停止させるためのビットです。メインクロックを停止させる場合、サブクロックが安定して発振している状態で、システムクロック選択ビット(CM07)を“1”にしてから、このビットを“1”にしてください。また、このビットを“1”にした時には、メインクロック分周比選択ビット(CM06)が“1”に、XIN-XOUT駆動能力選択ビット(CM15)が“1”になります。
注4. 外部クロック入力時には、クロック発振バッファだけ停止し、クロック入力は受け付けられるモードとなります。
注5. このビットが“1”の場合、XOUTは“H”レベルになります。また、内蔵している帰還抵抗は接続したままですので、XINは帰還抵抗を介して、XOUT(“H”レベル)にプルアップされた状態となります。
注6. このビットを“0”から“1”にする場合、ポートXc切り替えビット(CM04)を“1”にし、サブクロックの発振が安定した後に行ってください。同時に書き込まないでください。また、このビットを“1”から“0”にする場合は、メインクロック停止ビット(CM05)を“0”にし、メインクロックの発振が安定した後に行ってください。
注7. 高速モード、中速モードからストップモードへの移行時、低消費電力モードへの移行時、およびリセット時、このビットは“1”になります。低速モードでは保持されます。
注8. fc32は含みません。低速モードおよび低消費電力モード時は“1”にしないでください。
注9. XCIN/XCOUTを使用する場合、ポートP8_6、P8_7は入力ポートで、プルアップなしを設定してください。
注10. このビットを“0”にした時にXCIN-XCOUT駆動能力選択ビットが“1”になります。

システムクロック制御レジスタ1(注1)

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
			0	0	0	0	

シンボル	アドレス	リセット時
CM1	0007_{16}番地	20_{16}

ビットシンボル	ビット名	機　　能	R	W
CM10	全クロック停止制御ビット(注4)	0 : クロック発振 1 : 全クロック停止(ストップモード)	○	○
予約ビット		必ず“0”を設定してください	○	○
予約ビット		必ず“0”を設定してください	○	○
予約ビット		必ず“0”を設定してください	○	○
予約ビット		必ず“0”を設定してください	○	○
CM15	XIN-XOUT駆動能力選択ビット(注2)	0 : LOW 1 : HIGH	○	○
CM16	メインクロック分周比選択ビット1(注3)	b7 b6 0 0 : 分周なしモード 0 1 : 2分周モード 1 0 : 4分周モード 1 1 : 16分周モード	○	○
CM17				

注1. このレジスタを書き替える場合、プロテクトレジスタ($000A_{16}$番地)のビット0を“1”にしてください。
注2. 高速モード、中速モードからストップモードへの移行時、低消費電力モードへの移行時、およびリセット時、このビットは“1”になります。低速モードでは保持されます。
注3. システムクロック制御レジスタ0(0006_{16}番地)のビット6が“0”の場合、有効となります。“1”の場合、8分周モードに固定です。
注4. このビットが“1”の場合、XOUTは“H”レベルとなり、内蔵している帰還抵抗は切り離されます。XCIN、XCOUTは、ハイインピーダンスになります。

図1.10.4. システムクロック制御レジスタ0、システムクロック制御レジスタ1の構成

クロック出力

シングルチップモード時、クロック出力機能選択ビット(000_{16}番地のビット0、ビット1)によってP5$_7$/CLK$_{OUT}$端子からf_8、f_{32}またはf_Cを出力することができます。WAIT時周辺機能クロック停止ビット(000_{16}番地のビット2)を“1”に設定している場合、WAIT命令を実行するとf_8、f_{32}のクロック出力は停止します。

ストップモード

全クロック停止制御ビット($000_{7_{16}}$番地のビット0)に“1”を書き込むと、発振がすべて停止し、マイクロコンピュータはストップモードに入ります。ストップモード時、V_{CC}が2V以上であれば内部RAMの内容を保持することができます。

ストップモードでは、発振、BCLK、f_1～f_{32}、f_{1SIO2}～f_{32SIO2}、f_C、f_{C32}、f_{AD}は停止しますのでA-D変換器、監視タイマ等の内蔵周辺機能は動作しません。ただし、タイマA、タイマBは外部パルスをカウントするイベントカウンタモードだけ、UARTi(i＝0～2)は、外部クロック選択時だけ動作します。ストップモード時のポートの状態を表1.10.2に示します。

ストップモードはハードウエアリセットまたは割り込みによって解除されます。ストップモードの解除に割り込みを使用する場合、対象となる割り込みは、あらかじめ割り込み許可状態に、解除に使用しない割り込みは優先レベルを0にしてからストップモードに移行してください。割り込みで復帰した場合、対象となる割り込みルーチンを実行します。ストップモードの解除にハードウエアリセットおよび$\overline{NMI}$割り込みのみを使用する場合、すべての割り込み優先レベルを0にしてから、ストップモードに移行してください。

高速モード、中速モードからストップモードへの移行時、低消費電力モードへの移行時、およびリセット時、メインクロック分周比選択ビット0(000_{16}番地のビット6)は“1”になります。低速モードでは保持されます。

表1.10.2. ストップモード時のポートの状態

端　子		メモリ拡張モード マイクロプロセッサモード	シングルチップモード
アドレスバス, データバス, $\overline{CS0}$～$\overline{CS3}$, $\overline{BHE}$		ストップモードに入る直前の状態を保持	
$\overline{RD}$, $\overline{WR}$, $\overline{WRL}$, $\overline{WRH}$		“H”	
$\overline{HLDA}$,BCLK		“H”	
ALE		“H”	
ポート		ストップモードに入る直前の状態を保持	ストップモードに入る直前の状態を保持
CLK$_{OUT}$	f_C選択時	シングルチップモード時だけ有効	“H”
	f_8、f_{32}選択時	シングルチップモード時だけ有効	ストップモードに入る直前の状態を保持

ウエイトモード

WAIT命令を実行するとBCLKが停止し、マイクロコンピュータはウエイトモードに入ります。ウエイトモードでは、発振は停止しませんが、BCLKおよび監視タイマは停止します。WAIT時周辺機能クロック停止ビットに“1”を書いて、WAIT命令を実行すると、内蔵周辺機能へ供給しているクロックが停止し、消費電力を低減することができます。ただし、サブクロックから生成している周辺機能クロック(fc32)は停止しませんので、消費電力の削減にはなりません。低速モードおよび低消費電力モード時にはこのビットに“1”を設定してウエイトモードに移行しないでください。ウエイトモード時のポートの状態を表1.10.3に示します。

ウエイトモードはハードウエアリセットまたは割り込みによって解除されます。ウエイトモードの解除に割り込みを使用する場合、対象となる割り込みは、あらかじめ割り込み許可状態に、解除に使用しない割り込みは優先レベルを0にしてからウエイトモードに移行してください。割り込みで復帰した場合、マイクロコンピュータはWAIT命令を実行したときのクロックをBCLKとし、割り込みルーチンから動作を再開します。ウエイトモードの解除にハードウエアリセットおよび$\overline{\text{NMI}}$割り込みのみを使用する場合、すべての割り込み優先レベルを0にしてから、ウエイトモードに移行してください。

表1.10.3. ウエイトモード時のポートの状態

端　子		メモリ拡張モード マイクロプロセッサモード	シングルチップモード
アドレスバス, データバス, $\overline{\text{CS0}}$～$\overline{\text{CS3}}$, $\overline{\text{BHE}}$		ウエイトモードに入る直前の状態を保持	
$\overline{\text{RD}}$, $\overline{\text{WR}}$, $\overline{\text{WRL}}$, $\overline{\text{WRH}}$		“H”	
$\overline{\text{HLDA}}$, BCLK		“H”	
ALE		“H”	
ポート		ウエイトモードに入る直前の状態を保持	ウエイトモードに入る直前の状態を保持
CLKOUT	fC選択時	シングルチップモード時だけ有効	停止しません
	f8、f32選択時	シングルチップモード時だけ有効	WAIT時周辺機能クロック停止ビットが“0”のとき停止しません WAIT時周辺機能クロック停止ビットが“1”のときウエイトモードに入る直前の状態を保持

BCLKの状態遷移

BCLKのカウントソースを変更することで、消費電流の低減や低電圧動作を実現することができます。以下にBCLKの動作モードを示します。また、表1.10.4にシステムクロック制御レジスタ0と1の設定値に対する動作モードを示します。

リセット時、8分周モードで立ち上がります。高速モード、中速モードからストップモードへの移行時、低消費電力モードへの移行時、およびリセット時、メインクロック分周比選択ビット0(0006$_{16}$番地のビット6)は“1”に、XIN-XOUT駆動能力選択ビット(0007$_{16}$番地のビット5)は“1”になります。低速モードでは保持されます。

(1) 2分周モード

メインクロックの2分周がBCLKとなるモードです。

(2) 4分周モード

メインクロックの4分周がBCLKとなるモードです。

(3) 8分周モード

メインクロックの8分周がBCLKとなるモードです。リセット時このモードから動作します。このモードから分周なしモード、2分周モード、4分周モードへ移行する場合、メインクロックが安定して発振している必要があります。低速モード、低消費電力モードへ移行する場合、サブクロックが安定して発振している必要があります。

(4) 16分周モード

メインクロックの16分周がBCLKとなるモードです。

(5) 分周なしモード

メインクロックの1分周がBCLKとなるモードです。

(6) 低速モード

fCがBCLKとなるモードです。他のモードからこのモードへ、またはこのモードから他のモードへ移行する場合は、メインクロックおよびサブクロックとも発振が安定している必要があります。特にサブクロックの発振立ち上がりは時間(2～3秒程度)を要しますので、電源投入直後やストップモード解除時は、安定するまでプログラムで待ち時間をとってから移行するようにしてください。

(7) 低消費電力モード

fCがBCLKとなりさらにメインクロックを停止させたモードです。

注意事項

BCLKのカウントソースをXINからXCIN、XCINからXINに切り替えるとき、切り替え先のクロックは安定して発振している必要があります。ソフトウエアにて発振が安定するまで待ち時間を取ってから移るようにしてください。

表1.10.4. システムクロック制御レジスタ0と1の設定値に対する動作モード

CM17	CM16	CM07	CM06	CM05	CM04	BCLKの動作モード
0	1	0	0	0	無効	2分周モード
1	0	0	0	0	無効	4分周モード
無効	無効	0	1	0	無効	8分周モード
1	1	0	0	0	無効	16分周モード
0	0	0	0	0	無効	分周なしモード
無効	無効	1	無効	0	1	低速モード
無効	無効	1	無効	1	1	低消費電力モード

CM1i：0007$_{16}$番地のビットi
CM0i：0006$_{16}$番地のビットi

パワーコントロール

パワーコントロールの概要について説明します。

●モード

パワーコントロールには3つのモードがあります。

(1) 通常動作モード

■ 高速モード

メインクロックの1分周がBCLKとなるモードです。CPUはBCLKで動作します。周辺機能は、各周辺機能で設定したクロックで動作します。

■ 中速モード

メインクロックの2分周、4分周、8分周、または16分周がBCLKとなるモードです。CPUはBCLKで動作します。周辺機能は、周辺機能ごとに設定したクロックで動作します。

■ 低速モード

fcがBCLKとなるモードです。CPUは、fcのクロックで動作します。fcとは、サブクロックが供給するクロックです。周辺機能は、周辺機能ごとに設定したクロックで動作します。

■ 低消費電力モード

低速モードからメインクロックを停止させたモードです。CPUは、fcのクロックで動作します。fcとは、サブクロックが供給するクロックです。カウントソースとしてサブクロックを選択している周辺機能だけ動作します。

(2) ウエイトモード

CPUの動作を停止させるモードです。発振器は停止しません。

(3) ストップモード

すべての発振器が停止するモードです。CPUや内蔵の周辺機能はすべて停止します。パワーコントロールの3つのモードの中で一番消費電流を少なくすることができます。

(1)～(3)の状態遷移図を図1.10.5に示します。

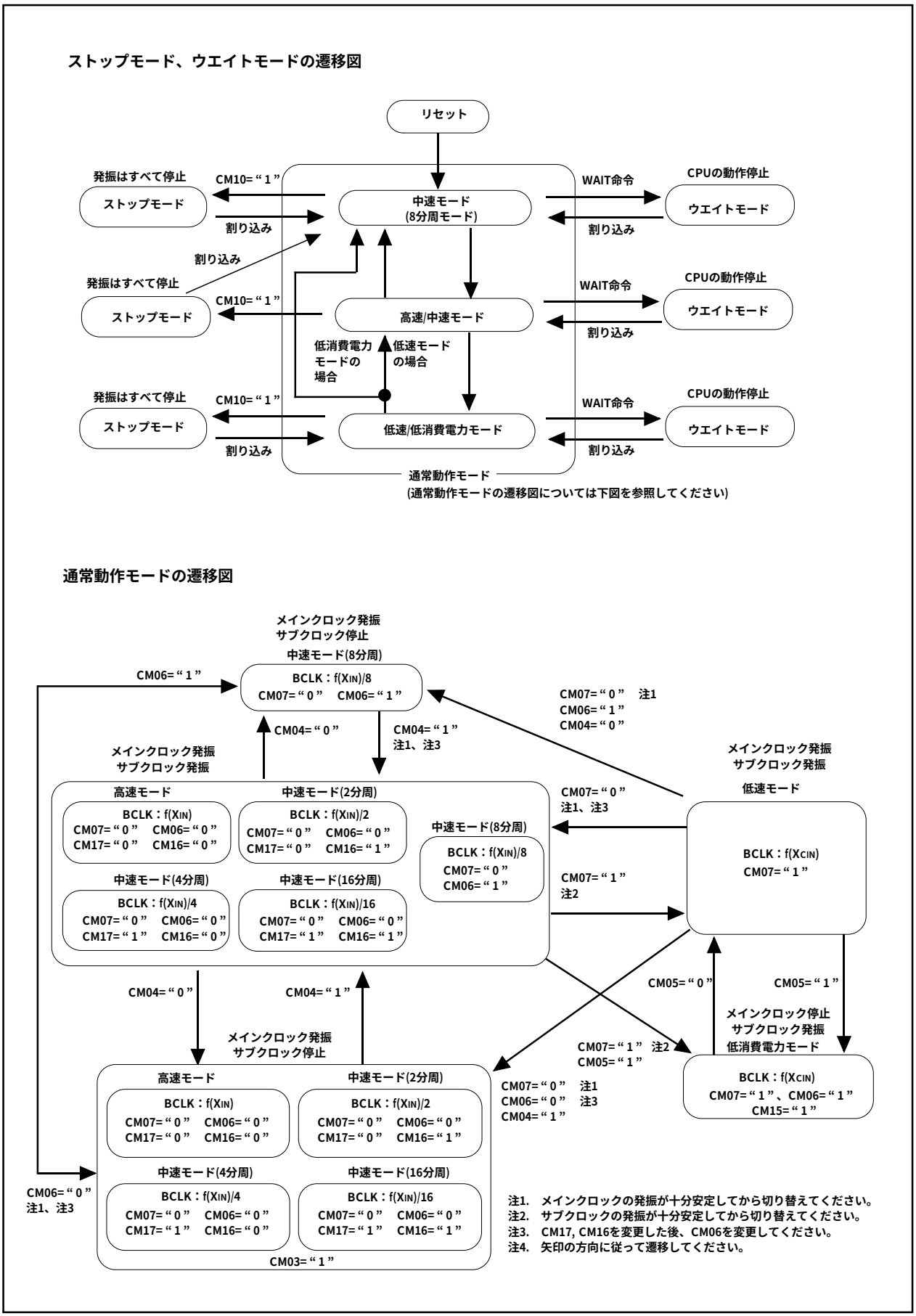

ストップモード、ウエイトモードの遷移図
リセット
発振はすべて停止
ストップモード
CM10=“1”
割り込み
中速モード
(8分周モード)
WAIT命令
CPUの動作停止
ウエイトモード
割り込み
割り込み
発振はすべて停止
ストップモード
CM10=“1”
高速/中速モード
WAIT命令
CPUの動作停止
ウエイトモード
割り込み
低消費電力
モードの
場合
低速モード
の場合
発振はすべて停止
ストップモード
CM10=“1”
割り込み
低速/低消費電力モード
WAIT命令
CPUの動作停止
ウエイトモード
割り込み
通常動作モード
(通常動作モードの遷移図については下図を参照してください)
通常動作モードの遷移図
メインクロック発振
サブクロック停止
中速モード(8分周)
BCLK：f(XIN)/8
CM07=“0” CM06=“1”
CM06=“1”
CM07=“0” 注1
CM06=“1”
CM04=“0”
CM04=“0”
CM04=“1”
注1、注3
メインクロック発振
サブクロック発振
高速モード
BCLK：f(XIN)
CM07=“0” CM06=“0”
CM17=“0” CM16=“0”
中速モード(2分周)
BCLK：f(XIN)/2
CM07=“0” CM06=“0”
CM17=“0” CM16=“1”
中速モード(8分周)
BCLK：f(XIN)/8
CM07=“0”
CM06=“1”
中速モード(4分周)
BCLK：f(XIN)/4
CM07=“0” CM06=“0”
CM17=“1” CM16=“0”
中速モード(16分周)
BCLK：f(XIN)/16
CM07=“0” CM06=“0”
CM17=“1” CM16=“1”
メインクロック発振
サブクロック発振
低速モード
BCLK：f(XCIN)
CM07=“1”
CM07=“0”
注1、注3
CM07=“1”
注2
CM04=“0”
CM04=“1”
メインクロック発振
サブクロック停止
高速モード
BCLK：f(XIN)
CM07=“0” CM06=“0”
CM17=“0” CM16=“0”
中速モード(2分周)
BCLK：f(XIN)/2
CM07=“0” CM06=“0”
CM17=“0” CM16=“1”
中速モード(4分周)
BCLK：f(XIN)/4
CM07=“0” CM06=“0”
CM17=“1” CM16=“0”
中速モード(16分周)
BCLK：f(XIN)/16
CM07=“0” CM06=“0”
CM17=“1” CM16=“1”
CM03=“1”
CM06=“0”
注1、注3
CM05=“0”
CM05=“1”
メインクロック停止
サブクロック発振
低消費電力モード
CM07=“1” 注2
CM05=“1”
CM07=“0” 注1
CM06=“0” 注3
CM04=“1”
BCLK：f(XCIN)
CM07=“1”、CM06=“1”
CM15=“1”
注1. メインクロックの発振が十分安定してから切り替えてください。
注2. サブクロックの発振が十分安定してから切り替えてください。
注3. CM17, CM16を変更した後、CM06を変更してください。
注4. 矢印の方向に従って遷移してください。

図1.10.5. 状態遷移図

プロテクト

プログラムが暴走したときに備え、重要なレジスタは、簡単に書き替えることができないようにプロテクトする機能を持ちます。図1.10.6にプロテクトレジスタの構成を示します。プロセッサモードレジスタ0(0004_{16}番地)、プロセッサモードレジスタ1(0005_{16}番地)、システムクロック制御レジスタ0(0006_{16}番地)、システムクロック制御レジスタ1(0007_{16}番地)、およびポートP9方向レジスタ($03F3_{16}$番地)は、プロテクトレジスタの対応するビットが“1”のときだけ書き替えることができます。したがって、ポートP9には重要な出力を配置することができます。

ポートP9方向レジスタ書き込み許可ビット($000A_{16}$番地のビット2)は、“1”(書き込み許可状態)を書き込んだ後、任意の番地に書き込みを実行すると“0”(書き込み禁止状態)になります。システムクロック制御レジスタ0、1書き込み許可ビット($000A_{16}$番地のビット0)およびプロセッサモードレジスタ0、1書き込み許可ビット($000A_{16}$番地のビット1)は任意の番地に書き込みを実行しても“0”になりませんのでプログラムで“0”にしてください。

プロテクトレジスタ

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
╳	╳	╳	╳	╳			

シンボル	アドレス	リセット時
PRCR	$000A_{16}$番地	$XXXXX000_2$

ビットシンボル	ビット名	機　能	R	W
PRC0	システムクロック制御レジスタ0,1(0006_{16},0007_{16}番地)への書き込み許可	0：書き込み禁止 1：書き込み許可	○	○
PRC1	プロセッサモードレジスタ0, 1(0004_{16}, 0005_{16}番地)への書き込み許可	0：書き込み禁止 1：書き込み許可	○	○
PRC2	ポートP9方向レジスタ($03F3_{16}$番地)への書き込み許可(注1)	0：書き込み禁止 1：書き込み許可	○	○
何も配置されていない。 書き込む場合、“0”を書き込んでください。読み出した場合、その値は不定。			—	—

注1.　このビットは“1”を書き込んだ後、任意の番地に書き込みを実行すると“0”になります。
他のビットは“0”になりませんので、プログラムで“0”にしてください。

図1.10.6. プロテクトレジスタの構成

割り込みの概要

割り込みの分類

図1.11.1に割り込みの分類を示します。

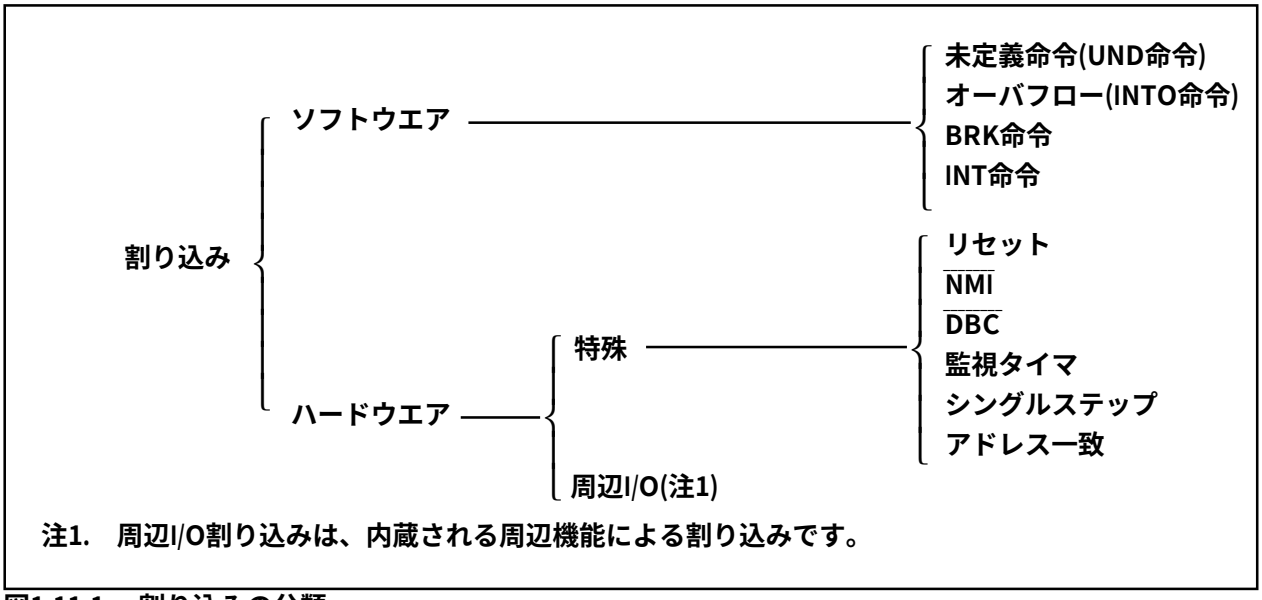


図1.11.1.　割り込みの分類

●マスカブル割り込み　：　割り込み許可フラグ(Iフラグ)による割り込みの許可(禁止)や割り込み優先レベルによる割り込み優先順位の変更が**可能**

●ノンマスカブル割り込み　：　割り込み許可フラグ(Iフラグ)による割り込みの許可(禁止)や割り込み優先レベルによる割り込み優先順位の変更が**不可能**

ソフトウエア割り込み

ソフトウエア割り込みは、命令の実行によって発生します。ソフトウエア割り込みはノンマスカブル割り込みです。

●未定義命令割り込み

未定義命令割り込みは、UND命令を実行すると発生します。

●オーバフロー割り込み

オーバフロー割り込みは、オーバフローフラグ(Oフラグ)が“1”のときINTO命令を実行すると発生します。演算によってOフラグが変化する命令を以下に示します。

ABS, ADC, ADCF, ADD, CMP, DIV, DIVU, DIVX, NEG, RMPA, SBB, SHA, SUB

●BRK割り込み

BRK割り込みは、BRK命令を実行すると発生します。

●INT命令割り込み

INT命令割り込みは、ソフトウエア割り込み番号 0～63 を指定し、INT命令を実行すると発生します。なお、ソフトウエア割り込み番号0～31は周辺I/O割り込みに割り当てられますので、INT命令を実行することで周辺I/O割り込みと同じ割り込みルーチンを実行できます。

INT命令割り込みに使用するスタックポインタ(SP)は、ソフトウエア割り込み番号によって異なります。ソフトウエア割り込み番号0～31では、割り込み要求受け付け時にスタックポインタ指定フラグ(Uフラグ)を退避し、Uフラグを“0”にして割り込みスタックポインタ(ISP)を選択した後、割り込みシーケンスを実行します。割り込みルーチンから復帰するときに割り込み要求受け付け前のUフラグが復帰されます。ソフトウエア割り込み番号32～63では、スタックポインタは切り替わりません。

ハードウエア割り込み

ハードウエア割り込みには、特殊割り込みと周辺I/O割り込みがあります。

●特殊割り込み

特殊割り込みは、ノンマスカブル割り込みです。

(1) リセット

リセットは、$\overline{\text{RESET}}$端子に“L”を入力すると発生します。

(2) $\overline{\text{NMI}}$割り込み

$\overline{\text{NMI}}$割り込みは、$\overline{\text{NMI}}$端子に“L”を入力すると発生します。

(3) $\overline{\text{DBC}}$割り込み

デバッガ専用割り込みですので、通常は使用しないでください。

(4) 監視タイマ割り込み

監視タイマによる割り込みです。監視タイマ割り込み発生後は、必ず監視タイマスタートレジスタへ書き込みを行い、監視タイマを初期化してください。

(5) シングルステップ割り込み

デバッガ専用割り込みですので、通常は使用しないでください。シングルステップ割り込みは、デバッグフラグ(Dフラグ)を“1”にすると、命令を1つ実行した後に発生します。

(6) アドレス一致割り込み

アドレス一致割り込みは、アドレス一致割り込み許可ビットを“1”にしたとき、アドレス一致割り込みレジスタで示される番地の命令を実行する直前に発生します。

アドレス一致レジスタに命令の先頭番地以外の番地を設定した場合は、アドレス一致割り込みは発生しません。

● 周辺I/O割り込み

周辺I/O割り込みは、内蔵される周辺機能による割り込みです。内蔵される周辺機能は品種展開によって異なりますので、それぞれの割り込み要因も品種展開によって異なります。割り込みベクタテーブルはINT命令で使用するソフトウエア割り込み番号0～31と同一です。周辺I/O割り込みは、マスカブル割り込みです。

(1) バス衝突検出割り込み

シリアルI/Oのバス衝突検出機能による割り込みです。

(2) DMA0割り込み

DMAによる割り込みです。

(3) キー入力割り込み

キー入力割り込みは、$\overline{\text{KI}}$端子に“L”を入力すると発生します。

(4) A-D変換割り込み

A-D変換器による割り込みです。

(5) UART0、UART1、UART2/NACK送信割り込み

シリアルI/Oの送信による割り込みです。

(6) UART0、UART1、UART2/ACK受信割り込み

シリアルI/Oの受信による割り込みです。

(7) タイマA0～タイマA2割り込み

タイマAによる割り込みです。

(8) タイマB1、タイマB2割り込み

タイマBによる割り込みです。

(9) $\overline{\text{INT0}}$～$\overline{\text{INT2}}$割り込み

$\overline{\text{INT}}$割り込みは、$\overline{\text{INT}}$端子に立ち下がりエッジ、立ち上がりエッジ、または両エッジを入力すると発生します。

割り込みと割り込みベクタテーブル

割り込み要求が受け付けられると、割り込みベクタテーブルに設定した割り込みルーチンへ分岐します。各割り込みベクタテーブルには、割り込みルーチンの先頭番地を設定してください。図1.11.2にアドレスの指定形式を示します。

割り込みベクタテーブルには、アドレスが固定されている固定ベクタテーブルと設定によってベクタテーブルの番地を変更できる可変ベクタテーブルがあります。

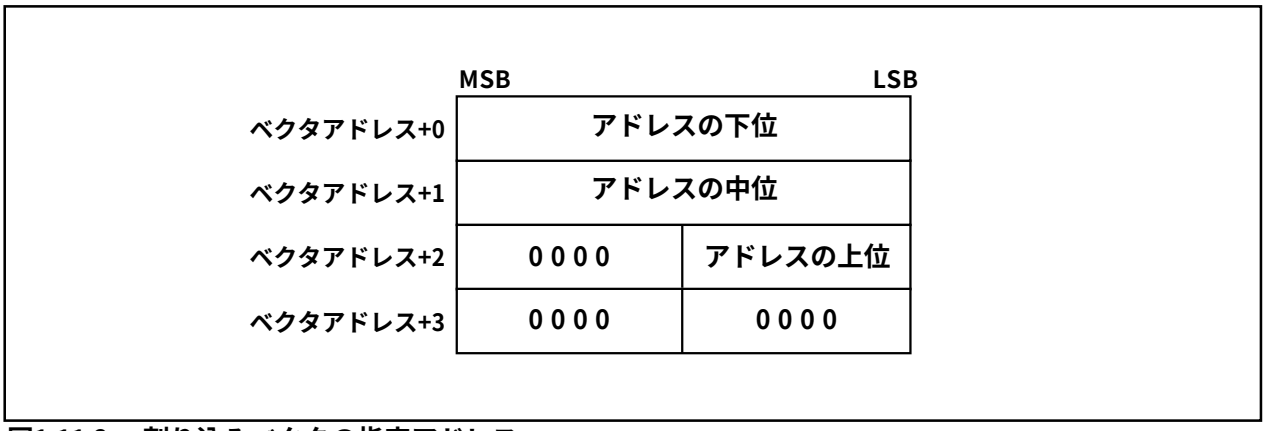


図1.11.2.　割り込みベクタの指定アドレス

●固定ベクタテーブル

固定ベクタテーブルは、アドレスが固定のベクタテーブルで、FFFDC16番地からFFFFF16番地に配置されています。1ベクタテーブルに対して4バイトで構成されています。各ベクタテーブルには割り込みルーチンの先頭番地を設定します。表1.11.1に固定ベクタテーブルに配置している割り込みとベクタテーブルの番地を示します。

表1.11.1.　固定ベクタテーブルに配置している割り込みとベクタテーブルの番地

割り込み要因	ベクタテーブル番地 ｱﾄﾞﾚｽ(L)～ｱﾄﾞﾚｽ(H)	備考
未定義命令	FFFDC16 ～ FFFDF16	UND命令で割り込み
オーバフロー	FFFE016 ～ FFFE316	INTO命令で割り込み
BRK命令	FFFE416 ～ FFFE716	ベクタの内容がすべてFF16の場合は可変ベクタテーブル内のベクタが示す番地から実行
アドレス一致	FFFE816 ～ FFFEB16	アドレス一致割り込み許可ビットあり
シングルステップ(注1)	FFFEC16 ～ FFFEF16	通常は使用禁止
監視タイマ	FFFF016 ～ FFFF316	
$\overline{\text{DBC}}$(注1)	FFFF416 ～ FFFF716	通常は使用禁止
$\overline{\text{NMI}}$	FFFF816 ～ FFFFB16	$\overline{\text{NMI}}$端子入力による外部割り込み
リセット	FFFFC16 ～ FFFFF16	

注1.　デバッガ専用割り込み

●可変ベクタテーブル

可変ベクタテーブルは、設定によってアドレスを変更することができるベクタテーブルです。ベクタテーブルの先頭番地を、割り込みテーブルレジスタ(INTB)で示してください。INTBで示された先頭番地から256バイトが可変ベクタテーブルの領域となります。1ベクタテーブルに対して4バイトで構成されています。各ベクタテーブルには割り込みルーチンの先頭番地を設定してください。表1.11.2に可変ベクタテーブルに配置している割り込みとベクタテーブルの番地を示します。

表1.11.2.　可変ベクタテーブルに配置している割り込みとベクタテーブルの番地

ソフトウエア割り込み番号	ベクタテーブル番地 アドレス(L)～アドレス(H)	割り込み要因	備　考
ソフトウエア割り込み番号0	+0～+3(注1)	BRK命令	Iフラグによるマスク不可
ソフトウエア割り込み番号10	+40～+43(注1)	バス衝突検出	
ソフトウエア割り込み番号11	+44～+47(注1)	DMA0	
ソフトウエア割り込み番号13	+52～+55(注1)	キー入力割り込み	
ソフトウエア割り込み番号14	+56～+59(注1)	A-D	
ソフトウエア割り込み番号15	+60～+63(注1)	UART2送信／NACK (注2)	
ソフトウエア割り込み番号16	+64～+67(注1)	UART2受信／ACK　(注2)	
ソフトウエア割り込み番号17	+68～+71(注1)	UART0送信	
ソフトウエア割り込み番号18	+72～+75(注1)	UART0受信	
ソフトウエア割り込み番号19	+76～+79(注1)	UART1送信	
ソフトウエア割り込み番号20	+80～+83(注1)	UART1受信	
ソフトウエア割り込み番号21	+84～+87(注1)	タイマA0	
ソフトウエア割り込み番号22	+88～+91(注1)	タイマA1	
ソフトウエア割り込み番号23	+92～+95(注1)	タイマA2	
ソフトウエア割り込み番号27	+108～+111(注1)	タイマB1	
ソフトウエア割り込み番号28	+112～+115(注1)	タイマB2	
ソフトウエア割り込み番号29	+116～+119(注1)	$\overline{\text{INT0}}$	
ソフトウエア割り込み番号30	+120～+123(注1)	$\overline{\text{INT1}}$	
ソフトウエア割り込み番号31	+124～+127(注1)	$\overline{\text{INT2}}$	
ソフトウエア割り込み番号32 ～ ソフトウエア割り込み番号63	+128～+131(注1) ～ +252～+255(注1)	ソフトウエア割り込み	Iフラグによるマスク不可

注1.　割り込みテーブルレジスタ(INTB)が示すアドレスからの相対アドレスです。
注2.　IICモード選択時にNACK、ACK割り込みが選択されます。

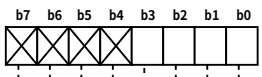
割り込み制御

マスカブル割り込みの許可/禁止、受け付ける優先順位の設定について説明します。ここで説明する内容は、ノンマスカブル割り込みには該当しません。

マスカブル割り込みの許可および禁止は、割り込み許可フラグ(Iフラグ)、割り込み優先レベル選択ビット、およびプロセッサ割り込み優先レベル(IPL)によって行います。また、割り込み要求の有無は、割り込み要求ビットに示されます。割り込み要求ビットおよび割り込み優先レベル選択ビットは、各割り込みの割り込み制御レジスタに配置されています。また、割り込み許可フラグ(Iフラグ)、およびプロセッサ割り込み優先レベル(IPL)は、フラグレジスタ(FLG)に配置されています。

図1.11.3に割り込み制御レジスタの構成を示します。

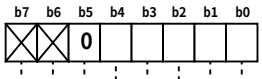
割り込み制御レジスタ(注2)



シンボル	アドレス	リセット時
BCNIC	$004A_{16}$番地	$XXXXX000_2$
DM0IC	$004B_{16}$番地	$XXXXX000_2$
KUPIC	$004D_{16}$番地	$XXXXX000_2$
ADIC	$004E_{16}$番地	$XXXXX000_2$
SiTIC(i=0～2)	0051_{16}, 0053_{16}, $004F_{16}$番地	$XXXXX000_2$
SiRIC(i=0～2)	0052_{16}, 0054_{16}, 0050_{16}番地	$XXXXX000_2$
TAiIC(i=0～2)	0055_{16}～0057_{16}番地	$XXXXX000_2$
TBiIC(i=1, 2)	$005B_{16}$, $005C_{16}$番地	$XXXXX000_2$

ビットシンボル	ビット名	機　　能	R	W
ILVL0	割り込み優先レベル選択ビット	b2 b1 b0 0 0 0：レベル0（割り込み禁止） 0 0 1：レベル1 0 1 0：レベル2 0 1 1：レベル3 1 0 0：レベル4 1 0 1：レベル5 1 1 0：レベル6 1 1 1：レベル7	○	○
ILVL1			○	○
ILVL2			○	○
IR	割り込み要求ビット	0：割り込み要求なし 1：割り込み要求あり	○	○(注1)
何も配置されていない。 書き込む場合、“0”を書き込んでください。 読み出した場合、その値は不定。			—	—

注1.　“0”だけ書き込み可(“1”を書き込まないでください)。
注2.　割り込み制御レジスタの変更は、そのレジスタに対応する割り込み要求が発生しない箇所で行ってください。詳細は、割り込みの注意事項を参照してください。



シンボル	アドレス	リセット時
INTiIC(i=0～2)	$005D_{16}$～$005F_{16}$番地	$XX00X000_2$

ビットシンボル	ビット名	機　　能	R	W
ILVL0	割り込み優先レベル選択ビット	b2 b1 b0 0 0 0：レベル0（割り込み禁止） 0 0 1：レベル1 0 1 0：レベル2 0 1 1：レベル3 1 0 0：レベル4 1 0 1：レベル5 1 1 0：レベル6 1 1 1：レベル7	○	○
ILVL1			○	○
ILVL2			○	○
IR	割り込み要求ビット	0：割り込み要求なし 1：割り込み要求あり	○	○(注1)
POL	極性切り替えビット	0：立ち下がりエッジを選択 1：立ち上がりエッジを選択	○	○
予約ビット		必ず“0”を設定してください	○	○
何も配置されていない。 書き込む場合、“0”を書き込んでください。 読み出した場合、その値は不定。			—	—

注1.　“0”だけ書き込み可(“1”を書き込まないでください)。
注2.　割り込み制御レジスタの変更は、そのレジスタに対応する割り込み要求が発生しない箇所で行ってください。詳細は、割り込みの注意事項を参照してください。

図1.11.3.　割り込み制御レジスタの構成

割り込み許可フラグ(Iフラグ)

割り込み許可フラグ(Iフラグ)は、マスカブル割り込みの禁止／許可の制御を行います。このフラグを“1”にすると、すべてのマスカブル割り込みは許可され、“0”にすると禁止されます。このフラグはリセット解除後“0”になります。

割り込み要求ビット

割り込み要求ビットは割り込み要求が発生すると、ハードウェアによって“1”になります。割り込み要求が受け付けられ、対応する割り込みベクタに分岐した後、このビットはハードウェアによって“0”になります。

また、このビットはソフトウエアによって“0”にできます(“1”を書き込まないでください)。

割り込み優先レベル選択ビット、およびプロセッサ割り込み優先レベル(IPL)

割り込み優先レベルは、割り込み制御レジスタの中の割り込み優先レベル選択ビットで設定します。

割り込み要求発生時、割り込み優先レベルは、プロセッサ割り込み優先レベル(IPL)と比較され、割り込みの優先レベルがプロセッサ割り込み優先レベル(IPL)より大きい場合だけ、その割り込みは許可されます。したがって、割り込み優先レベルにレベル0を設定すれば、その割り込みは禁止されます。

表1.11.3に割り込み優先レベルの設定を、表1.11.4にプロセッサ割り込み優先レベル(IPL)の内容による割り込み許可レベルを示します。

割り込み要求が受け付けられる条件を以下に示します。

- 割り込み許可フラグ(Iフラグ) ＝ “1”
- 割り込み要求ビット ＝ “1”
- 割り込み優先レベル ＞ プロセッサ割り込み優先レベル(IPL)

割り込み許可フラグ(Iフラグ)、割り込み要求ビット、割り込み優先レベル選択ビット、およびプロセッサ割り込み優先レベル(IPL)はそれぞれ独立しており、互いに影響を与えることはありません。

表1.11.3. 割り込み優先レベルの設定

割り込み優先レベル選択ビット	割り込み優先レベル	優先順位
b2 b1 b0 0 0 0	レベル0 (割り込み禁止)	――
0 0 1	レベル1	低い
0 1 0	レベル2	↓
0 1 1	レベル3	
1 0 0	レベル4	
1 0 1	レベル5	
1 1 0	レベル6	
1 1 1	レベル7	高い

表1.11.4. プロセッサ割り込み優先レベル(IPL)の内容による割り込み許可レベル

プロセッサ割り込み優先レベル(IPL)	許可される割り込み優先レベル
IPL_2 IPL_1 IPL_0 0 0 0	レベル1以上を許可
0 0 1	レベル2以上を許可
0 1 0	レベル3以上を許可
0 1 1	レベル4以上を許可
1 0 0	レベル5以上を許可
1 0 1	レベル6以上を許可
1 1 0	レベル7以上を許可
1 1 1	すべてのマスカブル割り込みを禁止

割り込み制御レジスタの変更

割り込み制御レジスタの変更は、そのレジスタに対応する割り込み要求が発生しない箇所で行ってください。割り込み要求が発生する可能性がある場合は、割り込みを禁止状態にしてから変更してください。参考プログラム例を以下に示します。

＜割り込み制御レジスタを書き換えるプログラム例＞

例１：

```
INT_SWITCH1：
  FCLR    I              ；割り込み禁止状態
  AND.B   #00H，0055H    ；タイマA0割り込み制御レジスタに“ 00₁₆ ”を設定
  NOP                    ；HOLD機能を使用する場合はNOP命令が４個必要
  NOP
  FSET    I              ；割り込み許可状態
```

例２：

```
INT_SWITCH2：
  FCLR    I              ；割り込み禁止状態
  AND.B   #00H，0055H    ；タイマA0割り込み制御レジスタに“ 00₁₆ ”を設定
  MOV.W   MEM，R0        ；ダミーリード
  FSET    I              ；割り込み許可状態
```

例３：

```
INT_SWITCH3：
  PUSHC   FLG
  FCLR    I              ；割り込み禁止状態
  AND.B   #00H，0055H    ；タイマA0割り込み制御レジスタに“ 00₁₆ ”を設定
  POPC    FLG            ；割り込み許可状態
```

例１と例２でFSET I命令の前にNOP命令２個（HOLD機能使用時は４個）やダミーリードがあるのは、命令キューの影響により割り込み許可フラグ(Iフラグ)のセットが割り込み制御レジスタの書き込みより先に実行されるのを防ぐためです。

割り込み禁止状態で割り込み制御レジスタを変更するときには、使用する命令に注意が必要です。

割り込み要求ビット以外のビットの変更

命令の実行中に、そのレジスタに対応する割り込みが発生した場合、割り込み要求ビットがセットされずに割り込みが無視されることがあります。このことが問題になる場合は、以下の命令を使用してレジスタの変更を行ってください。

対象となる命令…AND、OR、BCLR、BSET

割り込み要求ビットの変更

割り込み制御レジスタの割り込み要求ビットをクリアするとき、使用する命令によっては割り込み要求ビットがクリアされないことがあります。このことが問題になる場合は、以下の命令を使用してレジスタの変更を行ってください。

対象となる命令…MOV

割り込みシーケンス

割り込み要求が受け付けられてから割り込みルーチンが実行されるまでの、割り込みシーケンスについて説明します。

命令実行中に割り込み要求が発生すると、その命令の実行終了後に優先順位が判定され、次のサイクルから割り込みシーケンスに移ります。ただし、SMOVB, SMOVF, SSTR, RMPAの各命令は、命令実行中に割り込み要求が発生すると、命令の動作を一時中断し割り込みシーケンスに移ります。

割り込みシーケンスでは、次の動作を順次行います。

(1) 0000_{16}番地を読むことで、CPUは割り込み情報(割り込み番号、割り込み要求レベル)を獲得する。その後、該当する割り込みの要求ビットが“0”になる。
(2) 割り込みシーケンス直前のフラグレジスタ(FLG)の内容をCPU内部の一時レジスタ(注1)に退避する。
(3) 割り込み許可フラグ(Iフラグ)、デバッグフラグ(Dフラグ)、およびスタックポインタ指定フラグ(Uフラグ)を“0”にする(ただしUフラグは、ソフトウエア割り込み番号32～63のINT命令を実行した場合は変化しません)。
(4) CPU内部の一時レジスタ(注1)の内容をスタック領域に退避する。
(5) プログラムカウンタ(PC)の内容をスタック領域に退避する。
(6) プロセッサ割り込み優先レベル(IPL)に、受け付けた割り込みの割り込み優先レベルを設定する。

割り込みシーケンス終了後は、割り込みルーチンの先頭番地から命令を実行します。

注1. ユーザは使用できません。

割り込み応答時間

割り込み応答時間とは、割り込み要求が発生してから割り込みルーチン内の最初の命令を実行するまでの時間を示します。この時間は、割り込み要求発生時点から、そのとき実行している命令が終了するまでの時間(a)と割り込みシーケンスを実行する時間(b)で構成されます。図1.11.4に割り込み応答時間を示します。

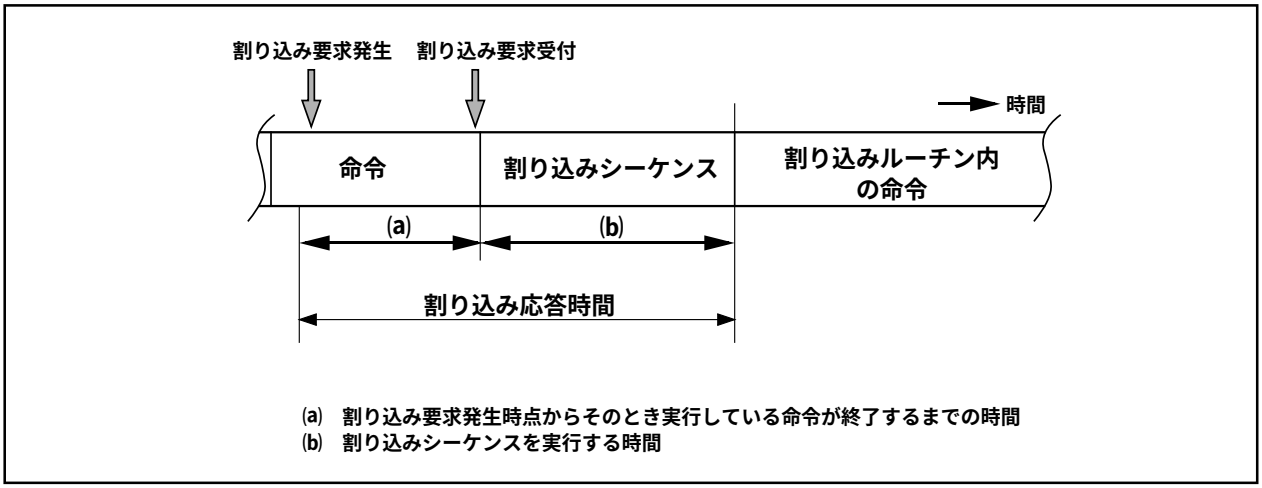


図1.11.4. 割り込み応答時間

(a)の時間は、実行している命令によって異なります。DIVX命令が最大で30サイクル(ウエイトなし)です。
(b)の時間は次のとおりです。

表1.11.5.　割り込みシーケンス実行時間

割り込みベクタの番地	スタックポインタ(SP)の値	16ビットバス、ウエイトなし	8ビットバス、ウエイトなし
偶数	偶数	18サイクル(注1)	20サイクル(注1)
偶数	奇数	19サイクル(注1)	20サイクル(注1)
奇数(注2)	偶数	19サイクル(注1)	20サイクル(注1)
奇数(注2)	奇数	20サイクル(注1)	20サイクル(注1)

注1.　$\overline{\text{DBC}}$割り込みは+2サイクル、アドレス一致割り込み、シングルステップ割り込みは+1サイクルしてください。
注2.　割り込みベクタの番地は、なるべく偶数番地に配置するようにしてください。

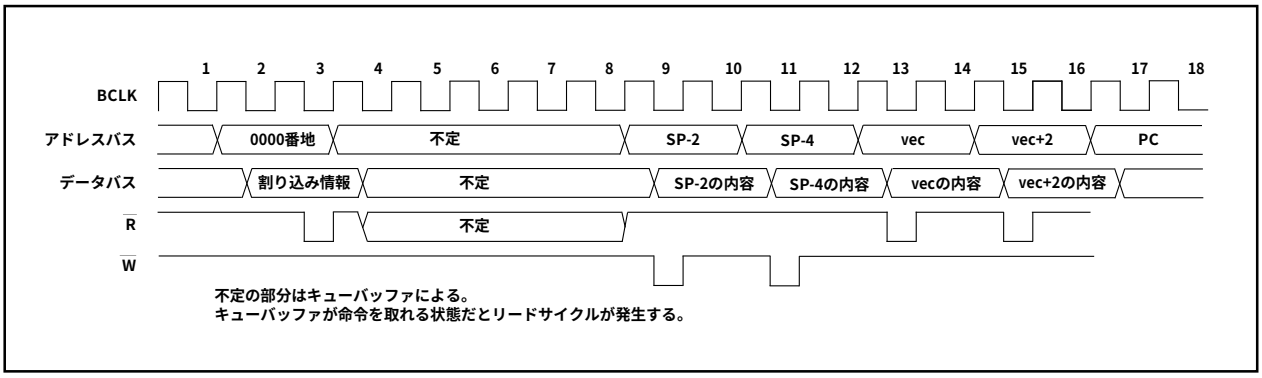


図1.11.5.　割り込みシーケンスの実行時間

割り込み要求受付時のプロセッサ割り込み優先レベル(IPL)の変化

割り込み要求が受け付けられると、プロセッサ割り込み優先レベル(IPL)には受け付けた割り込みの割り込み優先レベルが設定されます。

割り込み優先レベルをもたない割り込み要求が受け付けられたときは、表1.11.6に示す値がIPLに設定されます。

表1.11.6.　割り込み優先レベルをもたない割り込みとIPLの関係

割り込み優先レベルをもたない割り込み要因	設定される IPL の値
監視タイマ、$\overline{\text{NMI}}$	7
リセット	0
その他	変化しない

レジスタ退避

割り込みシーケンスでは、フラグレジスタ(FLG)とプログラムカウンタ(PC)の内容だけがスタック領域に退避されます。

退避する順番は、スタック領域へはプログラムカウンタの上位4ビットとFLGレジスタの上位4ビットおよび下位8ビットの合計16ビットをまず退避し、次にプログラムカウンタの下位16ビットを退避します。図1.11.6に割り込み要求受付前のスタックの状態と、割り込み要求受付後のスタックの状態を示します。

その他の必要なレジスタは、割り込みルーチンの最初でソフトウエアによって退避してください。PUSHM命令を用いると、1命令でスタックポインタ(SP)を除くすべてのレジスタを退避することができます。

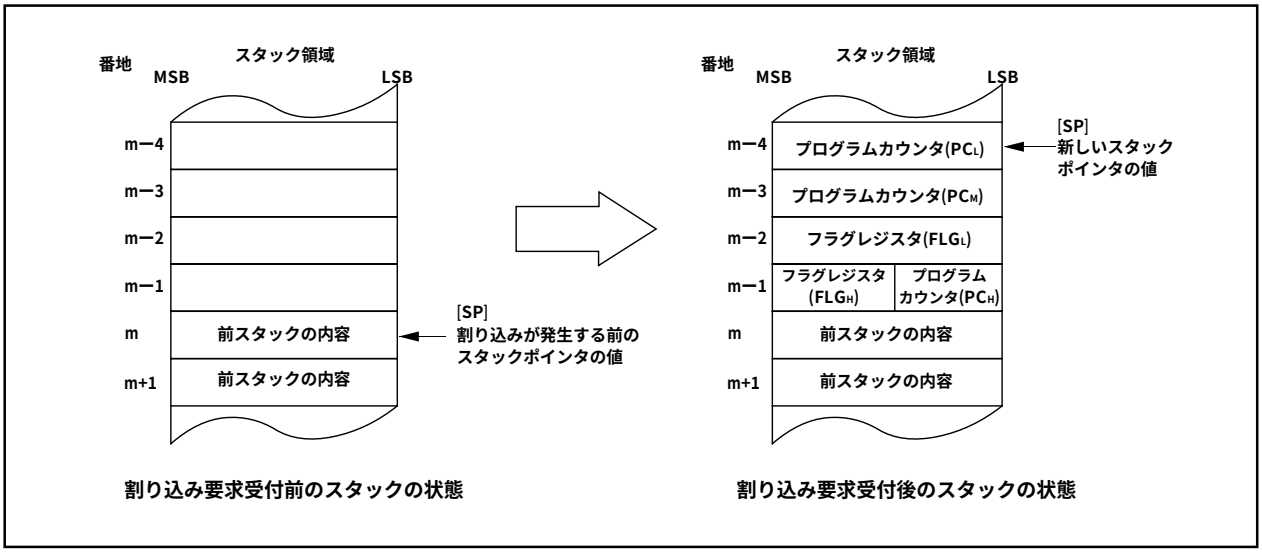


図1.11.6.　割り込み要求受付前／割り込み要求受付後のスタックの状態

割り込みシーケンスで行われるレジスタ退避動作は、割り込み要求受付時のスタックポインタ(注1)の内容が偶数の場合と奇数の場合で異なります。スタックポインタ(注1)の内容が偶数の場合は、フラグレジスタ(FLG)およびプログラムカウンタ(PC)の内容がそれぞれ16ビット同時に退避されます。奇数の場合は、8ビットずつ2回に分けて退避されます。図1.11.7にレジスタ退避動作を示します。

注1.　ソフトウエア番号32～63のINT命令を実行した場合は、Uフラグが示すスタックポインタです。
　　それ以外は、割り込みスタックポインタ(ISP)です。

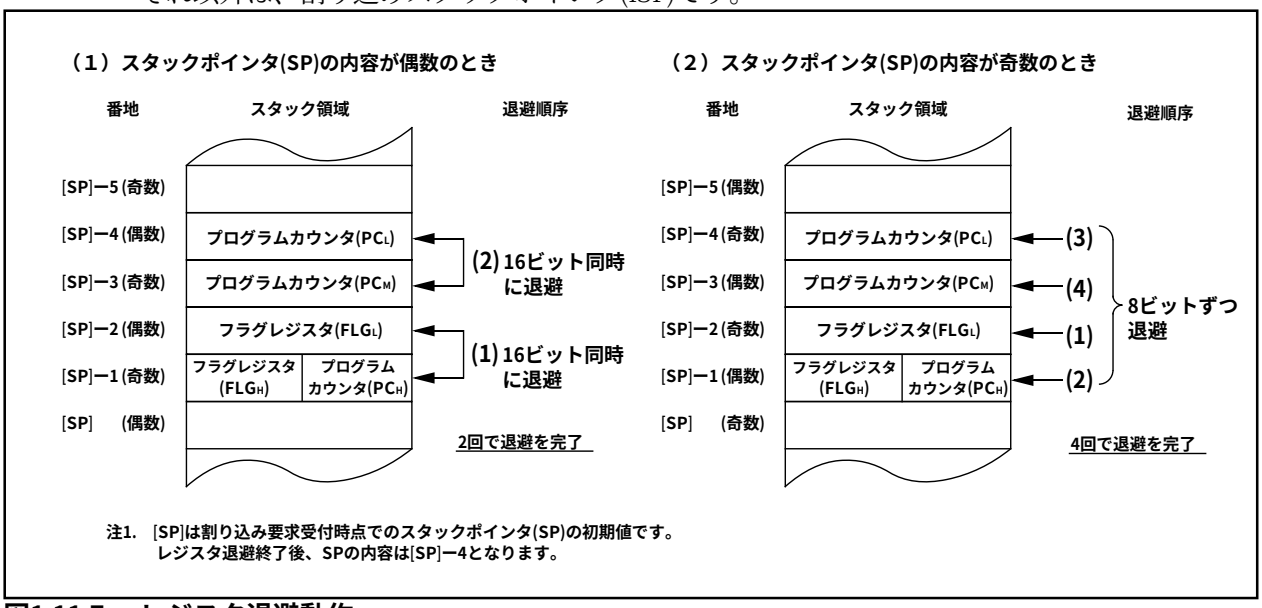


図1.11.7.　レジスタ退避動作

割り込みルーチンからの復帰

割り込みルーチンの最後でREIT命令を実行すると、スタック領域に退避されていた割り込みシーケンス直前のフラグレジスタ(FLG)、およびプログラムカウンタ(PC)の内容が復帰されます。その後、割り込み要求受付前に実行していたプログラムに戻り、中断されていた処理が継続して実行されます。

割り込みルーチン内でソフトウエアによって退避したレジスタは、REIT命令実行前にPOPM命令などを使用して復帰してください。

割り込み優先順位

同一サンプリング時点(割り込みの要求があるかどうかを調べるタイミング)で2つ以上の割り込み要求が存在した場合は、優先順位の高い割り込みが受け付けられます。

マスカブル割り込み(周辺I/O割り込み)の優先順位は、割り込み優先レベル選択ビットによって任意の優先順位を設定することができます。ただし、割り込み優先レベルが同じ設定値の場合は、ハードウエアで設定されている優先度の高い割り込みが受け付けられます。

リセット(リセットは優先順位の一番高い割り込みとして扱われます)、監視タイマ割り込みなど、特殊割り込みの優先順位はハードウエアで設定されています。ハードウエア割り込みの割り込み優先順位を図1.11.8に示します。

ソフトウエア割り込みは割り込み優先順位の影響を受けません。命令を実行すると必ず割り込みルーチンへ分岐します。

割り込み優先レベル判定回路

割り込み優先レベル判定回路は、同一サンプリング時点で要求のある割り込みから、最も優先順位の高い割り込みを選択するための回路です。

図1.11.9に割り込み優先レベルの判定回路を示します。

リセット＞$\overline{\text{NMI}}$＞$\overline{\text{DBC}}$＞監視タイマ＞周辺I/O＞シングルステップ＞アドレス一致

図1.11.8.　ハードウエア割り込みの割り込み優先順位

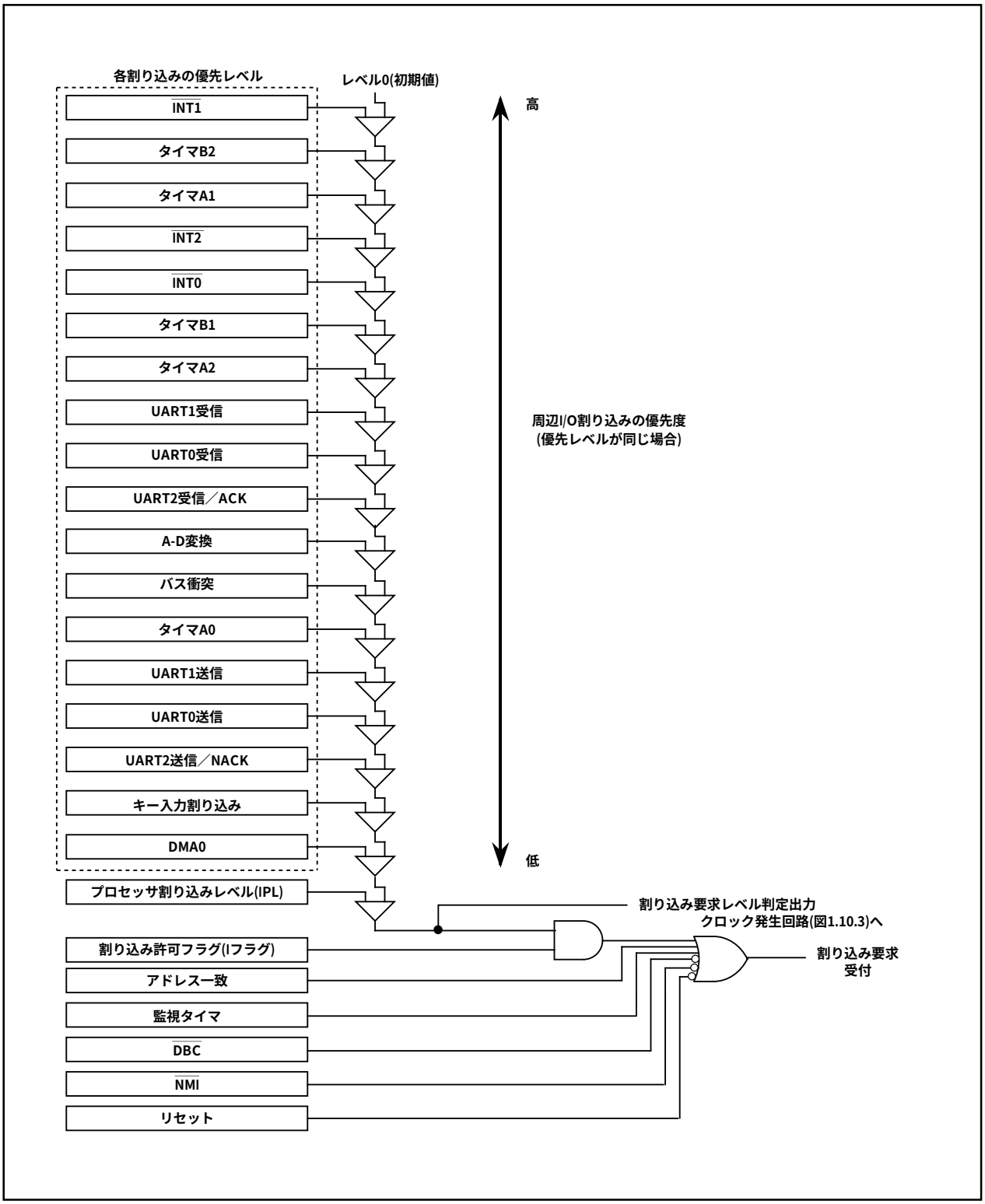


図1.11.9.　割り込み優先レベル判定回路

INT割り込み

INT0～INT2は外部入力による割り込みです。極性を極性切り替えビットで選択できます。

外部割り込み入力は、割り込み要因選択レジスタ(035F16番地)のINTi割り込み極性切り替えビットを“1”に設定することによって、立ち上がり、立ち下がりの両方のエッジで割り込みを発生することができます。両エッジを選択する場合は、対応する割り込み制御レジスタの極性切り替えビットは立ち下がりエッジ(“0”)に設定してください。

図1.11.10に割り込み要因選択レジスタの構成を示します。

割り込み要因選択レジスタ

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
0	0	0	0	0			

シンボル	アドレス	リセット時
IFSR	035F16番地	0016

ビットシンボル	ビット名	機　能	R	W
IFSR0	INT0割り込み極性切替ビット	0 : 片エッジ 1 : 両エッジ	○	○
IFSR1	INT1割り込み極性切替ビット	0 : 片エッジ 1 : 両エッジ	○	○
IFSR2	INT2割り込み極性切替ビット	0 : 片エッジ 1 : 両エッジ	○	○
予約ビット		必ず“0”を設定してください	○	○
予約ビット		必ず“0”を設定してください	○	○
予約ビット		必ず“0”を設定してください	○	○
予約ビット		必ず“0”を設定してください	○	○
予約ビット		必ず“0”を設定してください	○	○

図1.11.10. 割り込み要因選択レジスタの構成

NMI割り込み

P85/NMI端子の入力が“H”レベルから“L”レベルに変化したとき、NMI割り込みが発生します。NMI割り込みは、ノンマスカブル外部割り込みです。また、この端子の値はポートP85レジスタ(03F016番地のビット5)で読み込むことができます。

この端子は通常のポート入力として使用することはできません。

キー入力割り込み

P104～P107のうち、方向レジスタを入力に設定している端子のいずれかに立ち下がりエッジを入力すると、キー入力割り込み要求が発生します。キー入力割り込みは、ウエイトモードやストップモードを解除するキーオンウエイクアップの機能としても使用することができます。ただし、キー入力割り込みを使用する場合、P104～P107をA-D入力ポートとして使用しないでください。キー入力割り込みのブロック図を図1.11.11に示します。なお、入力禁止の処理を行っていない端子のいずれかに“L”が入力されていると、他の端子の入力は割り込みとして検知されません。

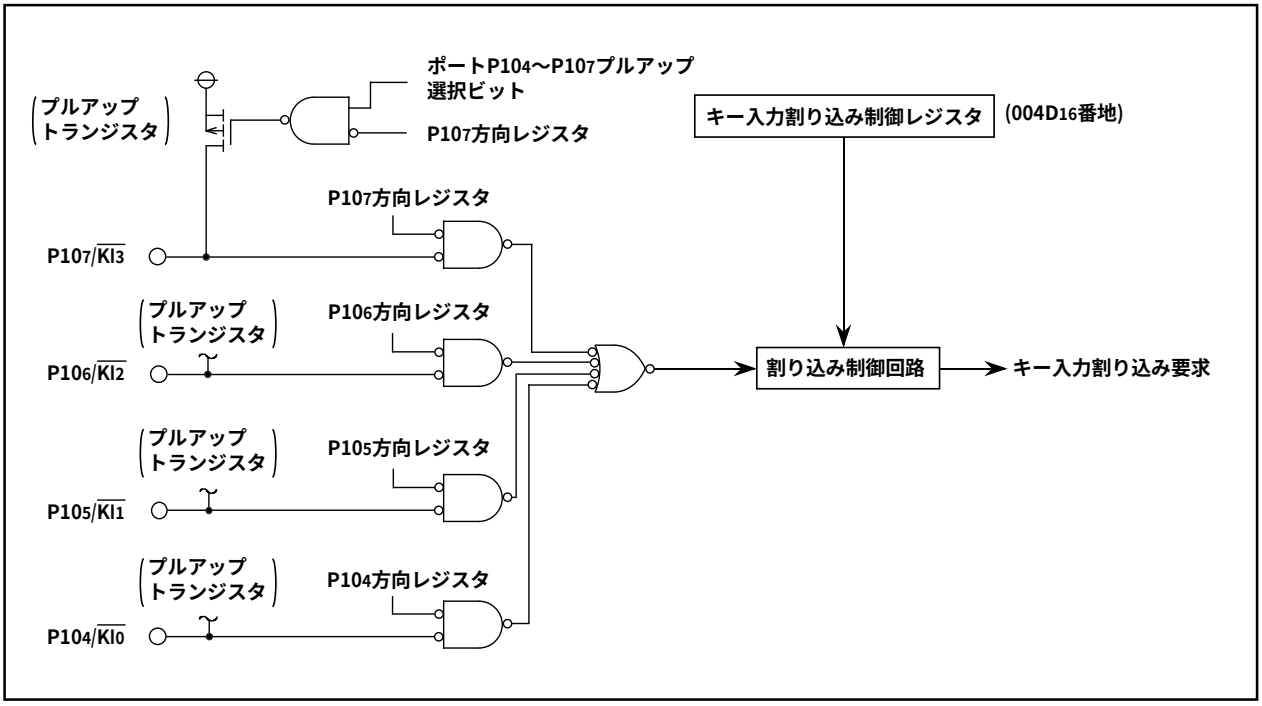


図1.11.11. キー入力割り込みのブロック図

アドレス一致割り込み

アドレス一致割り込みレジスタで示される番地の命令を実行する直前に、アドレス一致割り込みが発生します。アドレス一致割り込みは2カ所に設定することができ、割り込みの禁止／許可は、アドレス一致割り込み許可ビットで選択することができます。アドレス一致割り込みは、割り込み許可フラグ(Iフラグ)やプロセッサ割り込み優先レベル(IPL)の影響は受けません。また、アドレス一致割り込みは、実行している命令により退避するプログラムカウンタ(PC)の値が異なります。

なお、外部データバス幅を8ビットで使用している場合、外部に対してアドレス一致割り込みは使用できません。

図1.11.12にアドレス一致割り込み関連レジスタの構成を示します。

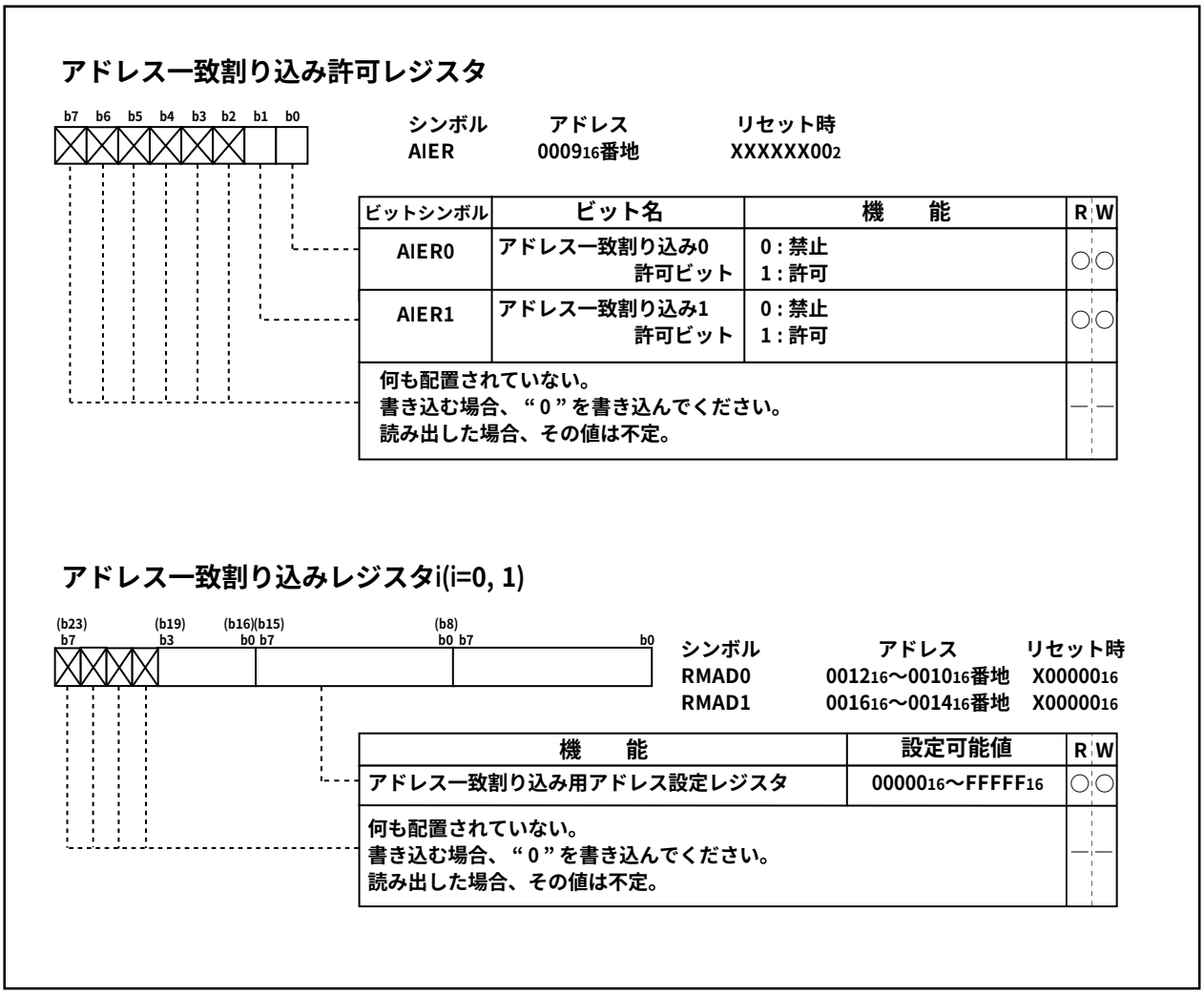


図1.11.12. アドレス一致割り込み関連レジスタの構成

割り込みの注意事項

(1) 00000$_{16}$番地の読み出し

●マスカブル割り込みが発生した場合、割り込みシーケンスの中でCPUは、割り込み情報(割り込み番号と割り込み要求レベル)を0000$_{16}$番地から読み出します。
それを読み出すことでその割り込みが発生する割り込み要求ビットが“0”になります。
ソフトウエアにより0000$_{16}$番地を読み出しても、許可されている最も優先度の高い割り込み要因の要求ビットが“0”になります。そのため、割り込みがキャンセルされたり、予期しない割り込みが発生することがあります。
したがって、ソフトウエアで0000$_{16}$番地に対して読み出しを行わないでください。

(2) スタックポインタの設定

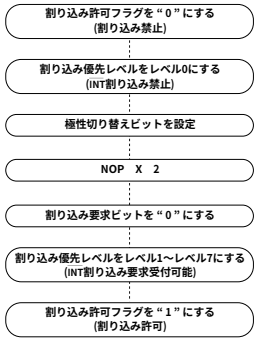
●リセット直後スタックポインタの値は、“000$_{16}$”に初期化されています。そのため、スタックポインタに値を設定する前に割り込みを受け付けると、暴走の要因となります。割り込みを受け付ける前に、必ずスタックポインタに値を設定してください。
特に、$\overline{\text{NMI}}$割り込みを使用する場合は、プログラムの先頭でスタックポインタを初期化してください。リセット直後の先頭の1命令に限り、$\overline{\text{NMI}}$割り込みを含むすべての割り込みが禁止されています。

(3) $\overline{\text{NMI}}$割り込み

●$\overline{\text{NMI}}$割り込みは、割り込みを禁止することができません。したがって、使用しない場合は、$\overline{\text{NMI}}$端子に抵抗を介してVCCに接続(プルアップ)してください。必ず端子処理は必要です。
●$\overline{\text{NMI}}$端子は、入力専用のP8$_5$と兼用になっています。P8レジスタの内容を読み込むことで端子の値を読み込むことができます。この端子の読み込みは、$\overline{\text{NMI}}$割り込みが入ったときの端子のレベル確定用にだけ使用してください。
●$\overline{\text{NMI}}$端子入力が“L”の状態でストップモードに移行しないでください。$\overline{\text{NMI}}$端子入力が“L”の状態では、CM10が“0”に固定されるため、ストップモードに移行されません。
●$\overline{\text{NMI}}$端子入力が“L”の状態でウエイトモードに移行しないでください。$\overline{\text{NMI}}$端子入力が“L”の状態では、CPUは停止しますが発振が停止しないため、パワーセーブされません。この場合、その後の割り込みによって正常に復帰します。
●$\overline{\text{NMI}}$端子に入力する信号には、CPUの動作クロックの2クロック＋300ns以上の“L”レベル幅、“H”レベル幅が必要です。

(4) 外部割り込み

●$\overline{\text{INT}}_0$～$\overline{\text{INT}}_2$端子に入力する信号には、CPUの動作クロックに関係なく250ns以上の“L”レベル幅、または“H”レベル幅が必要です。
●$\overline{\text{INT}}_0$～$\overline{\text{INT}}_2$端子の極性を切り替えるときに割り込み要求ビットが“1”になることがあります。切り替えを行った後、割り込み要求ビットを“0”にしてください。$\overline{\text{INT}}$割り込み発生要因の切り替え手順例を図1.11.13に示します。



注1. 上記の設定は個々に実行してください。2つ以上の設定を同時に（1命令で）実行しないでください。

図1.11.13. INT割り込み発生要因の切り替え

(5) 監視タイマ割り込み

●監視タイマ割り込み発生後は、必ず監視タイマスタートレジスタへ書き込みを行い、監視タイマを初期化してください。

(6) 割り込み制御レジスタの変更

●割り込み制御レジスタの変更は、そのレジスタに対応する割り込み要求が発生しない箇所で行ってください。割り込み要求が発生する可能性がある場合は、割り込みを禁止状態にしてから変更してください。参考プログラム例を以下に示します。

＜割り込み制御レジスタを書き換えるプログラム例＞

例１：

```
INT_SWITCH1：
  FCLR     I              ；割り込み禁止状態
  AND.B    #00H，0055H    ；タイマA0割り込み制御レジスタに“ 00₁₆ ”を設定
  NOP                     ；HOLD機能を使用する場合はNOP命令が４個必要
  NOP
  FSET     I              ；割り込み許可状態
```

例２：

```
INT_SWITCH2：
  FCLR     I              ；割り込み禁止状態
  AND.B    #00H，0055H    ；タイマA0割り込み制御レジスタに“ 00₁₆ ”を設定
  MOV.W    MEM，R0        ；ダミーリード
  FSET     I              ；割り込み許可状態
```

例３：

```
INT_SWITCH3：
  PUSHC    FLG
  FCLR     I              ；割り込み禁止状態
  AND.B    #00H，0055H    ；タイマA0割り込み制御レジスタに“ 00₁₆ ”を設定
  POPC     FLG            ；割り込み許可状態
```

例１と例２でFSET I命令の前にNOP命令２個（HOLD機能使用時は４個）やダミーリードがあるのは、命令キューの影響により割り込み許可フラグ(Iフラグ)のセットが割り込み制御レジスタの書き込みより先に実行されるのを防ぐためです。

割り込み禁止状態で割り込み制御レジスタを変更するときには、使用する命令に注意が必要です。

割り込み要求ビット以外のビットの変更
命令の実行中に、そのレジスタに対応する割り込みが発生した場合、割り込み要求ビットがセットされずに割り込みが無視されることがあります。このことが問題になる場合は、以下の命令を使用してレジスタの変更を行ってください。
対象となる命令…AND、OR、BCLR、BSET

割り込み要求ビットの変更
割り込み制御レジスタの割り込み要求ビットをクリアするとき、使用する命令によっては割り込み要求ビットがクリアされないことがあります。このことが問題になる場合は、以下の命令を使用してレジスタの変更を行ってください。
対象となる命令…MOV

監視タイマ

監視タイマは、プログラムの暴走を検知する機能を持ちます。したがって、システムの信頼性向上のために、監視タイマを使用されることをお奨めします。監視タイマは15ビットのカウンタを持ち、BCLKをプリスケーラで分周したクロックをダウンカウントします。監視タイマがアンダフローすると、監視タイマ割り込みを発生させるか、リセットをかけるかを選択できます。監視タイマ割り込みを選択した場合、監視タイマ割り込み発生後は、必ず監視タイマスタートレジスタへ書き込みを行い、監視タイマを初期化してください。プロセッサモードレジスタ1(0005_{16}番地)のビット2(PM12)が“0”で監視タイマ割り込みが、PM12が“1”でリセットが選択されます。PM12には“1”のみ書き込み可能です。一度リセット(PM12＝“1”)を設定すると監視タイマ割り込みには変更できません。

BCLKにX_{IN}を選択している場合、監視タイマ制御レジスタ($000F_{16}$番地)のビット7でプリスケーラの分周比に16分周か128分周を選択することができます。BCLKにX_{CIN}を選択している場合、監視タイマ制御レジスタ($000F_{16}$番地)のビット7に関係なくプリスケーラの分周比は2分周になります。したがって、監視タイマの周期は下記のように計算できます。ただし、監視タイマの周期には、プリスケーラによる誤差が生じます。

BCLKにX_{IN}を選択している場合

$$監視タイマの周期 = \frac{プリスケーラの分周比(16または128)\times監視タイマのカウント値(32768)}{BCLK}$$

BCLKにX_{CIN}を選択している場合

$$監視タイマの周期 = \frac{プリスケーラの分周比(2)\times監視タイマのカウント値(32768)}{BCLK}$$

例えば、BCLKが16MHzで、プリスケーラの分周比として16分周を選択している場合、監視タイマの周期は、約32.8msとなります。

監視タイマは、監視タイマスタートレジスタ($000E_{16}$番地)への書き込み動作時、および監視タイマ割り込み要求発生時に初期化されます。プリスケーラは、リセット時だけ初期化されます。なお、リセット解除後は監視タイマおよびプリスケーラは停止しており、監視タイマスタートレジスタ($000E_{16}$番地)への書き込み動作によりカウントを開始します。

ストップモード時、ウエイトモード時、およびホールド状態時、監視タイマおよびプリスケーラは停止し、解除すると保持された値からカウントします。

また、PM12はリセット時だけ初期化されます。リセット解除後は監視タイマ割り込みが選択されます。

図1.12.1に監視タイマのブロック図、図1.12.2に監視タイマ関連レジスタの構成を示します。

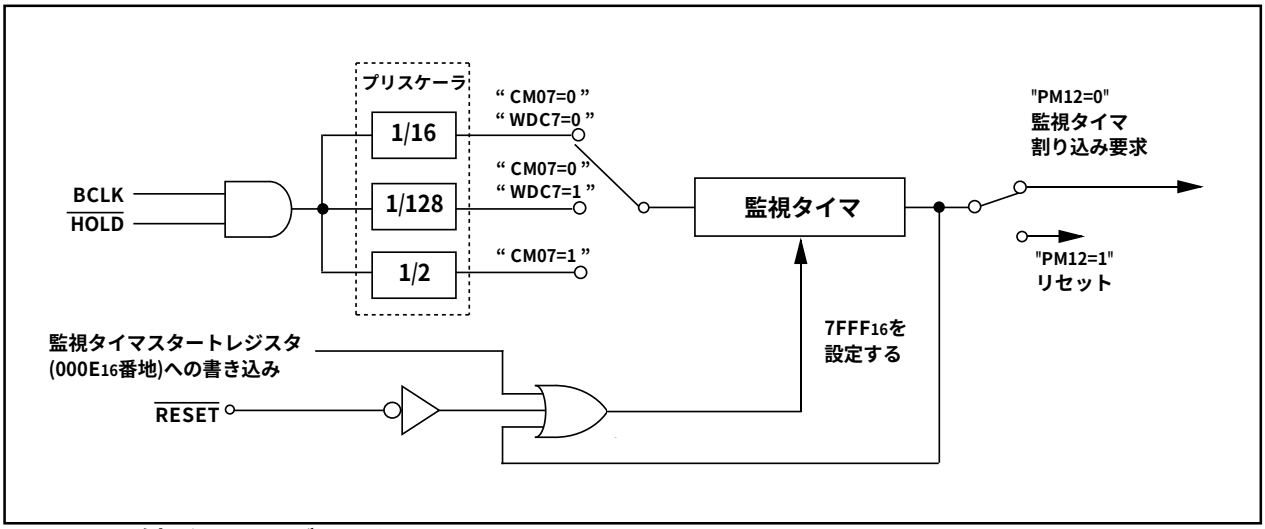


図1.12.1. 監視タイマのブロック図

監視タイマ制御レジスタ

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	0	0					

シンボル	アドレス	リセット時
WDC	000F16番地	000XXXXX2

ビットシンボル	ビット名	機　　能	R	W
監視タイマの上位ビット			○	×
予約ビット		必ず“0”を設定してください	○	○
予約ビット		必ず“0”を設定してください	○	○
WDC7	プリスケーラ選択ビット	0：16分周 1：128分周	○	○

監視タイマスタートレジスタ

b7	b0

シンボル	アドレス	リセット時
WDTS	000E16番地	不定

機　　能	R	W
このレジスタに対する書き込み命令で、監視タイマは初期化されスタートする。 監視タイマの初期値は、書き込む値にかかわらず“7FFF16”が設定される。	×	○

図1.12.2. 監視タイマ関連レジスタ

DMAC

CPUを使わずにデータを転送することのできるDMAC(ダイレクト・メモリ・アクセス・コントローラ)を1チャネル内蔵しています。DMACはCPUと同じデータバスを使用しています。DMACのバス使用権はCPUよりも高く、サイクルスチール方式を採用しています。そのため、DMA転送の要求信号が発生してから1ワード(16ビット)、または1バイト(8ビット)のデータ転送を完了するまでの動作を高速に行える特長があります。図1.13.1にDMACのブロック図を、表1.13.1にDMACの仕様を、図1.13.2～図1.13.4にDMACで使用するレジスタの構成を示します。

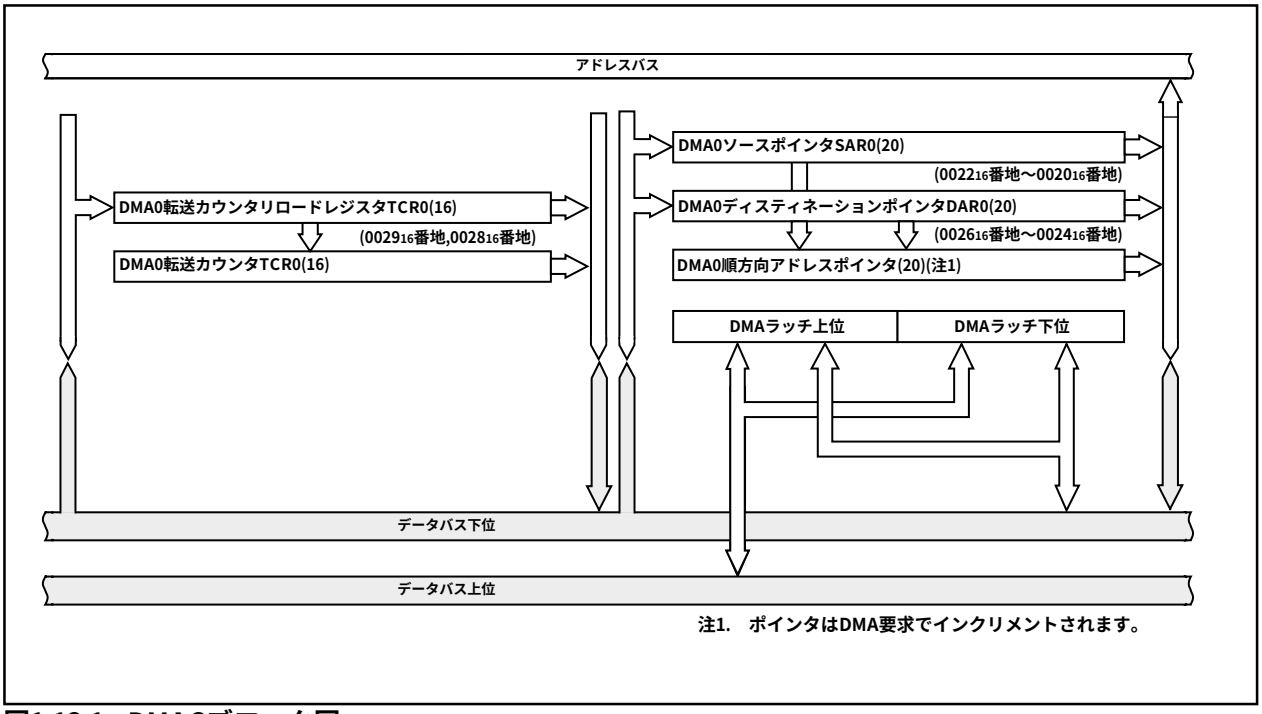


図1.13.1. DMACブロック図

DMA転送の要求信号には、ソフトウエアDMA要求ビットへの書き込み信号や、割り込み要求信号を流用しています。しかし、DMA転送は、割り込み許可フラグ(Iフラグ)や割り込み優先レベルなどの影響を受けません。また、各割り込みに影響を与えません。

DMACがアクティブ状態(DMA許可ビットが“1”の状態)であれば、DMA転送の要求信号が発生するごとに、データ転送が開始されます。ただし、DMA転送サイクルよりもDMA転送の要求信号が発生するサイクルが早い場合、転送要求回数と転送回数が一致しない場合があります。詳細についてはDMA要求ビットの説明を参照してください。

表1.13.1. DMAC仕様

項　　目	仕　　様
チャネル数	1チャネル(サイクルスチール方式)
転送空間	●1Mバイトの任意の空間から固定アドレス ●固定アドレスから1Mバイトの任意の空間 ●固定アドレスから固定アドレス (ただしDMA関係のレジスタはアクセス不可:002016番地～003F16番地)
最大転送バイト数	128Kバイト(16ビット転送時)、64Kバイト(8ビット転送時)
DMA要求要因(注1)	$\overline{\text{INT0}}$端子の立ち下がりエッジまたは両エッジ タイマA0～タイマA2割り込み要求 タイマB1、B2割り込み要求 UART0送信および受信割り込み要求 UART1送信割り込み要求 UART2送信および受信割り込み要求 A-D変換割り込み要求 ソフトウエアトリガ
転送単位	8ビット/16ビット
転送アドレス方向	順方向/固定(転送元、転送先同時に順方向の指定はできません)
転送モード	●単転送モード 転送カウンタがアンダフローした後、DMA許可ビットが“0”になりDMACはアクティブでない状態になる ●リピート転送モード 転送カウンタがアンダフローした後、転送カウンタリロードレジスタの値が転送カウンタにリロードされる DMA許可ビットに“0”を書き込まない限りDMACはアクティブ状態
DMA割り込み要求発生タイミング	転送カウンタのアンダフロー時
アクティブ状態	DMA許可ビットが“1”のとき DMACがアクティブ状態のとき、DMA転送の要求信号が発生するごとにデータ転送が開始される
アクティブでない状態	●DMA許可ビットが“0”のとき
順方向アドレスポインタ、転送カウンタのリロードタイミング	アクティブ状態にした直後のデータ転送開始時に、ソースポインタ、またはディスティネーションポインタインタのうち、順方向に指定された方のポインタの値を順方向アドレスポインタへ、転送カウンタリロードレジスタの値を転送カウンタへリロード
レジスタの書き込み	順方向に指定したレジスタは、常時書き込み可能 固定に指定したレジスタは、DMA許可ビットが“0”のとき書き込み可能
レジスタの読み出し	常時読み出し可能 ただし、DMA許可ビットが“1”の場合、順方向に指定したレジスタを読み出すと、順方向アドレスポインタの値が読み出される

注1.　DMA転送は、各割り込みに影響を与えません。また、DMA転送は割り込み許可フラグ(Iフラグ)や割り込み優先レベルなどの影響を受けません。

DMA0要因選択レジスタ

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0

シンボル	アドレス	リセット時
DM0SL	03B8$_{16}$番地	00$_{16}$

ビットシンボル	ビット名	機　　能	R	W
DSEL0	DMA要求要因選択ビット	b6 b5 b4 b3 b2 b1 b0 (DMS) 0 0 0 0 0 0 0 : $\overline{\text{INT0}}$端子の立ち下がりエッジ 0 0 0 0 0 0 1 : ソフトウエアトリガ 0 0 0 0 0 1 0 : タイマA0 0 0 0 0 0 1 1 : タイマA1 0 0 0 0 1 0 0 : タイマA2 0 0 0 0 1 0 1 : 設定しないでください 0 0 0 0 1 1 0 : 設定しないでください 0 0 0 0 1 1 1 : 設定しないでください 0 0 0 1 0 0 0 : タイマB1 0 0 0 1 0 0 1 : タイマB2 0 0 0 1 0 1 0 : UART0送信 0 0 0 1 0 1 1 : UART0受信 0 0 0 1 1 0 0 : UART2送信 0 0 0 1 1 0 1 : UART2受信 0 0 0 1 1 1 0 : A-D変換 0 0 0 1 1 1 1 : UART1送信 1 0 0 0 1 10 : $\overline{\text{INT0}}$端子の両エッジ 上記以外の設定はしないでください	○	○
DSEL1			○	○
DSEL2			○	○
DSEL3			○	○
DSEL4			○	○
DSEL5			○	○
DMS			○	○
DSR	ソフトウエアDMA要求ビット	ソフトウエアトリガ選択時は、このビットに“1”を書き込むことでDMA要求が発生する (読み出した場合“0”)	○	○

図1.13.2. DMACレジスタ構成(1)

DMA0制御レジスタ

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b1
╳	╳						

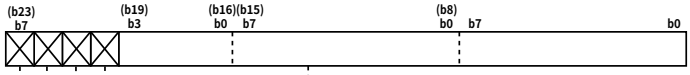
シンボル	アドレス	リセット時
DM0CON	002C16番地	00000X002

ビットシンボル	ビット名	機　　能	R	W
DMBIT	転送単位ビット数選択ビット	0 : 16ビット 1 : 8ビット	○	○
DMASL	リピート転送モード選択ビット	0 : 単転送 1 : リピート転送	○	○
DMAS	DMA要求ビット(注1)	0 : 要求なし 1 : 要求あり	○	○ (注2)
DMAE	DMA許可ビット	0 : 禁止 1 : 許可	○	○
DSD	転送元アドレス方向選択ビット(注3)	0 : 固定 1 : 順方向	○	○
DAD	転送先アドレス方向選択ビット(注3)	0 : 固定 1 : 順方向	○	○
何も配置されていない。 書き込む場合、“0”を書き込んでください。読み出した場合、その値は“0”。			—	—

注1.　DMA要求をクリアするには“0”を書き込むことで行えます。
注2.　“0”だけ書き込み可。
注3.　転送元アドレス方向選択ビット、転送先アドレス方向選択ビットは、同時に“1”にしないでください。

図1.13.3. DMACレジスタ構成(2)

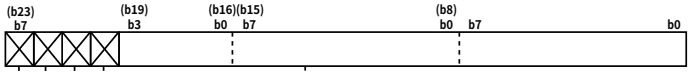
DMA0ソースポインタ



シンボル	アドレス	リセット時
SAR0	0022_{16}番地 ～0020_{16}番地	不定

機　　能	転送番地指定領域	R	W
●ソースポインタ 転送元アドレスを格納	00000_{16}～$FFFFF_{16}$	○	○
何も配置されていない。 書き込む場合、“0”を書き込んでください。読み出した場合、その値は“0”。		—	—

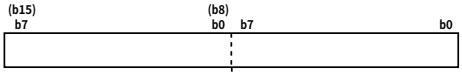
DMA0ディスティネーションポインタ



シンボル	アドレス	リセット時
DAR0	0026_{16}番地 ～ 0024_{16}番地	不定

機　　能	転送番地指定領域	R	W
●ディスティネーションポインタ 転送先アドレスを格納	00000_{16}～$FFFFF_{16}$	○	○
何も配置されていない。 書き込む場合、“0”を書き込んでください。読み出した場合、その値は“0”。		—	—

DMA0転送カウンタ



シンボル	アドレス	リセット時
TCR0	0029_{16}番地, 0028_{16}番地	不定

機　　能	転送回数指定	R	W
●転送カウンタ 転送回数-1の値を設定してください	0000_{16}～$FFFF_{16}$	○	○

図1.13.4. DMACレジスタ構成(3)

(1) 転送サイクル

転送サイクルは、メモリまたはSFR領域に対するデータの読み出し(ソースリード)のバスサイクル、および書き込み(ディスティネーションライト)のバスサイクルで構成しています。読み出し、および書き込みのバスサイクル回数は、転送元 / 転送先アドレスの影響を受けます。また、メモリ拡張モードとマイクロプロセッサモード時は、BYTE端子のレベルの影響も受けます。さらに、ソフトウエアウエイトの影響により、バスサイクル自体が長くなります。

■転送元/転送先アドレスの影響

転送単位、データバス幅が共に16ビット幅で、転送元/転送先アドレスが奇数番地から始まる場合、ソースリードサイクル/ディスティネーションライトサイクルは、偶数番地から始まる場合に比べて1バスサイクル増えます。

■BYTE端子の影響

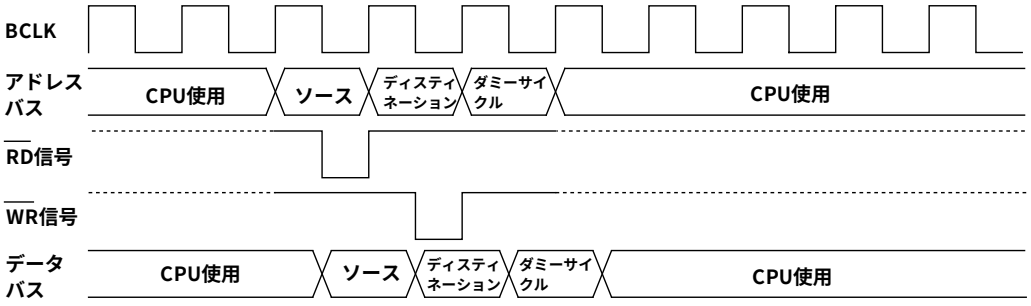
メモリ拡張モードとマイクロプロセッサモード時は、8ビットデータバス(BYTE端子が“H”)で16ビットのデータ転送を行う場合、8ビットのデータを2回転送します。そのためバスサイクルは、データの読み出しに2バスサイクル、書き込みに2バスサイクル必要とします。また、DMACが内部領域(内部ROM、内部RAM、SFR)をアクセスする場合においても、CPUが内部領域をアクセスする場合と異なり、BYTE端子で選択したデータ幅でアクセスします。

■ソフトウエアウエイトの影響

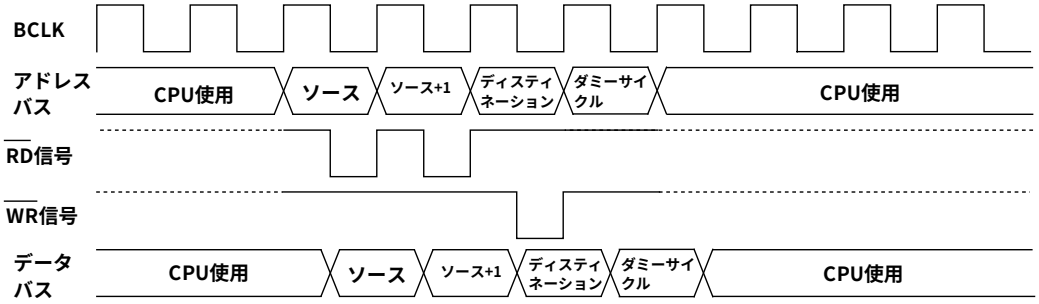
ソフトウエアウエイトが入るメモリ領域およびSFR領域をアクセスする場合、ソフトウエアウエイトの分だけ1バスサイクルに要するBCLKを基準としたサイクル数が増えます。

図1.13.5にソースリードについての転送サイクル例を示します。この図では、ディスティネーションライトサイクルを便宜上1サイクルとし、ソースリードについての条件別サイクル数を示しています。実際は、ソースリードサイクルと同様にディスティネーションライトサイクルも各条件の影響を受け、転送サイクルが変化します。転送サイクルを計算する場合、ディスティネーションライトサイクルおよびソースリードサイクルに各条件を適用してください。例えば②の転送単位が16ビット幅でソースアドレスが奇数番地の場合では、ソースリードサイクルとディスティネーションライトサイクルは、それぞれに2バスサイクル必要となります。

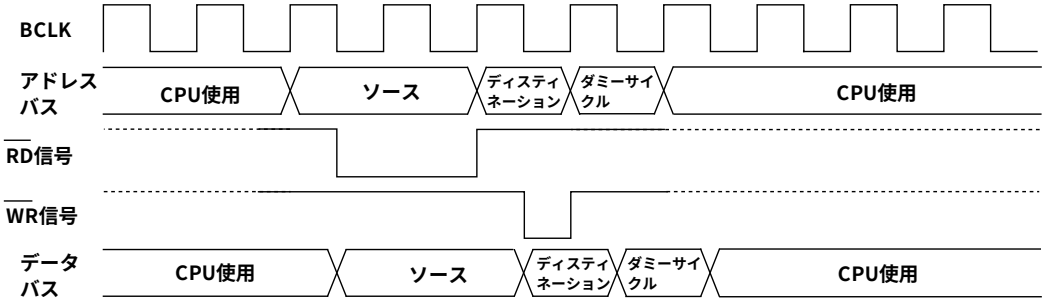
① 転送単位が8ビット幅のとき
転送単位が16ビット幅でソースアドレスが偶数番地のとき



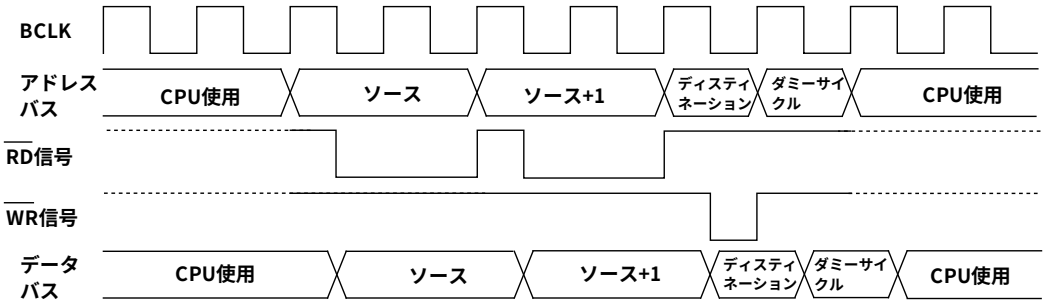
② 転送単位が16ビット幅でソースアドレスが奇数番地のとき
転送単位が16ビット幅で8ビットバス使用時(この場合、ディスティネーションサイクルも2バスサイクルになります)



③ ①の条件でソースリードに1ウエイトが入ったとき



④ ②の条件でソースリードに1ウエイトが入ったとき
(転送単位が16ビットバス幅で8ビットバス使用時は、ディスティネーションサイクルは2バスサイクルになります)



注1. ディスティネーションについても各条件で、ソースと同じタイミングの変化があります。

図1.13.5. ソースリードについての転送サイクル例

(2) DMACの転送サイクル数

DMACの転送サイクル数は下記のとおり計算することができます。

転送の読み出しアドレス、書き込みアドレスは偶数、奇数のいずれの組み合わせも可能です。表1.13.2にDMAC転送サイクル数を示します。

1転送単位の転送サイクル数 = 読み出しサイクル数 × j + 書き込みサイクル数 × k

表1.13.2. DMAC転送サイクル数

転送単位	バス幅	アクセス番地	シングルチップモード		メモリ拡張モード プロセッサモード	
			読み出し サイクル数	書き込み サイクル数	読み出し サイクル数	書き込み サイクル数
8ビット転送 (DMBIT=“1”)	16ビット (BYTE=“L”)	偶　数	1	1	1	1
		奇　数	1	1	1	1
	8ビット (BYTE=“H”)	偶　数	—	—	1	1
		奇　数	—	—	1	1
16ビット転送 (DMBIT=“0”)	16ビット (BYTE=“L”)	偶　数	1	1	1	1
		奇　数	2	2	2	2
	8ビット (BYTE=“H”)	偶　数	—	—	2	2
		奇　数	—	—	2	2

係数j,k

内部領域			外部領域		
内部ROM/RAM ウエイトなし	内部ROM/RAM ウエイトあり	SFR領域	セパレート ウエイトなし	セパレート ウエイトあり	マルチプレクス バス
1	2	2	1	2	3

DMA許可ビット

DMA許可ビットを“1”にすることにより、DMACはアクティブ状態となります。アクティブ状態にした直後のデータ転送開始時に、DMACは以下の動作を行います。

(1) ソースポインタまたはディスティネーションポインタのうち順方向に指定された方のポインタの値を順方向アドレスポインタへリロードする

(2) 転送カウンタリロードレジスタの値を転送カウンタへリロードする

したがって、アクティブ状態においてDMA許可ビットに“1”を上書きすると、上記動作を行いますので、DMACはその時点で再度、初期状態から動作します。

DMA要求ビット

DMACは、DMA要求要因からあらかじめ選択した要因をトリガとして、DMA転送の要求信号を発生させることができます。

DMA要求要因には、以下の要因があります。

・内蔵している周辺機能の割り込み要求信号を流用した要因、およびプログラムによるソフトウエアDMA要因(内部要因)

・外部の割り込み信号からの入力を利用した外部要因

DMA要求要因の選択については、DMA0要因選択レジスタの説明を参照してください。

DMA要求ビットは、DMACの状態に関係なく(DMA許可ビットが“1”でも“0”でも関係なく)、DMA転送の要求信号が発生すると“1”になります。また、データ転送が開始される直前に“0”になります。さらに、プログラムで“0”にすることはできますが“1”にすることはできません。

DMA要求要因選択ビットを変更することでDMA要求ビットは“1”になる場合があります。したがって、DMA要求要因選択ビットを変更した後は、必ずDMA要求ビットを“0”にしてください。

DMACがアクティブ状態であれば、すぐにデータ転送が開始されるので、プログラムでDMA要求ビットを読み出しても、ほとんどの場合“0”が読み出されます。DMACがアクティブ状態であることを判断するには、DMA許可ビットを読み出してください。

次に、DMA要求ビットが変化するタイミングについて説明します。

(1) 内部要因

ソフトウエアトリガによるDMA要求要因を除いて、内部要因によってDMA要求ビットが“1”になるタイミングは、各要因の割り込み制御レジスタの割り込み要求ビットが“1”になるタイミングと同じです。

内部要因によってDMA要求ビットが“0”になるタイミングは、データ転送が開始される直前です。

(2) 外部要因

$\overline{\text{INT0}}$端子からの入力エッジによって発生するDMA要求要因です。DMA要求要因選択ビットで外部要因として$\overline{\text{INT0}}$端子を選択すると、これらの端子からの入力がDMA転送の要求信号になります。

外部要因選択時にDMA要求ビットが“1”になるタイミングは、DMA要求要因選択ビットで指定された機能に応じた信号エッジに同期します(例えば、$\overline{\text{INT0}}$端子の入力信号の立ち下がりエッジに同期します)。

外部要因選択時にDMA要求ビットが“0”になるタイミングは、内部要因選択時と同様に、データ転送が開始される直前です。

タイマ

タイマは、16ビットタイマを5本内蔵しています。5本のタイマは、持っている機能によってタイマA(3本)とタイマB(2本)の2種類に分類できます。すべてのタイマは、それぞれ独立して動作します。図1.14.1にタイマA、図1.14.2にタイマBの構成を示します。

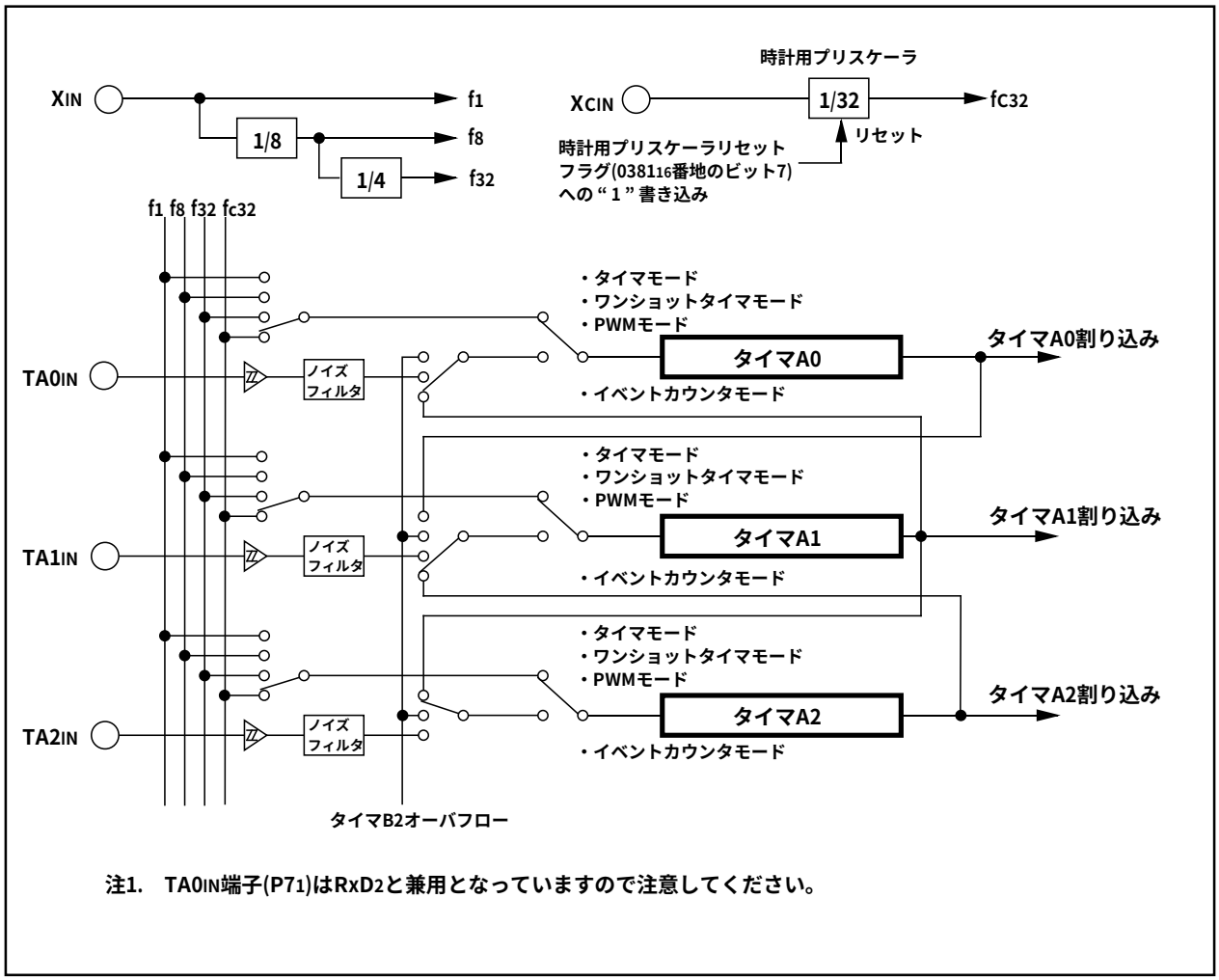


図1.14.1. タイマA構成

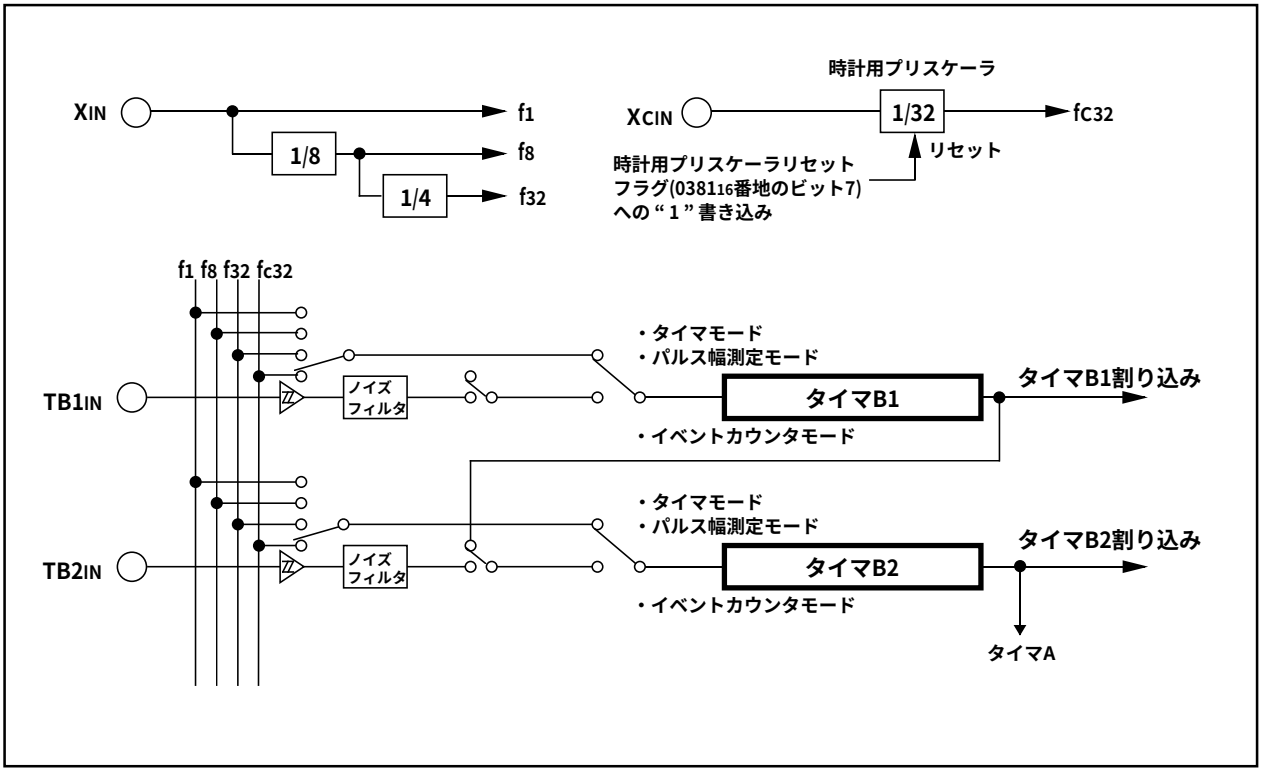


図1.14.2. タイマB構成

タイマA

図1.14.3にタイマAのブロック図を、図1.14.4～図1.14.6にタイマA関連のレジスタを示します。

タイマAは、次の4種類のモードを持ち、イベントカウンタモードを除いて、タイマA0～A2は同一の機能を持ちます。各モードは、タイマAiモードレジスタ(i=0～2)のビット0とビット1で選択できます。

- ・タイマモード　　内部カウントソースをカウントするモード
- ・イベントカウンタモード　　外部からのパルスまたはタイマのオーバフローをカウントするモード
- ・ワンショットタイマモード　　カウント値が“ 0000_{16} ”になるとカウントが止まるモード
- ・パルス幅変調モード　　任意のパルス幅を連続して出力するモード

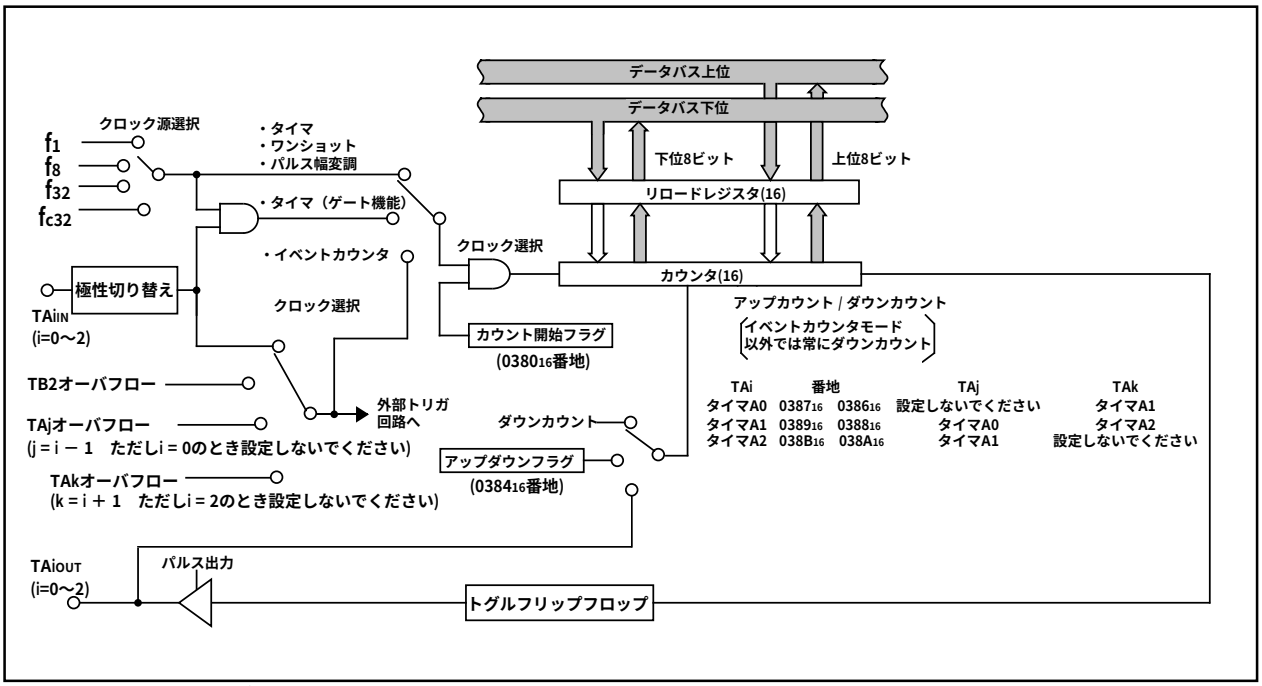


図1.14.3. タイマAブロック図

タイマAiモードレジスタ

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0

シンボル	アドレス	リセット時
TAiMR(i=0～2)	0396_{16}～0398_{16}番地	00_{16}

ビットシンボル	ビット名	機　　能	R	W
TMOD0	動作モード選択ビット	b1 b0 0 0 : タイマモード 0 1 : イベントカウンタモード 1 0 : ワンショットタイマモード 1 1 : パルス幅変調(PWM)モード	○	○
TMOD1			○	○
MR0	動作モードによって機能が異なる		○	○
MR1			○	○
MR2			○	○
MR3			○	○
TCK0	カウントソース選択ビット (動作モードによって機能が異なる)		○	○
TCK1			○	○

図1.14.4. タイマA関連レジスタ(1)

タイマAiレジスタ(注1)

(b15) b7 … (b8) b0 b7 … b0

シンボル	アドレス	リセット時
TA0	0387_{16},0386_{16}番地	不定
TA1	0389_{16},0388_{16}番地	不定
TA2	$038B_{16}$,$038A_{16}$番地	不定

機　　能	設定可能値	R	W
●タイマモード 内部カウントソースをカウント	0000_{16}～$FFFF_{16}$	○	○
●イベントカウンタモード 外部からの入力パルスまたはタイマのオーバフローをカウント	0000_{16}～$FFFF_{16}$	○	○
●ワンショットタイマモード ワンショット幅をカウント	0000_{16}～$FFFF_{16}$ (注2、注4)	×	○
●パルス幅変調モード(16ビットPWM) 16ビットパルス幅変調器として動作	0000_{16}～$FFFE_{16}$ (注3、注4)	×	○
●パルス幅変調モード(8ビットPWM) タイマの下位アドレスは、8ビットプリスケーラ、上位アドレスは8ビットパルス幅変調器として動作	00_{16}～FE_{16}(上位アドレス) 00_{16}～FF_{16}(下位アドレス) (注3、注4)	×	○

注1.　読み出し、および書き込みは16ビット単位で行ってください。
注2.　タイマAiレジスタに“0000_{16}”を設定した場合、カウンタは動作せず、タイマAi割り込み要求は発生しません。また、パルス出力ありを選択した場合、TAiOUT端子からパルスは出力しません。
注3.　タイマAiレジスタに“0000_{16}”を設定した場合、パルス幅変調器は動作せず、TAiOUT端子の出力レベルは“L”のままで、タイマAi割り込み要求も発生しません。また、8ビットパルス幅変調器として動作しているとき、タイマAiレジスタの上位8ビットに“00_{16}”を設定した場合も同様です。
注4.　このレジスタへの書き込みにはMOV命令を使用してください。

カウント開始フラグ

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
		0	0	0			

シンボル	アドレス	リセット時
TABSR	0380_{16}番地	00_{16}

ビットシンボル	ビット名	機　　能	R	W
TA0S	タイマA0カウント開始フラグ	0：カウント停止 1：カウント開始	○	○
TA1S	タイマA1カウント開始フラグ		○	○
TA2S	タイマA2カウント開始フラグ		○	○
予約ビット		必ず“0”を設定してください	○	○
TB1S	タイマB1カウント開始フラグ	0：カウント停止 1：カウント開始	○	○
TB2S	タイマB2カウント開始フラグ		○	○

アップダウンフラグ(注1)

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
0	0		0	0			

シンボル	アドレス	リセット時
UDF	0384_{16}番地	00_{16}

ビットシンボル	ビット名	機　　能	R	W
TA0UD	タイマA0アップダウンフラグ	0：ダウンカウント 1：アップカウント アップ／ダウン切り替え要因にアップダウンフラグの内容を選択すると有効になる	○	○
TA1UD	タイマA1アップダウンフラグ		○	○
TA2UD	タイマA2アップダウンフラグ		○	○
予約ビット		必ず“0”を設定してください	○	○
TA2P	タイマA2二相パルス信号処理機能選択ビット	0：二相パルス信号処理機能禁止 1：二相パルス信号処理機能許可(注2) 二相パルス信号処理機能を使用しない場合は、“0”を設定してください	×	○
予約ビット		必ず“0”を設定してください	×	○

注1.　このレジスタへの書き込みにはMOV命令を使用してください。
注2.　TAiIN、TAiOUTに対応するポート方向レジスタは“0”にしてください。

図1.14.5.　タイマA関連レジスタ(2)

ワンショット開始フラグ

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
		X	0	0			

シンボル	アドレス	リセット時
ONSF	0382$_{16}$番地	00X00000$_2$

ビットシンボル	ビット名	機　　能	R	W
TA0OS	タイマA0ワンショット開始フラグ	1 : タイマスタート 読み出し時の値は“ 0 ”	○	○
TA1OS	タイマA1ワンショット開始フラグ		○	○
TA2OS	タイマA2ワンショット開始フラグ		○	○
予約ビット		必ず“ 0 ”を設定してください	○	○
何も配置されていない。 書き込む場合、“ 0 ”を書き込んでください。読み出した場合、その値は不定。			—	—
TA0TGL	タイマA0イベント／ トリガ選択ビット	b7 b6 0 0 : TA0$_{IN}$端子の入力を選択(注1) 0 1 : TB2のオーバフローを選択 1 0 : 設定しないでください 1 1 : TA1のオーバフローを選択	○	○
TA0TGH			○	○

注1.　対応するポート方向レジスタは“ 0 ”にしてください。

トリガ選択レジスタ

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
0	0	0	0				

シンボル	アドレス	リセット時
TRGSR	0383$_{16}$番地	00$_{16}$

ビットシンボル	ビット名	機　　能	R	W
TA1TGL	タイマA1イベント／ トリガ選択ビット	b1 b0 0 0 : TA1$_{IN}$端子の入力を選択(注1) 0 1 : TB2のオーバフローを選択 1 0 : TA0のオーバフローを選択 1 1 : TA2のオーバフローを選択	○	○
TA1TGH			○	○
TA2TGL	タイマA2イベント／ トリガ選択ビット	b3 b2 0 0 : TA2$_{IN}$端子の入力を選択(注1) 0 1 : TB2のオーバフローを選択 1 0 : TA1のオーバフローを選択 1 1 : 設定しないでください	○	○
TA2TGH			○	○
予約ビット		必ず“ 0 ”を設定してください	○	○

注1.　対応するポート方向レジスタは“ 0 ”にしてください。

時計用プリスケーラリセットフラグ

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
X	X	X	X	X	X	X	X

シンボル	アドレス	リセット時
CPSRF	0381$_{16}$番地	0XXXXXXX$_2$

ビットシンボル	ビット名	機　　能	R	W
何も配置されていない。 書き込む場合、“ 0 ”を書き込んでください。読み出した場合、その値は不定。			—	—
CPSR	時計用プリスケーラ リセットフラグ	0 : 何もおこらない 1 : プリスケーラリセット (読み出し時は“ 0 ”)	○	○

図1.14.6.　タイマA関連レジスタ(3)

(1) タイマモード

内部で生成されたカウントソースをカウントするモードです(表1.14.1)。図1.14.7にタイマモード時のタイマAiモードレジスタの構成を示します。

表1.14.1. タイマモードの仕様

項　　目	仕　　様
カウントソース	f1, f8, f32, fC32
カウント動作	●ダウンカウント ●アンダフロー時リロードレジスタの内容をリロードしてカウントを継続
分周比	1/(n+1)　n:設定値
カウント開始条件	カウント開始フラグへの“1”書き込み
カウント停止条件	カウント開始フラグへの“0”書き込み
割り込み要求発生タイミング	アンダフロー時
TAiIN端子機能	プログラマブル入出力ポート、またはゲート入力
TAiOUT端子機能	プログラマブル入出力ポート、またはパルス出力
タイマの読み出し	タイマAiレジスタを読み出すと、カウント値が読み出される
タイマの書き込み	●カウント停止中 タイマAiレジスタに書き込むと、リロードレジスタおよびカウンタの両方に書き込まれる ●カウント中 タイマAiレジスタに書き込むとリロードレジスタにだけ書き込まれる(次のリロード時に転送)
選択機能	●ゲート機能 TAiIN端子の入力信号によってカウント開始、停止が可能 ●パルス出力機能 アンダフローするごとにTAiOUT端子の極性が反転

タイマAiモードレジスタ

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
		0				0	0

シンボル	アドレス	リセット時
TAiMR(i=0～2)	039_{16}～039_{16}番地	00_{16}

ビットシンボル	ビット名	機　　能	R	W
TMOD0	動作モード選択ビット	b1 b0 0 0 : タイマモード	○	○
TMOD1			○	○
MR0	パルス出力機能選択ビット	0 : パルス出力なし (TAiOUT端子は通常のポート端子) 1 : パルス出力あり(注1) (TAiOUT端子はパルス出力端子)	○	○
MR1	ゲート機能選択ビット	b4 b3 0 X(注2): ゲート機能なし (TAiIN端子は通常のポート端子) 1 0 : TAiIN端子が“L”レベルの期間だけカウントを行う(注3) 1 1 : TAiIN端子が“H”レベルの期間だけカウントを行う(注3)	○	○
MR2			○	○
MR3	0 : タイマモードでは“0”を設定してください。		○	○
TCK0	カウントソース選択ビット	b7 b6 0 0 : f1 0 1 : f8 1 0 : f32 1 1 : fC32	○	○
TCK1			○	○

注1. 対応するポートレジスタおよびポート方向レジスタの設定値は無効です。
注2. “0”または“1”いずれでも可。
注3. 対応するポート方向レジスタは“0”にしてください。

図1.14.7. タイマモード時のタイマAiモードレジスタの構成

(2) イベントカウンタモード

外部信号または内部タイマのオーバフローをカウントするモードです。タイマA0、A1は、一相の外部信号をカウントできます。タイマA2は、一相の外部信号と二相の外部信号をカウントできます。一相の外部信号をカウントする場合の仕様を表1.14.2に、タイマAiモードレジスタの構成を図1.14.8に示します。二相の外部信号をカウントする場合の仕様を表1.14.3に、タイマAiモードレジスタの構成を図1.14.9に示します。

表1.14.2. イベントカウンタモードの仕様(二相パルス信号処理を使用しない場合)

項　　目	仕　　様
カウントソース	●TAiIN端子に入力された外部信号(ソフトウエアにて有効エッジを選択可能) ●TB2のオーバフロー、TAjのオーバフロー
カウント動作	●アップカウントまたはダウンカウントを、外部信号またはソフトウエアで選択可能 ●オーバフローまたはアンダフロー時は、リロードレジスタの内容をリロードしてカウントを継続(注1)
分周比	●アップカウント時　1/(FFFF16－n+1) ●ダウンカウント時　1/(n+1)　　n:設定値
カウント開始条件	カウント開始フラグへの“1”書き込み
カウント停止条件	カウント開始フラグへの“0”書き込み
割り込み要求発生タイミング	オーバフロー時、およびアンダフロー時
TAiIN端子機能	プログラマブル入出力ポート、またはカウントソース入力
TAiOUT端子機能	プログラマブル入出力ポート、パルス出力、またはアップカウント/ダウンカウント切り替え入力
タイマの読み出し	タイマAiレジスタを読み出すと、カウント値が読み出される
タイマの書き込み	●カウント停止中 タイマAiレジスタに書き込むと、リロードレジスタおよびカウンタの両方に書き込まれる ●カウント中 タイマAiレジスタに書き込むとリロードレジスタにだけ書き込まれる(次のリロード時に転送)
選択機能	●フリーランカウント機能 オーバフローまたはアンダフローが発生してもリロードレジスタからリロードしない ●パルス出力機能 オーバフローまたはアンダフローするごとにTAiOUT端子の極性が反転

注1.　フリーラン機能選択時は除きます。

タイマAiモードレジスタ
(二相パルス信号処理を使用しない場合)

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
		0				0	1

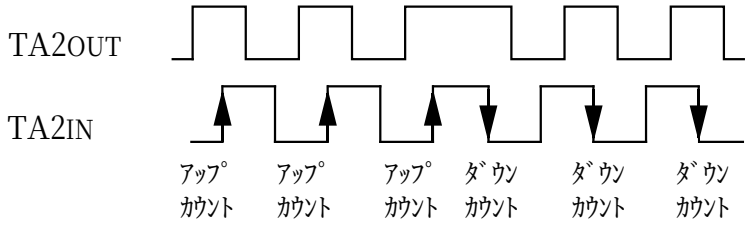
シンボル	アドレス	リセット時
TAiMR(i=0～2)	0396₁₆～0398₁₆番地	00₁₆

ビットシンボル	ビット名	機　　能	R	W
TMOD0	動作モード選択ビット	b1 b0 0 1 : イベントカウンタモード(注1)	○	○
TMOD1			○	○
MR0	パルス出力機能選択ビット	0 : パルス出力なし (TAiOUT端子は通常のポート端子) 1 : パルス出力あり(注2) (TAiOUT端子はパルス出力端子)	○	○
MR1	カウント極性選択ビット(注3)	0 : 外部信号の立ち下がりをカウント 1 : 外部信号の立ち上がりをカウント	○	○
MR2	アップ／ダウン切り替え要因選択ビット	0 : アップダウンフラグの内容 1 : TAiOUT端子の入力信号(注4)	○	○
MR3	0 : イベントカウンタモードでは“0”を設定してください。		○	○
TCK0	カウントタイプ選択ビット	0 :リロードタイプ 1 :フリーランタイプ	○	○
TCK1	二相パルス信号処理を使用しない場合は無効。 “0”または“1”いずれでも可。		○	○

注1.　イベントカウンタモードではカウントソースをイベント/トリガ選択ビット(0382₁₆,0383₁₆番地)で選択。
注2.　対応するポートレジスタおよびポート方向レジスタの設定値は無効です。
注3.　外部信号カウント時だけ有効。
注4.　TAiOUT端子の入力信号が“L”のときダウンカウントを、“H”のときアップカウントを行います。
対応するポート方向レジスタは“0”にしてください。

図1.14.8. イベントカウンタモード時のタイマAiモードレジスタの構成

表1.14.3. イベントカウンタモードの仕様(タイマA2で二相パルス信号処理を使用する場合)

項　　目	仕　　様
カウントソース	●TA2IN、TA2OUT端子に入力された二相パルス信号
カウント動作	●アップカウントまたはダウンカウントを、二相パルス信号によって切り替え可 ●オーバフローまたはアンダフロー時は、リロードレジスタの内容をリロードしてカウントを継続(注1)
分周比	●アップカウント時　1/(FFFF16－n+1) ●ダウンカウント時　1/(n+1)　　n:設定値
カウント開始条件	カウント開始フラグへの“1”書き込み
カウント停止条件	カウント開始フラグへの“0”書き込み
割り込み要求発生タイミング	オーバフロー時、およびアンダフロー時
TA2IN端子機能	二相パルス入力（TA2IN端子に対応するポート方向レジスタは“0”にする）
TA2OUT端子機能	二相パルス入力（TA2OUT端子に対応するポート方向レジスタは“0”にする）
タイマの読み出し	タイマA2レジスタを読み出すと、カウント値が読み出される
タイマの書き込み	●カウント停止中 タイマA2レジスタに書き込むと、リロードレジスタおよびカウンタの両方に書き込まれる ●カウント中 タイマA2レジスタに書き込むとリロードレジスタにだけ書き込まれる(次のリロード時に転送)
選択機能	●通常処理動作(タイマA2) TA2OUT端子の入力信号が“H”レベルの期間TA2IN端子の立ち上がりをアップカウントし立ち下がりをダウンカウントします。 

注1.　フリーラン機能選択時は除く。

タイマAiモードレジスタ
(二相パルス信号処理を使用する場合)

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
0		0	1	0	0	0	1

シンボル	アドレス	リセット時
TA2MR	0398_{16}番地	00_{16}

ビットシンボル	ビット名	機　　能	R	W
TMOD0	動作モード選択ビット	b1 b0 0 1 : イベントカウンタモード	○	○
TMOD1			○	○
MR0	0 : 二相パルス信号処理を使用する場合、“ 0 ”を設定してください。		○	○
MR1	0 : 二相パルス信号処理を使用する場合、“ 0 ”を設定してください。		○	○
MR2	1 : 二相パルス信号処理を使用する場合、“ 1 ”を設定してください。		○	○
MR3	0 : 二相パルス信号処理を使用する場合、“ 0 ”を設定してください。		○	○
TCK0	カウント動作タイプ選択ビット	0 : リロードタイプ 1 : フリーランタイプ	○	○
TCK1	0 : 二相パルス信号処理を使用する場合、“ 0 ”を設定してください。(注１)		○	○

注1.　二相パルス信号処理を行う場合、二相パルス信号機能選択ビット(0384_{16}番地)は“ 1 ”に、イベント/トリガ選択ビット(0383_{16}番地)は“ 00 ”にしてください。

図1.14.9. イベントカウンタモード時のタイマAiモードレジスタの構成

(3) ワンショットタイマモード

1度だけタイマを動作するモードです(表1.14.4)。トリガが発生するとその時点から任意の期間、タイマが動作します。図1.14.10にワンショットタイマモード時のタイマAiモードレジスタの構成を示します。

表1.14.4. ワンショットタイマモードの仕様

項　　目	仕　　様
カウントソース	f_1, f_8, f_{32}, f_{C32}
カウント動作	●ダウンカウント ●カウントの値が0000_{16}になるタイミングでリロードしてカウントを停止 ●カウント中にトリガが発生した場合、リロードしてカウントを継続
分周比	1/n n:設定値
カウント開始条件	●外部トリガ入力 ●タイマのオーバフロー ●ワンショット開始フラグへの“1”書き込み
カウント停止条件	●カウントの値が0000_{16}になりリロードした後 ●カウント開始フラグへの“0”書き込み
割り込み要求発生タイミング	カウントの値が0000_{16}になるタイミング
$TAiIN$端子機能	プログラマブル入出力ポート、またはトリガ入力
$TAiOUT$端子機能	プログラマブル入出力ポート、またはパルス出力
タイマの読み出し	タイマAiレジスタを読み出すと、不定値が読み出される
タイマの書き込み	●カウント停止中 タイマAiレジスタに書き込むと、リロードレジスタおよびカウンタの両方に書き込まれる ●カウント中 タイマAiレジスタに書き込むとリロードレジスタにだけ書き込まれる(次のリロード時に転送)

タイマAiモードレジスタ

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
		0				1	0

シンボル	アドレス	リセット時
TAiMR(i=0～2)	039_{16}～039_{16}番地	00_{16}

ビットシンボル	ビット名	機　　能	R	W
TMOD0	動作モード選択ビット	b1 b0 1 0 : ワンショットタイマモード	○	○
TMOD1			○	○
MR0	パルス出力機能選択ビット	0 : パルス出力なし (TAiOUT端子は通常のポート端子) 1 : パルス出力あり(注1) (TAiOUT端子はパルス出力端子)	○	○
MR1	外部トリガ選択ビット(注2)	0 : TAiIN端子の入力信号の立ち下がり(注3) 1 : TAiIN端子の入力信号の立ち上がり(注3)	○	○
MR2	トリガ選択ビット	0 : ワンショット開始フラグが有効 1 : イベント/トリガ選択ビットにより選択	○	○
MR3	0 : ワンショットタイマモードでは“0”を設定してください。		○	○
TCK0	カウントソース選択ビット	b7 b6 0 0 : f_1 0 1 : f_8 1 0 : f_{32} 1 1 : f_{C32}	○	○
TCK1			○	○

注1. 対応するポートレジスタおよびポート方向レジスタの設定値は無効です。
注2. イベント/トリガ選択ビット(0382_{16},0383_{16}番地)でTAiIN端子を選択したときだけ有効。
タイマのオーバフロー選択時は、“1”でも“0”でも可。
注3. 対応するポート方向レジスタは“0”にしてください。

図1.14.10. ワンショットタイマモード時のタイマAiモードレジスタの構成

(4) パルス幅変調モード

任意の幅のパルスを連続して出力するモードです(表1.14.5)。このモードでは、カウンタは、16ビットパルス幅変調器、8ビットパルス幅変調器のいずれかのパルス幅変調器として動作します。図1.14.11にパルス幅変調モード時のタイマAiモードレジスタの構成、図1.14.12に16ビットパルス幅変調器の動作例、および図1.14.13に8ビットパルス幅変調器の動作例を示します。

表1.14.5. パルス幅変調モードの仕様

項　目	仕　様
カウントソース	f1, f8, f32, fC32
カウント動作	●ダウンカウント(8ビット、または16ビットパルス幅変調器として動作) ●PWMパルスの立ち上がりでリロードしてカウントを継続 ●カウント中にトリガが発生した場合、カウントに影響しない
16ビットPWM	●“H”レベル幅　n / fi　n:設定値 ●周期　$(2^{16}-1)$ / fi固定
8ビットPWM	●“H”レベル幅　n×(m+1) / fi　n:タイマAiレジスタの上位アドレスの設定値 ●周期　$(2^{8}-1)$×(m+1) / fi　m:タイマAiレジスタの下位アドレスの設定値
カウント開始条件	●外部トリガ入力 ●タイマのオーバフロー ●カウント開始フラグへの“1”書き込み
カウント停止条件	●カウント開始フラグへの“0”書き込み
割り込み要求発生タイミング	PWMパルスの立ち下がり時
TAiIN端子機能	プログラマブル入出力ポート、またはトリガ入力
TAiOUT端子機能	パルス出力
タイマの読み出し	タイマAiレジスタを読み出すと、不定値が読み出される
タイマの書き込み	●カウント停止中 タイマAiレジスタに書き込むと、リロードレジスタおよびカウンタの両方に書き込まれる ●カウント中 タイマAiレジスタに書き込むとリロードレジスタにだけ書き込まれる(次のリロード時に転送)

タイマAiモードレジスタ

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
					1	1	1

シンボル	アドレス	リセット時
TAiMR(i=0～2)	039_{16}～039_{16}番地	00_{16}

ビットシンボル	ビット名	機　能	R	W
TMOD0	動作モード選択ビット	b1 b0 1 1 : PWMモード	○	○
TMOD1			○	○
MR0	1 : PWMモードでは“1”を設定してください。		○	○
MR1	外部トリガ選択ビット(注1)	0 : TAiIN端子の入力信号の立ち下がり(注2) 1 : TAiIN端子の入力信号の立ち上がり(注2)	○	○
MR2	トリガ選択ビット	0 : カウント開始フラグが有効 1 : イベント/トリガ選択ビットにより選択	○	○
MR3	16/8ビットPWMモード選択ビット	0 : 16ビットパルス幅変調器として動作 1 : 8ビットパルス幅変調器として動作	○	○
TCK0	カウントソース選択ビット	b7 b6 0 0 : f1 0 1 : f8 1 0 : f32 1 1 : fC32	○	○
TCK1			○	○

注1. イベント/トリガ選択ビット(038_{2}16,038_{3}16番地)でTAiIN端子を選択したときだけ有効。
タイマのオーバフロー選択時は、“1”でも“0”でも可。
注2. 対応するポート方向レジスタは“0”にしてください。

図1.14.11. パルス幅変調モード時のタイマAiモードレジスタの構成

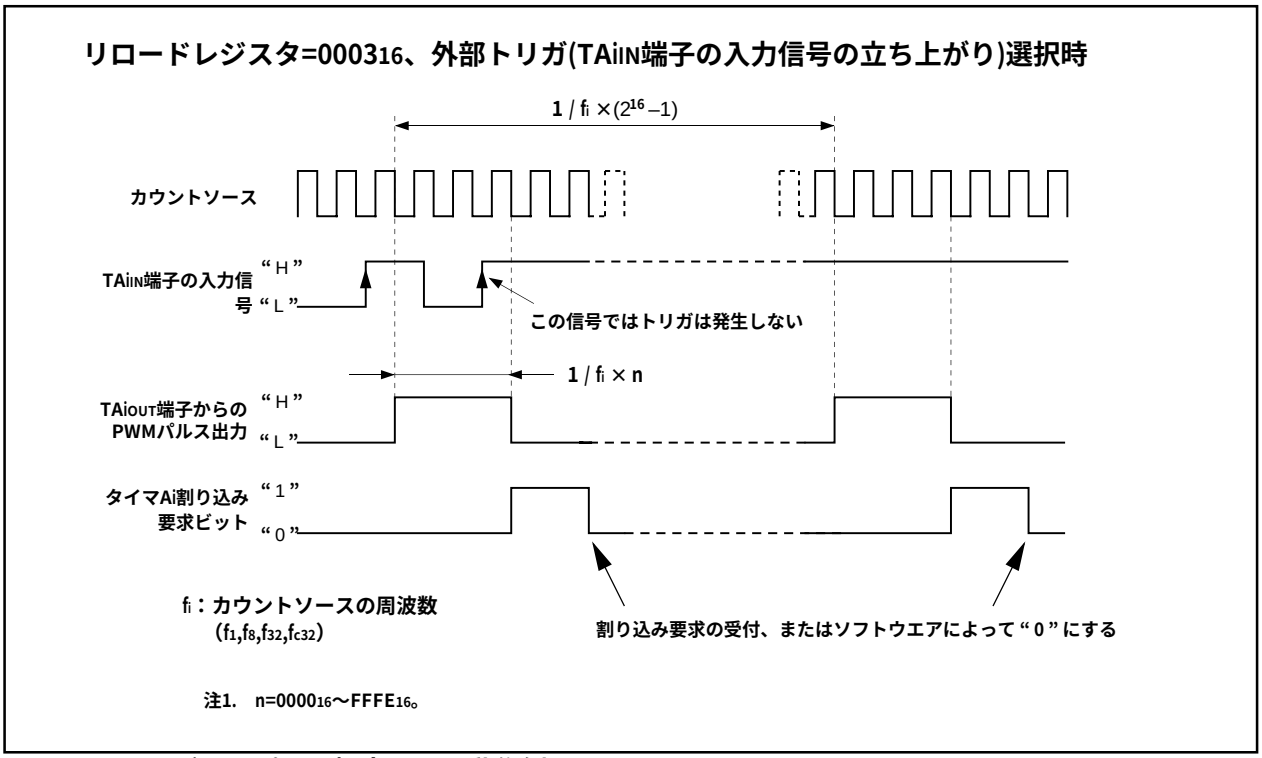


図1.14.12. 16ビットパルス幅変調器の動作例

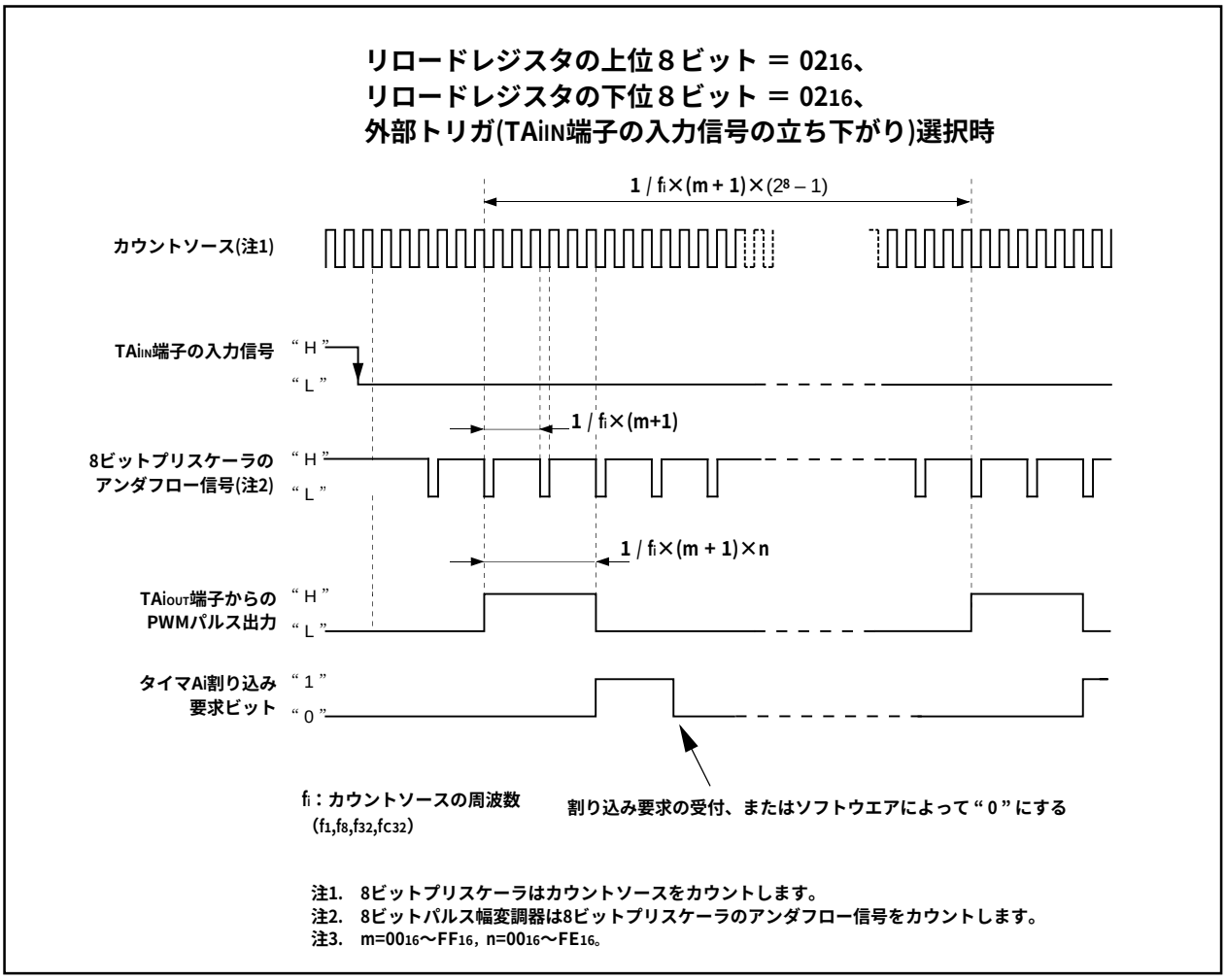


図1.14.13. 8ビットパルス幅変調器の動作例

タイマB

図1.14.14にタイマBのブロック図を、図1.14.15、図1.14.16にタイマB関連レジスタを示します。

タイマBは、次の3種類のモードを持ちます。各モードは、タイマBiモードレジスタ(i=1 , 2)のビット0とビット1で選択できます。

・タイマモード　　内部カウントソースをカウントするモード
・イベントカウンタモード　　外部からのパルスまたはタイマのオーバフローをカウントするモード
・パルス周期測定／パルス幅測定モード　　外部パルスの周期またはパルス幅を測定するモード

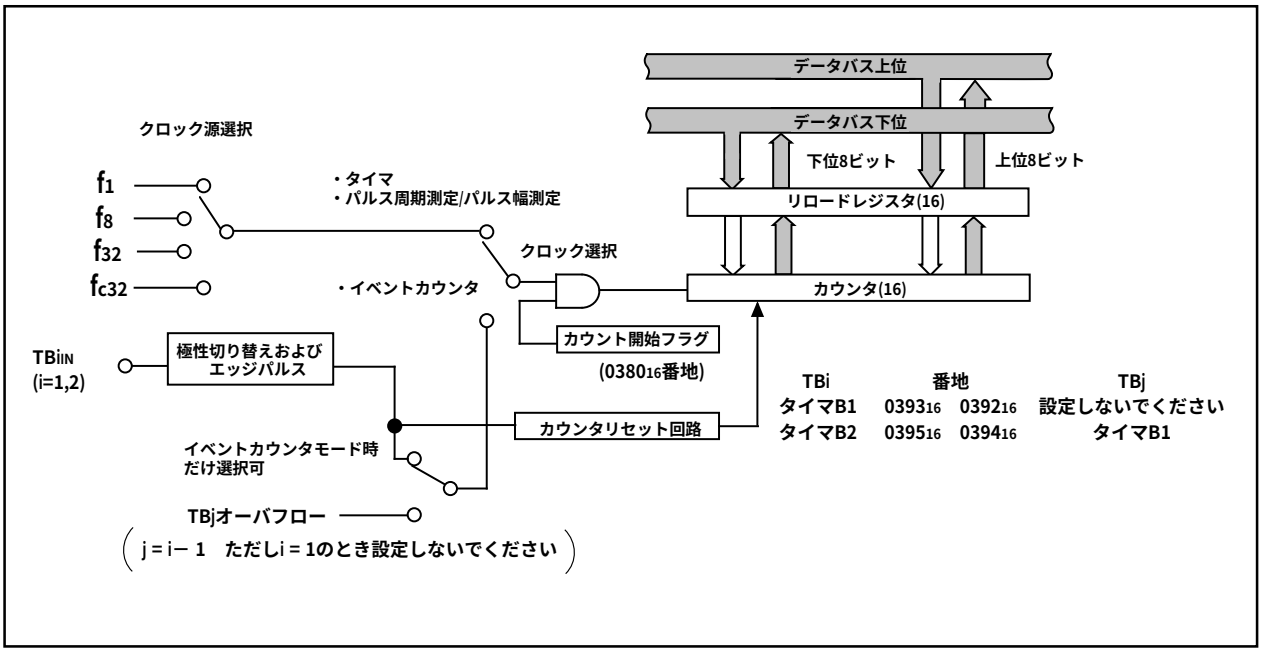
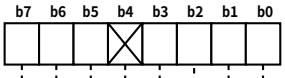


図1.14.14. タイマBブロック図

タイマBiモードレジスタ

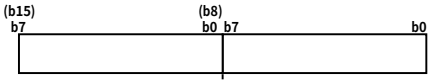


シンボル	アドレス	リセット時
TBiMR(i=1,2)	039C₁₆,039D₁₆番地	00XX0000₂

ビットシンボル	ビット名	機　能	R	W
TMOD0	動作モード選択ビット	b1 b0 0 0 : タイマモード 0 1 : イベントカウンタモード 1 0 : パルス周期測定／パルス幅測定モード 1 1 : 設定しないでください	○	○
TMOD1			○	○
MR0	動作モードによって機能が異なる		○	○
MR1			○	○
何も配置されていない。書き込む場合、“0”を書き込んでください。読み出した場合、その値は不定。			×	×
MR3	動作モードによって機能が異なる		○	×
TCK0	カウントソース選択ビット（動作モードによって機能が異なる）		○	○
TCK1			○	○

図1.14.15. タイマB関連レジスタ(1)

タイマBiレジスタ(注1)

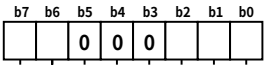


シンボル	アドレス	リセット時
TB1	0393_{16},0392_{16}番地	不定
TB2	0395_{16},0394_{16}番地	不定

機　　能	設定可能値	R	W
●タイマモード タイマの周期をカウント	0000_{16}～$FFFF_{16}$	○	○
●イベントカウンタモード 外部からの入力パルスまたはタイマのオーバフローをカウント	0000_{16}～$FFFF_{16}$	○	○
●パルス周期測定モード／パルス幅測定モード パルス周期、またはパルス幅を測定	——	○	×

注1.　読み出し、および書き込みは16ビット単位で行ってください。

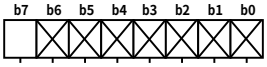
カウント開始フラグ



シンボル	アドレス	リセット時
TABSR	0380_{16}番地	00_{16}

ビットシンボル	ビット名	機　　能	R	W
TA0S	タイマA0カウント開始フラグ	0 : カウント停止 1 : カウント開始	○	○
TA1S	タイマA1カウント開始フラグ		○	○
TA2S	タイマA2カウント開始フラグ		○	○
予約ビット		必ず“0”を設定してください	○	○
TB1S	タイマB1カウント開始フラグ	0 : カウント停止 1 : カウント開始	○	○
TB2S	タイマB2カウント開始フラグ		○	○

時計用プリスケーラリセットフラグ



シンボル	アドレス	リセット時
CPSRF	0381_{16}番地	$0XXXXXXX_2$

ビットシンボル	ビット名	機　　能	R	W
何も配置されていない。 書き込む場合、“0”を書き込んでください。読み出した場合、その値は不定。			—	—
CPSR	時計用プリスケーラ リセットフラグ	0 : 何もおこらない 1 : プリスケーラリセット (読み出し時は“0”)	○	○

図1.14.16.　タイマＢ関連レジスタ(2)

(1) タイマモード

内部で生成されたカウントソースをカウントするモードです(表1.14.6)。図1.14.17にタイマモード時のタイマBiモードレジスタの構成を示します。

表1.14.6. タイマモードの仕様

項　　目	仕　　様
カウントソース	f_1, f_8, f_{32}, f_{C32}
カウント動作	●ダウンカウント ●アンダフロー時リロードレジスタの内容をリロードしてカウントを継続
分周比	1/(n+1)　n:設定値
カウント開始条件	カウント開始フラグへの“1”書き込み
カウント停止条件	カウント開始フラグへの“0”書き込み
割り込み要求発生タイミング	アンダフロー時
TBiIN端子機能	プログラマブル入出力ポート
タイマの読み出し	タイマBiレジスタを読み出すと、カウント値が読み出される
タイマの書き込み	●カウント停止中 タイマBiレジスタに書き込むと、リロードレジスタおよびカウンタの両方に書き込まれる ●カウント中 タイマBiレジスタに書き込むとリロードレジスタにだけ書き込まれる(次のリロード時に転送)

タイマBiモードレジスタ

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
			X			0	0

シンボル	アドレス	リセット時
TBiMR(i=1,2)	$039C_{16}$,$039D_{16}$番地	$00XX0000_2$

ビットシンボル	ビット名	機　　能	R	W
TMOD0	動作モード選択ビット	b1 b0 0 0 : タイマモード	○	○
TMOD1			○	○
MR0	タイマモードでは無効。 “0”または“1”いずれでも可。		○	○
MR1			○	○
何も配置されていない。 書き込む場合、“0”を書き込んでください。読み出した場合、その値は不定。			×	×
MR3	タイマモードでは無効。 書き込む場合、“0”を書き込んでください。 タイマモードで読み出した場合、その値は不定。		○	×
TCK0	カウントソース選択ビット	b7 b6 0 0 : f_1 0 1 : f_8 1 0 : f_{32} 1 1 : f_{C32}	○	○
TCK1			○	○

図1.14.17. タイマモード時のタイマBiモードレジスタの構成

(2) イベントカウンタモード

外部信号または内部タイマのオーバフローをカウントするモードです(表1.14.7)。イベントカウンタモード時のタイマBiモードレジスタの構成を図1.14.18に示します。

表1.14.7. イベントカウンタモードの仕様

項　目	仕　様
カウントソース	●TBiIN端子に入力された外部信号 ●カウントソースの有効エッジには立ち上がり、立ち下がり、または立ち下がりおよび立ち上がりをソフトウエアによって選択可
カウント動作	●ダウンカウント ●アンダフロー時は、リロードレジスタの内容をリロードしてカウントを継続
分周比	●1/(n+1)　n:設定値
カウント開始条件	カウント開始フラグへの“1”書き込み
カウント停止条件	カウント開始フラグへの“0”書き込み
割り込み要求発生タイミング	アンダフロー時
TBiIN端子機能	カウントソース入力
タイマの読み出し	タイマBiレジスタを読み出すと、カウント値が読み出される
タイマの書き込み	●カウント停止中 タイマBiレジスタに書き込むと、リロードレジスタおよびカウンタの両方に書き込まれる ●カウント中 タイマBiレジスタに書き込むとリロードレジスタにだけ書き込まれる(次のリロード時に転送)

タイマBiモードレジスタ

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
			X			0	1

シンボル	アドレス	リセット時
TBiMR(i=1,2)	039C16,039D16番地	00XX00002

ビットシンボル	ビット名	機　能	R	W
TMOD0	動作モード選択ビット	b1 b0 0 1 : イベントカウンタモード	○	○
TMOD1			○	○
MR0	カウント極性選択ビット(注1)	b3 b2 0 0 : 外部信号の立ち下がりをカウント 0 1 : 外部信号の立ち上がりをカウント 1 0 : 外部信号の立ち下がりおよび立ち上がりをカウント 1 1 : 設定しないでください	○	○
MR1			○	○
何も配置されていない。 書き込む場合、“0”を書き込んでください。読み出した場合、その値は不定。			×	×
MR3	イベントカウンタモードでは無効。 書き込む場合、“0”を書き込んでください。 イベントカウンタモードで読み出した場合、その値は不定。		○	×
TCK0	イベントカウンタモードでは無効。 “0”または“1”いずれでも可。		○	○
TCK1	イベントクロック選択	0 : TBiIN端子からの入力(注2) 1 : TBjのオーバフロー (j = i - 1　ただしi = 1のとき設定しないでください。)	○	○

注1. TBiIN端子からの入力をイベントクロックとして選択したときだけ有効。
タイマのオーバフローを選択したときは、“0”でも“1”でも可。
注2. 対応するポート方向レジスタは“0”にしてください。

図1.14.18. イベントカウンタモード時のタイマBiモードレジスタの構成

(3) パルス周期測定／パルス幅測定モード

外部信号のパルス周期、またはパルス幅を測定するモードです(表1.14.8)。図1.14.19にパルス周期測定／パルス幅測定モード時のタイマBiモードレジスタの構成、図1.14.20にパルス周期測定時の動作図、および図1.14.21にパルス幅測定時の動作図を示します。

表1.14.8. パルス周期測定／パルス幅測定モードの仕様

項　　目	仕　　様
カウントソース	f1, f8, f32, fC32
カウント動作	●アップカウント ●測定パルスの有効エッジで、リロードレジスタにカウンタの値を転送し、カウンタの値を“ 0000_{16} ”にしてカウントを継続
カウント開始条件	●カウント開始フラグへの“１”書き込み
カウント停止条件	●カウント開始フラグへの“０”書き込み
割り込み要求発生タイミング	●測定パルスの有効エッジ入力時(注1) ●オーバフロー時(同時にタイマBiオーバフローフラグが“１”になります。タイマBiオーバフローフラグは、カウント開始フラグが“１”の状態でタイマBiがカウントソースを一回カウントした後、タイマBiモードレジスタ書き込みを行うと“０”になります。)
TBiIN端子機能	測定パルス入力
タイマの読み出し	タイマBiレジスタを読み出すと、リロードレジスタの内容(測定結果)が読み出される(注2)
タイマの書き込み	不可

注1.　カウント開始後１回目の有効エッジ入力時は、割り込み要求は発生しません。
注2.　カウント開始後２回目の有効エッジ入力までは、タイマBiレジスタからの読み出し値は不定です。

タイマBiモードレジスタ

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
			X			1	0

シンボル	アドレス	リセット時
TBiMR(i=1,2)	$039C_{16}$,$039D_{16}$番地	$00XX0000_2$

ビットシンボル	ビット名	機　　能	R	W
TMOD0	動作モード選択ビット	b1 b0 １０：パルス周期測定／パルス幅測定モード	○	○
TMOD1			○	○
MR0	測定モード選択ビット	b3 b2 ００：パルス周期測定（測定パルスの立ち下がり－立ち下がり間） ０１：パルス周期測定（測定パルスの立ち上がり－立ち上がり間） １０：パルス幅測定（測定パルスの立ち下がり－立ち上がり間、および立ち上がり－立ち下がり間） １１：設定しないでください	○	○
MR1			○	○
何も配置されていない。書き込む場合、“０”を書き込んでください。読み出した場合、その値は不定。			×	×
MR3	タイマBiオーバフローフラグ(注1)	０：オーバフローなし １：オーバフローあり	○	×
TCK0	カウントソース選択ビット	b7 b6 ００：f1 ０１：f8 １０：f32 １１：fC32	○	○
TCK1			○	○

注1.　リセット時は不定です。タイマBiオーバフローフラグは、カウント開始フラグが“１”の状態で、タイマBiがカウントソースを１回カウントした後、タイマBiモードレジスタに書き込みを行うと“０”になります。このフラグをソフトウエアで“１”にすることはできません。

図1.14.19. パルス周期測定／パルス幅測定モード時のタイマBiモードレジスタの構成

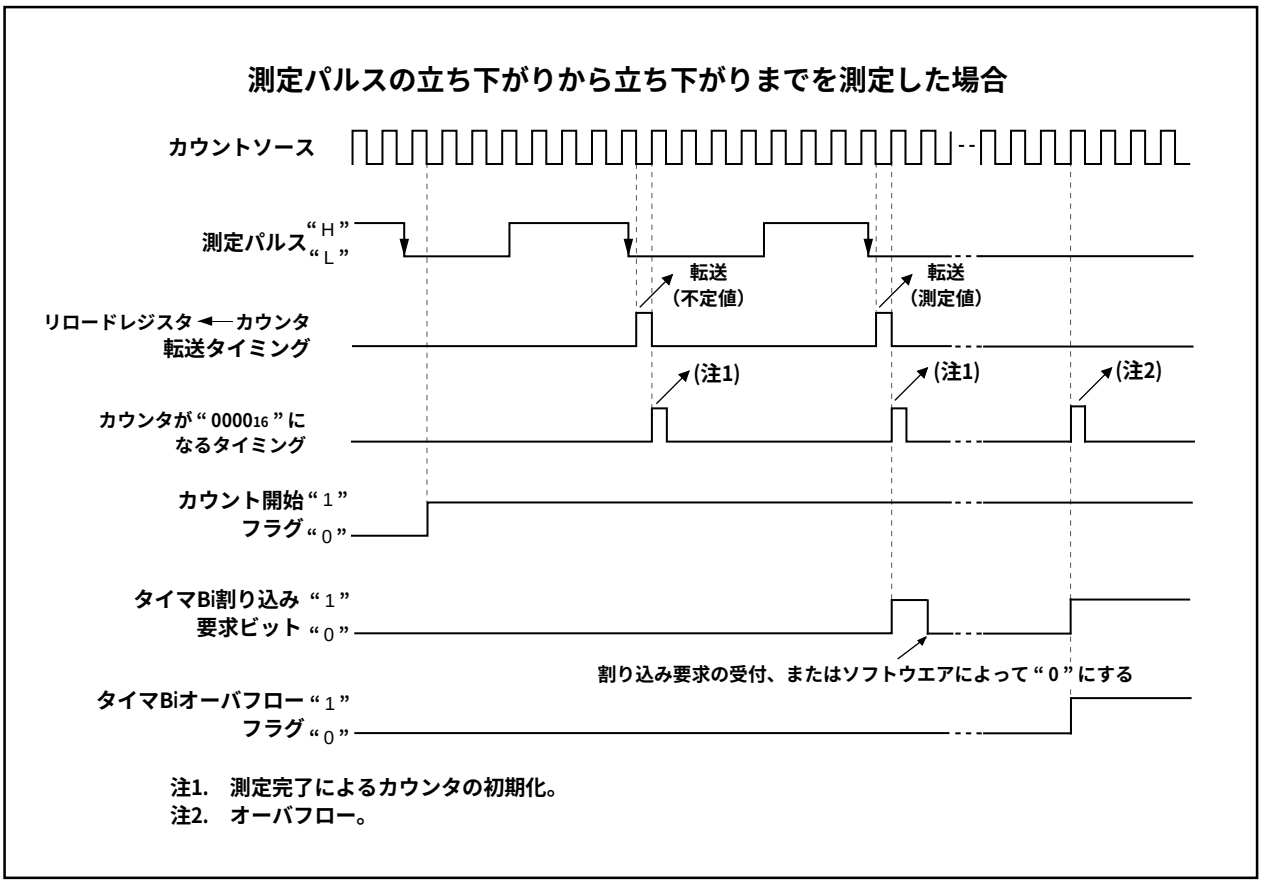


図1.14.20. パルス周期測定時の動作図

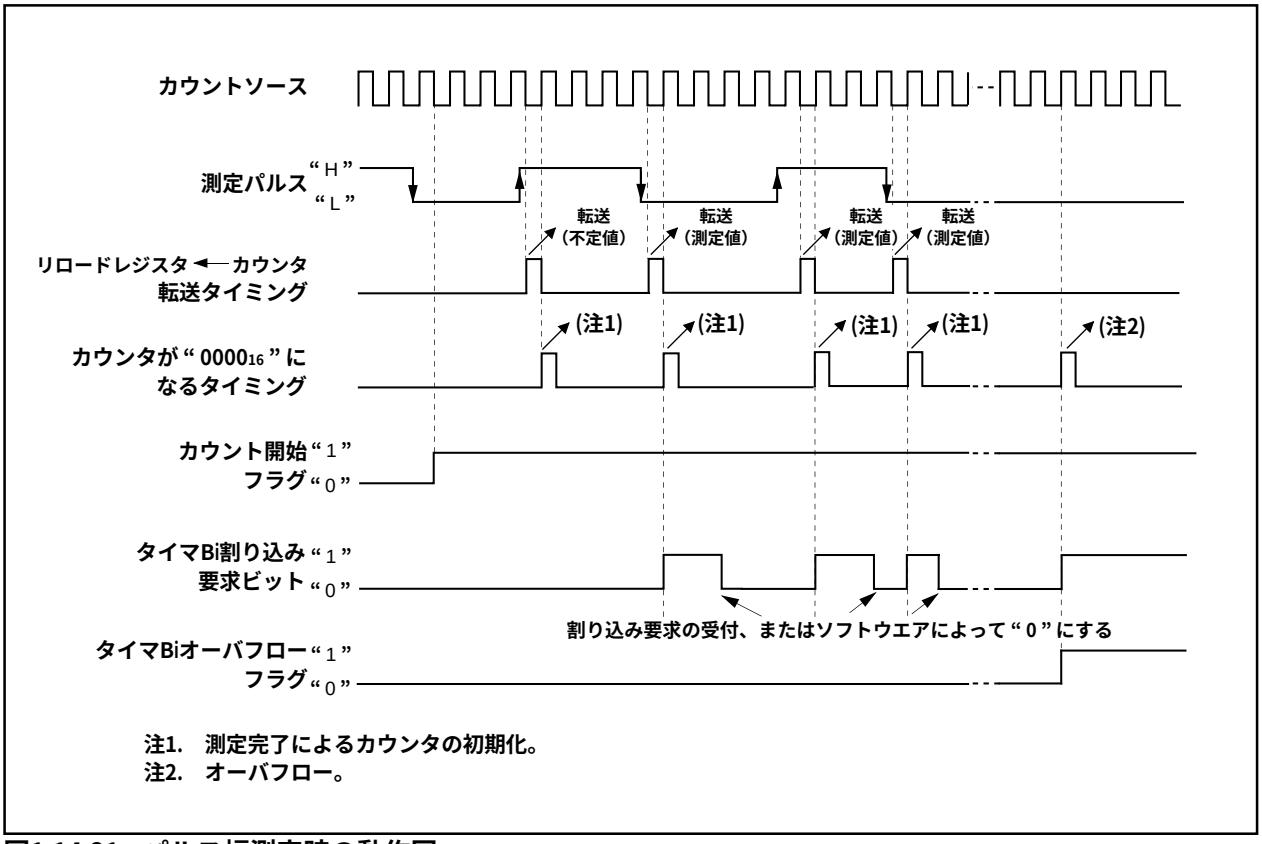


図1.14.21. パルス幅測定時の動作図

シリアルI/O

シリアルI/Oは、UART0、UART1およびUART2の3チャネルで構成しています。

UART0～UART2はそれぞれ専用の転送クロック発生用タイマを持ち、独立して動作します。

図1.16.1にUARTi(i=0～2)のブロック図を、図1.16.2、図1.16.3に送受信部のブロック図を示します。

UARTi(i=0～2)は、クロック同期形シリアルI/Oモード、クロック非同期形シリアルI/Oモード(UARTモード)の2種類のモードを持ちます。クロック同期形シリアルI/Oとして使用するか、クロック非同期形シリアルI/Oとして使用するかは、シリアルI/Oモード選択ビット($03A0_{16}$、$03A8_{16}$、0378_{16}番地のビット0～ビット2)の内容で選択します。

UART0～UART2は、一部の機能が異なることを除いてほぼ同一の機能を持ちます。特に、UART2は、クロック非同期形シリアルI/Oモードに一部設定を追加することでSIMインタフェース(注1)に対応します。また、TxD端子とRxD端子のレベルが異なれば割り込み要求が発生するバス衝突検出機能を持っています。

注1.　SIM：Subscriber Identity Module

表1.16.1にUART0～UART2の機能比較を、図1.16.4～図1.16.9に、UARTi関連のレジスタを示します。

表1.16.1.　UART0～UART2の機能比較

機　　能	UART0	UART1	UART2
CLK極性選択	可　(注1)	可　(注1)	可　(注1)
LSBファースト/MSBファースト選択	可　(注1)	可　(注1)	可　(注2)
連続受信モード選択	可　(注1)	可　(注1)	可　(注1)
転送クロック複数端子出力選択	不可	可　(注1)	不可
シリアルデータ論理切り替え	不可	不可	可　(注4)
スリープモード選択	可　(注3)	可　(注3)	不可
TxD、RxD入出力極性切り替え	不可	不可	可
TxD、RxD端子出力形式	CMOS出力	CMOS出力	Nﾁｬﾈﾙｵｰﾌﾟﾝﾄﾞﾚｲﾝ出力
パリティエラー信号出力	不可	不可	可　(注4)
バス衝突検出	不可	不可	可

注1.　クロック同期形シリアルI/Oモード時に選択できます。
注2.　クロック同期形シリアルI/Oモードおよび8ビットUARTモード時に選択できます。
注3.　UARTモード時に選択できます。
注4.　SIMインタフェース対応。

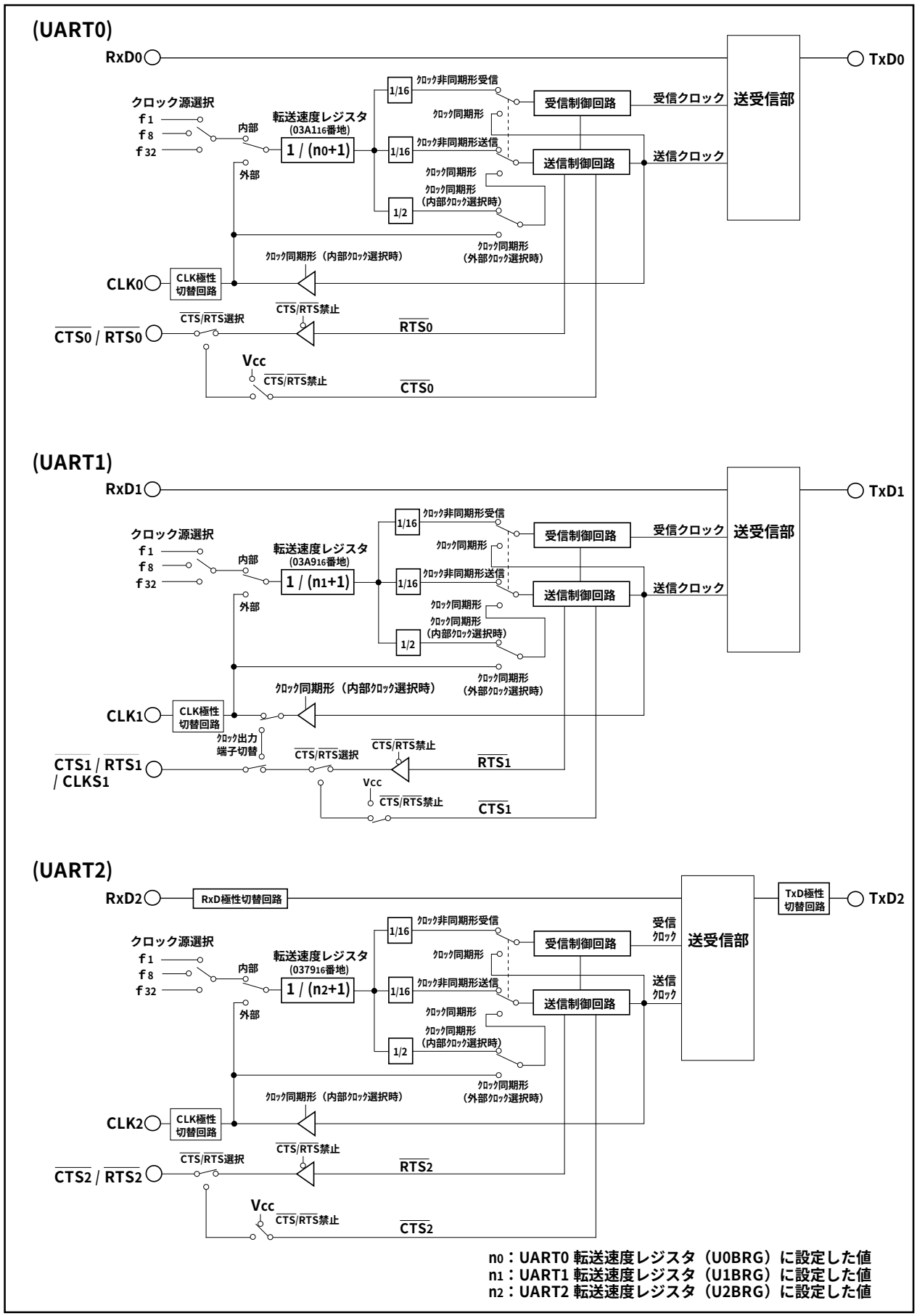


図1.16.1. UARTi(i=0～2)ブロック図

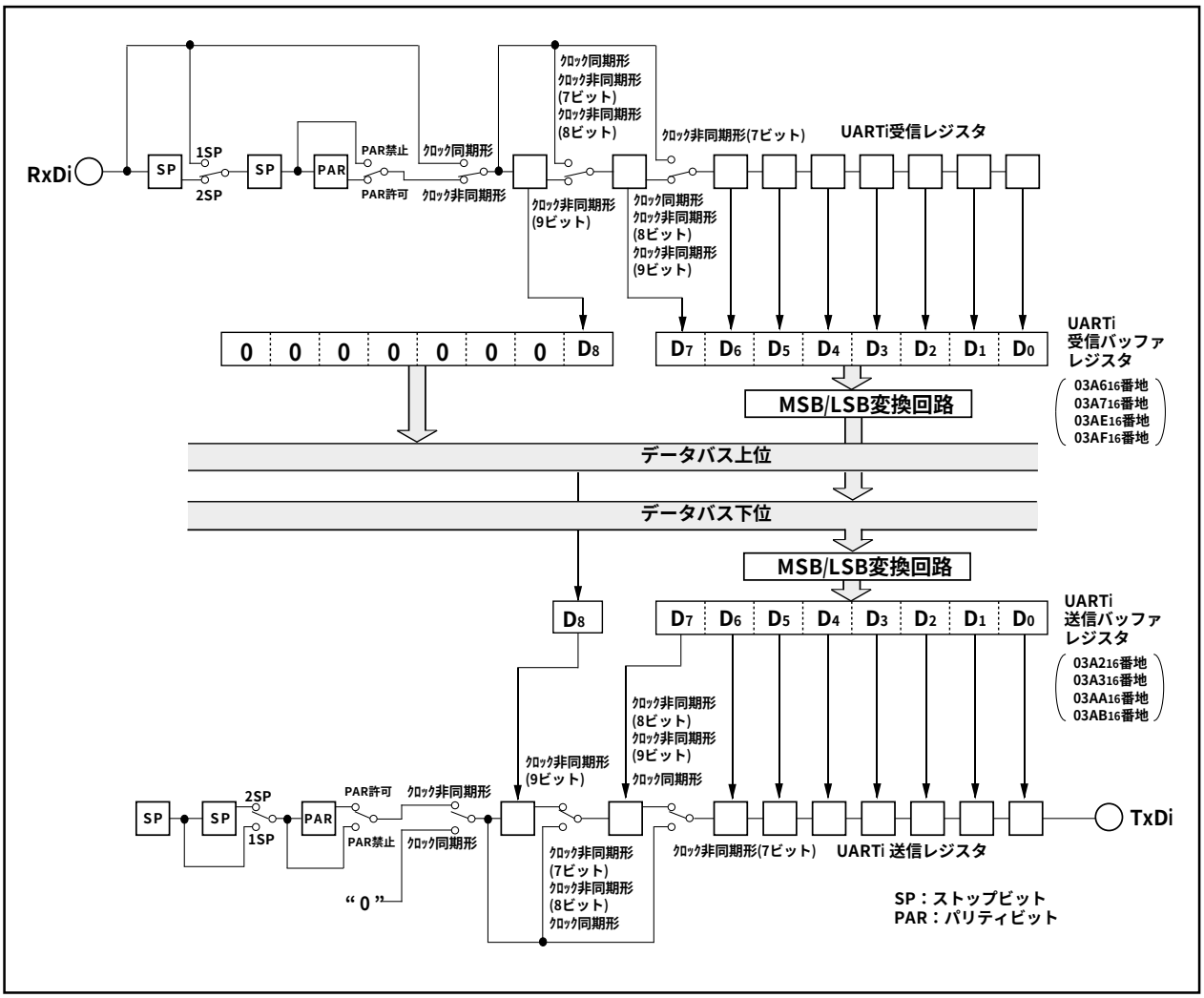


図1.16.2. UARTi(i=0,1)送受信部ブロック図

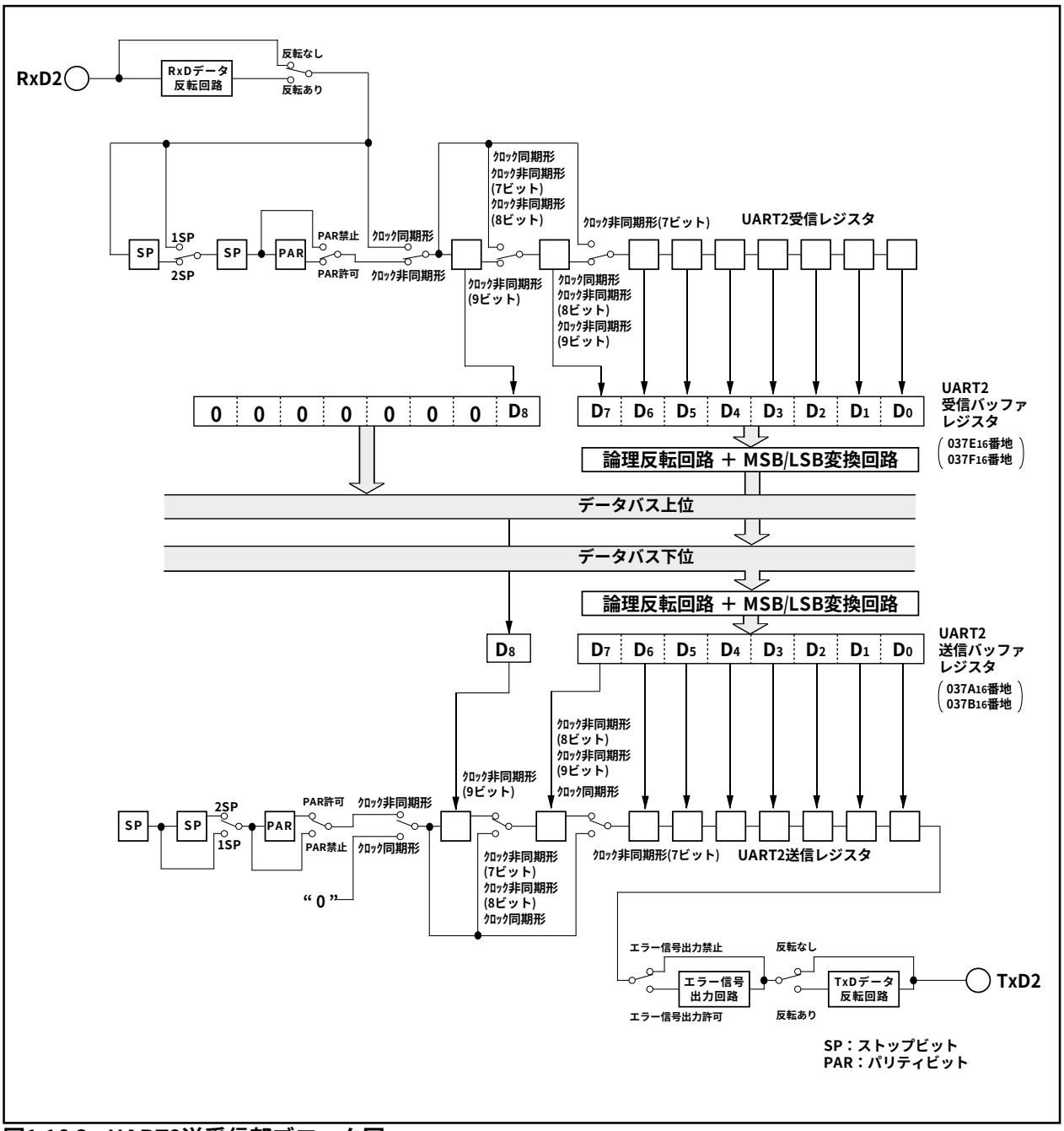
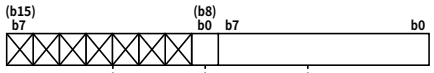


図1.16.3. UART2送受信部ブロック図

UARTi送信バッファレジスタ(注1)

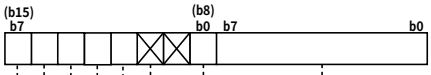


シンボル	アドレス	リセット時
U0TB	$03A3_{16}$、$03A2_{16}$番地	不定
U1TB	$03AB_{16}$、$03AA_{16}$番地	不定
U2TB	$037B_{16}$、$037A_{16}$番地	不定

機　　能	R	W
送信データ	×	○
何も配置されていない。 書き込む場合、“0”を書き込んでください。読み出した場合、その値は不定。	—	—

注1.　このレジスタへの書き込みにはMOV命令を使用してください。

UARTi受信バッファレジスタ



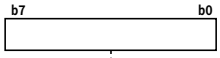
シンボル	アドレス	リセット時
U0RB	$03A7_{16}$、$03A6_{16}$番地	不定
U1RB	$03AF_{16}$、$03AE_{16}$番地	不定
U2RB	$037F_{16}$、$037E_{16}$番地	不定

ビット シンボル	ビット名	機能 (ｸﾛｯｸ同期形ｼﾘｱﾙI/Oﾓｰﾄﾞ時)	機能 (ｸﾛｯｸ非同期形ｼﾘｱﾙI/Oﾓｰﾄﾞ時)	R	W
—	———	受信データ	受信データ	○	×
何も配置されていない。 書き込む場合、“0”を書き込んでください。読み出した場合、その値は“0”。				—	—
ABT	アービトレーション ロスト検出フラグ(注2)	0：未検出（勝） 1：検出（負）	無効	○	○
OER	オーバランエラーフラグ(注1)	0：オーバランエラーなし 1：オーバランエラー発生	0：オーバランエラーなし 1：オーバランエラー発生	○	×
FER	フレーミングエラー フラグ(注1)	無効	0：フレーミングエラーなし 1：フレーミングエラー発生	○	×
PER	パリティエラーフラグ (注1)	無効	0：パリティエラーなし 1：パリティエラー発生	○	×
SUM	エラーサムフラグ (注1)	無効	0：エラーなし 1：エラー発生	○	×

注1.　シリアルI/Oモード選択ビット($03A0_{16}$、$03A8_{16}$、0378_{16}番地のビット2～ビット0)を“000_2”に設定したとき、または受信許可ビットを“0”に設定したとき、ビット15～ビット12は“0”になります(ビット14～ビット12がすべて“0”になると、ビット15は“0”になります)。また、ビット14、ビット13は、UARTi受信バッファレジスタの下位バイト($03A6_{16}$、$03AE_{16}$、$037E_{16}$番地)を読み出したときも、“0”になります。

注2.　アービトレーションロスト検出フラグはU2RBに配置されており、“0”のみ書き込みできます。U0RB、U1RBではビット11は何も配置されていませんが、書き込む場合、“0”を書き込んでください。また、読み出した場合は“0”です。

UARTi転送速度レジスタ(注1、注2)



シンボル	アドレス	リセット時
U0BRG	$03A1_{16}$番地	不定
U1BRG	$03A9_{16}$番地	不定
U2BRG	0379_{16}番地	不定

機　　能	設定可能値	R	W
設定値を nとすると、BRGiはカウントソースをn+1分周する	00_{16}～FF_{16}	×	○

注1.　値を書き込む場合は送受信停止中に書き込んでください。
注2.　このレジスタへの書き込みにはMOV命令を使用してください。

図1.16.4.　UARTi関連のレジスタ (1)

UARTi 送受信モードレジスタ

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0

シンボル	アドレス	リセット時
UiMR(i=0,1)	$03A0_{16}$,$03A8_{16}$番地	00_{16}

ビットシンボル	ビット名	機能(ｸﾛｯｸ同期形ｼﾘｱﾙI/Oﾓｰﾄﾞ時)	機能(ｸﾛｯｸ非同期形ｼﾘｱﾙI/Oﾓｰﾄﾞ時)	R	W
SMD0	シリアルI/Oモード選択ビット	b2 b1 b0 0 0 1 を設定してください 0 0 0 : シリアルI/Oは無効 0 1 0 : 設定しないでください 0 1 1 : 設定しないでください 1 1 1 : 設定しないでください	b2 b1 b0 1 0 0 : 転送データ長7ビット 1 0 1 : 転送データ長8ビット 1 1 0 : 転送データ長9ビット 0 0 0 : シリアルI/Oは無効 0 1 0 : 設定しないでください 0 1 1 : 設定しないでください 1 1 1 : 設定しないでください	○	○
SMD1				○	○
SMD2				○	○
CKDIR	内/外部クロック選択ビット	0 : 内部クロック 1 : 外部クロック(注1)	0 : 内部クロック 1 : 外部クロック(注1)	○	○
STPS	ストップビット長選択ビット	無効	0 : 1ストップビット 1 : 2ストップビット	○	○
PRY	パリティ奇/偶選択ビット	無効	ビット6が“1”のとき有効、 0 : 奇数パリティ 1 : 偶数パリティ	○	○
PRYE	パリティ許可ビット	無効	0 : パリティ禁止 1 : パリティ許可	○	○
SLEP	スリープ選択ビット	“0”を設定してください	0 : スリープモード解除 1 : スリープモード選択	○	○

注1. 対応する方向レジスタは“0”にしてください。

UART2送受信モードレジスタ

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0

シンボル	アドレス	リセット時
U2MR	0378_{16}番地	00_{16}

ビットシンボル	ビット名	機能(ｸﾛｯｸ同期形ｼﾘｱﾙI/Oﾓｰﾄﾞ時)	機能(ｸﾛｯｸ非同期形ｼﾘｱﾙI/Oﾓｰﾄﾞ時)	R	W
SMD0	シリアルI/Oモード選択ビット	b2 b1 b0 0 0 1 を設定してください 0 0 0 : シリアルI/Oは無効 0 1 0 : (注1) 0 1 1 : 設定しないでください 1 1 1 : 設定しないでください	b2 b1 b0 1 0 0 : 転送データ長7ビット 1 0 1 : 転送データ長8ビット 1 1 0 : 転送データ長9ビット 0 0 0 : シリアルI/Oは無効 0 1 0 : 設定しないでください 0 1 1 : 設定しないでください 1 1 1 : 設定しないでください	○	○
SMD1				○	○
SMD2				○	○
CKDIR	内/外部クロック選択ビット	0 : 内部クロック 1 : 外部クロック(注2)	“0”を設定してください	○	○
STPS	ストップビット長選択ビット	無効	0 : 1ストップビット 1 : 2ストップビット	○	○
PRY	パリティ奇/偶選択ビット	無効	ビット6が“1”のとき有効、 0 : 奇数パリティ 1 : 偶数パリティ	○	○
PRYE	パリティ許可ビット	無効	0 : パリティ禁止 1 : パリティ許可	○	○
IOPOL	TxD,RxD入出力極性切り替えビット	0 : 反転なし 1 : 反転あり 通常は“0”を設定してください	0 : 反転なし 1 : 反転あり 通常は“0”を設定してください	○	○

注1. IICモード使用時、ビット2～ビット0に“010_2”を設定してください。
注2. 対応する方向レジスタは“0”にしてください。

図1.16.5. UARTi関連のレジスタ (2)

UARTi 送受信制御レジスタ0

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0

シンボル	アドレス	リセット時
UiC0(i=0,1)	03A4$_{16}$,03AC$_{16}$番地	08$_{16}$

ビットシンボル	ビット名	機能 (ｸﾛｯｸ同期形ｼﾘｱﾙI/Oﾓｰﾄﾞ時)	機能 (ｸﾛｯｸ非同期形ｼﾘｱﾙI/Oﾓｰﾄﾞ時)	R	W
CLK0	BRGカウントソース選択ビット	b1 b0 0 0 : f1を選択 0 1 : f8を選択 1 0 : f32を選択 1 1 : 設定しないでください	b1 b0 0 0 : f1を選択 0 1 : f8を選択 1 0 : f32を選択 1 1 : 設定しないでください	○	○
CLK1				○	○
CRS	$\overline{CTS}$/$\overline{RTS}$機能選択ビット	ビット4が“0”のとき有効、 0 : $\overline{CTS}$機能を選択(注1) 1 : $\overline{RTS}$機能を選択(注2)	ビット4が“0”のとき有効、 0 : $\overline{CTS}$機能を選択(注1) 1 : $\overline{RTS}$機能を選択(注2)	○	○
TXEPT	送信レジスタ空フラグ	0 : 送信レジスタに データあり (送信中) 1 : 送信レジスタに データなし (送信完了)	0 : 送信レジスタに データあり (送信中) 1 : 送信レジスタに データなし (送信完了)	○	×
CRD	$\overline{CTS}$/$\overline{RTS}$禁止ビット	0 : $\overline{CTS}$/$\overline{RTS}$機能許可 1 : CTS/RTS機能禁止 （P60,P64はプログラマブル入出力ポートとして機能）	0 : $\overline{CTS}$/$\overline{RTS}$機能許可 1 : CTS/RTS機能禁止 （P60,P64はプログラマブル入出力ポートとして機能）	○	○
NCH	データ出力選択ビット	0 : TxDi端子はCMOS出力 1 : TxDi端子はNチャネル オープンドレイン出力	0 : TxDi端子はCMOS出力 1 : TxDi端子はNチャネル オープンドレイン出力	○	○
CKPOL	CLK極性選択ビット	0 : 転送クロックの立ち下がりで送信データ出力、立ち上がりで受信データ入力 1 : 転送クロックの立ち上がりで送信 データ出力、立ち下がりで受信データ入力	“0”を設定してください	○	○
UFORM	転送フォーマット選択ビット	0 : LSBファースト 1 : MSBファースト	“0”を設定してください	○	○

注1.　対応するポート方向レジスタは“0”にしてください。
注2.　対応するポートレジスタおよびポート方向レジスタの設定値は無効です。

UART2 送受信制御レジスタ0

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
		╳					

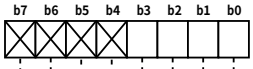
シンボル	アドレス	リセット時
U2C0	037C$_{16}$番地	08$_{16}$

ビットシンボル	ビット名	機能 (ｸﾛｯｸ同期形ｼﾘｱﾙI/Oﾓｰﾄﾞ時)	機能 (ｸﾛｯｸ非同期形ｼﾘｱﾙI/Oﾓｰﾄﾞ時)	R	W
CLK0	BRGカウントソース選択ビット	b1 b0 0 0 : f1を選択 0 1 : f8を選択 1 0 : f32を選択 1 1 : 設定しないでください	b1 b0 0 0 : f1を選択 0 1 : f8を選択 1 0 : f32を選択 1 1 : 設定しないでください	○	○
CLK1				○	○
CRS	$\overline{CTS}$/$\overline{RTS}$機能選択ビット	ビット4が“0”のとき有効、 0 : $\overline{CTS}$機能を選択(注1) 1 : $\overline{RTS}$機能を選択(注2)	ビット4が“0”のとき有効、 0 : $\overline{CTS}$機能を選択(注1) 1 : $\overline{RTS}$機能を選択(注2)	○	○
TXEPT	送信レジスタ空フラグ	0 : 送信レジスタに データあり (送信中) 1 : 送信レジスタに データなし (送信完了)	0 : 送信レジスタに データあり (送信中) 1 : 送信レジスタに データなし (送信完了)	○	×
CRD	$\overline{CTS}$/$\overline{RTS}$禁止ビット	0 : $\overline{CTS}$/$\overline{RTS}$機能許可 1 : CTS/RTS機能禁止 （P73はプログラマブル入出力ポートとして機能）	0 : $\overline{CTS}$/$\overline{RTS}$機能許可 1 : CTS/RTS機能禁止 （P73はプログラマブル入出力ポートとして機能）	○	○
	何も配置されていない。 書き込む場合、“0”を書き込んでください。読み出した場合、その値は“0”。			—	—
CKPOL	CLK極性選択ビット	0 : 転送クロックの立ち下がりで送信データ出力、立ち上がりで受信データ入力 1 : 転送クロックの立ち上がりで送信 データ出力、立ち下がりで受信データ入力	“0”を設定してください	○	○
UFORM	転送フォーマット選択ビット(注3)	0 : LSBファースト 1 : MSBファースト	0：LSBファースト 1：MSBファースト	○	○

注1.　対応するポート方向レジスタは“0”にしてください。
注2.　対応するポートレジスタおよびポート方向レジスタの設定値は無効です。
注3.　クロック同期形シリアルI/OモードおよびUARTモード時だけ有効です。

図1.16.6.　UARTi関連のレジスタ (3)

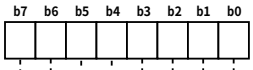
UARTi 送受信制御レジスタ1



シンボル	アドレス	リセット時
UiC1(i=0,1)	03A5$_{16}$,03AD$_{16}$番地	02$_{16}$

ビットシンボル	ビット名	機能 (ｸﾛｯｸ同期形ｼﾘｱﾙI/Oﾓｰﾄﾞ時)	機能 (ｸﾛｯｸ非同期形ｼﾘｱﾙI/Oﾓｰﾄﾞ時)	R	W
TE	送信許可ビット	0 : 送信禁止 1 : 送信許可	0 : 送信禁止 1 : 送信許可	○	○
TI	送信バッファ空フラグ	0 : 送信バッファレジスタにデータあり 1 : 送信バッファレジスタにデータなし	0 : 送信バッファレジスタにデータあり 1 : 送信バッファレジスタにデータなし	○	×
RE	受信許可ビット	0 : 受信禁止 1 : 受信許可	0 : 受信禁止 1 : 受信許可	○	○
RI	受信完了フラグ	0 : 受信バッファレジスタにデータなし 1 : 受信バッファレジスタにデータあり	0 : 受信バッファレジスタにデータなし 1 : 受信バッファレジスタにデータあり	○	×
何も配置されていない。 書き込む場合、“0”を書き込んでください。読み出した場合、その値は“0”。				—	—

UART2送受信制御レジスタ1



シンボル	アドレス	リセット時
U2C1	037D$_{16}$番地	02$_{16}$

ビットシンボル	ビット名	機能 (ｸﾛｯｸ同期形ｼﾘｱﾙI/Oﾓｰﾄﾞ時)	機能 (ｸﾛｯｸ非同期形ｼﾘｱﾙI/Oﾓｰﾄﾞ時)	R	W
TE	送信許可ビット	0 : 送信禁止 1 : 送信許可	0 : 送信禁止 1 : 送信許可	○	○
TI	送信バッファ空フラグ	0 : 送信バッファレジスタにデータあり 1 : 送信バッファレジスタにデータなし	0 : 送信バッファレジスタにデータあり 1 : 送信バッファレジスタにデータなし	○	×
RE	受信許可ビット	0 : 受信禁止 1 : 受信許可	0 : 受信禁止 1 : 受信許可	○	○
RI	受信完了フラグ	0 : 受信バッファレジスタにデータなし 1 : 受信バッファレジスタにデータあり	0 : 受信バッファレジスタにデータなし 1 : 受信バッファレジスタにデータあり	○	×
U2IRS	UART2送信割り込み要因選択ビット	0 : 送信バッファ空 (TI=1) 1 : 送信完了(TXEPT=1)	0 : 送信バッファ空 (TI=1) 1 : 送信完了(TXEPT=1)	○	○
U2RRM	UART2連続受信モード許可ビット	0 : 連続受信モード禁止 1 : 連続受信モード許可	“0”を設定してください	○	○
U2LCH	データ論理選択ビット	0 : 反転なし 1 : 反転あり	0 : 反転なし 1 : 反転あり	○	○
U2ERE	エラー信号出力許可ビット	“0”を設定してください	0 : 出力しない 1 : 出力する	○	○

図1.16.7. UARTi関連のレジスタ (4)

UART送受信制御レジスタ2

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
╳	0						

シンボル	アドレス	リセット時
UCON	$03B0_{16}$番地	$X0000000_2$

ビットシンボル	ビット名	機能(ｸﾛｯｸ同期形ｼﾘｱﾙI/Oﾓｰﾄﾞ時)	機能(ｸﾛｯｸ非同期形ｼﾘｱﾙI/Oﾓｰﾄﾞ時)	R	W
U0IRS	UART0送信割り込み要因選択ビット	0：送信バッファ空 (TI=1) 1：送信完了(TXEPT=1)	0：送信バッファ空 (TI=1) 1：送信完了(TXEPT=1)	○	○
U1IRS	UART1送信割り込み要因選択ビット	0：送信バッファ空 (TI=1) 1：送信完了(TXEPT=1)	0：送信バッファ空 (TI=1) 1：送信完了(TXEPT=1)	○	○
U0RRM	UART0連続受信モード許可ビット	0：連続受信モード禁止 1：連続受信モード許可	“0”を設定してください	○	○
U1RRM	UART1連続受信モード許可ビット	0：連続受信モード禁止 1：連続受信モード許可	“0”を設定してください	○	○
CLKMD0	CLK,CLKS選択ビット0	ビット5が“1”のとき有効 0：CLK1にクロックを出力 1：CLKS1にクロックを出力	無効	○	○
CLKMD1	CLK,CLKS選択ビット1 (注1)	0：通常モード (CLK出力はCLK1のみ) 1：転送クロック複数端子出力機能選択	“0”を設定してください	○	○
予約ビット		必ず“0”を設定してください。		○	○
何も配置されていない。 書き込む場合、“0”を書き込んでください。読み出した場合、その値は不定。				—	—

注1. 複数の転送クロック出力端子を使用するときは、以下に示す条件を満たしてください。
・UART1 内/外部クロック選択ビット($03A8_{16}$番地のビット3)=“0”

UART2特殊モードレジスタ

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0

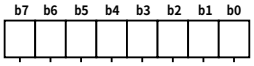
シンボル	アドレス	リセット時
U2SMR	0377_{16}番地	80_{16}

ビットシンボル	ビット名	機能(ｸﾛｯｸ同期形ｼﾘｱﾙI/Oﾓｰﾄﾞ時)	機能(ｸﾛｯｸ非同期形ｼﾘｱﾙI/Oﾓｰﾄﾞ時)	R	W
IICM	IICモード選択ビット	0：通常モード 1：IICモード	“0”を設定してください	○	○
ABC	アービトレーションロスト検出フラグ制御	0：ビット毎に更新 1：バイト毎に更新	“0”を設定してください	○	○
BBS	バスビジーフラグ	0：ストップコンディション検出 1：スタートコンディション検出	“0”を設定してください	○	○ (注1)
LSYN	SCLL同期出力許可ビット	0：禁止 1：許可	“0”を設定してください	○	○
ABSCS	バス衝突検出サンプリングクロック選択ビット	“0”を設定してください	0：転送クロックの立ち上がり 1：タイマＡ０のアンダフロー信号	○	○
ACSE	送信許可ビット自動クリア機能選択ビット	“0”を設定してください	0：自動クリア機能なし 1：バス衝突発生時自動クリア	○	○
SSS	送信開始条件選択ビット	“0”を設定してください	0：通常 1：RxD2の立ち下がり	○	○
SDDS	SDAディジタル遅延選択ビット(注2)	0：IICモード時以外は“0”を設定してください。 1：ディジタルディレイ出力選択	“0”を設定してください	○	○

注1. “0”だけ書き込み可。
注2. 本機能はIICモード時以外は“1”を書き込まないでください。通常モード時は“0”を設定してください。
本ビットが“0”の場合はUART2特殊モードレジスタ3(U2SMR3／0375_{16}番地)のビット７～ビット５(DL2～DL0＝SDAディジタル遅延値設定ビット)が初期化され“000”となります。また、SDDS＝“0”の場合にはU2SMR3の読み出し、書き込みはできません。

図1.16.8. UARTi関連のレジスタ (5)

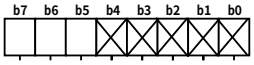
UART2特殊モードレジスタ2(IICバス専用レジスタ)



シンボル	アドレス	リセット時
U2SMR2	0376_{16}番地	00_{16}

ビットシンボル	ビット名	機能(IICバス専用)	R	W
IICM2	IICモード選択ビット2	表1.16.11参照	○	○
CSC	クロック同期化ビット	0 : 禁止 1 : 許可	○	○
SWC	SCLウエイト出力ビット	0 : 禁止 1 : 許可	○	○
ALS	SDA出力停止ビット	0 : 禁止 1 : 許可	○	○
STAC	UART2初期化ビット	0 : 禁止 1 : 許可	○	○
SWC2	SCLウエイト出力ビット2	0 : UART2クロック 1 : 0出力	○	○
SDHI	SDA出力禁止ビット	0 : 許可 1 : 禁止 (ハイインピーダンス)	○	○
SHTC	スタート/ストップコンディション条件制御ビット	1 : IICモード選択時、“1”を設定してください。 (表1.16.12参照)	○	○

UART2特殊モードレジスタ3(IICバス専用レジスタ)



シンボル	アドレス	リセット時
U2SMR3	0375_{16}番地	“00_{16}”

ビットシンボル	ビット名	機能(IICバス専用)	R	W
何も配置されていない。 書き込む場合、”０”を書き込んでください。読み出した場合、その値は不定。 ただし、SDDS＝１とした場合は“０”が読み出される(注1)。			—	—
DL0	SDAディジタル遅延値設定ビット (注1、注2、注3)	b7 b6 b5 ０００：IICモード時は設定しないでください ００１：1/f(XIN)の1～2サイクル(ディジタル遅延) ０１０：1/f(XIN)の2～3サイクル(ディジタル遅延) ０１１：1/f(XIN)の3～4サイクル(ディジタル遅延) １００：1/f(XIN)の4～5サイクル(ディジタル遅延) １０１：1/f(XIN)の5～6サイクル(ディジタル遅延) １１０：1/f(XIN)の6～7サイクル(ディジタル遅延) １１１：1/f(XIN)の7～8サイクル(ディジタル遅延)	○	○
DL1			○	○
DL2			○	○

注1. 本ビットはUART2特殊モードレジスタ（U2SMR／0377_{16}番地）のビット７(SDDS＝SDAディジタル遅延選択ビット)が“１”のときのみ読み出し、書き込み可能です。SDDS＝“１”にしてUART2特殊モードレジスタ3(U2SMR3)の初期値を読み出した場合、その値は“00_{16}”です。SDDS＝“１”にしてUART2特殊モードレジスタ3(U2SMR3)に書き込む場合、ビット0～ビット4には“０”を書き込んでください。SDDS＝“０”のときは書き込み不可、読み出した場合、その値は不定です。

注2. 本ビットはSDDS＝“０”のときには初期化され“000”となります。本ビットはリセット解除時は“000”となります。ただし、SDDS＝“１”とした場合のみ読み出し可能のため、SDDS＝“０”の場合、読み出した値は不定です。

注3. 遅延量はSCL端子、SDA端子の負荷により変化します。また、外部クロックを使用した場合には、200ns程度、遅延が大きくなりますので、評価の上、使用してください。

図1.16.9. UARTi関連のレジスタ (6)

(1) クロック同期形シリアルI/Oモード

クロック同期形シリアルI/Oモードは、転送クロックを用いて送受信を行うモードです。表1.16.2、表1.16.3にクロック同期形シリアルI/Oモードの仕様を、図1.16.10にUARTi送受信モードレジスタの構成を示します。

表1.16.2. クロック同期形シリアルI/Oモードの仕様(1)

項　　目	仕　　様
転送データフォーマット	●転送データ長　8ビット
転送クロック	●内部クロック選択時(03A0$_{16}$、03A8$_{16}$、0378$_{16}$番地のビット3=“0”)：fi/2(n+1) (注1)　fi=f1,f8,f32 ●外部クロック選択時(03A0$_{16}$、03A8$_{16}$、0378$_{16}$番地のビット3=“1”)：CLKi端子からの入力
送信制御/受信制御	●$\overline{\text{CTS}}$機能/RTS機能/$\overline{\text{CTS}}$,$\overline{\text{RTS}}$機能無効 選択
送信開始条件	●送信開始には、以下の条件が必要です。 ・送信許可ビット(03A5$_{16}$、03AD$_{16}$、037D$_{16}$番地のビット0)=“1” ・送信バッファ空フラグ(03A5$_{16}$、03AD$_{16}$、037D$_{16}$番地のビット1)=“0” ・$\overline{\text{CTS}}$機能選択時、$\overline{\text{CTS}}$端子の入力が“L”レベル ●更に、外部クロック選択時には次の条件も必要です。 ・CLKi極性選択ビット(03A4$_{16}$、03AC$_{16}$、037C$_{16}$番地のビット6)=“0”：CLKi端子の入力が“H” ・CLKi極性選択ビット(03A4$_{16}$、03AC$_{16}$、037C$_{16}$番地のビット6)=“1”：CLKi端子の入力が“L”
受信開始条件	●受信開始には、以下の条件が必要です。 ・受信許可ビット(03A5$_{16}$、03AD$_{16}$、037D$_{16}$番地のビット2)=“1” ・送信許可ビット(03A5$_{16}$、03AD$_{16}$、037D$_{16}$番地のビット0)=“1” ・送信バッファ空フラグ(03A5$_{16}$、03AD$_{16}$、037D$_{16}$番地のビット1)=“0” ●更に、外部クロック選択時には次の条件も必要です。 ・CLKi極性選択ビット(03A4$_{16}$、03AC$_{16}$、037C$_{16}$番地のビット6)=“0”：CLKi端子の入力が“H” ・CLKi極性選択ビット(03A4$_{16}$、03AC$_{16}$、037C$_{16}$番地のビット6)=“1”：CLKi端子の入力が“L”
割り込み要求発生タイミング	●送信時 ・送信割り込み要因選択ビット(03B0$_{16}$番地のビット0、1、037D$_{16}$番地のビット4)=“0”： UARTi送信バッファレジスタからUARTi送信レジスタへデータ転送完了時 ・送信割り込み要因選択ビット(03B0$_{16}$番地のビット0、1、037D$_{16}$番地のビット4)=“1”： UARTi送信レジスタからデータ送信完了時 ●受信時 ・UARTi受信レジスタから、UARTi受信バッファレジスタへデータ転送完了時
エラー検出	●オーバランエラー(注2) UARTi受信バッファレジスタの内容を読み出す前に次のデータが揃ったときに発生

注1.　nはUART転送速度レジスタに設定した00$_{16}$～FF$_{16}$の値です。

注2.　オーバランエラーが発生した場合は、UARTi受信バッファには次のデータが書き込まれます。またUARTi受信割り込み要求ビットは変化しません。

表1.16.3. クロック同期形シリアルI/Oモードの仕様(2)

項　　目	仕　　様
選択機能	●CLK極性選択 送信データ出力/入力タイミングが、転送クロックの立ち上がりか立ち下がりかを選択可 ●LSBファースト/MSBファースト 選択 ビット0から送信/受信するか、またはビット7から送信/受信するかを選択可 ●連続受信モード選択 受信バッファレジスタを読み出す動作により、同時に受信許可状態になる。 ●転送クロック複数端子出力選択(UART1) UART1の転送クロック端子を2本設定し、ソフトウエアによって出力端子を選択可 ●シリアルデータ論理切り替え(UART2) 送信バッファレジスタへの書き込み、受信バッファレジスタからの読み出しの際、データを反転させるか選択可 ●TxD、RxD入出力極性切り替え(UART2) TxD端子出力およびRxD端子入力を反転する機能です。入出力するデータのレベルがすべて反転します。

UARTi送受信モードレジスタ

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
0					0	0	1

シンボル	アドレス	リセット時
UiMR(i=0,1)	03A0$_{16}$,03A8$_{16}$番地	00$_{16}$

ビットシンボル	ビット名	機　　能	R	W
SMD0	シリアルI/Oモード選択ビット	b2 b1 b0 0 0 1 : クロック同期形シリアルI/Oモード	○	○
SMD1			○	○
SMD2			○	○
CKDIR	内/外部クロック選択ビット	0 : 内部クロック 1 : 外部クロック(注1)	○	○
STPS	クロック同期形シリアルI/Oモードでは無効		○	○
PRY			○	○
PRYE			○	○
SLEP	0 : クロック同期形シリアルI/Oモードでは“0”を設定してください。		○	○

注1.　対応する方向レジスタは“0”にしてください。

UART2送受信モードレジスタ

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
0					0	0	1

シンボル	アドレス	リセット時
U2MR	0378$_{16}$	00$_{16}$

ビットシンボル	ビット名	機　　能	R	W
SMD0	シリアルI/Oモード選択ビット	b2 b1 b0 0 0 1 : クロック同期形シリアルI/Oモード	○	○
SMD1			○	○
SMD2			○	○
CKDIR	内/外部クロック選択ビット	0 : 内部クロック 1 : 外部クロック(注2)	○	○
STPS	クロック同期形シリアルI/Oモードでは無効		○	○
PRY			○	○
PRYE			○	○
IOPOL	TxD,RxD入出力極性切り替えビット(注1)	0 : 反転なし 1 : 反転あり	○	○

注1．通常は“0”にしてください。
注2.　対応する方向レジスタは“0”にしてください。

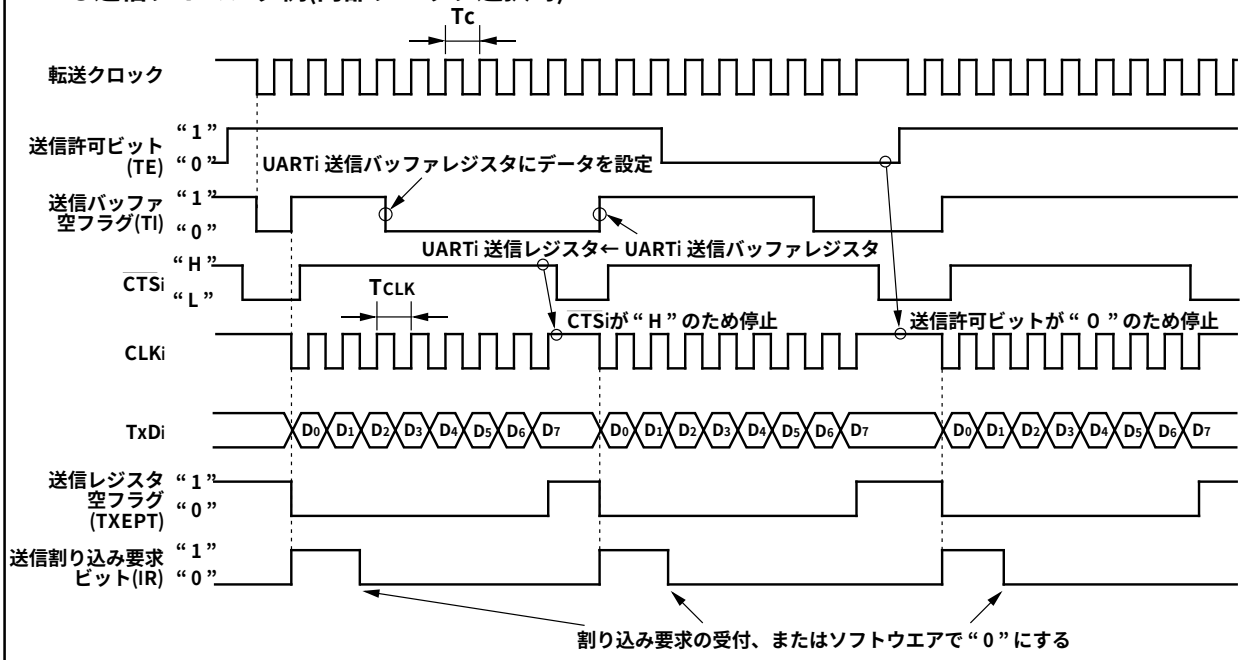
図1.16.10.　クロック同期形シリアルI/Oモード時のUARTi送受信モードレジスタの構成

表1.16.4に、クロック同期形シリアルI/Oモード時の入出力端子の機能を示します。これは、転送クロック複数端子出力選択機能は非選択時です。なお、UARTiの動作モード選択後、転送開始までは、TxDi端子は“H”レベルを出力します(Nチャネルオープンドレイン出力選択時はフローティング状態)。

表1.16.4. クロック同期形シリアルI/Oモード時の入出力端子の機能
(転送クロック複数端子出力機能非選択時)

端子名	機　　能	選択方法
TxDi ($P6_3$、$P6_7$、$P7_0$)	シリアルデータ出力	(受信だけを行うときはダミーデータを出力)
RxDi ($P6_2$、$P6_6$、$P7_1$)	シリアルデータ入力	ポート$P6_2$、$P6_6$、$P7_1$の方向レジスタ($03EE_{16}$番地のビット2、ビット6、$03EF_{16}$番地のビット1)=“0”(送信だけを行うときは入力ポートとして使用可)
CLKi ($P6_1$、$P6_5$、$P7_2$)	転送クロック出力	内/外部クロック選択ビット($03A0_{16}$、$03A8_{16}$、0378_{16}番地のビット3)=“0”
	転送クロック入力	内/外部クロック選択ビット($03A0_{16}$、$03A8_{16}$、0378_{16}番地のビット3)=“1” ポート$P6_1$、$P6_5$、$P7_2$の方向レジスタ($03EE_{16}$番地のビット1、ビット5、$03EF_{16}$番地のビット2)=“0”
$\overline{CTS}$i/$\overline{RTS}$i ($P6_0$、$P6_4$、$P7_3$)	$\overline{CTS}$入力	$\overline{CTS}$/$\overline{RTS}$禁止ビット($03A4_{16}$、$03AC_{16}$、$037C_{16}$番地のビット4)=“0” $\overline{CTS}$/$\overline{RTS}$機能選択ビット($03A4_{16}$、$03AC_{16}$、$037C_{16}$番地のビット2)=“0” ポート$P6_0$、$P6_4$、$P7_3$の方向レジスタ($03EE_{16}$番地のビット0、ビット4、$03EF_{16}$番地のビット3)=“0”
	$\overline{RTS}$出力	$\overline{CTS}$/$\overline{RTS}$禁止ビット($03A4_{16}$、$03AC_{16}$、$037C_{16}$番地のビット4)=“0” $\overline{CTS}$/$\overline{RTS}$機能選択ビット($03A4_{16}$、$03AC_{16}$、$037C_{16}$番地のビット2)=“1”
	プログラマブル入出力ポート	$\overline{CTS}$/$\overline{RTS}$禁止ビット($03A4_{16}$、$03AC_{16}$、$037C_{16}$番地のビット4)=“1”

●送信タイミング例(内部クロック選択時)

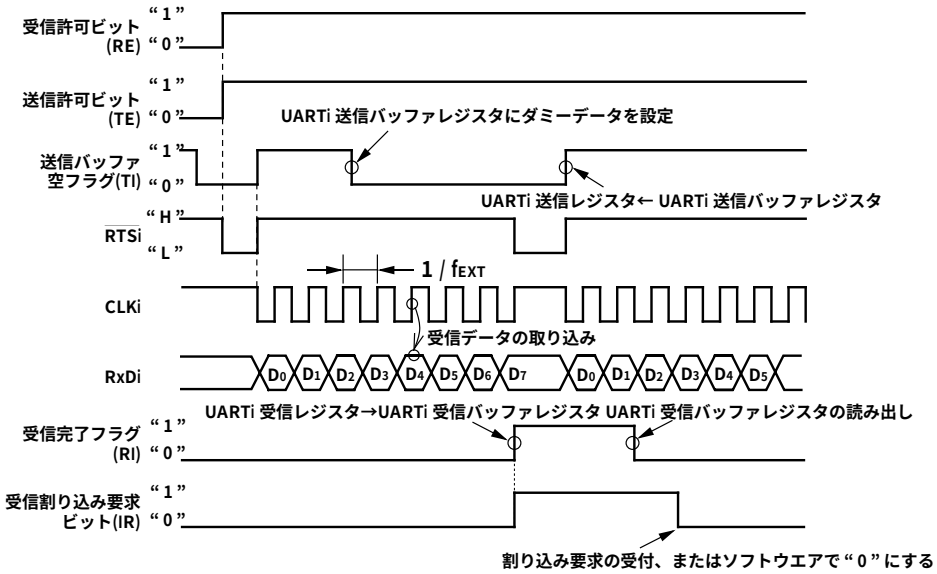


( )内はビットシンボルです。

上記タイミング図は次の設定条件の場合です。
- ●内部クロック選択
- ●CTS機能選択
- ●CLK極性選択ビット =“0”
- ●送信割り込み要因選択ビット =“0”

$T_C = T_{CLK} = 2(n+1) / f_i$
fi：BRGiのカウントソースの周波数(f1, f8, f32)
n：BRGiに設定した値

●受信タイミング例(外部クロック選択時)



( )内はビットシンボルです。

上記タイミング図は次の設定条件の場合です。
- ●外部クロック選択
- ●RTS 機能選択
- ●CLK極性選択ビット =“0”

fEXT：外部クロックの周波数

データ受信前のCLKi端子の入力が“H”レベルのときに、以下の条件が揃うようにしてください。
- ●送信許可ビット→“1”
- ●受信許可ビット→“1”
- ●UARTi送信バッファレジスタへのダミーデータの書き込み

図1.16.11. クロック同期形シリアルI/Oモード時の送信／受信タイミング例

■極性選択機能

図1.16.12に示すように、CLK極性選択ビット(03A4$_{16}$、03AC$_{16}$、037C$_{16}$番地のビット6)によって転送クロックの極性を選択できます。

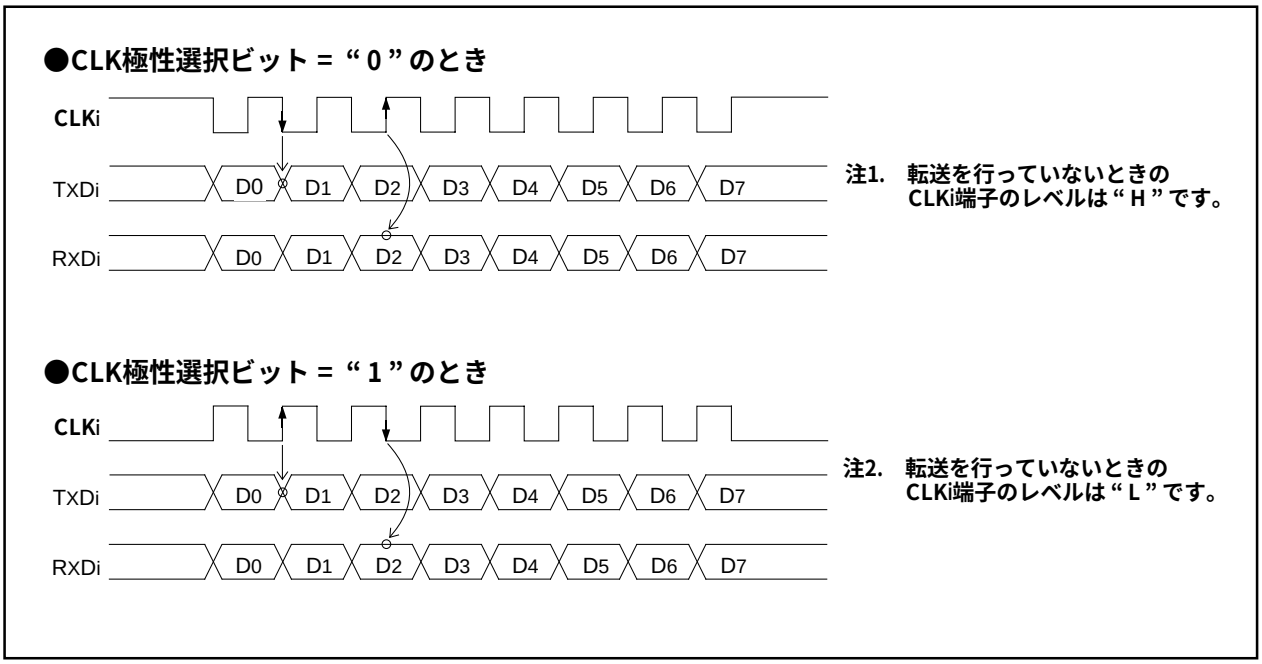


図1.16.12. 転送クロックの極性

■LSBファースト/MSBファースト選択機能

図1.16.13に示すように、転送フォーマット選択ビット(03A4$_{16}$、03AC$_{16}$、037C$_{16}$番地のビット7)の内容が “ 0 ” のとき転送フォーマットはLSBファースト、“ 1 ” のとき転送フォーマットはMSBファーストになります。

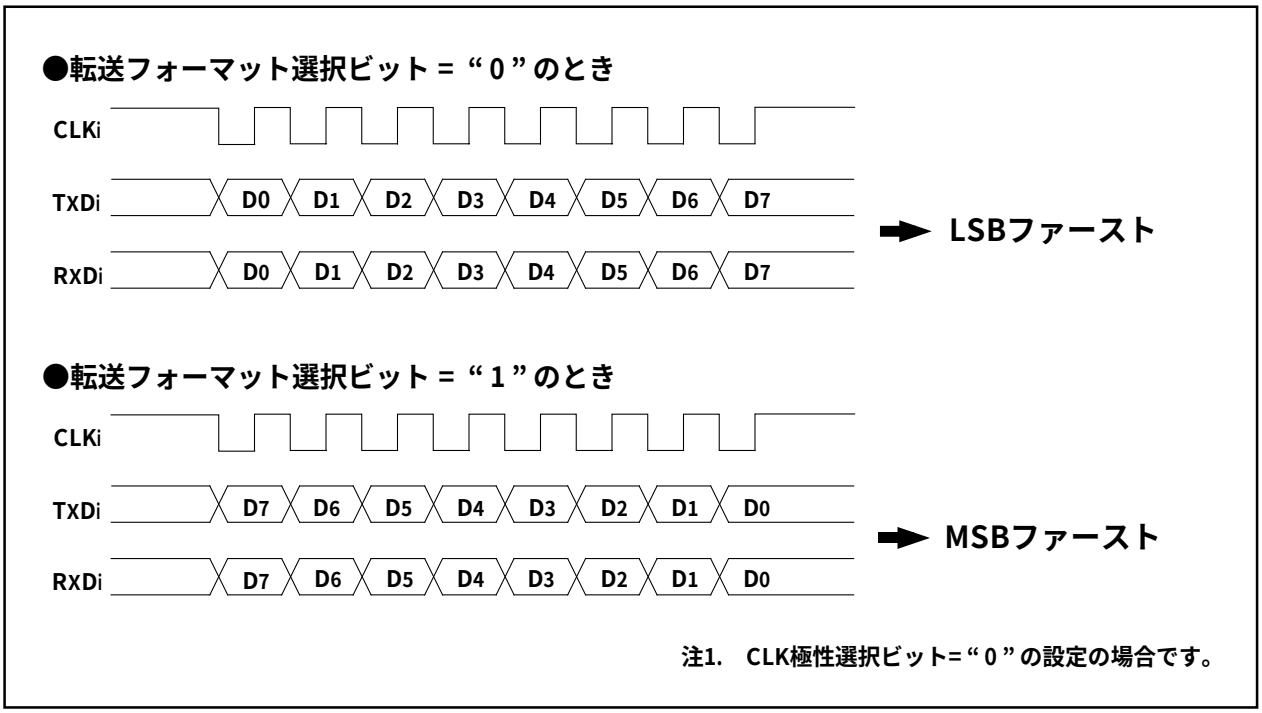
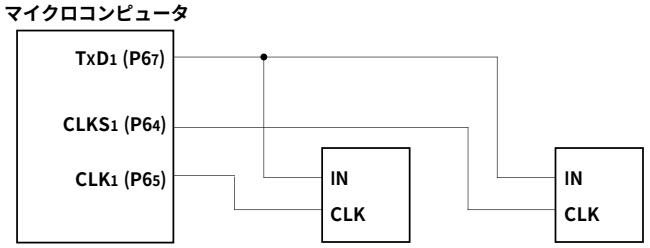


図1.16.13. 転送フォーマット

■転送クロック複数端子出力機能(UART1)

転送クロック出力端子を2本設定し、CLK、CLKS選択ビット(03B0$_{16}$番地のビット4、ビット5)の切り替えによって1本を選択し、クロックを出力します(図1.16.14)。この機能は、UART1で内部クロック選択時だけ有効な機能です。



注1. クロック同期形シリアルI/Oモード時で、内部クロックを選択し、送信だけを行う場合

図1.16.14. 転送クロック複数端子出力機能の使用例

■連続受信モード

連続受信モード許可ビット(03B0$_{16}$番地のビット2、ビット3、037D$_{16}$番地のビット5)を“1”に設定することによって、連続受信モードになります。連続受信モードでは、送信バッファレジスタにダミーデータを再設定する必要がなく、受信バッファレジスタを読み出すことで受信許可状態になります。

■シリアルデータ論理切り替え機能(UART2)

データ論理選択ビット(037D$_{16}$番地のビット6)の内容が“1”のとき、送信バッファレジスタへの書き込み、および受信バッファレジスタからの読み出しの際、データを反転させます。図1.16.15にシリアルデータ論理切り替えのタイミング例を示します。

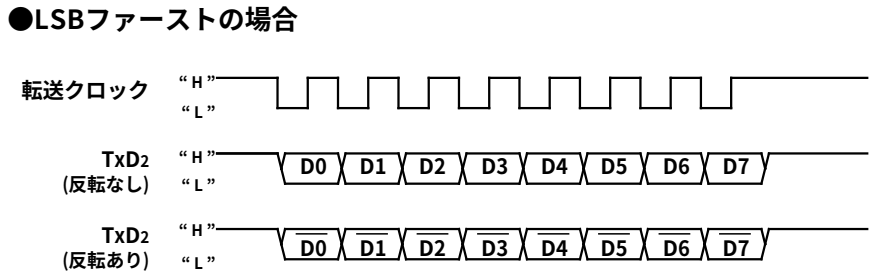


図1.16.15. シリアルデータ論理切り替えのタイミング例

(2) クロック非同期形シリアルI/O(UART)モード

クロック非同期形シリアルI/Oモードは、任意の転送速度、転送データフォーマットを設定して送受信を行うモードです。表1.16.5、表1.16.6にクロック非同期形シリアルI/Oモードの仕様を、図1.16.16にUARTi送受信モードレジスタの構成を示します。

表1.16.5. クロック非同期形シリアルI/Oモードの仕様(1)

項　目	仕　様
転送データフォーマット	●キャラクタビット(転送データ)　7ビット/8ビット/9ビット 選択可 ●スタートビット　1ビット ●パリティビット　奇数/偶数/無 選択可 ●ストップビット　1ビット/2ビット 選択可
転送クロック	●内部クロック選択時($03A0_{16}$、$03A8_{16}$、0378_{16}番地のビット3=“0”)：fi/16(n+1) (注1)　fi=f1,f8,f32 ●外部クロック選択時($03A0_{16}$、$03A8_{16}$番地のビット3=“1”)： f_{EXT}/16(n+1) (注1)(注2) (UART2は外部クロック選択を設定しないでください)
送信制御/受信制御	●$\overline{CTS}$機能/$\overline{RTS}$機能/$\overline{CTS}$,$\overline{RTS}$機能無効 選択
送信開始条件	●送信開始には、以下の条件が必要です。 ・送信許可ビット($03A5_{16}$、$03AD_{16}$、$037D_{16}$番地のビット0)=“1” ・送信バッファ空フラグ($03A5_{16}$、$03AD_{16}$、$037D_{16}$番地のビット1)=“0” ・$\overline{CTS}$機能選択時、$\overline{CTS}$端子の入力が“L”レベル
受信開始条件	●受信開始には、以下の条件が必要です。 ・受信許可ビット($03A5_{16}$、$03AD_{16}$、$037D_{16}$番地のビット2)=“1” ・スタートビットの検出
割り込み要求発生タイミング	●送信時 ・送信割り込み要因選択ビット($03B0_{16}$番地のビット0、1、$037D_{16}$番地のビット4)=“0”： UARTi送信バッファレジスタからUARTi送信レジスタへデータ転送完了時 ・送信割り込み要因選択ビット($03B0_{16}$番地のビット0、1、$037D_{16}$番地のビット4)=“1”： UARTi送信レジスタからデータ送信完了時 ●受信時 ・UARTi受信レジスタから、UARTi受信バッファレジスタへデータ転送完了時
エラー検出	●オーバランエラー(注3) UARTi受信バッファレジスタの内容を読み出す前に次のデータが揃ったときに発生 ●フレーミングエラー 設定した個数のストップビットが検出されなかったときに発生 ●パリティエラー パリティ許可時にパリティビットとキャラクタビット中の“1”の個数が設定した個数でなかったときに発生 ●エラーサムフラグ オーバランエラー、フレーミングエラー、パリティエラーのうちいずれかが発生した場合“1”になります

注1. nはUART転送速度レジスタに設定した00_{16}～FF_{16}の値です。
注2. f_{EXT}はCLKi端子からの入力です。
注3. オーバランエラーが発生した場合は、UARTi受信バッファには次のデータが書き込まれます。またUARTi受信割り込み要求ビットは変化しません。

表1.16.6. クロック非同期形シリアルI/Oモードの仕様(2)

項　　目	仕　　様
選択機能	●スリープモード選択(UART0、UART1) 複数の従のマイクロコンピュータのうち、特定の1つと転送を行う場合に使用する ●シリアルデータ論理切り替え(UART2) 転送するデータの論理値を反転する機能です。スタートビット、およびストップビットは反転しません。 ●TxD、RxD入出力極性切り替え(UART2) TxD端子出力およびRxD端子入力を反転する機能です。入出力するデータのレベルがすべて反転します。

UARTi送受信モードレジスタ

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0

シンボル	アドレス	リセット時
UiMR(i=0,1)	03A0$_{16}$,03A8$_{16}$番地	00$_{16}$

ビットシンボル	ビット名	機　　能	R	W
SMD0	シリアルI/Oモード選択ビット	b2 b1 b0 1 0 0 : 転送データ長7ビット 1 0 1 : 転送データ長8ビット 1 1 0 : 転送データ長9ビット	○	○
SMD1			○	○
SMD2			○	○
CKDIR	内/外部クロック選択ビット	0 : 内部クロック 1 : 外部クロック(注1)	○	○
STPS	ストップビット長選択ビット	0 : 1ストップビット 1 : 2ストップビット	○	○
PRY	パリティ奇/偶選択ビット	ビット6が“1”のとき有効、 0 : 奇数パリティ 1 : 偶数パリティ	○	○
PRYE	パリティ許可ビット	0 : パリティ禁止 1 : パリティ許可	○	○
SLEP	スリープ選択ビット	0 : スリープモード解除 1 : スリープモード選択	○	○

注1.　対応する方向レジスタは“0”にしてください。

UART2送受信モードレジスタ

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0

シンボル	アドレス	リセット時
U2MR	0378$_{16}$番地	00$_{16}$

ビットシンボル	ビット名	機　　能	R	W
SMD0	シリアルI/Oモード選択ビット	b2 b1 b0 1 0 0 : 転送データ長7ビット 1 0 1 : 転送データ長8ビット 1 1 0 : 転送データ長9ビット	○	○
SMD1			○	○
SMD2			○	○
CKDIR	内/外部クロック選択ビット	“0”を設定してください	○	○
STPS	ストップビット長選択ビット	0 : 1ストップビット 1 : 2ストップビット	○	○
PRY	パリティ奇/偶選択ビット	ビット6が“1”のとき有効、 0 : 奇数パリティ 1 : 偶数パリティ	○	○
PRYE	パリティ許可ビット	0 : パリティ禁止 1 : パリティ許可	○	○
IOPOL	TxD,RxD入出力極性 切り替えビット(注1)	0 : 反転なし 1 : 反転あり	○	○

注1.　通常“0”にしてください。

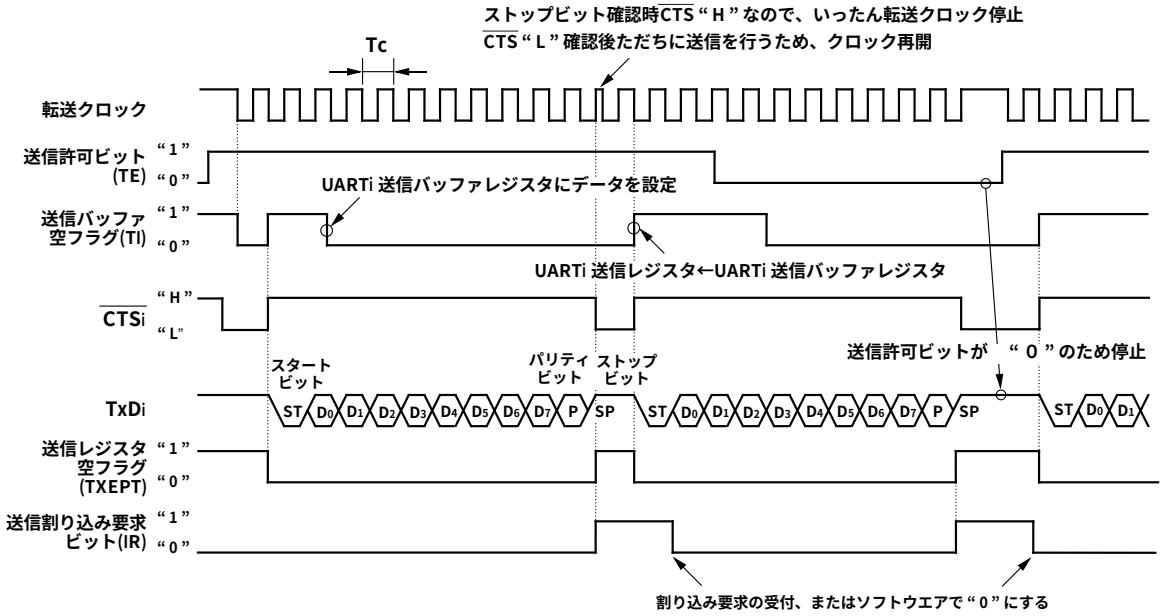
図1.16.16.　UARTモード時のUARTi送受信モードレジスタの構成

表1.16.7に、クロック非同期形シリアルI/Oモード時の入出力端子の機能を示します。なお、UARTiの動作モード選択後、転送開始までは、TxDi端子は“H”レベルを出力します(Nチャネルオープンドレイン出力選択時はフローティング状態)。

表1.16.7. クロック非同期形シリアルI/Oモード時

端子名	機　能	選択方法
TxDi ($P6_3$、$P6_7$、$P7_0$)	シリアルデータ出力	
RxDi ($P6_2$、$P6_6$、$P7_1$)	シリアルデータ入力	ポート$P6_2$、$P6_6$、$P7_1$の方向レジスタ($03EE_{16}$番地のビット2、ビット6、$03EF_{16}$番地のビット1)=“0”(送信だけを行うときは入力ポートとして使用可)
CLKi ($P6_1$、$P6_5$、$P7_2$)	プログラマブル入出力	内/外部クロック選択ビット($03A0_{16}$、$03A8_{16}$、0378_{16}番地のビット3)=“0”
	転送クロック入力	内/外部クロック選択ビット($03A0_{16}$、$03A8_{16}$番地のビット3)=“1” ポート$P6_1$、$P6_5$の方向レジスタ($03EE_{16}$番地のビット1、ビット5)=“0” (UART2は外部クロック選択を設定しないでください)
$\overline{CTS}$i/$\overline{RTS}$i ($P6_0$、$P6_4$、$P7_3$)	$\overline{CTS}$入力	$\overline{CTS}$/$\overline{RTS}$禁止ビット($03A4_{16}$、$03AC_{16}$、$037C_{16}$番地のビット4)=“0” $\overline{CTS}$/$\overline{RTS}$機能選択ビット($03A4_{16}$、$03AC_{16}$、$037C_{16}$番地のビット2)=“0” ポート$P6_0$、$P6_4$、$P7_3$の方向レジスタ($03EE_{16}$番地のビット0、ビット4、$03EF_{16}$番地のビット3)=“0”
	$\overline{RTS}$出力	$\overline{CTS}$/$\overline{RTS}$禁止ビット($03A4_{16}$、$03AC_{16}$、$037C_{16}$番地のビット4)=“0” $\overline{CTS}$/$\overline{RTS}$機能選択ビット($03A4_{16}$、$03AC_{16}$、$037C_{16}$番地のビット2)=“1”
	プログラマブル入出力ポート	$\overline{CTS}$/$\overline{RTS}$禁止ビット($03A4_{16}$、$03AC_{16}$、$037C_{16}$番地のビット4)=“1”

●転送データ長8ビット時の送信タイミング例(パリティ許可、1ストップビット)

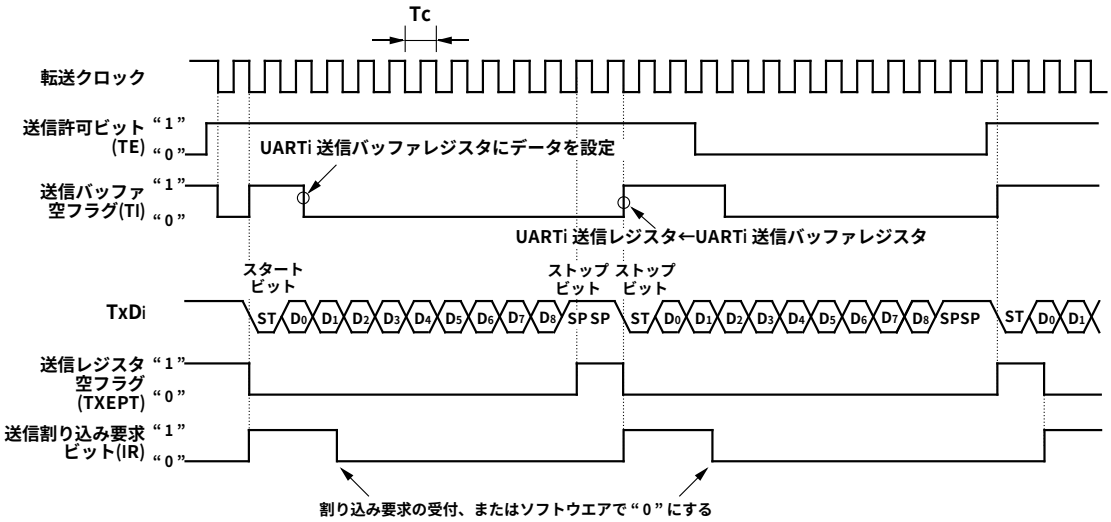


( )内はビットシンボルです。

上記タイミング図は次の設定条件の場合です。
- ●パリティ許可
- ●1ストップビット
- ●CTS 機能選択
- ●送信割り込み要因選択ビット=“1”

Tc = 16(n+1) / fi または 16(n+1) / fEXT
fi：BRGiのカウントソースの周波数（f1,f8,f32）
fEXT：BRGiのカウントソースの周波数（外部クロック）
n：BRGiに設定した値

●転送データ長9ビット時の送信タイミング例(パリティ禁止、2ストップビット)



( )内はビットシンボルです。

上記タイミング図は次の設定条件の場合です。
- ●パリティ禁止
- ●2ストップビット
- ●CTS 機能禁止
- ●送信割り込み要因選択ビット=“0”

Tc = 16(n+1) / fi または 16(n+1) / fEXT
fi：BRGiのカウントソースの周波数（f1,f8,f32）
fEXT：BRGiのカウントソースの周波数（外部クロック）
n：BRGiに設定した値

図1.16.17. UARTモード時の送信タイミング例(UART0、UART1)

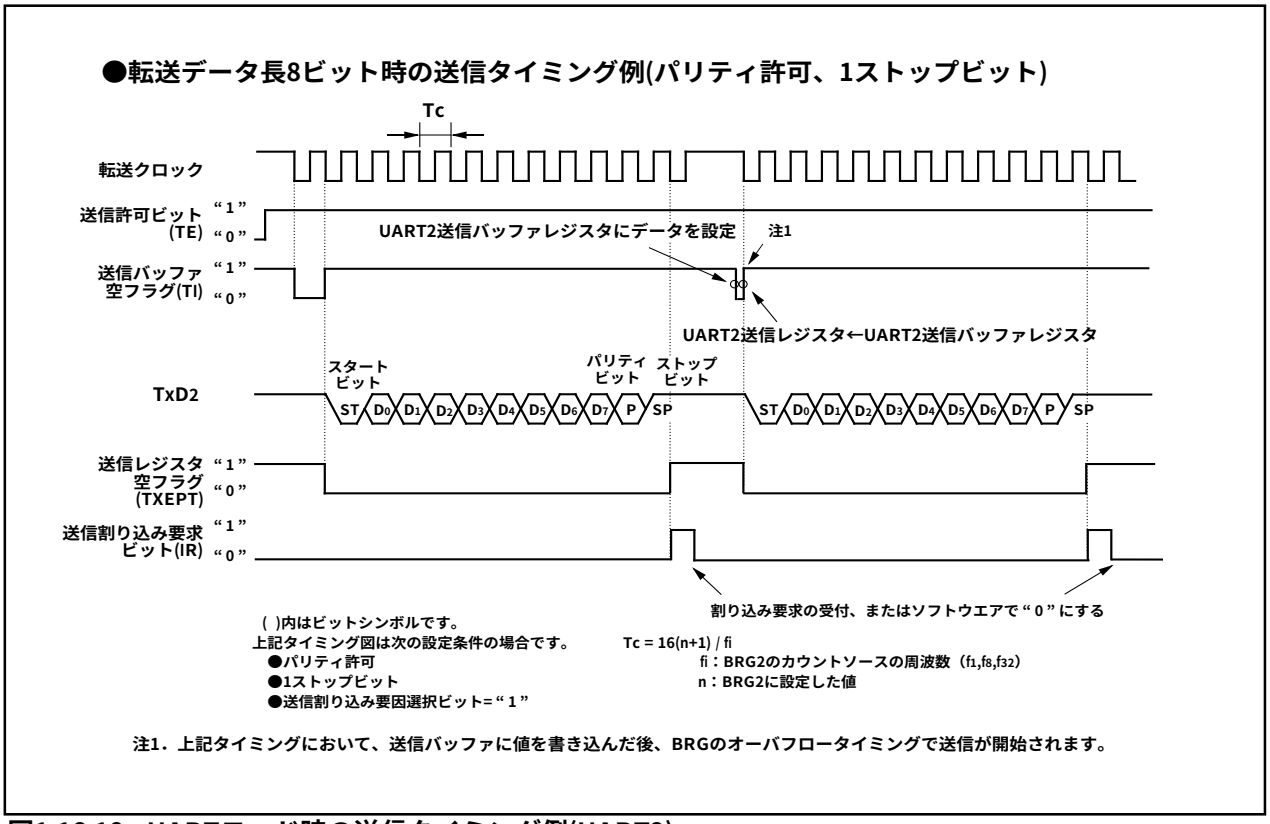


図1.16.18. UARTモード時の送信タイミング例(UART2)

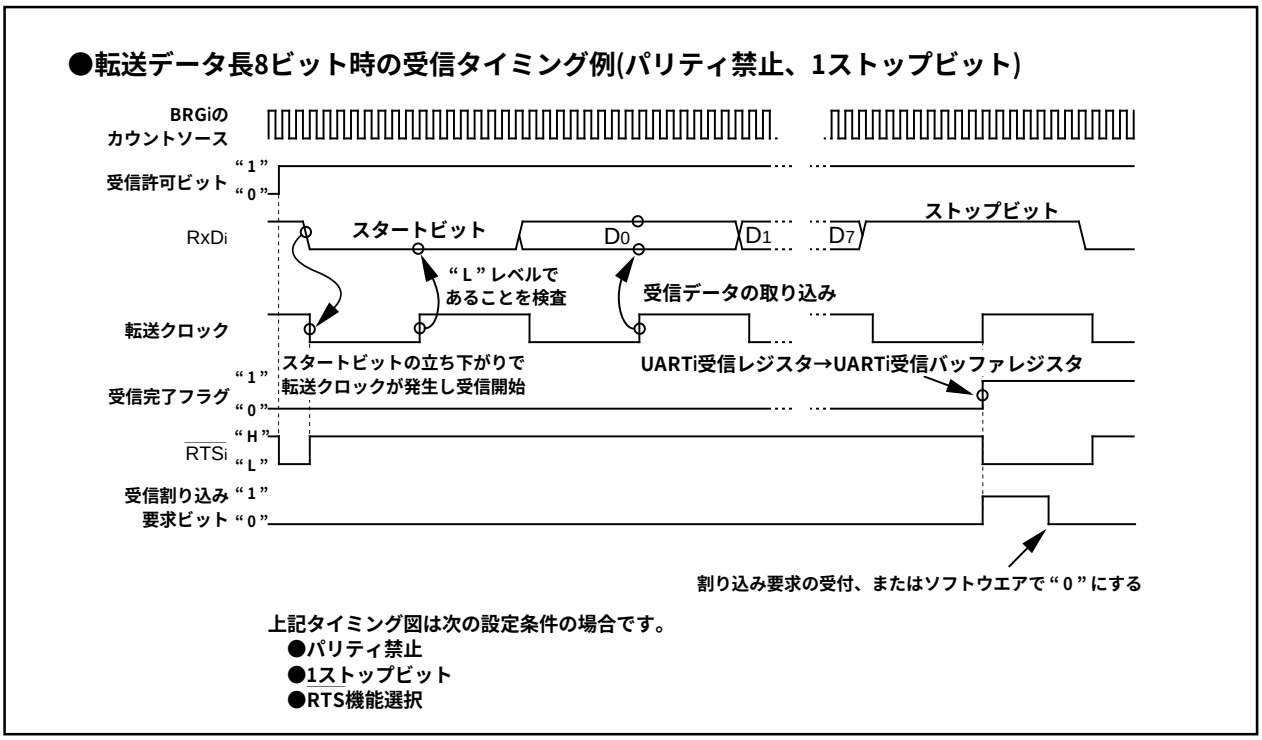


図1.16.19. UARTモード時の受信タイミング例

■スリープモード(UART0、UART1)

UARTiを使用して接続した複数のマイクロコンピュータのうち、特定のマイクロコンピュータ間で転送を行う場合に使用します。受信時、スリープ選択ビット(03A0$_{16}$、03A8$_{16}$番地のビット7)を"1"にすると、スリープモードが選択されます。スリープモードでは、受信データの最上位ビットが"1"のときに受信動作を行い、"0"のときには受信動作を行いません。

■シリアルデータ論理切り替え機能(UART2)

データ論理選択ビット(037D$_{16}$番地のビット6)の内容が"1"のとき、送信バッファレジスタへの書き込み、および受信バッファレジスタからの読み出しの際、データを反転することができます。図1.16.20に、シリアルデータ論理切り替え機能のタイミング例を示します。

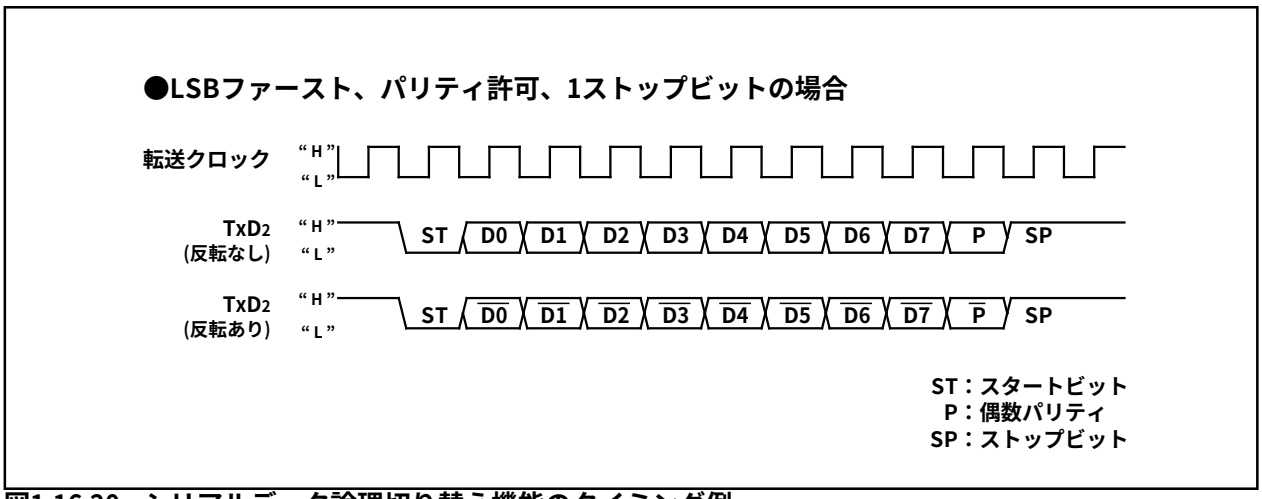


図1.16.20. シリアルデータ論理切り替え機能のタイミング例

■TxD、RxD入出力極性切り替え機能(UART2)

TxD端子出力およびRxD端子入力を反転する機能です。入出力するデータのレベルがすべて(スタートビット、ストップビット、パリティビットを含む)反転します。通常使用時は、“0”（反転なし）に設定してください。

■バス衝突検出機能(UART2)

TxD端子の出力レベルとRxD端子の入力レベルを転送クロックの立ち上がりでサンプリングし、値が異なる場合、割り込み要求が発生します。図1.16.21にバス衝突検出タイミング例(UARTモード時)を示します。

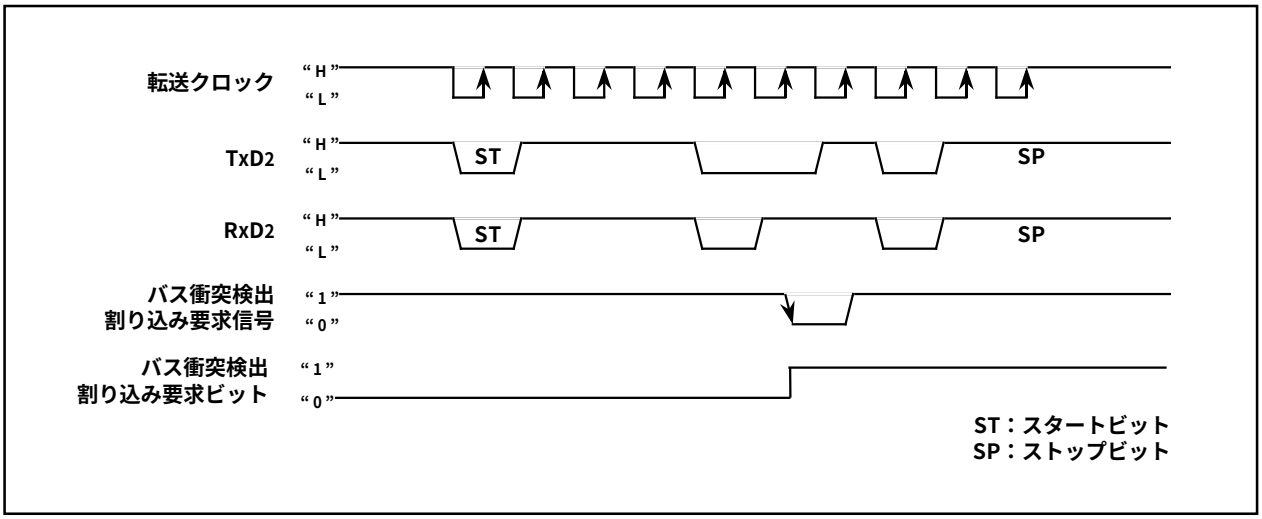


図1.16.21. バス衝突検出タイミング例(UARTモード時)

(3) クロック非同期形シリアルI/Oモード(SIMインタフェース対応)

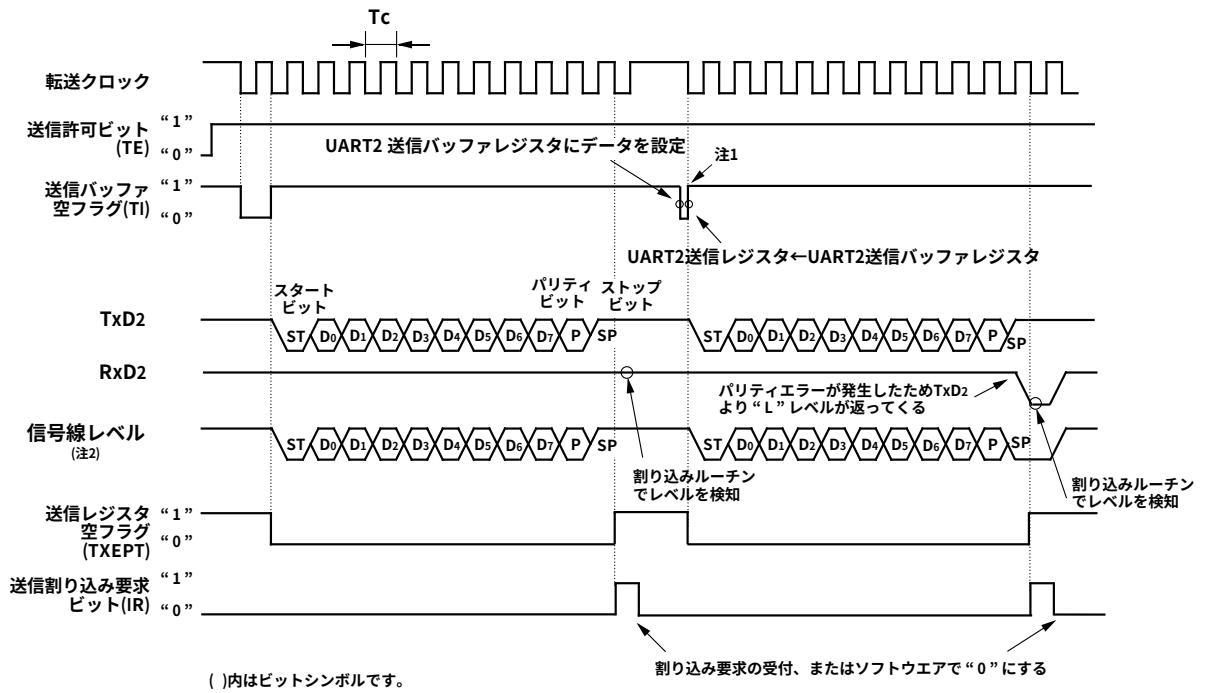
SIMインタフェースは、メモリカード等とインタフェースするための機能で、UART2のクロック非同期形シリアルI/Oモードに一部設定を追加することで実現できます。表1.16.8にクロック非同期形シリアルI/Oモード(SIMインタフェース対応)の仕様を示します。

表1.16.8. クロック非同期形シリアルI/Oモードの仕様(SIMインタフェース対応)

項　目	仕　様
転送データフォーマット	●転送データ　8ビットUARTモード　(0378_{16}番地のビット2～ビット0=“101_2”) ●1ストップビット　(0378_{16}番地のビット4=“0”) ●ダイレクトフォーマットの場合 パリティを偶数パリティに設定　(0378_{16}番地のビット5=“1”、ビット6=“1”) データ論理をダイレクトに設定　($037D_{16}$番地のビット6=“0”) 転送フォーマットをLSBに設定　($037C_{16}$番地のビット7=“0”) ●インバースフォーマットの場合 パリティを奇数パリティに設定　(0378_{16}番地のビット5=“0”、ビット6=“1”) データ論理をインバースに設定　($037D_{16}$番地のビット6=“1”) 転送フォーマットをMSBに設定　($037C_{16}$番地のビット7=“1”)
転送クロック	●内部クロック選択時(0378_{16}番地のビット3=“0”)：fi/16(n+1) (注1)　fi=f_1,f_8,f_{32} (外部クロック選択を設定しないでください)
送信制御/受信制御	●$\overline{CTS}$, $\overline{RTS}$機能禁止に設定　($037C_{16}$番地のビット4=“1”)
その他設定項目	●UART2ではスリープモード選択機能はありません ●送信割り込み要因を送信完了に設定 ($037D_{16}$番地のビット4=“1”)
送信開始条件	●送信開始には、以下の条件が必要です。 ・送信許可ビット($037D_{16}$番地のビット0)=“1” ・送信バッファ空フラグ($037D_{16}$番地のビット1)=“0”
受信開始条件	●受信開始には、以下の条件が必要です。 ・受信許可ビット($037D_{16}$番地のビット2)=“1” ・スタートビットの検出
割り込み要求発生タイミング	●送信時 UART2送信レジスタからデータ転送完了時 ($037D_{16}$番地のビット4=“1”) ●受信時 ・UART2受信レジスタから、UART2受信バッファレジスタへデータ転送完了時
エラー検出	●オーバーランエラー(クロック非同期形シリアルI/Oの仕様を参照してください)(注2) ●フレーミングエラー(クロック非同期形シリアルI/Oの仕様を参照してください) ●パリティエラー(クロック非同期形シリアルI/Oの仕様を参照してください) 受信側は、パリティエラー検出時、パリティエラー信号出力機能($037D_{16}$番地のビット7=“1”)によりTxD2端子から“L”レベルを出力 送信側は、送信割り込み発生時、RxD2端子入力レベルによりパリティエラーを検知 ●エラーサムフラグ(クロック非同期形シリアルI/Oの仕様を参照してください)

注1.　nはUART転送速度レジスタに設定した00_{16}～FF_{16}の値です。

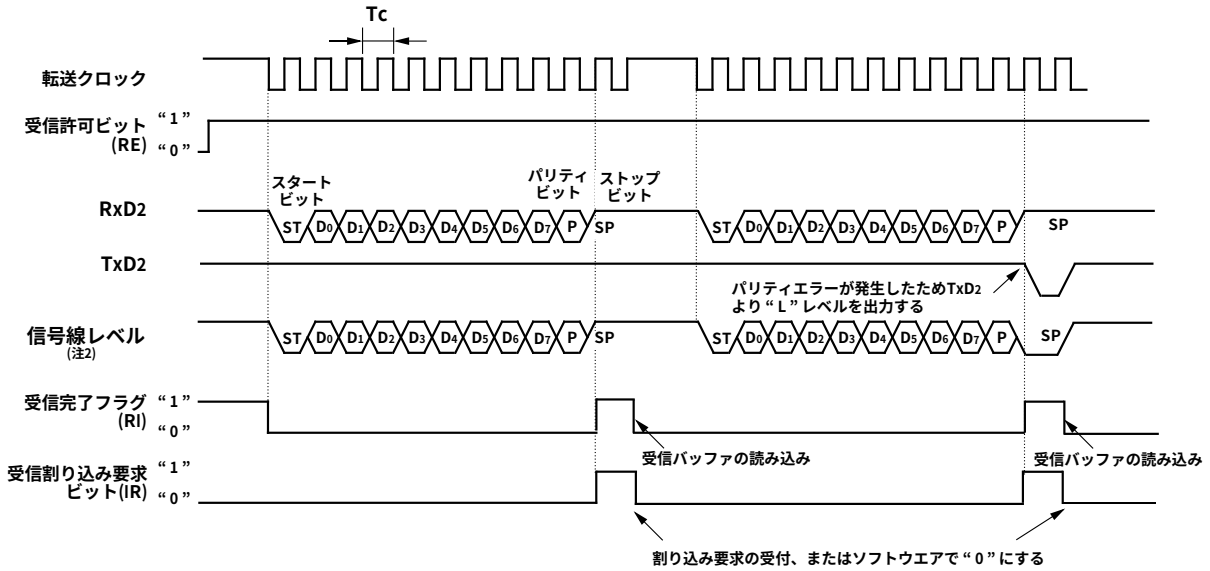
注2.　オーバランエラーが発生した場合は、UART2受信バッファには次のデータが書き込まれます。またUART2受信割り込み要求ビットは変化しません。



( )内はビットシンボルです。
上記タイミング図は次の設定条件の場合です。
●パリティ許可
●1ストップビット
●送信割り込み要因選択ビット=“1”

Tc = 16(n+1) / fi
fi：BRG2のカウントソースの周波数（f_1,f_8,f_{32}）
n：BRG2に設定した値

注1．上記タイミングにおいて、送信バッファに値を書き込んだ後、BRGのオーバフロータイミングで送信が開始されます。



( )内はビットシンボルです。
上記タイミング図は次の設定条件の場合です。
●パリティ許可
●1ストップビット
●送信割り込み要因選択ビット=“1”

Tc = 16(n+1) / fi
fi：BRG2のカウントソースの周波数（f_1,f_8,f_{32}）
n：BRG2に設定した値

注2．TxD_2とRxD_2を接続しているため同じ波形になる

図1.16.22. UARTモード(SIMインタフェース対応)の送受信タイミング例

■パリティエラー信号出力機能

受信時、エラー信号出力許可ビット(037D16番地のビット7)が“1”のとき、パリティエラー検出時にTxD2端子から“L”レベルを出力することができます。また、送信時、エラー信号出力許可ビット(037D16番地のビット7)が“0”のときと比べ、転送クロックの半サイクル分遅れて送信完了割り込みが発生します。したがって、送信完了割り込みのプログラムでパリティーエラー信号を検出することができます。図1.16.23にパリティエラー信号出力タイミングを示します。

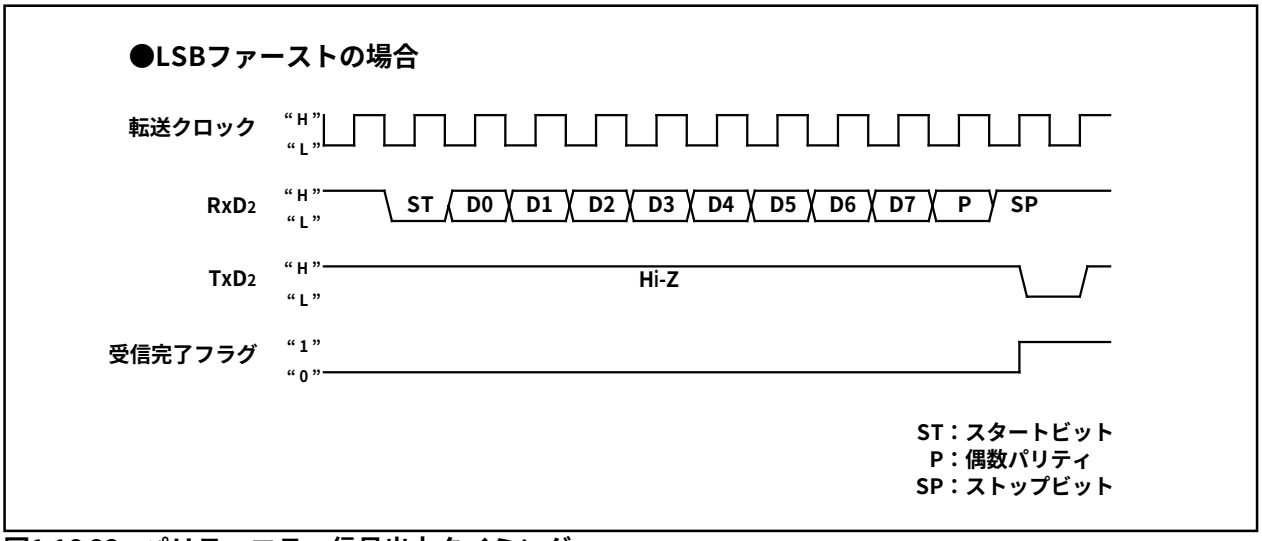


図1.16.23. パリティエラー信号出力タイミング

■ダイレクトフォーマット／インバースフォーマット

接続するSIMカードによって、ダイレクトフォーマット／インバースフォーマットを切り替えることができます。ダイレクトフォーマットを選択するとD0のデータがTxD2から出力されます。インバースフォーマットを選択するとD7のデータが反転してTxD2から出力されます。

図1.16.24にSIMインタフェースフォーマットを示します。

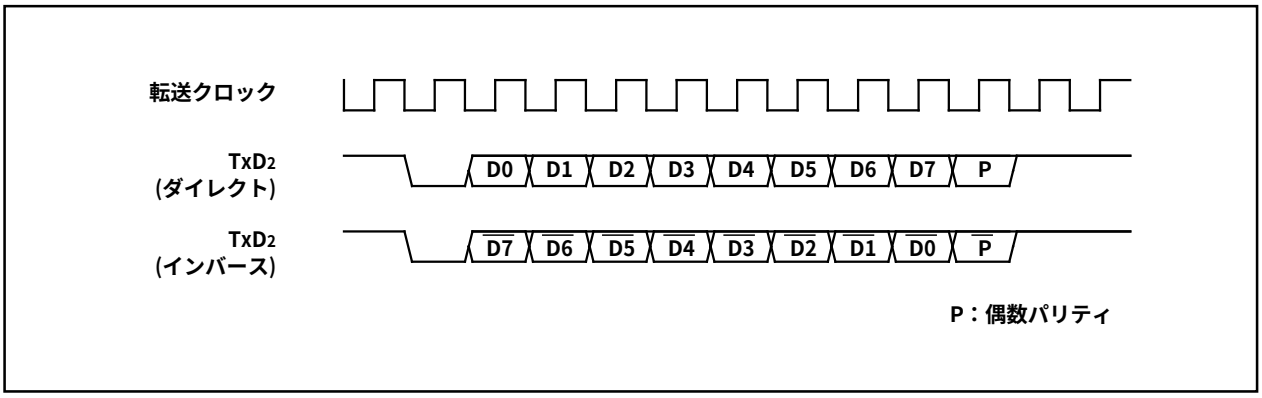


図1.16.24. SIMインタフェースフォーマット

図1.16.25にSIMインタフェースの接続例を示します。TxD2とRxD2を接続してプルアップしてください。

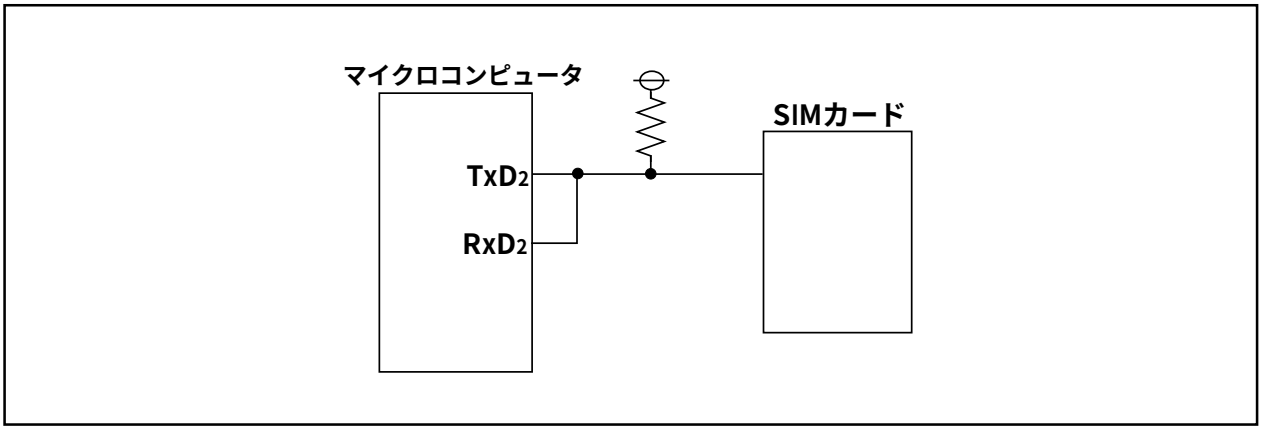


図1.16.25. SIMインタフェース接続例

UART2特殊モードレジスタ

UART2特殊モードレジスタ(0377$_{16}$番地)は、UART2についての様々な制御を行うためのレジスタです。UART2特殊モードレジスタの構成を図1.16.26に示します。

UART2特殊モードレジスタ(0377$_{16}$番地)のビット0はIICモード選択ビットです。このビットを“1”に設定することで、IICバス(簡易IICバス)インタフェースを実現するための回路を有効にします。IICモード選択ビットと各制御の関係を表1.16.9に示します。この機能はクロック同期形シリアルI/Oモードで使用しますので、UARTモードで使用する場合はこのビットを“0”に設定してください。

UART2特殊モードレジスタ

b7 b6 b5 b4 b3 b2 b1 b0

シンボル	アドレス	リセット時
U2SMR	0377$_{16}$番地	80$_{16}$

ビットシンボル	ビット名	機能(ｸﾛｯｸ同期形ｼﾘｱﾙI/Oﾓｰﾄﾞ時)	機能(ｸﾛｯｸ非同期形ｼﾘｱﾙI/Oﾓｰﾄﾞ時)	R	W
IICM	IICモード選択ビット	0：通常モード 1：IICモード	“0”を設定してください	○	○
ABC	アービトレーション ロスト検出フラグ制御	0：ビット毎に更新 1：バイト毎に更新	“0”を設定してください	○	○
BBS	バスビジーフラグ	0：ストップコンディション検出 1：スタートコンディション検出	“0”を設定してください	○	○(注1)
LSYN	SCLL同期出力 許可ビット	0：禁止 1：許可	“0”を設定してください	○	○
ABSCS	バス衝突検出サンプリング クロック選択ビット	“0”を設定してください	0：転送クロックの立ち上がり 1：タイマA0のアンダフロー信号	○	○
ACSE	送信許可ビット自動クリア 機能選択ビット	“0”を設定してください	0：自動クリア機能なし 1：バス衝突発生時自動クリア	○	○
SSS	送信開始条件選択ビット	“0”を設定してください	0：通常 1：RxD2の立ち下がり	○	○
SDDS	SDAディジタル遅延 選択ビット(注2)	0：IICモード時以外は“0”を設定してください。 1：ディジタルディレイ出力選択	“0”を設定してください	○	○

注1. “0”だけ書き込み可。
注2. 本機能はIICモード時以外は“1”を書き込まないでください。通常モード時は“0”を設定してください。
本ビットが“0”の場合はUART2特殊モードレジスタ3(U2SMR3／0375$_{16}$番地)のビット7～ビット5(DL2～DL0＝SDAディジタル遅延値設定ビット)が初期化され“000”となります。また、SDDS＝“0”の場合にはU2SMR3の読み出し、書き込みはできません。

UART2特殊モードレジスタ3(IICバス専用レジスタ)

b7 b6 b5 b4 b3 b2 b1 b0

シンボル	アドレス	リセット時
U2SMR3	0375$_{16}$番地	“00$_{16}$”

ビットシンボル	ビット名	機能(IICバス専用)	R	W
何も配置されていない。 書き込む場合、”0”を書き込んでください。読み出した場合、その値は不定。 ただし、SDDS＝1とした場合は“0”が読み出される(注1)。			—	—
DL0	SDAディジタル 遅延値設定ビット (注1、注2、注3)	b7 b6 b5 ０００：IICモード時は設定しないでください ００１：1/f(XIN)の1～2サイクル(ディジタル遅延) ０１０：1/f(XIN)の2～3サイクル(ディジタル遅延) ０１１：1/f(XIN)の3～4サイクル(ディジタル遅延) １００：1/f(XIN)の4～5サイクル(ディジタル遅延) １０１：1/f(XIN)の5～6サイクル(ディジタル遅延) １１０：1/f(XIN)の6～7サイクル(ディジタル遅延) １１１：1/f(XIN)の7～8サイクル(ディジタル遅延)	○	○
DL1			○	○
DL2			○	○

注1. 本ビットはUART2特殊モードレジスタ（U2SMR／0377$_{16}$番地）のビット7(SDDS＝SDAディジタル遅延選択ビット)が“1”のときのみ読み出し、書き込み可能です。SDDS＝“1”にしてUART2特殊モードレジスタ3(U2SMR3)の初期値を読み出した場合、その値は“00$_{16}$”です。SDDS＝“1”にしてUART2特殊モードレジスタ3(U2SMR3)に書き込む場合、ビット0～ビット4には“0”を書き込んでください。SDDS＝“0”のときは書き込み不可、読み出した場合、その値は不定です。
注2. 本ビットはSDDS＝“0”のときには初期化され“000”となります。本ビットはリセット解除時は“000”となります。ただし、SDDS＝“1”とした場合のみ読み出し可能のため、SDDS＝“0”の場合、読み出した値は不定です。
注3. 遅延量はSCL端子、SDA端子の負荷により変化します。また、外部クロックを使用した場合には、200ns程度、遅延が大きくなりますので、評価の上、使用してください。

図1.16.26. UART2特殊モードレジスタ

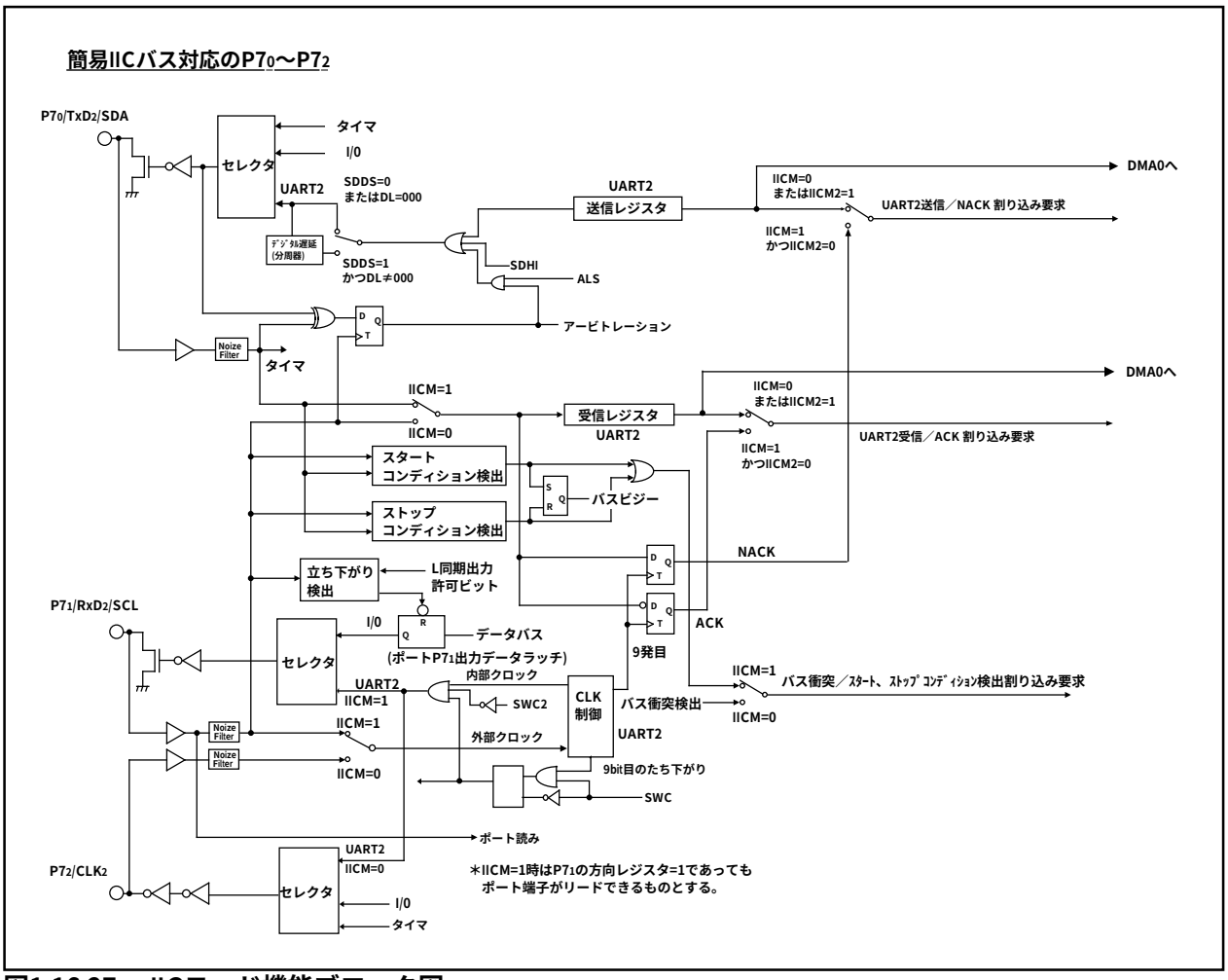


図1.16.27.　IICモード機能ブロック図

表1.16.9.　IICモード時の各機能

	機　能	通常モード	IICモード(注1)
1	割り込み番号10の要因 (注2)	バス衝突検出	スタートコンディション検出 またはストップコンディション検出
2	割り込み番号15の要因 (注2)	UART2送信	アクノリジ未検出 (NACK)
3	割り込み番号16の要因 (注2)	UART2受信	アクノリジ検出 (ACK)
4	UART2送信出力delay	delayなし	delayあり(デジタル/delay)
5	UART2使用時のP70	TxD2 (出力)	SDA (入出力) (注3)
6	UART2使用時のP71	RxD2 (入力)	SCL (入出力)
7	UART2使用時のP72	CLK2	P72
8	Noize Filter 幅	15ns	200ns
9	P71のリード	方向レジスタ=0の時 端子をリードする。	方向レジスタの値に関係なく 端子をリードする。
10	UART2出力の初期値	Hレベル (CLK極性選択ビット=0時)	ポート選択時にP70ラッチに設定した値

注1.　IICモード使用時は以下の設定にしてください。
UART2送受信モードレジスタのビット2,1,0を
"010₂"に設定してください。
RTS／CTS機能は禁止してください。
MSBファーストに設定してください。

注2.　要因を切り替える時は以下の手順で行ってください。
1. 対応するNoの割り込み禁止。
2. 要因の切り替え。
3. 対応するNoの割り込み要求フラグリセット。
4. 対応するNoの割り込みレベル設定。

注3.　SDA送信出力の初期値の設定は、シリアルI/Oが無効の状態で行ってください。

IICモードの機能を図1.16.27の機能ブロック図に示します。IICモード選択ビット(IICM)を“1”に設定すると、ポートP7$_0$，P7$_1$，P7$_2$の機能がそれぞれデータ送受信端子SDA、クロック入出力端子SCL、ポートP7$_2$となります。SDA送信出力にはディレイ回路が付加されますので、SCLが十分“L”になった後、SDA出力が変化します。遅延値をUART2特殊モードレジスタ3(037$5_{16}$番地)によってf1の2サイクルから8サイクルまで選択することができます。遅延回路選択条件を表1.16.10に示します。

表1.16.10.　遅延回路選択条件

	レジスタ値			内　　容
	IICM	SDDS	DL	
デジタル遅延選択	1	1	001 ～ 111	デジタル遅延が付加されます。
遅延なし	0	0	(000)	IICM=“0”の時遅延回路は選択されません。ただし、IICM=“0”の時は必ずSDDS=“0”にしてください。

ポートP7$_1$(SCL)を読み出す際は、ポート方向レジスタの内容にかかわらず、端子のレベルが読み出せます。SDA送信出力の初期値は、ポートP7$_0$に設定した値になります。さらに、バス衝突検出割り込み、UART2送信割り込み、UART2受信割り込みの各割り込み要因がそれぞれスタート/ストップコンディション検出割り込み、アクノリッジ未検出割り込み、アクノリッジ検出割り込みに変わります。

スタートコンディション検出割り込みとは、SCL端子(P7$_1$)が“H”の状態でSDA端子(P7$_0$)の立ち下がりが発生したことを検出して発生する割り込みです。ストップコンディション検出割り込みとは、SCL端子(P7$_1$)が“H”の状態でSDA端子(P7$_0$)の立ち上がりが発生したことを検出して発生する割り込みです。バスビジーフラグ(UART2特殊モードレジスタのビット2)はスタートコンディション検出で“1”にセットされ、ストップコンディション検出で“0”にクリアされます。

アクノリッジ未検出割り込みとは、送信クロックの9発目の立ち上がり時のSDA端子のレベルが“H”のままであることを検出して発生する割り込みです。アクノリッジ検出割り込みとは、送信クロックの9発目の立ち上がり時のSDA端子のレベルが“L”になっていることを検出して発生する割り込みです。

UART2特殊モードレジスタ(037$7_{16}$番地)のビット1はアービトレーションロスト検出フラグ制御ビットです。アービトレーションとはSCLの立ち上がりのタイミングで送信データとSDA端子データの不一致を検出するものです。この検出フラグはUART2受信バッファレジスタ(037F$_{16}$番地、037E$_{16}$番地)のビット11に配置されており、不一致を検出すると“1”にセットされます。このフラグの更新を各ビットごとに行うかバイトごとに行うかをアービトレーションロスト検出フラグ制御ビットで選択します。このビットを“1”にすることで、バイトごとに設定され、不一致が検出された場合、9発目のクロックの立ち下がりでアービトレーションロスト検出フラグが“1”になります。なお、バイトごとに更新を行う場合は、1バイト目のアクノリッジ検出完了後、次の1バイトの転送を開始する前に、必ずアービトレーションロスト検出フラグの判定とクリア(“0”書き込み)を行ってください。

UART2特殊モードレジスタ(037$7_{16}$番地)のビット3はSCL　L同期出力許可ビットです。このビットを“1”に設定すると、SCL端子のレベルが“L”になることに同期してP7$_1$のデータレジスタが“0”になります。

次に、その他の追加された機能について説明します。その動作を図1.16.28に示します。

UART2特殊モードレジスタのビット4はバス衝突検出サンプリングクロック選択ビットです。バス衝突検出割り込みとはRxD2とTxD2のレベルが一致していないときに割り込みを発生するものですが、このビットが“0”の場合、転送クロックの立ち上がりに同期して不一致を検出します。このビットが“1”の場合、転送クロックの立ち上がりではなく、タイマA0のオーバフローのタイミングで検出します。

UART2特殊モードレジスタのビット5は送信許可ビット自動クリア機能選択ビットです。このビットを“1”にすることによって、バス衝突検出割り込み要求ビットが“1”(不一致検出)のとき、送信許可ビットを自動的に“0”にリセットします。

UART2特殊モードレジスタのビット6は、送信開始条件選択ビットです。このビットを“1”にすることで、RxD端子の立ち下がりに同期して、TxD送信を開始します。

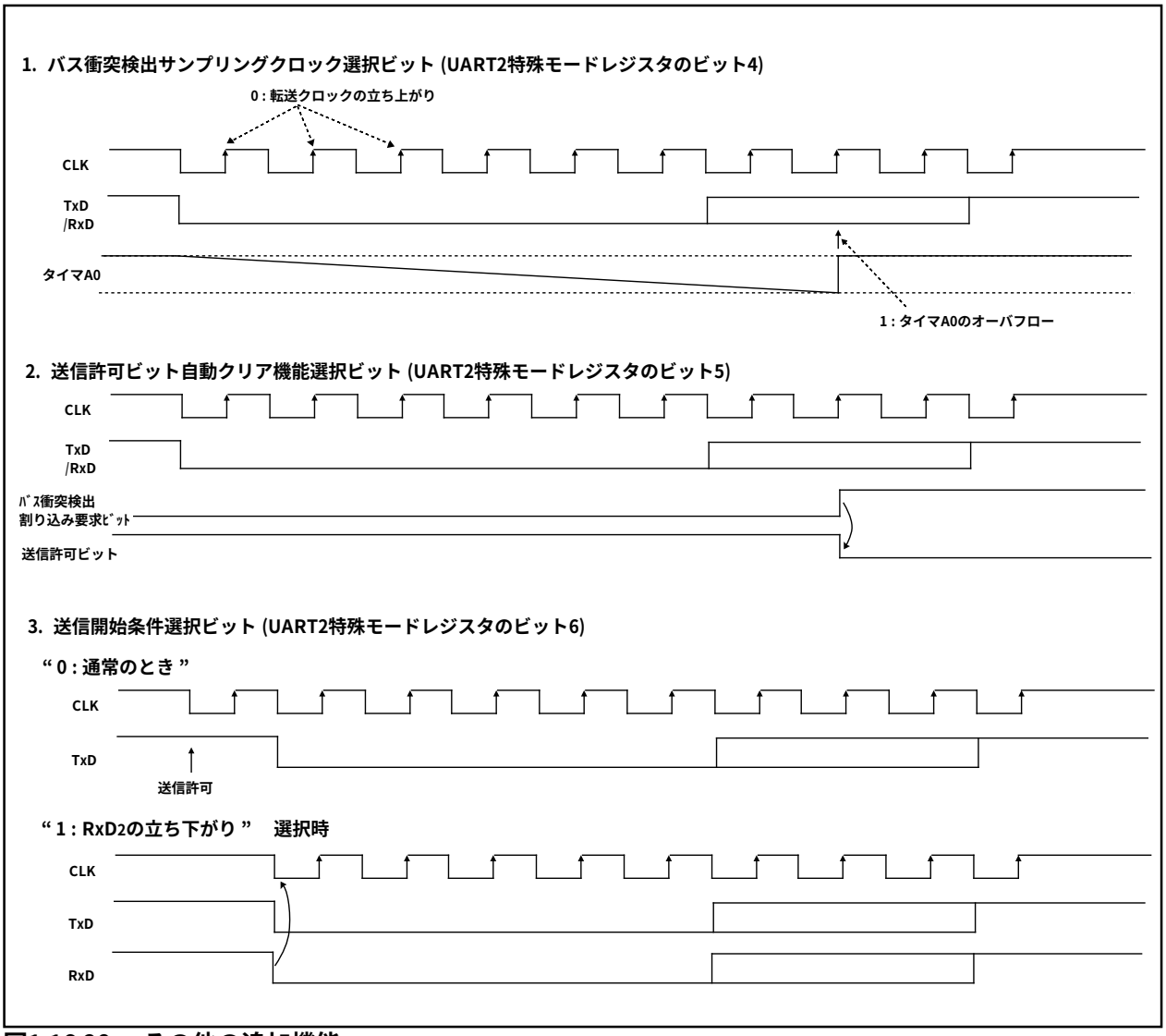


図1.16.28. その他の追加機能

UART2特殊モードレジスタ2

UART2特殊モードレジスタ2(0376$_{16}$番地)は、UART2のIICモードについて、さらに制御を行うためのレジスタです。UART2特殊モードレジスタ2の構成を図1.16.29に示します。

UART2特殊モードレジスタ2

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0

シンボル	アドレス	リセット時
U2SMR2	0376$_{16}$番地	00$_{16}$

ビットシンボル	ビット名	機能	R	W
IICM2	IICモード選択ビット2	表1.16.11参照	○	○
CSC	クロック同期化ビット	0 : 禁止 1 : 許可	○	○
SWC	SCLウエイト出力ビット	0 : 禁止 1 : 許可	○	○
ALS	SDA出力停止ビット	0 : 禁止 1 : 許可	○	○
STAC	UART2初期化ビット	0 : 禁止 1 : 許可	○	○
SWC2	SCLウエイト出力ビット2	0 : UART2クロック 1 : 0出力	○	○
SDHI	SDA出力禁止ビット	0 : 許可 1 : 禁止 (ハイインピーダンス)	○	○
SHTC	スタート/ストップコンディション条件制御ビット	1 : IICモード選択時、“1”に設定してください。 (表1.16.12参照)	○	○

図1.16.29.　UART2特殊モードレジスタ2

UART2特殊モードレジスタ2

UART2特殊モードレジスタ2(037616番地)のビット0はIICモード選択ビット2です。IICモード選択ビットが“1”のときにIICモード選択ビット2により変更される各制御を表1.16.11に示します。スタートコンディションおよびストップコンディション検出のタイミング特性を表1.16.12に示します。IICモード選択時、スタート/ストップコンディション条件制御ビット(UART2特殊モードレジスタ2のビット7)は“1”に設定してください。

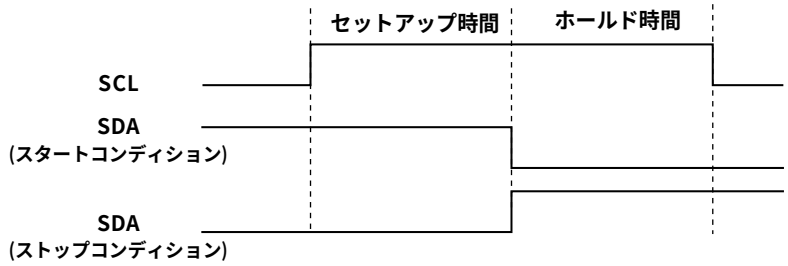
表1.16.11. IICモード選択ビット2によって変更される各機能

	機能	IICM2 = 0	IICM2 = 1
1	割り込み番号15の要因	アクノリッジ未検出 (NACK)	UART2送信(最終ビットのクロックの立ち上がり)
2	割り込み番号16の要因	アクノリッジ検出 (ACK)	UART2受信(最終ビットのクロックの立ち下がり)
3	UART2受信シフトレジスタから受信バッファへのデータ転送タイミング	受信クロックの最終ビットの立ち上がり	受信クロックの最終ビットの立ち下がり
4	UART2受信/ACK割り込み要求発生タイミング	受信クロックの最終ビットの立ち上がり	受信クロックの最終ビットの立ち下がり

表1.16.12. スタート/ストップコンディション検出タイミング特性(注1)

3～6サイクル < セットアップ時間	(注2)
3～6サイクル < ホールド時間	(注2)

注1. スタート/ストップコンディション条件制御ビットSHTC=“1”の場合。
注2. サイクル数はメインクロック入力発振周波数f(XIN)のサイクル数を示します。



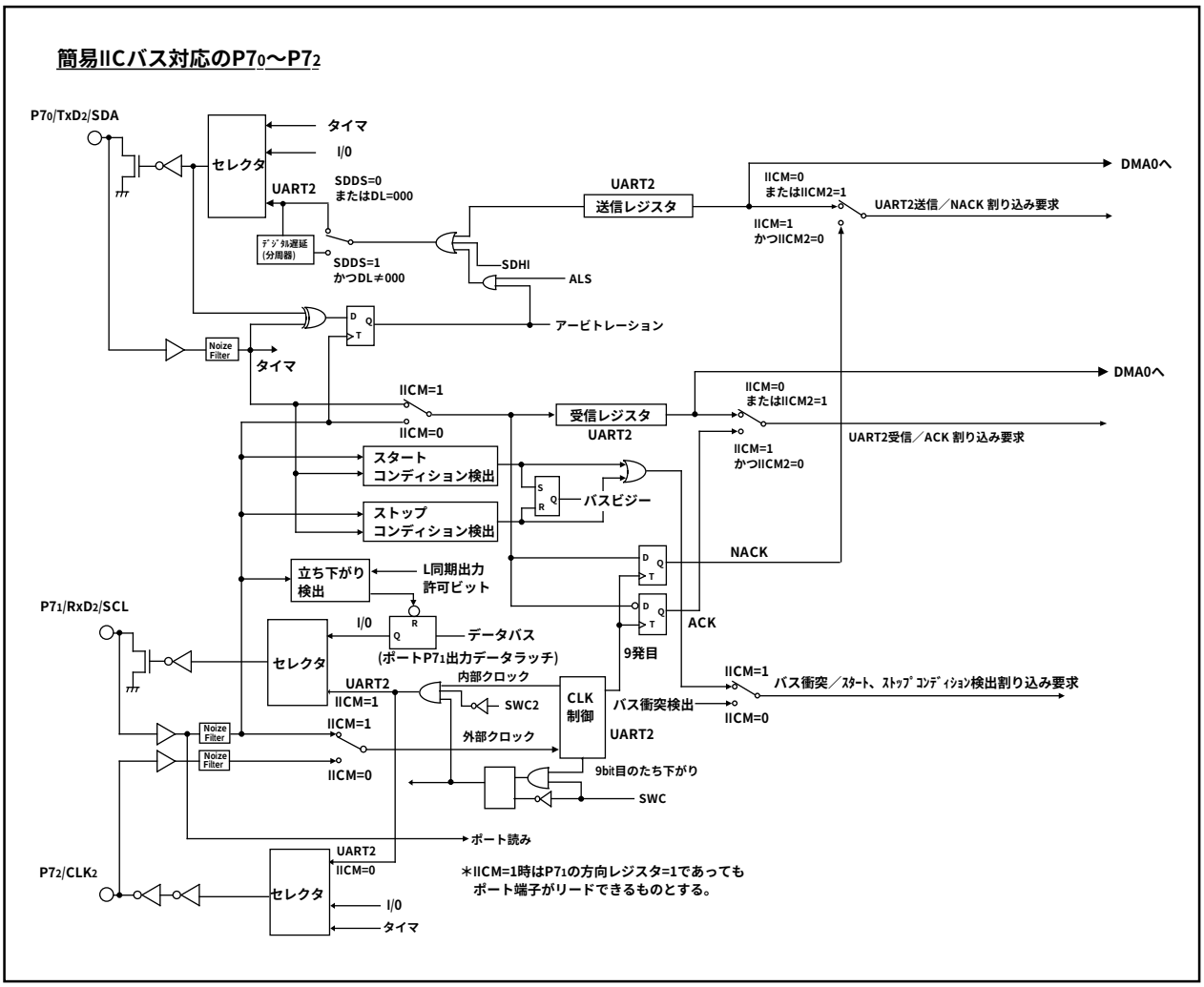


図1.16.30.　IICモード機能ブロック図

IICモードの機能を図1.16.30の機能ブロック図に示します。

UART2特殊モードレジスタ2(037616番地)のビット3はSDA出力停止ビットです。このビットを“1”にすると、アービトレーションロストが発生しアービトレーションロスト検出フラグが“1”になった場合、同時にSDA端子がハイインピーダンス状態になります。

UART2特殊モードレジスタ2(037616番地)のビット1はクロック同期化ビットです。このビットを“1”に設定すると、内部SCL=“H”時、SCL端子に立ち下がりエッジがあれば内部SCL=“L”とし、ボーレートジェネレータの値をリロードしてL区間のカウントを開始します。また、SCL端子=“L”時、内部SCLが“L”から“H”に変化すればボーレートジェネレータのカウントを停止し、SCL端子=“H”になればカウントを再開します。この機能によりUART2の送受信クロックは、内部SCLとSCL端子の信号をANDしたものになります。この機能はUART2の1発目のクロックの立ち下がり時点よりクロックの半周期前から9ビット目の立ち上がりまでの期間で動作します。この機能を使用する場合、転送クロックは内部クロックを選択してください。

UART2特殊モードレジスタ2(037616番地)のビット2はSCLウエイト出力ビットです。このビットを“1”にすると、クロックの9ビット目の立ち下がりでSCL端子は“L”出力固定になります。このビットを“0”にすると“L”出力固定は解除されます。

UART2特殊モードレジスタ2

UART2特殊モードレジスタ2(0376$_{16}$番地)のビット4はUART2初期化ビットです。このビットを“1”にし、スタートコンディションを検出すると以下のように動作します。

(1) 送信シフトレジスタは初期化され、送信レジスタの内容が送信シフトレジスタに転送されます。
これにより、次に入力されたクロックを1ビット目として送信が開始されます。ただし、UART2出力値は、クロックが入って1ビット目のデータが出力されるまでの間は変化せず、スタートコンディションを検出した時点の値のままです。

(2) 受信シフトレジスタは初期化され、次に入力されたクロックを1ビット目として受信が開始されます。

(3) SCLウエイト出力ビットが“1”になります。これにより、クロックの9ビット目の立ち下がりでSCL端子が“L”になります。

なお、この機能を使用しUART2の送受信を開始した場合、送信バッファ空フラグの値は変化しません。
また、この機能を使用する場合、転送クロックは外部クロックを選択してください。

UART2特殊モードレジスタ2(0376$_{16}$番地)のビット5はSCL端子ウエイト出力ビット2です。シリアルI/O指定時にこのビットを“1”にすることにより、UART2動作中でもSCL端子から強制的に“L”を出力することができます。このビットを“0”にすることにより、SCL端子からの“L”出力は解除され、UART2クロックが入出力されます。

UART2特殊モードレジスタ2(0376$_{16}$番地)のビット6はSDA出力禁止ビットです。このビットを“1”にすると、SDA端子が強制的にハイインピーダンス状態になります。なお、このビットの書き替えはUART2の転送クロックの立ち上がりのタイミングでは行わないでください。アービトレーションロスト検出フラグがセットされる場合があります。

A-D変換器

容量結合増幅器で構成され、10ビットの逐次比較変換方式のA-D変換器を1回路内蔵しています。アナログ信号入力端子は、$P10_0$～$P10_7$、$P9_5$、$P9_6$と共用していますのでA-D変換を行う端子に対応する方向レジスタは入力に設定してください。また、Vref接続ビット($03D7_{16}$番地のビット5)によりA-D変換器を使用しないとき、A-D変換器の抵抗ラダーと基準電圧入力端子(V_{REF})を切り離すことができます。切り離すことにより、V_{REF}端子から抵抗ラダーには電流が流れなくなり、消費電力を少なくすることができます。A-D変換器を使用する場合は、V_{REF}を接続してからA-D変換をスタートさせてください。

A-D変換した結果は、選択した端子に対応したA-Dレジスタに格納されます。変換精度を10ビットに設定した場合は、下位8ビットが偶数番地に、上位2ビットが奇数番地に格納され、8ビットに設定した場合は、下位8ビットだけが偶数番地に格納されます。

表1.17.1にA-D変換器の性能を、図1.17.1にA-D変換器のブロック図を、図1.17.2、図1.17.3にA-D変換器関連のレジスタを示します。

表1.17.1. A-D変換器の性能

項　目	性　能
A-D変換方式	逐次比較変換方式(容量結合増幅器)
アナログ入力電圧(注1)	0V～AV_{CC}(V_{CC})
動作クロックϕ_{AD}(注2)	V_{CC}=3.3Vのとき f_{AD}/f_{AD}の2分周/f_{AD}の4分周 f_{AD}=f(X_{IN})
分解能	8/10ビット選択可能
絶対精度	V_{CC} = 3.3Vのとき ●サンプル&ホールド機能なし ±5LSB ●サンプル&ホールド機能あり(分解能8ビット) ±2LSB ●サンプル&ホールド機能あり(分解能10ビット) AN_0～AN_7入力の場合±5LSB ANEX0, ANEX1入力の場合(外部オペアンプ接続モードを含む)±7LSB
動作モード	単発モード
アナログ入力端子	8本(AN_0～AN_7) + 2本(ANEX0, ANEX1)
A-D変換開始条件	●ソフトウエアトリガ A-D変換開始フラグを“1”にするとA-D変換を開始 ●外部トリガ(再トリガ可能) A-D変換開始フラグを“1”にし、かつAD_{TRG}/$P9_7$入力が“H”から“L”の変化でA-D変換を開始
1端子あたりの変換速度	●サンプル&ホールドなし 分解能8ビットの場合49ϕ_{AD}サイクル 分解能10ビットの場合59ϕ_{AD}サイクル ●サンプル&ホールドあり 分解能8ビットの場合28ϕ_{AD}サイクル 分解能10ビットの場合33ϕ_{AD}サイクル

注1. サンプル&ホールド機能の有無に依存しません。

注2. f(X_{IN})が10MHzを超える場合はf_{AD}を分周し、ϕ_{AD}の周波数を10MHz以下にしてください。また、V_{CC}が3.0V未満の場合もf_{AD}を分周し、ϕ_{AD}の周波数がf_{AD}/2以下になるようにしてください。
サンプル&ホールド機能なしのときϕ_{AD}の周波数は250kHz以上にしてください。
サンプル&ホールド機能ありのときϕ_{AD}の周波数は1MHz以上にしてください。

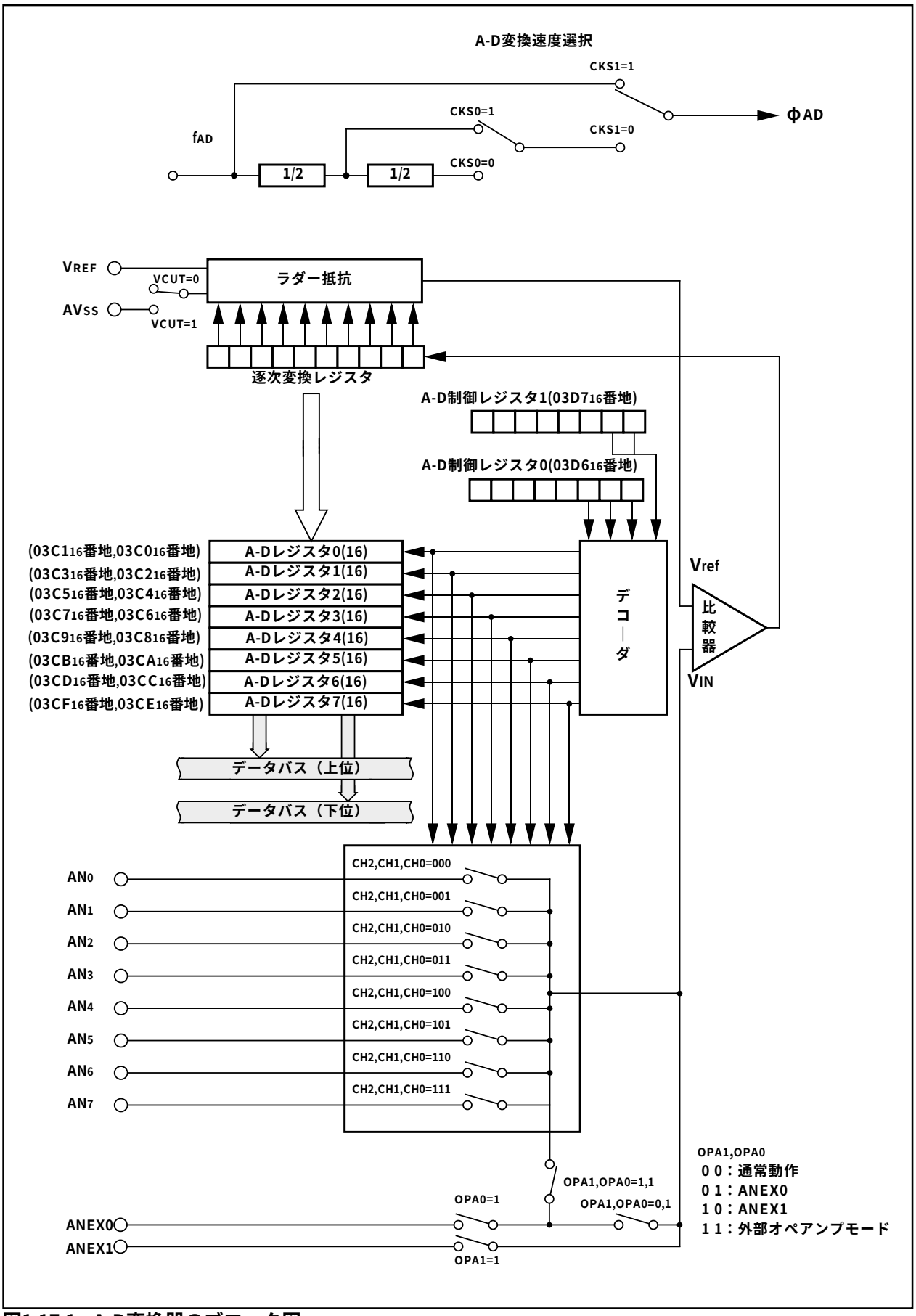


図1.17.1. A-D変換器のブロック図

A-D制御レジスタ0(注1)

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0

シンボル	アドレス	リセット時
ADCON0	$03D6_{16}$番地	$00000XXX_2$

ビットシンボル	ビット名	機　　能	R	W
CH0	アナログ入力端子選択ビット	b2 b1 b0 0 0 0 : AN_0を選択 0 0 1 : AN_1を選択 0 1 0 : AN_2を選択 0 1 1 : AN_3を選択 1 0 0 : AN_4を選択 1 0 1 : AN_5を選択 1 1 0 : AN_6を選択 1 1 1 : AN_7を選択	○	○
CH1			○	○
CH2			○	○
MD0	A-D動作モード選択ビット0	b4 b3 0 0 : 単発モード “ 00 ” 以外は設定しないでください	○	○
MD1			○	○
TRG	トリガ選択ビット	0 : ソフトウエアトリガ 1 : $\overline{AD_{TRG}}$によるトリガ	○	○
ADST	A-D変換開始フラグ	0 : A-D変換停止 1 : A-D変換開始	○	○
CKS0	周波数選択ビット0	0 : $f_{AD}/4$を選択 1 : $f_{AD}/2$を選択	○	○

注1.　A-D変換中にA-D制御レジスタの内容を書き替えた場合、変換結果は不定です。

A-D制御レジスタ1(注1)

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
					0	0	0

シンボル	アドレス	リセット時
ADCON1	$03D7_{16}$番地	00_{16}

ビットシンボル	ビット名	機　　能	R	W
予約ビット		必ず “ 0 ” を設定してください	○	○
BITS	8/10ビットモード選択ビット	0 : 8ビットモード 1 : 10ビットモード	○	○
CKS1	周波数選択ビット1	0 : $f_{AD}/2$または $f_{AD}/4$を選択 1 : f_{AD}を選択	○	○
VCUT	Vref接続ビット	0 : Vref未接続 1 : Vref接続	○	○
OPA0	外部オペアンプ接続モードビット	b7 b6 0 0 : ANEX0, ANEX1は使用しない 0 1 : ANEX0入力をAD変換 1 0 : ANEX1入力をAD変換 1 1 : 外部オペアンプ接続モード	○	○
OPA1			○	○

注1.　A-D変換中にA-D制御レジスタの内容を書き替えた場合、変換結果は不定です。

図1.17.2.　A-D変換器関連レジスタ(1)

A-D制御レジスタ2(注1)

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
╳	╳	╳	╳	0	0	0	

シンボル	アドレス	リセット時
ADCON2	$03D4_{16}$番地	$0000XXX0_2$

ビットシンボル	ビット名	機　　能	R	W
SMP	A-D変換方式選択ビット	0 : サンプル&ホールドなし 1 : サンプル&ホールドあり	○	○
予約ビット		必ず“0”を設定してください	○	○
何も配置されていない。 書き込む場合、“0”を書き込んでください。読み出した場合、その内容は“0”。			—	—

注1.　A-D変換中にA-D制御レジスタの内容を書き替えた場合、変換結果は不定となります。

A-Dレジスタi

シンボル	アドレス	リセット時
ADi(i=0～7)	$03C0_{16}$番地～$03CF_{16}$番地	不定

(b15) b7							(b8) b0	b7 b0
╳	╳	╳	╳	╳	╳	╳		

機　　能	R	W
A-D変換結果の下位8ビット	○	×
●10ビットモード時 AD変換結果の上位2ビット	○	×
●8ビットモード時 読み出した場合、その値は不定	×	×
何も配置されていない。 書き込む場合、“0”を書き込んでください。 読み出した場合、その値は“0”。	—	—

図1.17.3.　A-D変換器関連レジスタ(2)

(1) 単発モード

アナログ入力端子選択ビットで選択した1本の端子を1回A-D変換するモードです。表1.17.2に単発モードの仕様、図1.17.4に単発モード時のA-D制御レジスタ構成を示します。

表1.17.2. 単発モードの仕様

項　　目	仕　　様
機能	アナログ入力端子選択ビットで選択した1本の端子を1回A-D変換する
開始条件	A-D変換開始フラグへの“1”書き込み
停止条件	●A-D変換終了(A-D変換開始フラグは“0”になる。ただし外部トリガ選択時は除く) ●A-D変換開始フラグへの“0”書き込み
割り込み要求発生タイミング	A-D変換終了時
入力端子	AN_0～AN_7より1端子を選択
A-D変換値の読み出し	選択した端子に対応したA-Dレジスタの読み出し

A-D制御レジスタ0(注1)

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
			0	0			

シンボル	アドレス	リセット時
ADCON0	$03D6_{16}$番地	$00000XXX_2$

ビットシンボル	ビット名	機　　能	R	W
CH0	アナログ入力端子選択ビット	b2 b1 b0 0 0 0 : AN_0を選択 0 0 1 : AN_1を選択 0 1 0 : AN_2を選択 0 1 1 : AN_3を選択 1 0 0 : AN_4を選択 1 0 1 : AN_5を選択 1 1 0 : AN_6を選択 1 1 1 : AN_7を選択	○	○
CH1			○	○
CH2			○	○
MD0	A-D動作モード選択ビット0	b4 b3 0 0 : 単発モード	○	○
MD1			○	○
TRG	トリガ選択ビット	0 : ソフトウエアトリガ 1 : $\overline{AD_{TRG}}$によるトリガ	○	○
ADST	A-D変換開始フラグ	0 : A-D変換停止 1 : A-D変換開始	○	○
CKS0	周波数選択ビット0	0 : $f_{AD}/4$を選択 1 : $f_{AD}/2$を選択	○	○

注1.　A-D変換中にA-D制御レジスタの内容を書き替えた場合、変換結果は不定です。

A-D制御レジスタ1(注1)

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
		1			0	0	0

シンボル	アドレス	リセット時
ADCON1	$03D7_{16}$番地	00_{16}

ビットシンボル	ビット名	機　　能	R	W
予約ビット		必ず“0”を設定してください	○	○
BITS	8/10ビットモード選択ビット	0 : 8ビットモード 1 : 10ビットモード	○	○
CKS1	周波数選択ビット1	0 : $f_{AD}/2$または $f_{AD}/4$を選択 1 : f_{AD}を選択	○	○
VCUT	Vref接続ビット	1 : Vref接続	○	○
OPA0	外部オペアンプ接続モードビット	b7 b6 0 0 : ANEX0, ANEX1は使用しない 0 1 : ANEX0入力をAD変換 1 0 : ANEX1入力をAD変換 1 1 : 外部オペアンプ接続モード	○	○
OPA1			○	○

注1.　A-D変換中にA-D制御レジスタの内容を書き替えた場合、変換結果は不定です。

図1.17.4. 単発モード時のA-D制御レジスタ

■サンプル&ホールド

A-D制御レジスタ2(03D4$_{16}$番地)のビット0の内容を“1”にすることによって、サンプル&ホールドを選択できます。サンプル&ホールドを選択したときは1端子あたりの変換速度も向上し、分解能8ビットの場合28φ$_{AD}$サイクル、分解能10ビットの場合33φ$_{AD}$サイクルです。サンプル&ホールドは、すべての動作モードに対して有効です。ただし、いずれの動作モードにおいても、サンプル＆ホールドの有無を選択してからA-D変換を開始してください。

■拡張アナログ入力端子

単発モード、繰り返しモードでは、拡張アナログ入力端子ANEX0、ANEX1の2端子からの入力をA-D変換することができます。

A-D制御レジスタ1(03D7$_{16}$番地)のビット6の内容が“1”、ビット7の内容が“0”のとき、ANEX0からの入力をA-D変換します。A-D変換結果は、A-Dレジスタ0に格納されます。

A-D制御レジスタ1(03D7$_{16}$番地)のビット6の内容が“0”、ビット7の内容が“1”のとき、ANEX1からの入力をA-D変換します。A-D変換結果は、A-Dレジスタ1に格納されます。

■外部オペアンプ接続モード

拡張アナログ入力端子ANEX0、ANEX1を用いて外部からの複数のアナログ入力を1個のオペアンプで共通に増幅して、A-D変換入力として使用することができます。

A-D制御レジスタ1(03D7$_{16}$番地)のビット6の内容が“1”、ビット7の内容が“1”のとき、AN$_0$～AN$_7$からの入力をANEX0から出力します。A-D変換はANEX1からの入力に対して行われ、A-D変換結果は対応するA-Dレジスタに格納されます。A-D変換速度は外付けのオペアンプの応答特性に依存します。なお、ANEX0端子とANEX1端子とを直結して使用しないでください。図1.17.5に外部オペアンプ接続モードの接続例を示します。

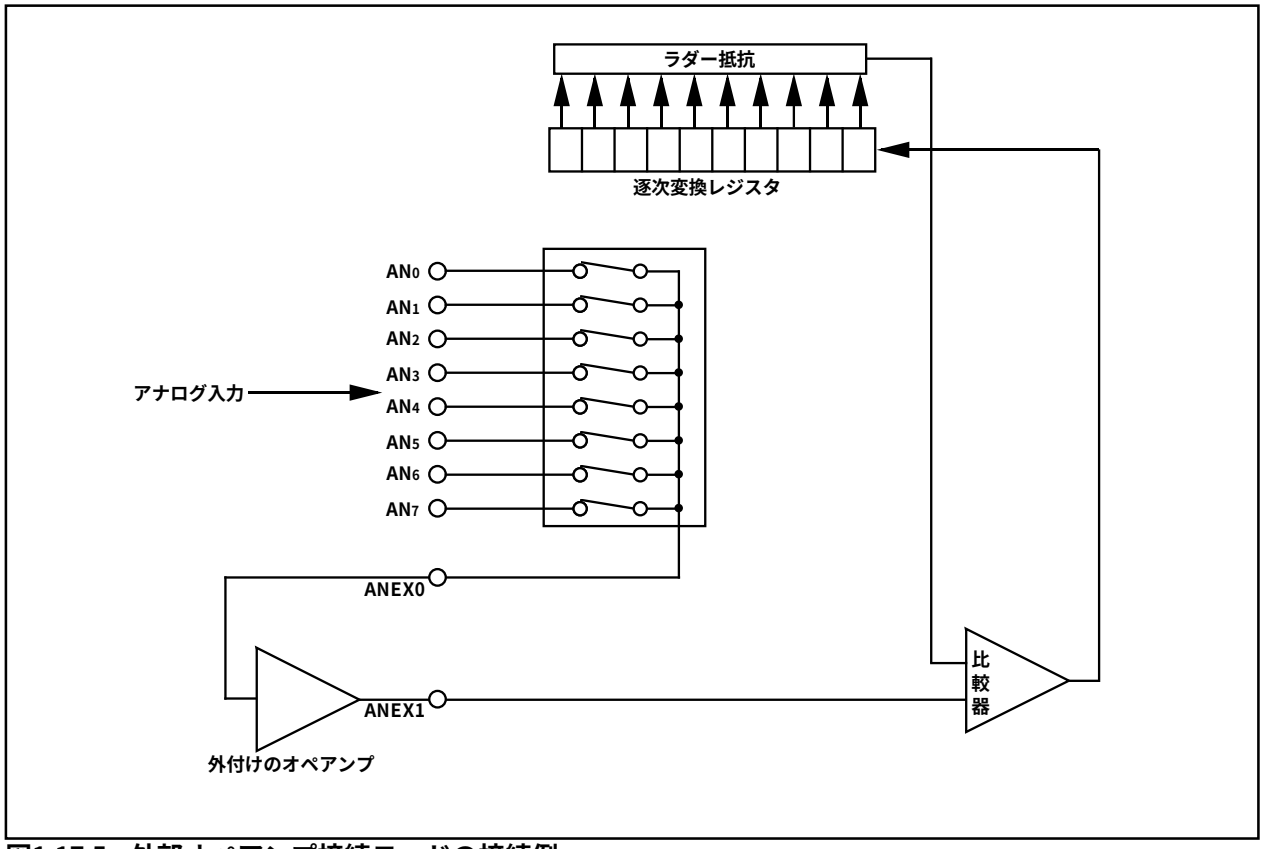


図1.17.5. 外部オペアンプ接続モードの接続例

プログラマブル入出力ポート

プログラマブル入出力ポートは、P0～P10(P85は除く)の87本あります。各ポートの入出力は、方向レジスタによって1ポートごとに設定できます。また、4ポートごとに、プルアップ抵抗の有無を設定できます。P85は入力専用でプルアップ抵抗は内蔵していません。

プログラマブル入出力ポートの構成を、図1.20.1～図1.20.4に、端子の構成を、図1.20.5に示します。

各端子は、プログラマブル入出力ポートと内蔵周辺装置の入出力として機能します。

内蔵周辺装置の入力端子として使用する場合は、各端子の方向レジスタを入力モードに設定してください。内蔵周辺装置の出力端子として使用する場合は、方向レジスタの内容に関係なく内蔵周辺装置の出力となります。内蔵周辺装置の設定方法は、各機能説明を参照してください。

(1) 方向レジスタ

方向レジスタの構成を、図1.20.6に示します。

プログラマブル入出力ポートの方向を選択するためのレジスタです。このレジスタの各ビットは、それぞれ端子1本ずつに対応しています(注1)。

メモリ拡張モード時またはマイクロプロセッサモード時、A_0～A_{19}、D_0～D_{15}、$\overline{CS0}$～$\overline{CS3}$、$\overline{RD}$、$\overline{WRL}$ / $\overline{WR}$、$\overline{WRH}$ / $\overline{BHE}$、ALE、$\overline{RDY}$、$\overline{HOLD}$、$\overline{HLDA}$、BCLKに設定している端子の方向レジスタの内容は変更できません。

注1. $P8_5$の方向レジスタのビットは存在していません。

(2) ポートレジスタ

ポートレジスタの構成を、図1.20.7に示します。

外部とのデータ入出力は、ポートレジスタへの書き込みおよび読み出しによって行います。ポートレジスタは、出力データを保持するポートラッチ、および端子の状態を読み込む回路で構成されています。ポートレジスタの各ビットは、それぞれ端子1本ずつに対応しています。

メモリ拡張モード時またはマイクロプロセッサモード時、A_0～A_{19}、D_0～D_{15}、$\overline{CS0}$～$\overline{CS3}$、$\overline{RD}$、$\overline{WRL}$ / $\overline{WR}$、$\overline{WRH}$ / $\overline{BHE}$、ALE、$\overline{RDY}$、$\overline{HOLD}$、$\overline{HLDA}$、BCLKに設定している端子の方向レジスタの内容は変更できません。

(3) プルアップ制御レジスタ

プルアップ制御レジスタの構成を、図1.20.8に示します。

プルアップ制御レジスタによって、4ポートごとに、プルアップ抵抗の有無を設定できます。プルアップ抵抗ありに設定したポートは、方向レジスタを入力に設定したときにだけプルアップ抵抗が接続されます。

ただし、メモリ拡張モード、マイクロプロセッサモード時は、P0～P3、$P4_0$～$P4_3$、P5はプルアップ制御レジスタは無効です。レジスタの内容は変更できますが、プルアップ抵抗は接続されません。

(4) ポート制御レジスタ

ポート制御レジスタの構成を、図1.20.9に示します。

ポートP1の読み出しに対して、ポート制御レジスタのビット0の値によって、以下の様になります。

0 : 入力ポートのとき、端子の入力レベルを読み出す
　出力ポートのとき、ポートP1レジスタの内容を読み出す

1 : 入力ポート/出力ポートにかかわらず、ポートP1レジスタの内容を読み出す

なお、マイクロプロセッサモード、メモリ拡張モード時で外部バス幅8ビット時や全空間マルチプレクスバス時などでポートP1がポートとして使用できる場合も、上記と同様に機能します。

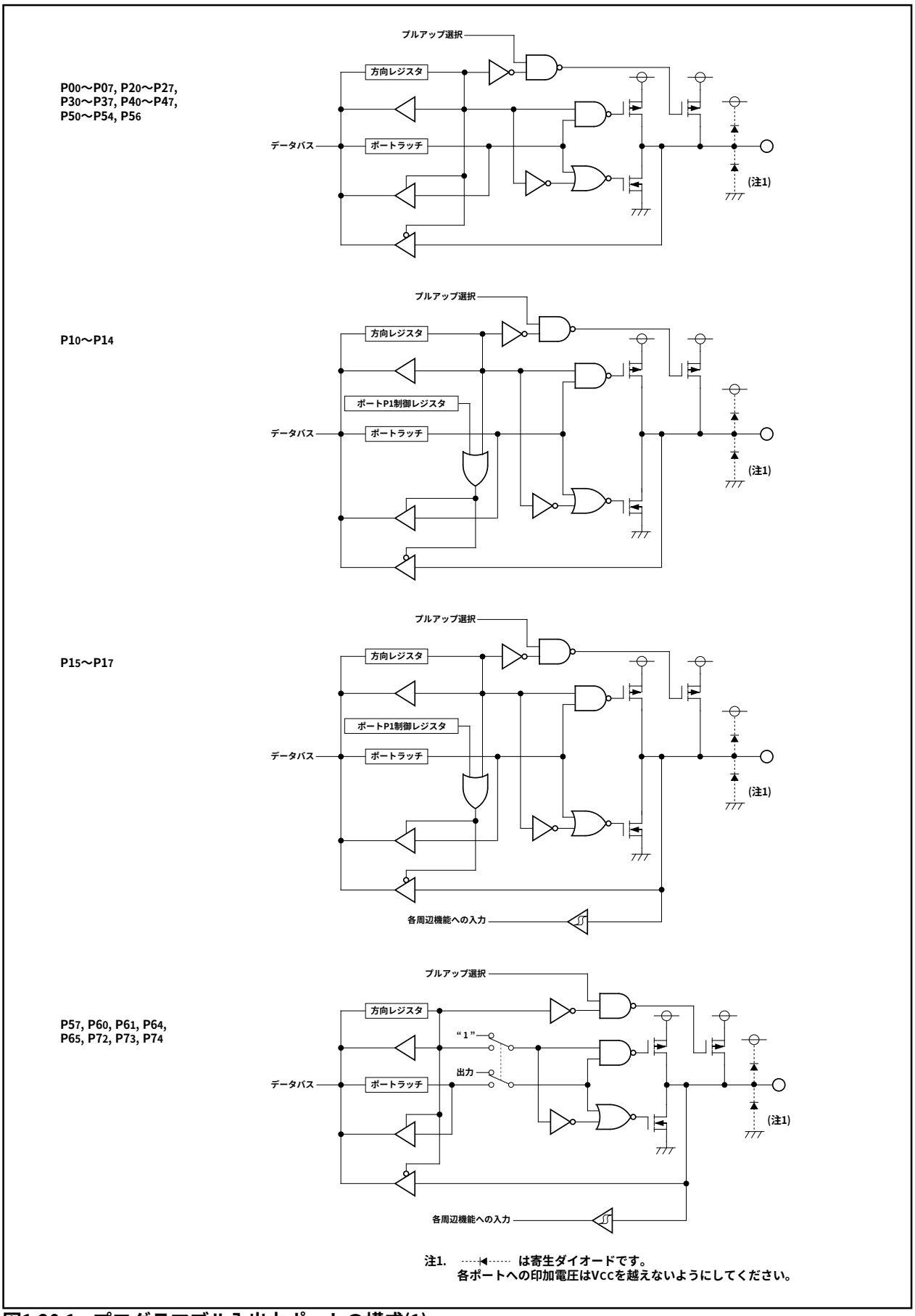
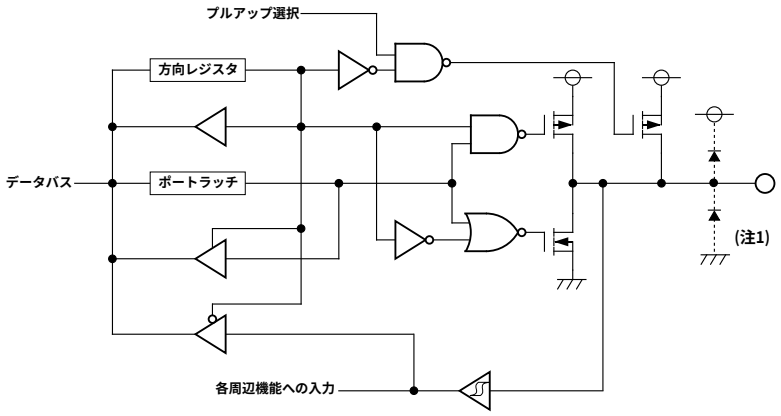


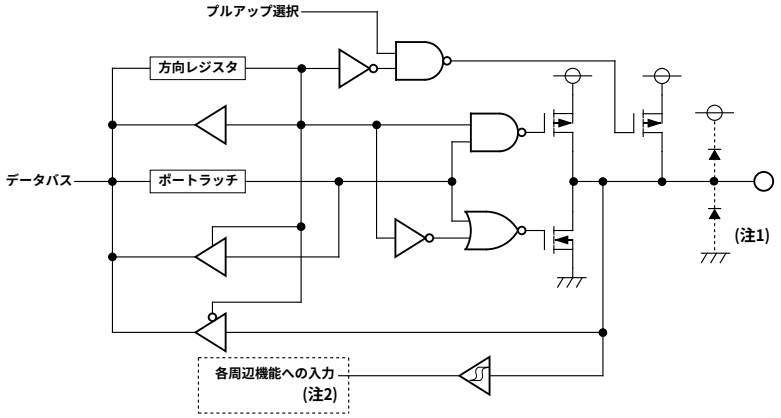
図1.20.1. プログラマブル入出力ポートの構成(1)

P82～P84

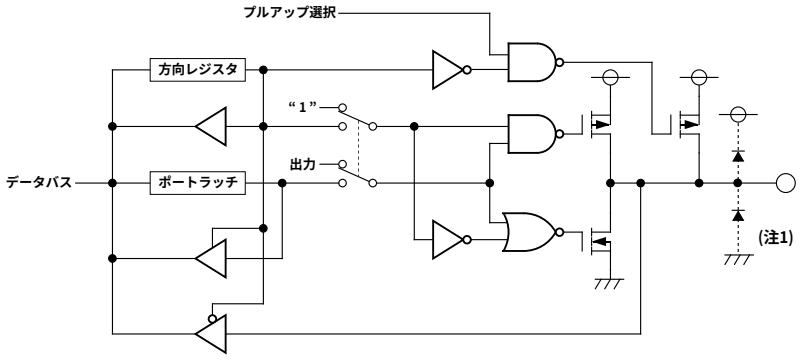


P76, P77, P80, P81, P90,P93, P94 (破線枠内なし)

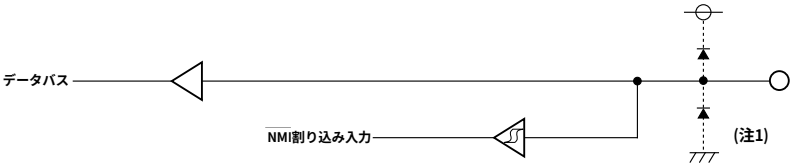
P55, P62, P66, P75, P91, P92, P97 (破線枠内あり)



P63, P67



P85

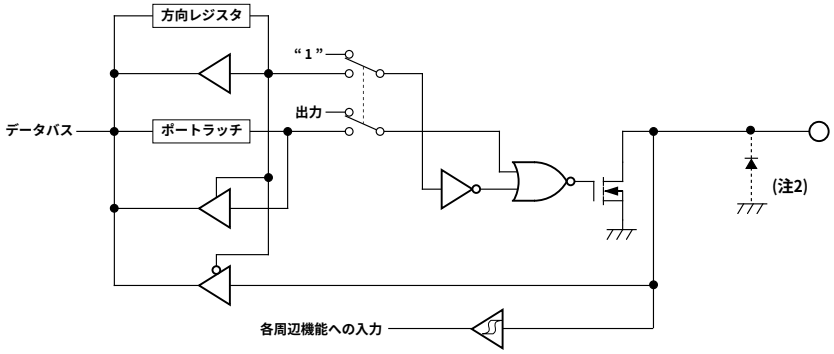


注1. ----|◀---- は寄生ダイオードです。
各ポートへの印加電圧はVccを越えないようにしてください。

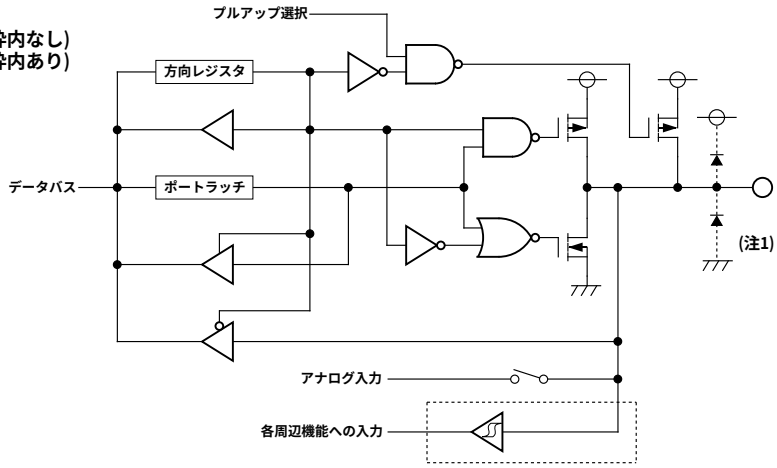
注2. 一部ポートでは、周辺機能への入力は存在しませんが、シュミット回路は存在します。

図1.20.2. プログラマブル入出力ポートの構成(2)

P70、P71



P96, P100～P103　(破線枠内なし)
P95, P104～P107　(破線枠内あり)



注1. ----◀---- は寄生ダイオードです。
各ポートへの印加電圧はVccを越えないようにしてください。

注2. ----◀---- は寄生ダイオードです。

図1.20.3. プログラマブル入出力ポートの構成(3)

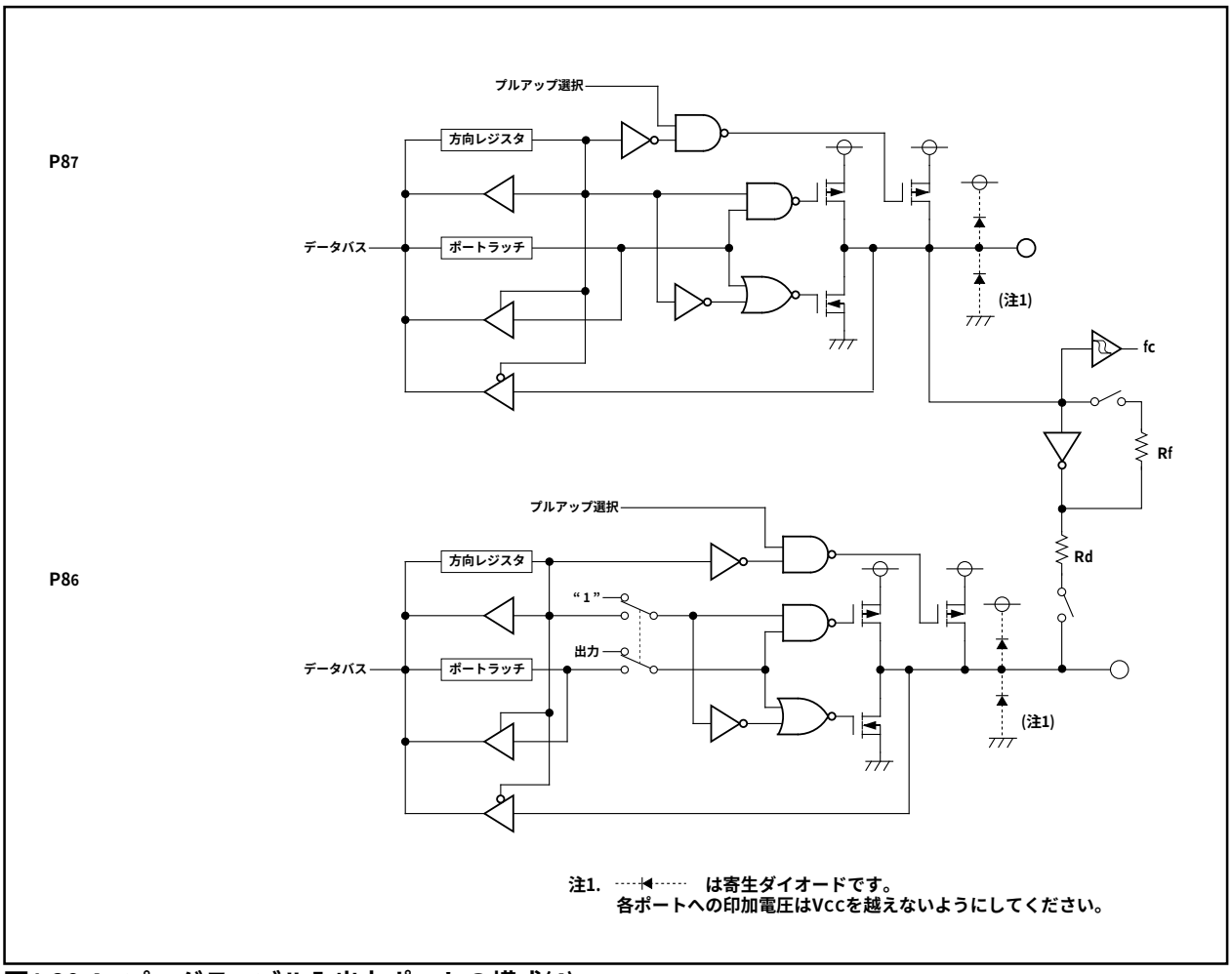


図1.20.4. プログラマブル入出力ポートの構成(4)

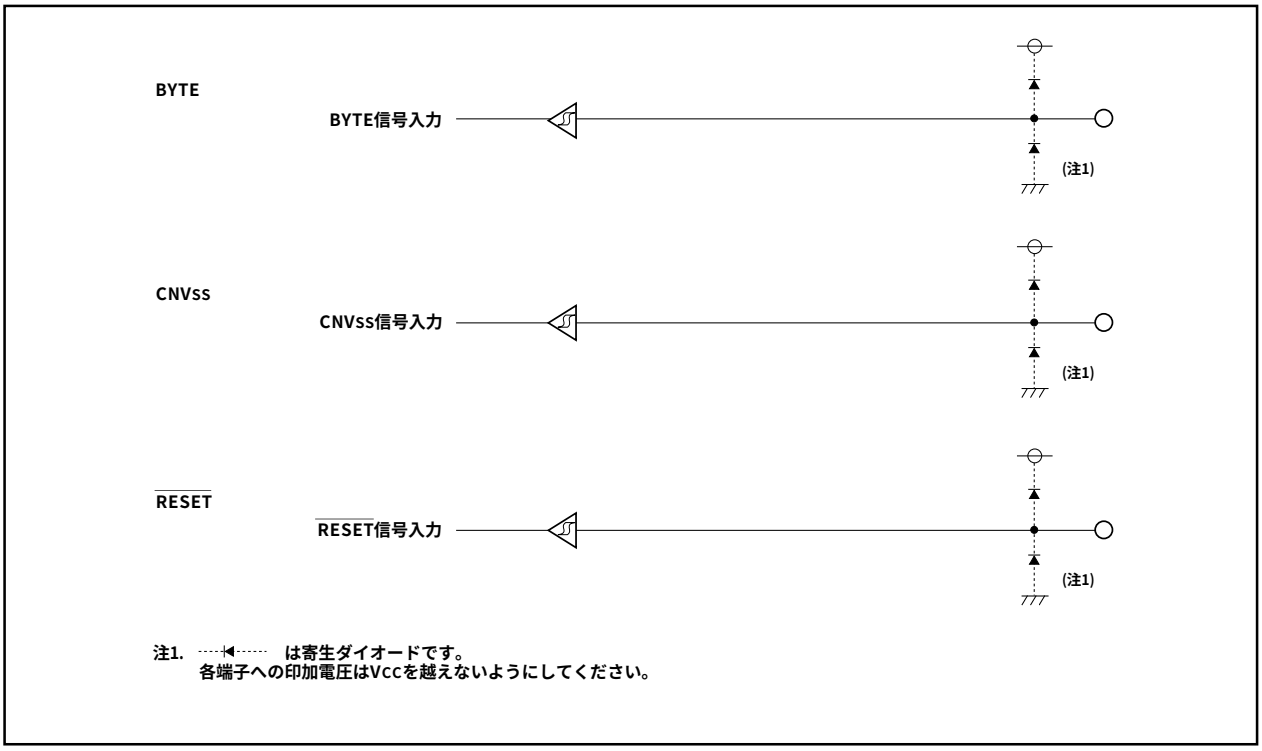
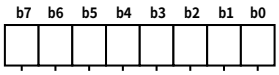


図1.20.5. 端子の構成

ポートPi方向レジスタ(注1、注2)



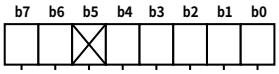
シンボル	アドレス	リセット時
PDi(i=0～10 ただし8は除く)	$03E2_{16}$,$03E3_{16}$,$03E6_{16}$,$03E7_{16}$,$03EA_{16}$番地	00_{16}
	$03EB_{16}$,$03EE_{16}$,$03EF_{16}$,$03F3_{16}$,$03F6_{16}$番地	00_{16}

ビットシンボル	ビット名	機　　能	R	W
PDi_0	ポートPi0方向レジスタ	0：入力モード（入力ポートとして機能） 1：出力モード（出力ポートとして機能） (i=0～10 ただし8は除く)	○	○
PDi_1	ポートPi1方向レジスタ		○	○
PDi_2	ポートPi2方向レジスタ		○	○
PDi_3	ポートPi3方向レジスタ		○	○
PDi_4	ポートPi4方向レジスタ		○	○
PDi_5	ポートPi5方向レジスタ		○	○
PDi_6	ポートPi6方向レジスタ		○	○
PDi_7	ポートPi7方向レジスタ		○	○

注1.　ポートP9方向レジスタを書き替える場合、プロテクトレジスタ($000A_{16}$番地)のビット2に“1”を設定してください。

注2.　メモリ拡張モード時またはマイクロプロセッサモード時、A_0～A_{19}、D_0～D_{15}、$\overline{CS0}$～$\overline{CS3}$、$\overline{RD}$、$\overline{WRL}$ / $\overline{WR}$、$\overline{WRH}$ / $\overline{BHE}$、ALE、$\overline{RDY}$、$\overline{HOLD}$、$\overline{HLDA}$、BCLKに設定している端子のポートPi方向レジスタの内容は変更できません。

ポートP8方向レジスタ



シンボル	アドレス	リセット時
PD8	$03F2_{16}$番地	$00X00000_2$

ビットシンボル	ビット名	機　　能	R	W
PD8_0	ポートP80方向レジスタ	0：入力モード（入力ポートとして機能） 1：出力モード（出力ポートとして機能）	○	○
PD8_1	ポートP81方向レジスタ		○	○
PD8_2	ポートP82方向レジスタ		○	○
PD8_3	ポートP83方向レジスタ		○	○
PD8_4	ポートP84方向レジスタ		○	○
何も配置されていない。 書き込む場合、“0”を書き込んでください。読み出した場合、その値は不定。			—	—
PD8_6	ポートP86方向レジスタ	0：入力モード（入力ポートとして機能） 1：出力モード（出力ポートとして機能）	○	○
PD8_7	ポートP87方向レジスタ		○	○

図1.20.6.　方向レジスタの構成

ポートPiレジスタ(注2)

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0

シンボル	アドレス	リセット時
Pi(i=0～10 ただし8は除く)	$03E0_{16}$,$03E1_{16}$,$03E4_{16}$,$03E5_{16}$,$03E8_{16}$番地	不定
	$03E9_{16}$,$03EC_{16}$,$03ED_{16}$,$03F1_{16}$,$03F4_{16}$番地	不定

ビットシンボル	ビット名	機　　能	R	W
Pi_0	ポートPi0レジスタ	対応するビットの読み出し、および書き込みで対応する端子のデータ入出力を行う 0：“L”レベル 1：“H”レベル(注1) (i=0～10　ただし8は除く)	○	○
Pi_1	ポートPi1レジスタ		○	○
Pi_2	ポートPi2レジスタ		○	○
Pi_3	ポートPi3レジスタ		○	○
Pi_4	ポートPi4レジスタ		○	○
Pi_5	ポートPi5レジスタ		○	○
Pi_6	ポートPi6レジスタ		○	○
Pi_7	ポートPi7レジスタ		○	○

注1.　$P7_0$、$P7_1$はNチャネルオープンドレインポートのため、ハイインピーダンスとなります。
注2.　メモリ拡張モード時またはマイクロプロセッサモード時、A_0～A_{19}、D_0～D_{15}、$\overline{CS0}$～$\overline{CS3}$、$\overline{RD}$、$\overline{WRL}$ / $\overline{WR}$、$\overline{WRH}$ / $\overline{BHE}$、ALE、$\overline{RDY}$、$\overline{HOLD}$、$\overline{HLDA}$、BCLKに設定している端子のポートPi方向レジスタの内容は変更できません。

ポートP8レジスタ

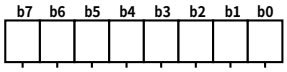
b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0

シンボル	アドレス	リセット時
P8	$03F0_{16}$番地	不定

ビットシンボル	ビット名	機　　能	R	W
P8_0	ポートP80レジスタ	対応するビットの読み出し、および書き込み(ただしP85は除く)で対応する端子のデータ入出力を行う 0：“L”レベル 1：“H”レベル	○	○
P8_1	ポートP81レジスタ		○	○
P8_2	ポートP82レジスタ		○	○
P8_3	ポートP83レジスタ		○	○
P8_4	ポートP84レジスタ		○	○
P8_5	ポートP85レジスタ		○	×
P8_6	ポートP86レジスタ		○	○
P8_7	ポートP87レジスタ		○	○

図1.20.7.　ポートレジスタの構成

プルアップ制御レジスタ0(注1)

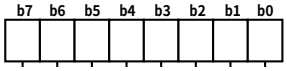


シンボル	アドレス	リセット時
PUR0	$03FC_{16}$番地	00_{16}

ビットシンボル	ビット名	機　能	R	W
PU00	$P0_0$～$P0_3$のプルアップ	対応するポートのプルアップの設定を行う 0 : プルアップなし 1 : プルアップあり	○	○
PU01	$P0_4$～$P0_7$のプルアップ		○	○
PU02	$P1_0$～$P1_3$のプルアップ		○	○
PU03	$P1_4$～$P1_7$のプルアップ		○	○
PU04	$P2_0$～$P2_3$のプルアップ		○	○
PU05	$P2_4$～$P2_7$のプルアップ		○	○
PU06	$P3_0$～$P3_3$のプルアップ		○	○
PU07	$P3_4$～$P3_7$のプルアップ		○	○

注1.　メモリ拡張モード時またはマイクロプロセッサモード時、このレジスタの内容は変更できますが、プルアップ抵抗は接続されません。

プルアップ制御レジスタ1

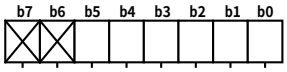


シンボル	アドレス	リセット時
PUR1	$03FD_{16}$番地	00_{16} (注2)

ビットシンボル	ビット名	機　能	R	W
PU10	$P4_0$～$P4_3$のプルアップ (注3)	対応するポートのプルアップの設定を行う 0 : プルアップなし 1 : プルアップあり	○	○
PU11	$P4_4$～$P4_7$のプルアップ		○	○
PU12	$P5_0$～$P5_3$のプルアップ (注3)		○	○
PU13	$P5_4$～$P5_7$のプルアップ (注3)		○	○
PU14	$P6_0$～$P6_3$のプルアップ		○	○
PU15	$P6_4$～$P6_7$のプルアップ		○	○
PU16	$P7_2$～$P7_3$のプルアップ (注1)		○	○
PU17	$P7_4$～$P7_7$のプルアップ		○	○

注1.　$P7_0$、$P7_1$はNチャネルオープンドレインポートのため、プルアップはありません。
注2.　CNVss端子にVccレベルを印加しているときは、リセット時02_{16}になります(PU11が“1”になります)。
注3.　メモリ拡張モード時またはマイクロプロセッサモード時、このビットの内容は変更できますが、プルアップ抵抗は接続されません。

プルアップ制御レジスタ2

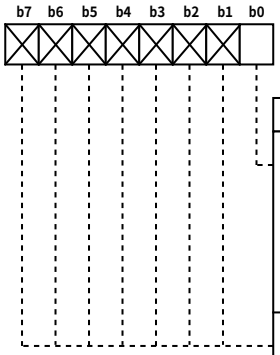


シンボル	アドレス	リセット時
PUR2	$03FE_{16}$番地	00_{16}

ビットシンボル	ビット名	機　能	R	W
PU20	$P8_0$～$P8_3$のプルアップ	対応するポートのプルアップの設定を行う 0 : プルアップなし 1 : プルアップあり	○	○
PU21	$P8_4$～$P8_7$のプルアップ (ただし$P8_5$は除く)		○	○
PU22	$P9_0$～$P9_3$のプルアップ		○	○
PU23	$P9_4$～$P9_7$のプルアップ		○	○
PU24	$P10_0$～$P10_3$のプルアップ		○	○
PU25	$P10_4$～$P10_7$のプルアップ		○	○
何も配置されていない。 書き込む場合、“0”を書き込んでください。読み出した場合、その値は“0”。			—	—
			—	—

図1.20.8.　プルアップ制御レジスタの構成

ポート制御レジスタ



シンボル	アドレス	リセット時
PCR	03FF16番地	0016

ビットシンボル	ビット名	機　　能	R	W
PCR0	ポートP1制御レジスタ	0：入力ポートのとき、端子の入力レベルを読み出す 出力ポートのとき、ポートP1レジスタの内容を読み出す 1：入力ポート/出力ポートにかかわらず、ポートP1レジスタの内容を読み出す	○	○
何も配置されていない。 書き込む場合、“0”を書き込んでください。読み出した場合、その値は“0”。			—	—

図1.20.9.　ポート制御レジスタの構成

表1.20.1. シングルチップモード時の未使用端子の処理例

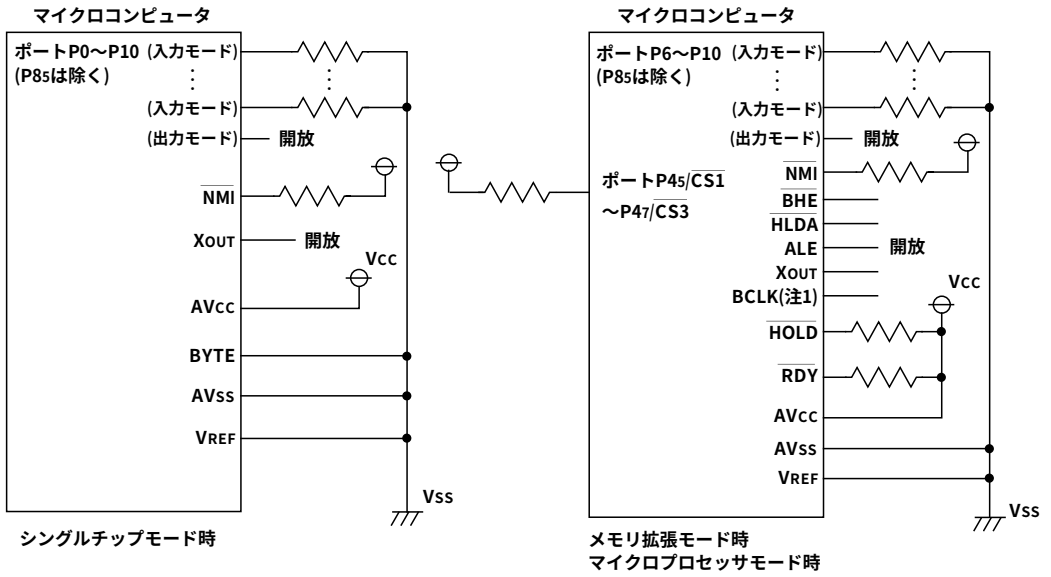
端　子　名	処　理　内　容
ポートP0～P10(P85は除く)	入力モードに設定し、端子ごとに抵抗を介してVSSに接続(プルダウン)するか、または出力モードに設定し、端子を開放
XOUT(注1)	開放
$\overline{\text{NMI}}$	抵抗を介してVCCに接続(プルアップ)
AVCC	VCCに接続
AVSS, VREF, BYTE	VSSに接続

注1.　XIN端子に外部クロックを入力しているとき

表1.20.2. メモリ拡張モード、マイクロプロセッサモード時の未使用端子の処理例

端　子　名	処　理　内　容
ポートP6～P10(P85は除く)	入力モードに設定し、端子ごとに抵抗を介してVSSに接続(プルダウン)するか、または出力モードに設定し、端子を開放
P45/$\overline{\text{CS1}}$～P47/$\overline{\text{CS3}}$	ポートを入力モードに設定し、$\overline{\text{CS1}}$～$\overline{\text{CS3}}$出力許可ビットを“0”に設定し、抵抗を介してVCCに接続(プルアップ)
$\overline{\text{BHE}}$, ALE, $\overline{\text{HLDA}}$, XOUT(注1), BCLK(注2)	開放
$\overline{\text{HOLD}}$, $\overline{\text{RDY}}$, $\overline{\text{NMI}}$	抵抗を介してVCCに接続(プルアップ)
AVCC	VCCに接続
AVSS, VREF	VSSに接続

注1.　XIN端子に外部クロックを入力しているとき
注2.　BCLK出力禁止ビット(0004$_{16}$番地のビット7)に“1”を設定した場合、抵抗を介してVCCに接続(プルアップ)してください。



注1.　BCLK出力禁止ビット(0004$_{16}$番地のビット7)に“1”を設定した場合、抵抗を介してVCCに接続(プルアップ)してください。

図1.20.10.　未使用端子の処理例

電気的特性

表1.26.1. 絶対最大定格

記　号	項　　目		条　件	定　格　値	単位
Vcc	電源電圧		Vcc=AVcc	−0.3～4.2	V
AVcc	アナログ電源電圧		Vcc=AVcc	−0.3～4.2	V
V_I	入力電圧	RESET, CNVss, BYTE, P0₀～P0₇, P1₀～P1₇, P2₀～P2₇, P3₀～P3₇, P4₀～P4₇, P5₀～P5₇, P6₀～P6₇, P7₂～P7₇, P8₀～P8₇, P9₀～P9₇, P10₀～P10₇, VREF, XIN		−0.3～Vcc+0.3	V
		P7₀, P7₁		−0.3～4.2	V
V_O	出力電圧	P0₀～P0₇, P1₀～P1₇, P2₀～P2₇, P3₀～P3₇, P4₀～P4₇, P5₀～P5₇, P6₀～P6₇, P7₂～P7₇, P8₀～P8₄, P8₆, P8₇, P9₀～P9₇, P10₀～P10₇, XOUT		−0.3～Vcc+0.3	V
		P7₀, P7₁		−0.3～4.2	V
P_d	消費電力		T_{opr}=25 °C	300	mW
T_{opr}	動作周囲温度			−20～ 85 / −40～85 (注1)	°C
T_{stg}	保存温度			−65～150	°C

注1. −40°C～85°C品をご使用になる場合は、そのむねご指定ください。

表1.26.2. 推奨動作条件

(指定のない場合は、Vcc=2.2V～3.6V, Topr=-20℃～85℃ / －40℃～85℃(注3))

記号	項目		規格値 最小	規格値 標準	規格値 最大	単位
Vcc	電源電圧		2.2	3.3	3.6	V
AVcc	アナログ電源電圧			Vcc		V
Vss	電源電圧			0		V
AVss	アナログ電源電圧			0		V
V_{IH}	"H"入力電圧	$P3_1$～$P3_7$, $P4_0$～$P4_7$, $P5_0$～$P5_7$, $P6_0$～$P6_7$, $P7_2$～$P7_7$, $P8_0$～$P8_7$, $P9_0$～$P9_7$, $P10_0$～$P10_7$, X_{IN}, RESET, CNVss, BYTE	0.8Vcc		Vcc	V
		$P7_0$,$P7_1$	0.8Vcc		4.2	V
		$P0_0$～$P0_7$, $P1_0$～$P1_7$, $P2_0$～$P2_7$, $P3_0$ (シングルチップモード時)	0.8Vcc		Vcc	V
		$P0_0$～$P0_7$, $P1_0$～$P1_7$, $P2_0$～$P2_7$, $P3_0$ (メモリ拡張、マイクロプロセッサモード時のデータ入力機能)	0.5Vcc		Vcc	V
V_{IL}	"L "入力電圧	$P3_1$～$P3_7$, $P4_0$～$P4_7$, $P5_0$～$P5_7$, $P6_0$～$P6_7$, $P7_0$～$P7_7$, $P8_0$～$P8_7$, $P9_0$～$P9_7$, $P10_0$～$P10_7$, X_{IN}, RESET, CNVss, BYTE	0		0.2Vcc	V
		$P0_0$～$P0_7$, $P1_0$～$P1_7$, $P2_0$～$P2_7$, $P3_0$ (シングルチップモード時)	0		0.2Vcc	V
		$P0_0$～$P0_7$, $P1_0$～$P1_7$, $P2_0$～$P2_7$, $P3_0$ (メモリ拡張、マイクロプロセッサモード時のデータ入力機能)	0		0.16Vcc	V
I_{OH} (peak)	"H"尖頭出力電流	$P0_0$～$P0_7$, $P1_0$～$P1_7$, $P2_0$～$P2_7$,$P3_0$～$P3_7$, $P4_0$～$P4_7$, $P5_0$～$P5_7$, $P6_0$～$P6_7$,$P7_2$～$P7_7$, $P8_0$～$P8_4$,$P8_6$,$P8_7$,$P9_0$～$P9_7$,$P10_0$～$P10_7$			－10.0	mA
I_{OH} (avg)	"H"平均出力電流	$P0_0$～$P0_7$, $P1_0$～$P1_7$, $P2_0$～$P2_7$,$P3_0$～$P3_7$, $P4_0$～$P4_7$, $P5_0$～$P5_7$, $P6_0$～$P6_7$,$P7_2$～$P7_7$, $P8_0$～$P8_4$,$P8_6$,$P8_7$,$P9_0$～$P9_7$,$P10_0$～$P10_7$			－5.0	mA
I_{OL} (peak)	"L "尖頭出力電流	$P0_0$～$P0_7$, $P1_0$～$P1_7$, $P2_0$～$P2_7$,$P3_0$～$P3_7$, $P4_0$～$P4_7$, $P5_0$～$P5_7$, $P6_0$～$P6_7$,$P7_0$～$P7_7$, $P8_0$～$P8_4$,$P8_6$,$P8_7$,$P9_0$～$P9_7$,$P10_0$～$P10_7$			10.0	mA
I_{OL} (avg)	"L "平均出力電流	$P0_0$～$P0_7$, $P1_0$～$P1_7$, $P2_0$～$P2_7$,$P3_0$～$P3_7$, $P4_0$～$P4_7$, $P5_0$～$P5_7$, $P6_0$～$P6_7$,$P7_0$～$P7_7$, $P8_0$～$P8_4$,$P8_6$,$P8_7$,$P9_0$～$P9_7$,$P10_0$～$P10_7$			5.0	mA
f (X_{IN})	メインクロック入力発振周波数(注4)	ウエイトなし Vcc=3.0V～3.6V	0		16	MHz
		ウエイトなし Vcc=2.4V～3.0V	0		15 × Vcc －29	MHz
		ウエイトなし Vcc=2.2V～2.4V	0		17.5 × Vcc －35	MHz
		ウエイトあり Vcc=3.0V～3.6V	0		16	MHz
		ウエイトあり Vcc=2.4V～3.0V	0		11.25 × Vcc －17.75	MHz
		ウエイトあり Vcc=2.2V～2.4V	0		11.25 × Vcc －17.75	MHz
f (X_{CIN})	サブクロック発振周波数			32.768	50	kHz

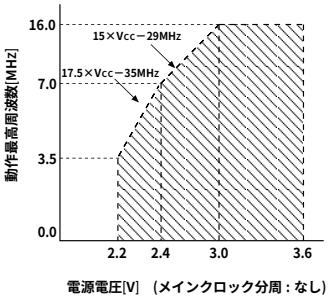
注1. 平均出力電流は100msの期間内での平均値です。

注2. ポートP0,P1,P2,$P8_6$～$P8_7$,P9,P10のIOL(peak)の合計は80mA以下、ポートP0, P1, P2, $P8_6$～$P8_7$, P9, P10のIOH(peak)の合計は80mA下、ポートP3, P4, P5, P6, P7, $P8_0$～$P8_4$のIOL(peak)の合計は80mA以下、ポートP3, P4, P5, P6, $P7_2$～$P7_7$, $P8_0$～$P8_4$のIOH(peak)の合計は80mA以下にしてください。

注3. －40℃～85℃品をご使用になる場合はそのむねご指定ください。

注4. メインクロック入力周波数と電源電圧の関係を以下に示します。

メインクロック入力発振周波数(ウエイトなし)



メインクロック入力発振周波数(ウエイトあり)

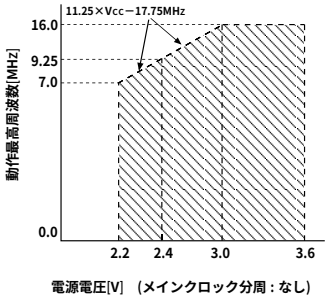


表1.26.3. 電気的特性

(指定のない場合は、V_{CC}=3.0～3.6V, V_{SS}=0V, Topr=－20℃～85℃ / －40℃～85℃(注1), f(X_{IN})=16MHz)

記号	項目		測定条件	規格値 最小	規格値 標準	規格値 最大	単位
V_{OH}	"H"出力電圧 $P0_0$～$P0_7$,$P1_0$～$P1_7$,$P2_0$～$P2_7$, $P3_0$～$P3_7$,$P4_0$～$P4_7$,$P5_0$～$P5_7$, $P6_0$～$P6_7$,$P7_2$～$P7_7$,$P8_0$～$P8_4$, $P8_6$,$P8_7$,$P9_0$～$P9_7$,$P10_0$～$P10_7$		I_{OH}=－1mA、V_{CC}=3.3V	2.8			V
V_{OH}	"H"出力電圧 X_{OUT}	HIGHPOWER	I_{OH}=－0.1mA、V_{CC}=3.3V	2.8			V
		LOWPOWER	I_{OH}=－50μA、V_{CC}=3.3V	2.8			
	"H"出力電圧 X_{COUT}	HIGHPOWER	無負荷時、V_{CC}=3.3V		2.8		V
		LOWPOWER	無負荷時、V_{CC}=3.3V		1.6		
V_{OL}	"L"出力電圧 $P0_0$～$P0_7$,$P1_0$～$P1_7$,$P2_0$～$P2_7$, $P3_0$～$P3_7$,$P4_0$～$P4_7$,$P5_0$～$P5_7$, $P6_0$～$P6_7$,$P7_0$～$P7_7$,$P8_0$～$P8_4$, $P8_6$,$P8_7$,$P9_0$～$P9_7$,$P10_0$～$P10_7$		I_{OL}=1mA、V_{CC}=3.3V			0.5	V
V_{OL}	"L"出力電圧 X_{OUT}	HIGHPOWER	I_{OL}=0.1mA、V_{CC}=3.3V			0.5	V
		LOWPOWER	I_{OL}=50μA、V_{CC}=3.3V			0.5	
	"L"出力電圧 X_{COUT}	HIGHPOWER	無負荷時、V_{CC}=3.3V		0		V
		LOWPOWER	無負荷時、V_{CC}=3.3V		0		
V_{T+}-V_{T-}	ヒステリシス $\overline{HOLD}$, $\overline{RDY}$, $TA0_{IN}$～$TA2_{IN}$, $TB1_{IN}$, $TB2_{IN}$, $\overline{INT_0}$～$\overline{INT_2}$, $\overline{NMI}$ $\overline{ADTRG}$, CTS_0～CTS_2, SCL, SDA CLK_0～CLK_2, $TA2_{OUT}$, $\overline{KI_0}$～$\overline{KI_3}$, RxD_0～RxD_2		V_{CC}=3.3V	0.2		0.8	V
V_{T+}-V_{T-}	ヒステリシス $\overline{RESET}$		V_{CC}=3.3V	0.2		1.8	V
I_{IH}	"H"入力電流 $P0_0$～$P0_7$, $P1_0$～$P1_7$, $P2_0$～$P2_7$, $P3_0$～$P3_7$, $P4_0$～$P4_7$, $P5_0$～$P5_7$, $P6_0$～$P6_7$, $P7_0$～$P7_7$, $P8_0$～$P8_7$, $P9_0$～$P9_7$, $P10_0$～$P10_7$, X_{IN}, RESET, CNVss, BYTE		V_I=3V、V_{CC}=3.3V			4.0	μA
I_{IL}	"L"入力電流 $P0_0$～$P0_7$, $P1_0$～$P1_7$, $P2_0$～$P2_7$, $P3_0$～$P3_7$, $P4_0$～$P4_7$, $P5_0$～$P5_7$, $P6_0$～$P6_7$, $P7_0$～$P7_7$, $P8_0$～$P8_7$, $P9_0$～$P9_7$, $P10_0$～$P10_7$, X_{IN}, RESET, CNVss, BYTE		V_I=0V、V_{CC}=3.3V			－4.0	μA
R_{PULLUP}	プルアップ抵抗 $P0_0$～$P0_7$, $P1_0$～$P1_7$, $P2_0$～$P2_7$, $P3_0$～$P3_7$, $P4_0$～$P4_7$, $P5_0$～$P5_7$, $P6_0$～$P6_7$, $P7_2$～$P7_7$, $P8_0$～$P8_4$, $P8_6$, $P8_7$, $P9_0$～$P9_7$, $P10_0$～$P10_7$		V_I=0V、V_{CC}=3.3V	20.0	100.0	500.0	kΩ
R_{fXIN}	帰還抵抗 X_{IN}				3.0		MΩ
R_{fXCIN}	帰還抵抗 X_{CIN}				10.0		MΩ
V_{RAM}	RAM保持電圧		クロック停止時	2.0			V
Icc	電源電流	シングルチップモードで、出力端子は開放、その他の端子はVss	f(X_{IN})=16MHz 方形波、分周なし		12.5	25.0	mA
			f(X_{CIN})=32kHz、V_{CC}=3.3V 方形波		40.0		μA
			f(X_{CIN})＝32kHz、V_{CC}=3.3V ウエイト時 発振能力 High(注2)		5.8		μA
			f(X_{CIN})＝32kHz、V_{CC}=3.3V ウエイト時 発振能力 Low(注2)		2.7		μA
			クロック停止時、V_{CC}=3.3V T_{opr}=25℃		0.1	2.0	μA
			クロック停止時、V_{CC}=3.3V T_{opr}=85℃		0.4	100	μA

注1. －40℃～85℃品をご使用になる場合は、そのむねご指定ください。
注2. f_{C32}にてタイマ1本を動作させている状態です。

表1.26.4. A-D変換特性

(指定のない場合は、V_{CC}=AV_{CC}=V_{REF}=2.4V～3.6V, V_{SS}=AV_{SS}=0V, Topr=－20℃～85℃ / －40℃～85℃(注4), f(X_{IN})=16MHz)

記号	項目		測定条件		規格値 最小	規格値 標準	規格値 最大	単位
–	分解能		V_{REF} =V_{CC}				10	Bits
–	絶対精度	サンプル&ホールド機能なし	V_{REF} =V_{CC}=3.3V			±2	±5	LSB
		サンプル&ホールド機能あり(10bit)	V_{REF}= V_{CC}=3.3V	AN_0～AN_7入力		±2	±5	LSB
				ANEX0, ANEX1入力			±7	LSB
		サンプル&ホールド機能あり(8bit)	V_{REF} =V_{CC}=3.3V				±2	LSB
R_{LADDER}	ラダー抵抗		V_{REF} =V_{CC}		10		40	kΩ
t_{CONV}	変換時間(10bit)				3.3			μs
t_{CONV}	変換時間(8bit)				2.8			μs
t_{SAMP}	サンプリング時間				0.3			μs
V_{REF}	基準電圧				2.4		V_{CC}	V
V_{IA}	アナログ入力電圧				0		V_{REF}	V

注1. f(X_{IN})は表1.26.2の推奨動作条件で規定されるメインクロック入力発振周波数の範囲内にしてください。
ただし、f(X_{IN})が10MHzを超える場合はfADを分周し、AD動作クロック周波数（φAD）が10MHz以下になるようにしてください。また、V_{CC}が3.0V未満の場合もf$_{AD}$を分周し、AD動作クロック周波数(φAD)がf$_{AD}$/2以下になるようにしてください。

注2. サンプル&ホールド機能なしのときは、注1の制限に加えAD動作クロックφ$_{AD}$の周波数は250kHz以上にしてください。
サンプル&ホールド機能ありのときは、注1の制限に加えAD動作クロックφ$_{AD}$の周波数は1MHz以上にしてください。

注3. AV_{CC}端子はV_{CC}端子に接続し同一電位を与えてください。

注4. －40℃～85℃品をご使用になる場合は、そのむねをご指定ください。

タイミング必要条件　(指定のない場合は、Vcc=3.3V, Vss=0V, Topr=－20℃～85℃ / －40℃～85℃(※))
※.　－40℃～85℃品をご使用になる場合は、そのむねご指定ください。

表1.26.8.　外部クロック入力

記　号	項　　目	規　格　値		単位
		最　小	最　大	
t_c	外部クロック入力サイクル時間	62.5		ns
$t_{w(H)}$	外部クロック入力 "H"パルス幅	25		ns
$t_{w(L)}$	外部クロック入力 "L" パルス幅	25		ns
t_r	外部クロック立ち上がり時間		15	ns
t_f	外部クロック立ち下がり時間		15	ns

表1.26.9.　メモリ拡張およびマイクロプロセッサモード

記　号	項　　目	規　格　値		単位
		最　小	最　大	
$t_{ac1(RD-DB)}$	データ入力アクセス時間　（ウエイトなし）		（注1）	ns
$t_{ac2(RD-DB)}$	データ入力アクセス時間　（ウエイトあり）		（注1）	ns
$t_{ac3(RD-DB)}$	データ入力アクセス時間　（マルチプレクスバス領域をアクセスした場合）		（注1）	ns
$t_{su(DB-RD)}$	データ入力セットアップ時間	50		ns
$t_{su(RDY-BCLK)}$	$\overline{RDY}$入力セットアップ時間	50		ns
$t_{su(HOLD-BCLK)}$	$\overline{HOLD}$入力セットアップ時間	100		ns
$t_{h(RD-DB)}$	データ入力ホールド時間	0		ns
$t_{h(BCLK-RDY)}$	$\overline{RDY}$入力ホールド時間	0		ns
$t_{h(BCLK-HOLD)}$	$\overline{HOLD}$入力ホールド時間	0		ns
$t_{d(BCLK-HLDA)}$	$\overline{HLDA}$出力遅延時間		40	ns

注1.　BCLKの周波数に応じて次の計算式で算出されます。

$$t_{ac1(RD-DB)} = \frac{10^9 \times 1}{f(BCLK) \times 2} - 90\ [ns]$$

$$t_{ac2(RD-DB)} = \frac{10^9 \times 3}{f(BCLK) \times 2} - 90\ [ns]$$

$$t_{ac3(RD-DB)} = \frac{10^9 \times 3}{f(BCLK) \times 2} - 90\ [ns]$$

タイミング必要条件　(指定のない場合は、Vcc=3.3V, Vss=0V, Topr=－20℃～85℃ / －40℃～85℃(※))
※.　－40℃～85℃品をご使用になる場合は、そのむねご指定ください。

表1.26.10.　タイマA入力(イベントカウンタモードのカウント入力)

記　号	項　　目	規　格　値		単位
		最　小	最　大	
$t_{c(TA)}$	TAiIN入力サイクル時間	100		ns
$t_{w(TAH)}$	TAiIN入力 "H" パルス幅	40		ns
$t_{w(TAL)}$	TAiIN入力 "L " パルス幅	40		ns

表1.26.11.　タイマA入力(タイマモードのゲーティング入力)

記　号	項　　目	規　格　値		単位
		最　小	最　大	
$t_{c(TA)}$	TAiIN入力サイクル時間	400		ns
$t_{w(TAH)}$	TAiIN入力 "H" パルス幅	200		ns
$t_{w(TAL)}$	TAiIN入力 "L " パルス幅	200		ns

表1.26.12.　タイマA入力(ワンショットタイマモードの外部トリガ入力)

記　号	項　　目	規　格　値		単位
		最　小	最　大	
$t_{c(TA)}$	TAiIN入力サイクル時間	200		ns
$t_{w(TAH)}$	TAiIN入力 "H" パルス幅	100		ns
$t_{w(TAL)}$	TAiIN入力 "L " パルス幅	100		ns

表1.26.13.　タイマA入力(パルス幅変調モードの外部トリガ入力)

記　号	項　　目	規　格　値		単位
		最　小	最　大	
$t_{w(TAH)}$	TAiIN入力 "H" パルス幅	100		ns
$t_{w(TAL)}$	TAiIN入力 "L " パルス幅	100		ns

表1.26.14.　タイマA入力(イベントカウンタモードのアップダウン入力)

記　号	項　　目	規　格　値		単位
		最　小	最　大	
$t_{c(UP)}$	TAiOUT入力サイクル時間	2000		ns
$t_{w(UPH)}$	TAiOUT入力 "H" パルス幅	1000		ns
$t_{w(UPL)}$	TAiOUT入力 "L " パルス幅	1000		ns
$t_{su(UP-TIN)}$	TAiOUT入力セットアップ時間	400		ns
$t_{h(TIN-UP)}$	TAiOUT入力ホールド時間	400		ns

タイミング必要条件　(指定のない場合は、Vcc=3.3V, Vss=0V, Topr=－20℃～85℃ / －40℃～85℃(※))
※.　－40℃～85℃品をご使用になる場合は、そのむねご指定ください。

表1.26.15.　タイマB入力(イベントカウンタモードのカウント入力)

記　号	項　　目	規格値		単位
		最　小	最　大	
$t_{c(TB)}$	TBiIN 入力サイクル時間(片エッジカウント)	100		ns
$t_{w(TBH)}$	TBiIN 入力 "H" パルス幅(片エッジカウント)	40		ns
$t_{w(TBL)}$	TBiIN 入力 "L " パルス幅(片エッジカウント)	40		ns
$t_{c(TB)}$	TBiIN 入力サイクル時間(両エッジカウント)	200		ns
$t_{w(TBH)}$	TBiIN 入力 "H" パルス幅(両エッジカウント)	80		ns
$t_{w(TBL)}$	TBiIN 入力 "L " パルス幅(両エッジカウント)	80		ns

表1.26.16.　タイマB入力(パルス周期測定モード)

記　号	項　　目	規格値		単位
		最　小	最　大	
$t_{c(TB)}$	TBiIN入力サイクル時間	400		ns
$t_{w(TBH)}$	TBiIN入力 "H" パルス幅	200		ns
$t_{w(TBL)}$	TBiIN入力 "L " パルス幅	200		ns

表1.26.17.　タイマB入力(パルス幅測定モード)

記　号	項　　目	規格値		単位
		最　小	最　大	
$t_{c(TB)}$	TBiIN入力サイクル時間	400		ns
$t_{w(TBH)}$	TBiIN入力 "H" パルス幅	200		ns
$t_{w(TBL)}$	TBiIN入力 "L " パルス幅	200		ns

表1.26.18.　A-Dトリガ入力

記　号	項　　目	規格値		単位
		最　小	最　大	
$t_{c(AD)}$	$\overline{ADTRG}$入力サイクル時間(トリガ可能最小)	1000		ns
$t_{w(ADL)}$	$\overline{ADTRG}$入力 "L " パルス幅	125		ns

表1.26.19.　シリアルI/O

記　号	項　　目	規格値		単位
		最　小	最　大	
$t_{c(CK)}$	CLKi入力サイクル時間	300		ns
$t_{w(CKH)}$	CLKi入力 "H" パルス幅	150		ns
$t_{w(CKL)}$	CLKi入力 "L " パルス幅	150		ns
$t_{d(C-Q)}$	TxDi出力遅延時間		100	ns
$t_{h(C-Q)}$	TxDiホールド時間	0		ns
$t_{su(D-C)}$	RxDi入力セットアップ時間	50		ns
$t_{h(C-D)}$	RxDi入力ホールド時間	90		ns

表1.26.20.　外部割り込み$\overline{INTi}$入力

記　号	項　　目	規格値		単位
		最　小	最　大	
$t_{w(INH)}$	$\overline{INTi}$入力 "H" パルス幅	250		ns
$t_{w(INL)}$	$\overline{INTi}$入力 "L " パルス幅	250		ns

スイッチング特性(指定のない場合は、Vcc=3.3V, Vss=0V, Topr=－20℃～85℃ / －40℃～85℃(注3), CM15=“1”)

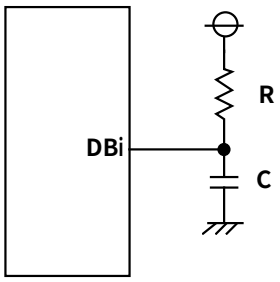
表1.26.21.　メモリ拡張モードおよびマイクロプロセッサモード(ウエイトなしの場合)

記号	項目	測定条件	規格値 最小	規格値 最大	単位
td(BCLK-AD)	アドレス出力遅延時間	図1.26.1		50	ns
th(BCLK-AD)	アドレス出力保持時間（BCLK基準）		4		ns
th(RD-AD)	アドレス出力保持時間（RD基準）		0		ns
th(WR-AD)	アドレス出力保持時間（WR基準）		0		ns
td(BCLK-CS)	チップセレクト出力遅延時間			50	ns
th(BCLK-CS)	チップセレクト出力保持時間（BCLK基準）		4		ns
td(BCLK-ALE)	ALE信号出力遅延時間			40	ns
th(BCLK-ALE)	ALE信号出力保持時間		-4		ns
td(BCLK-RD)	RD信号出力遅延時間			40	ns
th(BCLK-RD)	RD信号出力保持時間		0		ns
td(BCLK-WR)	WR信号出力遅延時間			40	ns
th(BCLK-WR)	WR信号出力保持時間		0		ns
td(BCLK-DB)	データ出力遅延時間（BCLK基準）			50	ns
th(BCLK-DB)	データ出力保持時間（BCLK基準）		4		ns
td(DB-WR)	データ出力遅延時間（WR基準）		(注1)		ns
th(WR-DB)	データ出力保持時間（WR基準）(注2)		0		ns

注1.　BCLKの周波数に応じて次の計算式で算出されます。

$$td(DB-WR) = \frac{10^9}{f(BCLK)\times 2} - 50 \quad [ns]$$

注2.　この規格値は出力がオフするタイミングを示しており、データバスの保持時間を示すものではありません。データバスの保持時間は付加容量やプルアップ(プルダウン)抵抗値によって異なります。
右図の回路でデータバスの保持時間は、
$t = -CR \times \ln(1 - V_{OL} / V_{CC})$
で表されます。
例えば、$V_{OL} = 0.2V_{CC}$、C = 30pF、R = 1kΩとすると、
出力“L”レベルの保持時間は、
$t = -30pF \times 1k\Omega \times \ln(1 - 0.2V_{CC} / V_{CC})$
$= 6.7ns$
となります。



注3.　－40℃～85℃品をご使用になる場合は、そのむねご指定ください。

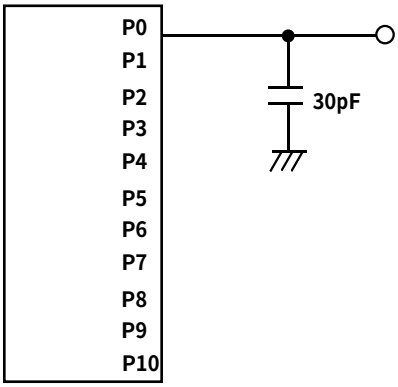


図1.26.1.　ポートP0～P10の測定回路

スイッチング特性(指定のない場合は、Vcc=3.3V, Vss=0V, Topr=－20℃～85℃ / －40℃～85℃(注3), CM15=“1”)

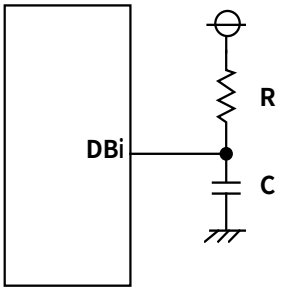
表1.26.22.　メモリ拡張モードおよびマイクロプロセッサモード
(ウエイトあり、外部メモリ領域をアクセスした場合)

記号	項目	測定条件	規格値 最小	規格値 最大	単位
td(BCLK-AD)	アドレス出力遅延時間	図1.26.1		50	ns
th(BCLK-AD)	アドレス出力保持時間（BCLK基準）		4		ns
th(RD-AD)	アドレス出力保持時間（RD基準）		0		ns
th(WR-AD)	アドレス出力保持時間（WR基準）		0		ns
td(BCLK-CS)	チップセレクト出力遅延時間			50	ns
th(BCLK-CS)	チップセレクト出力保持時間（BCLK基準）		4		ns
td(BCLK-ALE)	ALE信号出力遅延時間			40	ns
th(BCLK-ALE)	ALE信号出力保持時間		－4		ns
td(BCLK-RD)	RD信号出力遅延時間			40	ns
th(BCLK-RD)	RD信号出力保持時間		0		ns
td(BCLK-WR)	WR信号出力遅延時間			40	ns
th(BCLK-WR)	WR信号出力保持時間		0		ns
td(BCLK-DB)	データ出力遅延時間（BCLK基準）			50	ns
th(BCLK-DB)	データ出力保持時間（BCLK基準）		4		ns
td(DB-WR)	データ出力遅延時間（WR基準）		(注1)		ns
th(WR-DB)	データ出力保持時間（WR基準）(注2)		0		ns

注1.　BCLKの周波数に応じて次の計算式で算出されます。

$$td(DB-WR) = \frac{10^9}{f(BCLK)} - 50 \quad [ns]$$

注2.　この規格値は出力がオフするタイミングを示しており、データバスの保持時間を示すものではありません。データバスの保持時間は付加容量やプルアップ(プルダウン)抵抗値によって異なります。
右図の回路でデータバスの保持時間は、
$t = -CR \times \ln(1 - V_{OL} / V_{CC})$
で表されます。
例えば、V_{OL} = 0.2Vcc、C = 30pF、R = 1kΩとすると、
出力“L”レベルの保持時間は、
$t = -30pF \times 1k\Omega \times \ln(1 - 0.2Vcc / Vcc)$
$= 6.7ns$
となります。



注3.　－40℃～85℃品をご使用になる場合は、そのむねご指定ください。

スイッチング特性(指定のない場合は、Vcc=3.3V, Vss=0V, Topr=－20℃～85℃ / －40℃～85℃(注2), CM15=“1”)

表1.26.23.　メモリ拡張モードおよびマイクロプロセッサモード
(ウエイトあり、外部メモリ領域をアクセスし、かつマルチプレクスバス領域を選択した場合)

記号	項目	測定条件	規格値 最小	規格値 最大	単位
td(BCLK-AD)	アドレス出力遅延時間	図1.26.1		50	ns
th(BCLK-AD)	アドレス出力保持時間（BCLK基準）		4		ns
th(RD-AD)	アドレス出力保持時間（RD基準）		(注1)		ns
th(WR-AD)	アドレス出力保持時間（WR基準）		(注1)		ns
td(BCLK-CS)	チップセレクト出力遅延時間			50	ns
th(BCLK-CS)	チップセレクト出力保持時間（BCLK基準）		4		ns
th(RD-CS)	チップセレクト出力保持時間（RD基準）		(注1)		ns
th(WR-CS)	チップセレクト出力保持時間（WR基準）		(注1)		ns
td(BCLK-RD)	RD信号出力遅延時間			40	ns
th(BCLK-RD)	RD信号出力保持時間		0		ns
td(BCLK-WR)	WR信号出力遅延時間			40	ns
th(BCLK-WR)	WR信号出力保持時間		0		ns
td(BCLK-DB)	データ出力遅延時間（BCLK基準）			50	ns
th(BCLK-DB)	データ出力保持時間（BCLK基準）		4		ns
td(DB-WR)	データ出力遅延時間（WR基準）		(注1)		ns
th(WR-DB)	データ出力保持時間（WR基準）		(注1)		ns
td(BCLK-ALE)	ALE出力遅延時間（BCLK基準）			40	ns
th(BCLK-ALE)	ALE出力保持時間（BCLK基準）		－4		ns
td(AD-ALE)	ALE出力遅延時間（アドレス基準）		(注1)		ns
th(ALE-AD)	ALE出力保持時間（アドレス基準）		30		ns
td(AD-RD)	アドレス後RD信号出力遅延時間		0		ns
td(AD-WR)	アドレス後WR信号出力遅延時間		0		ns
tdZ(RD-AD)	アドレス出力フローティング開始時間			8	ns

注1.　BCLKの周波数に応じて次の計算式で算出されます。

$$th(RD-AD) = \frac{10^9}{f(BCLK)\times 2} + 0 \quad [ns]$$

$$th(WR-AD) = \frac{10^9}{f(BCLK)\times 2} + 0 \quad [ns]$$

$$th(RD-CS) = \frac{10^9}{f(BCLK)\times 2} + 0 \quad [ns]$$

$$th(WR-CS) = \frac{10^9}{f(BCLK)\times 2} + 0 \quad [ns]$$

$$td(DB-WR) = \frac{10^9\times 3}{f(BCLK)\times 2} - 50 \quad [ns]$$

$$th(WR-DB) = \frac{10^9}{f(BCLK)\times 2} + 0 \quad [ns]$$

$$td(AD-ALE) = \frac{10^9}{f(BCLK)\times 2} - 40 \quad [ns]$$

注2.　－40℃～85℃品をご使用になる場合は、そのむねご指定ください。

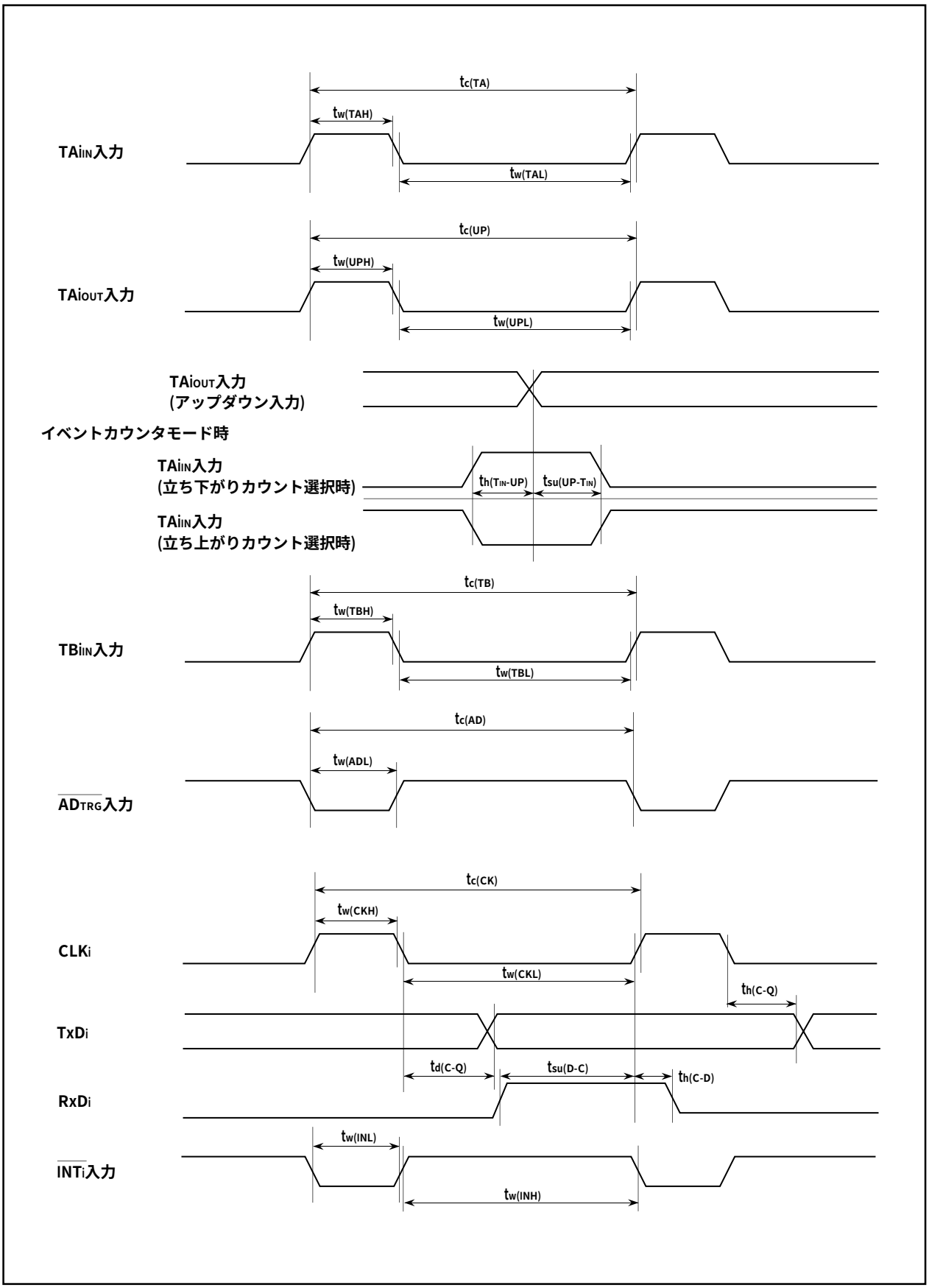
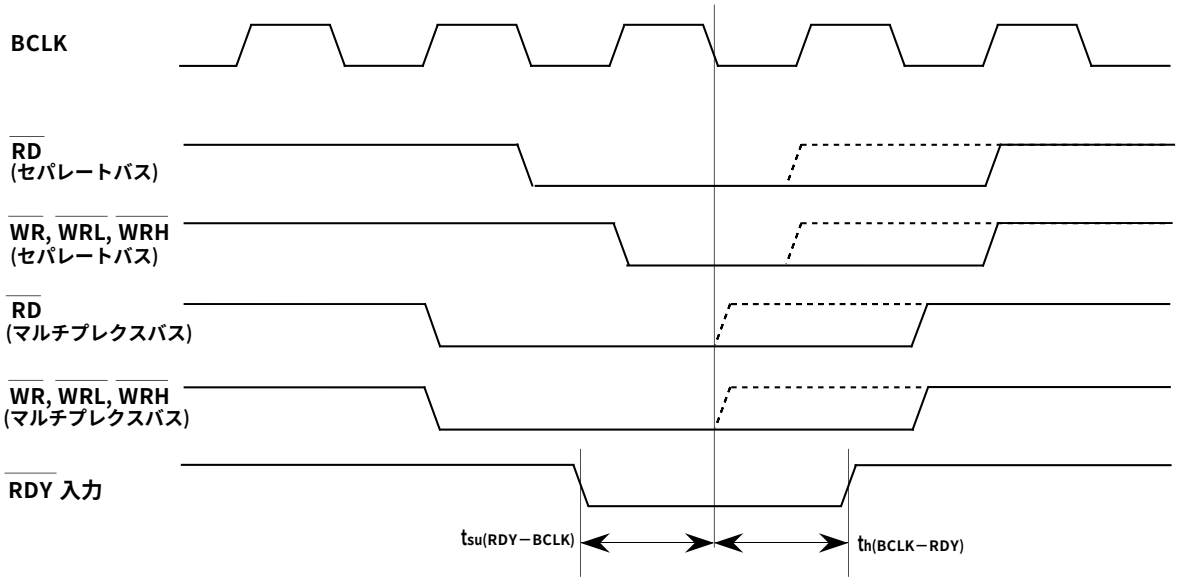


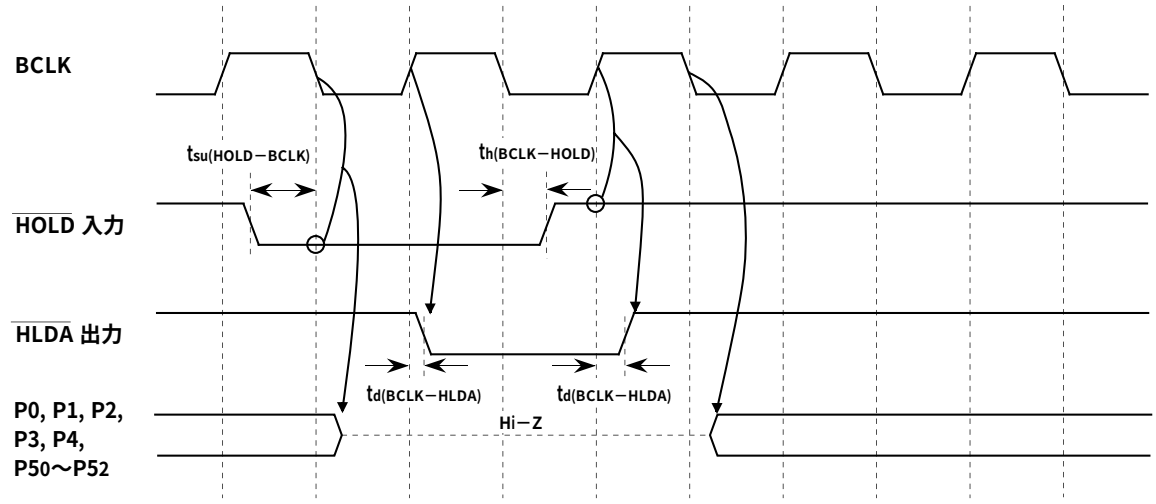
図1.26.2.　タイミング図(1)

メモリ拡張モード、およびマイクロプロセッサモード

(ウエイトありの場合のみ有効)



(ウエイトあり、なし共通)



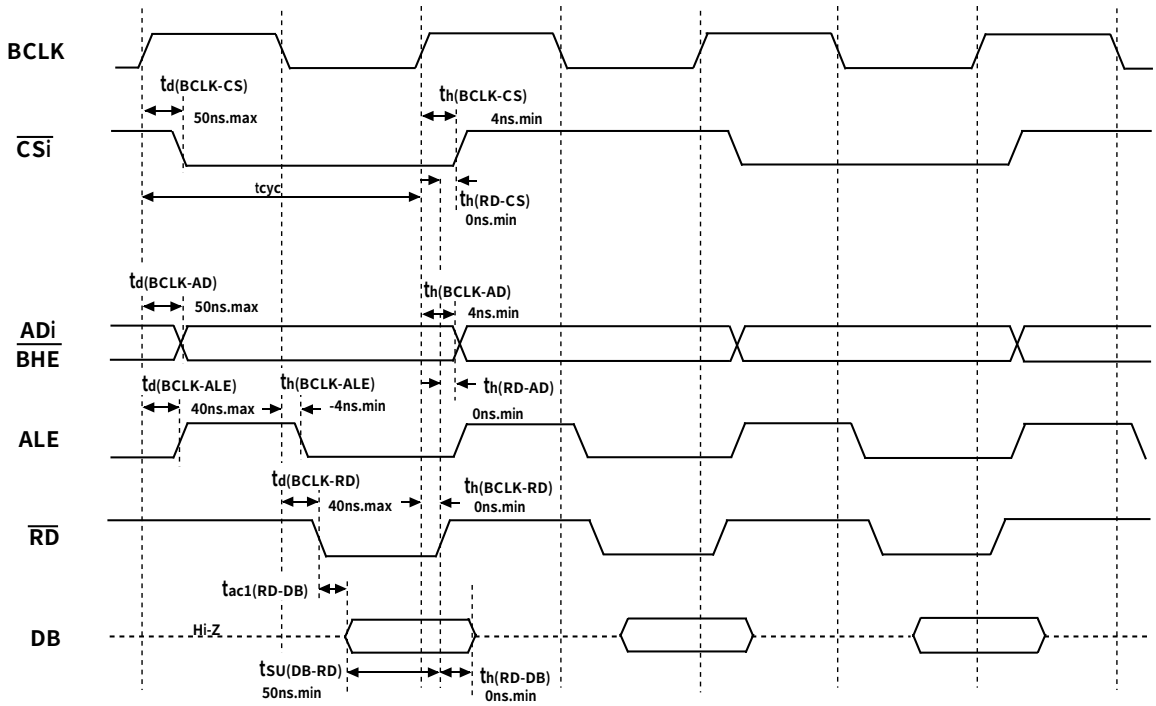
注1. BYTE端子の入力レベル、プロセッサモードレジスタ0のポート$P4_0$〜$P4_3$機能選択ビット(PM06)にかかわらず上記ピンはすべてハイインピーダンス状態になります。

測定条件
・V_{CC}=3.3V
・入力タイミング電圧：V_{IL}=0.66V, V_{IH}=2.64V
・出力タイミング電圧：V_{OL}=1.65V, V_{OH}=1.65V

図1.26.3. タイミング図(2)

メモリ拡張モードおよびマイクロプロセッサモード(ウエイトなしの場合)

読み出しタイミング



書き込みタイミング

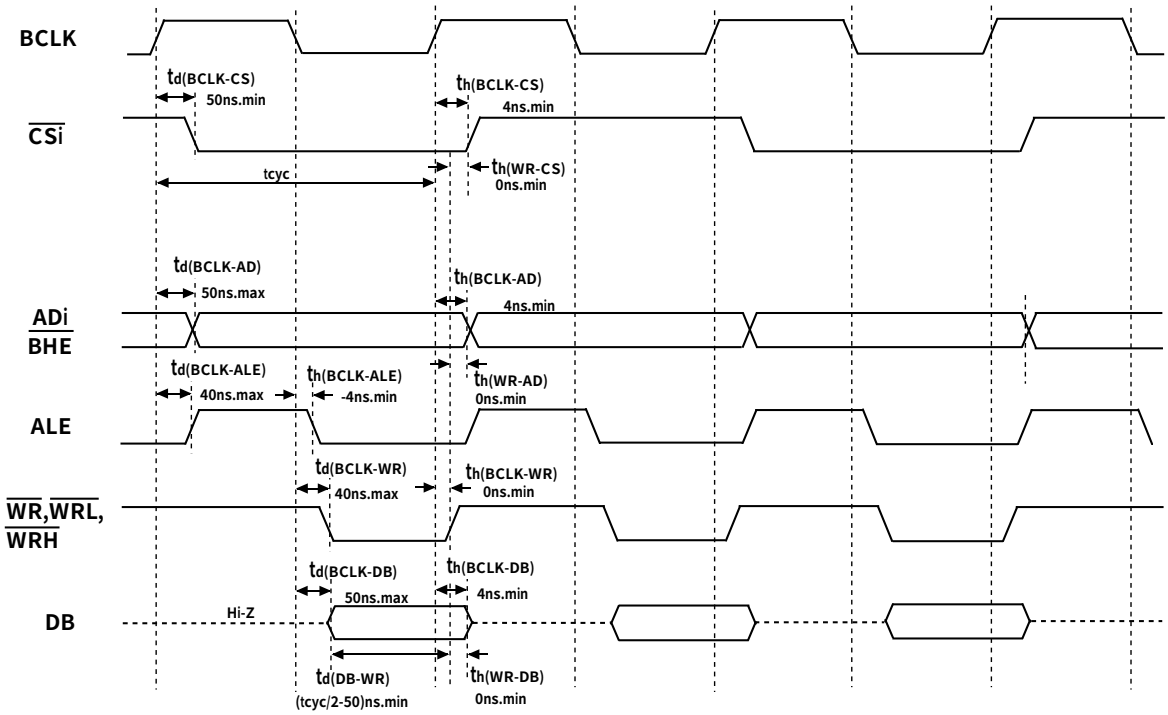
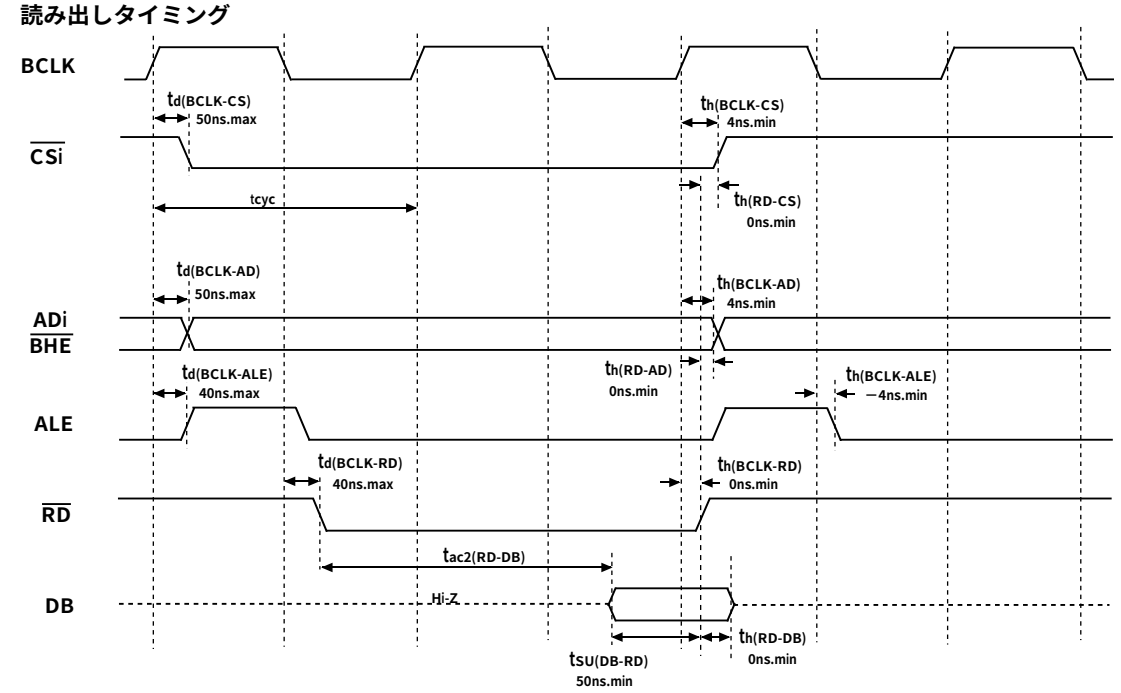


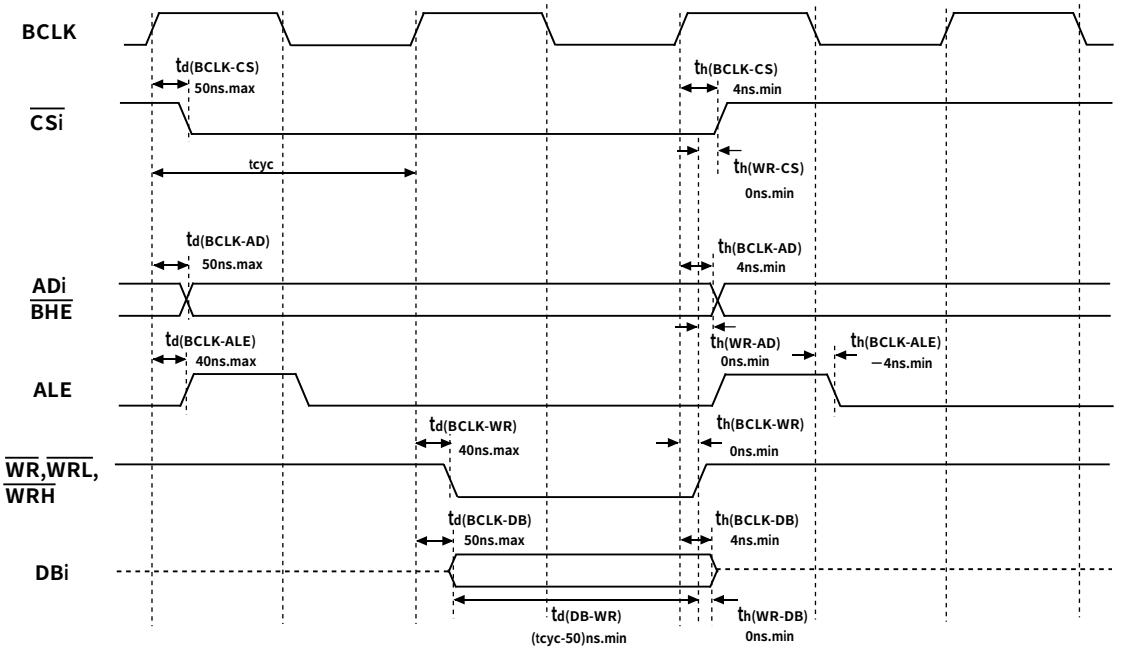
図1.26.4.　タイミング図(3)

メモリ拡張モード、およびマイクロプロセッサモード
(ウエイトあり、外部メモリ領域をアクセスした場合)

読み出しタイミング



書き込みタイミング

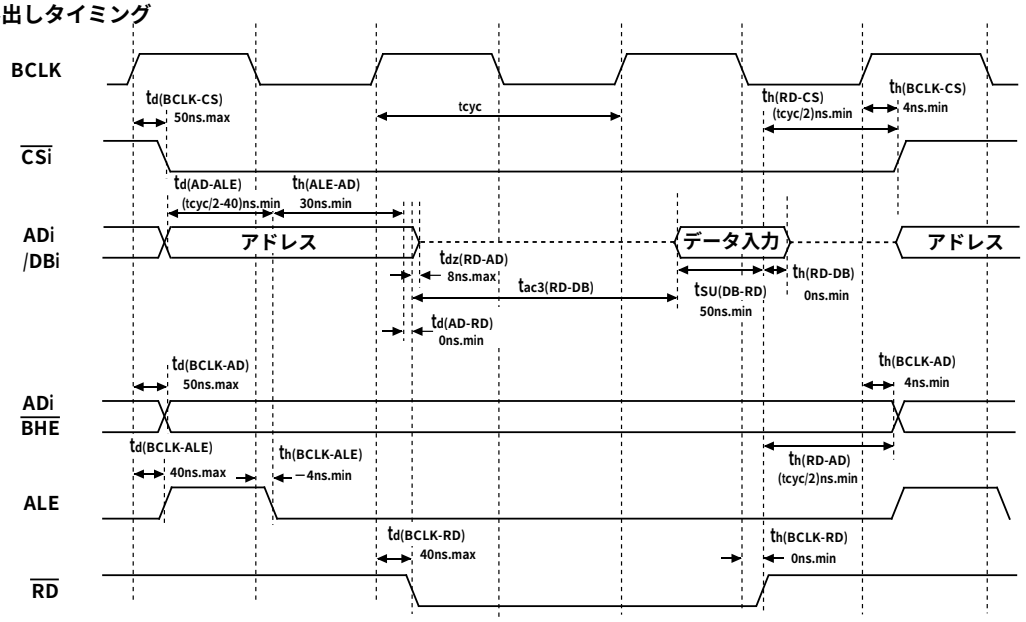


測定条件
- V_{CC}=3.3V
- 入力タイミング電圧：V_{IL}=0.52V,V_{IH}=1.65V
- 出力タイミング電圧：V_{OL}=1.65V,V_{OH}=1.65V

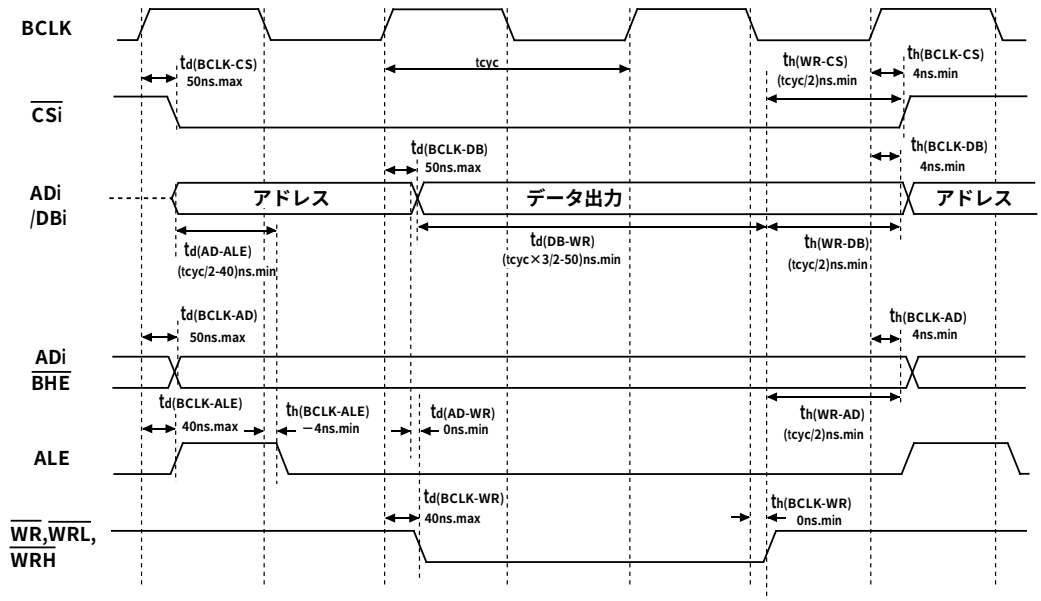
図1.26.5.　タイミング図(4)

メモリ拡張モード、およびマイクロプロセッサモード
(ウエイトあり、外部メモリ領域をアクセスし、かつマルチプレクスバスを使用した場合)

読み出しタイミング



書き込みタイミング



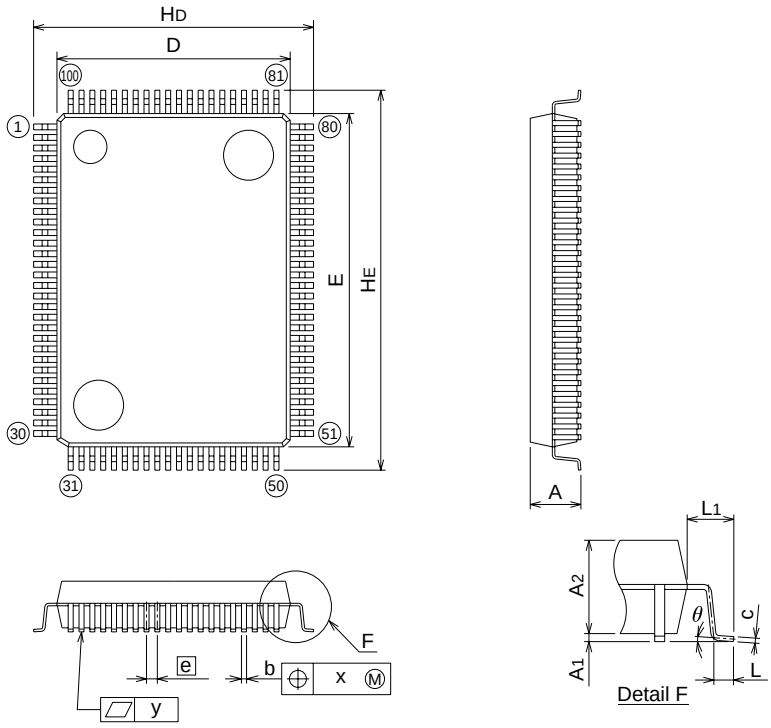
測定条件
- V_{CC}=3.3V
- 入力タイミング電圧：V_{IL}=0.52V,V_{IH}=1.65V
- 出力タイミング電圧：V_{OL}=1.65V,V_{OH}=1.65V

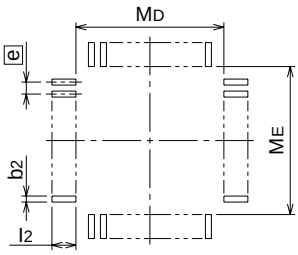
図1.26.6.　タイミング図(5)

100P6S-A (MMP)

Plastic 100pin 14×20mm body QFP

EIAJ Package Code	JEDEC Code	Weight(g)	Lead Material
QFP100-P-1420-0.65	–	1.58	Alloy 42





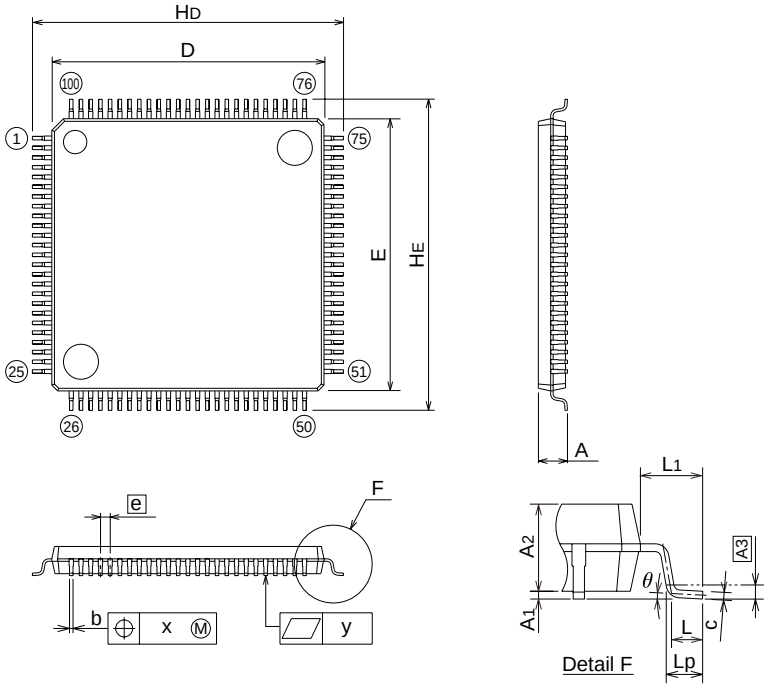
Recommended Mount Pad

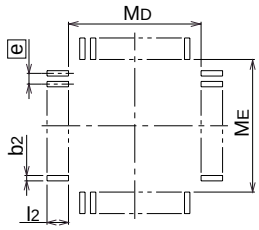
Symbol	Dimension in Millimeters		
	Min	Nom	Max
A	–	–	3.05
A_1	0	0.1	0.2
A_2	–	2.8	–
b	0.25	0.3	0.4
c	0.13	0.15	0.2
D	13.8	14.0	14.2
E	19.8	20.0	20.2
e	–	0.65	–
H_D	16.5	16.8	17.1
H_E	22.5	22.8	23.1
L	0.4	0.6	0.8
L_1	–	1.4	–
x	–	–	0.13
y	–	–	0.1
θ	0°	–	10°
b_2	–	0.35	–
l_2	1.3	–	–
M_D	–	14.6	–
M_E	–	20.6	–

100P6Q-A (MMP)

Plastic 100pin 14×14mm body LQFP

EIAJ Package Code	JEDEC Code	Weight(g)	Lead Material
LQFP100-P-1414-0.50	–	0.63	Cu Alloy





Recommended Mount Pad

Symbol	Dimension in Millimeters		
	Min	Nom	Max
A	–	–	1.7
A_1	0	0.1	0.2
A_2	–	1.4	–
b	0.13	0.18	0.28
c	0.105	0.125	0.175
D	13.9	14.0	14.1
E	13.9	14.0	14.1
e	–	0.5	–
H_D	15.8	16.0	16.2
H_E	15.8	16.0	16.2
L	0.3	0.5	0.7
L_1	–	1.0	–
Lp	0.45	0.6	0.75
A3	–	0.25	–
x	–	–	0.08
y	–	–	0.1
θ	0°	–	10°
b_2	–	0.225	–
l_2	0.9	–	–
M_D	–	14.4	–
M_E	–	14.4	–

M16C/62NとM16C/30LとのSFRの相違点

アドレス	シンボル	M16C/62N	M16C/30L
0005	PM1	ﾌﾟﾛｾｯｻﾓｰﾄﾞﾚｼﾞｽﾀ1 bit0:予約ﾋﾞｯﾄ bit1:何も配置されていない PM12:監視タイマ機能選択ﾋﾞｯﾄ PM13:内部予約領域拡張ﾋﾞｯﾄ PM14:ﾒﾓﾘ空間拡張ﾋﾞｯﾄ PM15: bit6:予約ﾋﾞｯﾄ PM17:ｳｴｲﾄﾋﾞｯﾄ	ﾌﾟﾛｾｯｻﾓｰﾄﾞﾚｼﾞｽﾀ1 bit0:予約ﾋﾞｯﾄ bit1:何も配置されていない PM12:監視タイマ機能選択ﾋﾞｯﾄ bit3:予約ﾋﾞｯﾄ bit4:予約ﾋﾞｯﾄ bit5:予約ﾋﾞｯﾄ bit6:予約ﾋﾞｯﾄ PM17:ｳｴｲﾄﾋﾞｯﾄ
000A	PRCR	ﾌﾟﾛﾃｸﾄﾚｼﾞｽﾀ PRC0:ｼｽﾃﾑｸﾛｯｸ制御ﾚｼﾞｽﾀ0,1への書き込み許可 PRC1:ﾌﾟﾛｾｯｻﾓｰﾄﾞﾚｼﾞｽﾀ0,1への書き込み許可 PRC2:ﾎﾟｰﾄP9方向ﾚｼﾞｽﾀ、SI/O制御ﾚｼﾞｽﾀへの書き込み許可 bit3-bit7:何も配置されていない	ﾌﾟﾛﾃｸﾄﾚｼﾞｽﾀ PRC0:ｼｽﾃﾑｸﾛｯｸ制御ﾚｼﾞｽﾀ0,1への書き込み許可 PRC1:ﾌﾟﾛｾｯｻﾓｰﾄﾞﾚｼﾞｽﾀ0,1への書き込み許可 PRC2:ﾎﾟｰﾄP9方向ﾚｼﾞｽﾀ書き込み許可 bit3-bit7:何も配置されていない
000B	DBR	ﾃﾞｰﾀﾊﾞﾝｸﾚｼﾞｽﾀ	予約ﾚｼﾞｽﾀ
0030	SAR1	DMA1ｿｰｽﾎﾟｲﾝﾀ	予約ﾚｼﾞｽﾀ
0031	SAR1	DMA1ｿｰｽﾎﾟｲﾝﾀ	予約ﾚｼﾞｽﾀ
0032	SAR1	DMA1ｿｰｽﾎﾟｲﾝﾀ	予約ﾚｼﾞｽﾀ
0034	DAR1	DMA1ﾃﾞｨｽﾃｨﾈｰｼｮﾝﾎﾟｲﾝﾀ	予約ﾚｼﾞｽﾀ
0035	DAR1	DMA1ﾃﾞｨｽﾃｨﾈｰｼｮﾝﾎﾟｲﾝﾀ	予約ﾚｼﾞｽﾀ
0036	DAR1	DMA1ﾃﾞｨｽﾃｨﾈｰｼｮﾝﾎﾟｲﾝﾀ	予約ﾚｼﾞｽﾀ
0038	TCR1	DMA1転送ｶｳﾝﾀ	予約ﾚｼﾞｽﾀ
0039	TCR1	DMA1転送ｶｳﾝﾀ	予約ﾚｼﾞｽﾀ
003C	DM1CON	DMA1制御ﾚｼﾞｽﾀ	予約ﾚｼﾞｽﾀ
0044	INT3IC	INT3割り込み制御ﾚｼﾞｽﾀ	予約ﾚｼﾞｽﾀ
0045	TB5IC	ﾀｲﾏB5割り込み制御ﾚｼﾞｽﾀ	予約ﾚｼﾞｽﾀ
0046	TB4IC	ﾀｲﾏB4割り込み制御ﾚｼﾞｽﾀ	予約ﾚｼﾞｽﾀ
0047	TB3IC	ﾀｲﾏB3割り込み制御ﾚｼﾞｽﾀ	予約ﾚｼﾞｽﾀ
0048	S4IC/INT5IC	SI/O4,INT5割り込み制御ﾚｼﾞｽﾀ	予約ﾚｼﾞｽﾀ
0049	S3IC/INT4IC	SI/O3,INT4割り込み制御ﾚｼﾞｽﾀ	予約ﾚｼﾞｽﾀ
004C	DM1IC	DMA1割り込み制御ﾚｼﾞｽﾀ	予約ﾚｼﾞｽﾀ
0058	TA3IC	ﾀｲﾏA3割り込み制御ﾚｼﾞｽﾀ	予約ﾚｼﾞｽﾀ
0059	TA4IC	ﾀｲﾏA4割り込み制御ﾚｼﾞｽﾀ	予約ﾚｼﾞｽﾀ
005A	TB0IC	ﾀｲﾏB0割り込み制御ﾚｼﾞｽﾀ	予約ﾚｼﾞｽﾀ
0340	TBSR	ﾀｲﾏB3,4,5ｶｳﾝﾄ開始ﾌﾗｸﾞ	予約ﾚｼﾞｽﾀ
0342	TA11	ﾀｲﾏA1-1	予約ﾚｼﾞｽﾀ
0343	TA11	ﾀｲﾏA1-1	予約ﾚｼﾞｽﾀ
0344	TA21	ﾀｲﾏA2-1	予約ﾚｼﾞｽﾀ
0345	TA21	ﾀｲﾏA2-1	予約ﾚｼﾞｽﾀ
0346	TA41	ﾀｲﾏA4-1	予約ﾚｼﾞｽﾀ
0347	TA41	ﾀｲﾏA4-1	予約ﾚｼﾞｽﾀ
0348	INVC0	三相PWM制御ﾚｼﾞｽﾀ0	予約ﾚｼﾞｽﾀ
0349	INVC1	三相PWM制御ﾚｼﾞｽﾀ1	予約ﾚｼﾞｽﾀ
034A	IDB0	三相出力ﾊﾞｯﾌｧﾚｼﾞｽﾀ0	予約ﾚｼﾞｽﾀ
034B	IDB1	三相出力ﾊﾞｯﾌｧﾚｼﾞｽﾀ1	予約ﾚｼﾞｽﾀ
034C	DTT	短絡防止ﾀｲﾏ	予約ﾚｼﾞｽﾀ
034D	ICTB2	ﾀｲﾏB2割り込み発生頻度設定ｶｳﾝﾀ	予約ﾚｼﾞｽﾀ
0350	TB3	ﾀｲﾏB3	予約ﾚｼﾞｽﾀ
0351	TB3	ﾀｲﾏB3	予約ﾚｼﾞｽﾀ
0352	TB4	ﾀｲﾏB4	予約ﾚｼﾞｽﾀ
0353	TB4	ﾀｲﾏB4	予約ﾚｼﾞｽﾀ
0354	TB5	ﾀｲﾏB5	予約ﾚｼﾞｽﾀ
0355	TB5	ﾀｲﾏB5	予約ﾚｼﾞｽﾀ
035B	TB3MR	ﾀｲﾏB3ﾓｰﾄﾞﾚｼﾞｽﾀ	予約ﾚｼﾞｽﾀ
035C	TB4MR	ﾀｲﾏB4ﾓｰﾄﾞﾚｼﾞｽﾀ	予約ﾚｼﾞｽﾀ
035D	TB5MR	ﾀｲﾏB5ﾓｰﾄﾞﾚｼﾞｽﾀ	予約ﾚｼﾞｽﾀ

予約レジスタにはアクセスしないでください。

M16C/62NとM16C/30LとのSFRの相違点

アドレス	シンボル	M16C/62N	M16C/30L
035F	IFSR	割り込み要因選択ﾚｼﾞｽﾀ IFSR0:INT0割り込み極性切り替えﾋﾞｯﾄ IFSR1:INT1割り込み極性切り替えﾋﾞｯﾄ IFSR2:INT2割り込み極性切り替えﾋﾞｯﾄ IFSR3:INT3割り込み極性切り替えﾋﾞｯﾄ IFSR4:INT4割り込み極性切り替えﾋﾞｯﾄ IFSR5:INT5割り込み極性切り替えﾋﾞｯﾄ IFSR6:割り込み要因切替ﾋﾞｯﾄ IFSR7:割り込み要因切替ﾋﾞｯﾄ	割り込み要因選択ﾚｼﾞｽﾀ IFSR0:INT0割り込み極性切り替えﾋﾞｯﾄ IFSR1:INT1割り込み極性切り替えﾋﾞｯﾄ IFSR2:INT2割り込み極性切り替えﾋﾞｯﾄ bit3:予約ﾋﾞｯﾄ bit4:予約ﾋﾞｯﾄ bit5:予約ﾋﾞｯﾄ bit6:予約ﾋﾞｯﾄ bit7:予約ﾋﾞｯﾄ
0360	S3TRR	SI/O3送受信ﾚｼﾞｽﾀ	予約ﾚｼﾞｽﾀ
0362	S3C	SI/O3制御ﾚｼﾞｽﾀ	予約ﾚｼﾞｽﾀ
0363	S3BRG	SI/O3転送速度ﾚｼﾞｽﾀ	予約ﾚｼﾞｽﾀ
0364	S4TRR	SI/O4送受信ﾚｼﾞｽﾀ	予約ﾚｼﾞｽﾀ
0366	S4C	SI/O4制御ﾚｼﾞｽﾀ	予約ﾚｼﾞｽﾀ
0367	S4BRG	SI/O4転送速度ﾚｼﾞｽﾀ	予約ﾚｼﾞｽﾀ
0380	TABSR	ｶｳﾝﾄ開始ﾌﾗｸﾞ TA0S:ﾀｲﾏA0ｶｳﾝﾄ開始ﾌﾗｸﾞ TA1S:ﾀｲﾏA1ｶｳﾝﾄ開始ﾌﾗｸﾞ TA2S:ﾀｲﾏA2ｶｳﾝﾄ開始ﾌﾗｸﾞ TA3S:ﾀｲﾏA3ｶｳﾝﾄ開始ﾌﾗｸﾞ TA4S:ﾀｲﾏA4ｶｳﾝﾄ開始ﾌﾗｸﾞ TB0S:ﾀｲﾏB0ｶｳﾝﾄ開始ﾌﾗｸﾞ TB1S:ﾀｲﾏB1ｶｳﾝﾄ開始ﾌﾗｸﾞ TB2S:ﾀｲﾏB2ｶｳﾝﾄ開始ﾌﾗｸﾞ	ｶｳﾝﾄ開始ﾌﾗｸﾞ TA0S:ﾀｲﾏA0ｶｳﾝﾄ開始ﾌﾗｸﾞ TA1S:ﾀｲﾏA1ｶｳﾝﾄ開始ﾌﾗｸﾞ TA2S:ﾀｲﾏA2ｶｳﾝﾄ開始ﾌﾗｸﾞ bit3:予約ﾋﾞｯﾄ bit4:予約ﾋﾞｯﾄ bit5:予約ﾋﾞｯﾄ TB1S:ﾀｲﾏB1ｶｳﾝﾄ開始ﾌﾗｸﾞ TB2S:ﾀｲﾏB2ｶｳﾝﾄ開始ﾌﾗｸﾞ
0382	ONSF	ﾜﾝｼｮｯﾄ開始ﾌﾗｸﾞ TA0OS:ﾀｲﾏA0ﾜﾝｼｮｯﾄ開始ﾌﾗｸﾞ TA1OS:ﾀｲﾏA1ﾜﾝｼｮｯﾄ開始ﾌﾗｸﾞ TA2OS:ﾀｲﾏA2ﾜﾝｼｮｯﾄ開始ﾌﾗｸﾞ TA3OS:ﾀｲﾏA3ﾜﾝｼｮｯﾄ開始ﾌﾗｸﾞ TA4OS:ﾀｲﾏA4ﾜﾝｼｮｯﾄ開始ﾌﾗｸﾞ bit5:何も配置されていない TA0TGL:ﾀｲﾏA0ｲﾍﾞﾝﾄ/ﾄﾘｶﾞ選択ﾋﾞｯﾄ TA0TGH:　00,01,10,11選択可能	ﾜﾝｼｮｯﾄ開始ﾌﾗｸﾞ TA0OS:ﾀｲﾏA0ﾜﾝｼｮｯﾄ開始ﾌﾗｸﾞ TA1OS:ﾀｲﾏA1ﾜﾝｼｮｯﾄ開始ﾌﾗｸﾞ TA2OS:ﾀｲﾏA2ﾜﾝｼｮｯﾄ開始ﾌﾗｸﾞ bit3:予約ﾋﾞｯﾄ bit4:予約ﾋﾞｯﾄ bit5:何も配置されていない TA0TGL:ﾀｲﾏA0ｲﾍﾞﾝﾄ/ﾄﾘｶﾞ選択ﾋﾞｯﾄ TA0TGH:　00,01,11選択可能　10設定禁止
0383	TRGSR	ﾄﾘｶﾞ選択ﾚｼﾞｽﾀ TA1TGL:ﾀｲﾏA1ｲﾍﾞﾝﾄ/ﾄﾘｶﾞ選択ﾋﾞｯﾄ TA1TGH:　00,01,10,11選択可能 TA2TGL:ﾀｲﾏA2ｲﾍﾞﾝﾄ/ﾄﾘｶﾞ選択ﾋﾞｯﾄ TA2TGH:　00,01,10,11選択可能 TA3TGL:ﾀｲﾏA3ｲﾍﾞﾝﾄ/ﾄﾘｶﾞ選択ﾋﾞｯﾄ TA3TGH:　00,01,10,11選択可能 TA4TGL:ﾀｲﾏA4ｲﾍﾞﾝﾄ/ﾄﾘｶﾞ選択ﾋﾞｯﾄ TA4TGH:　00,01,10,11選択可能	ﾄﾘｶﾞ選択ﾚｼﾞｽﾀ TA1TGL:ﾀｲﾏA1ｲﾍﾞﾝﾄ/ﾄﾘｶﾞ選択ﾋﾞｯﾄ TA1TGH:　00,01,10,11選択可能 TA2TGL:ﾀｲﾏA2ｲﾍﾞﾝﾄ/ﾄﾘｶﾞ選択ﾋﾞｯﾄ TA2TGH:　00,01,10選択可能　11設定禁止 bit4:予約ﾋﾞｯﾄ bit5:予約ﾋﾞｯﾄ bit6:予約ﾋﾞｯﾄ bit7:予約ﾋﾞｯﾄ
0384	UDF	ｱｯﾌﾟﾀﾞｳﾝﾌﾗｸﾞ TA0UD:ﾀｲﾏA0ｱｯﾌﾟﾀﾞｳﾝﾌﾗｸﾞ TA1UD:ﾀｲﾏA1ｱｯﾌﾟﾀﾞｳﾝﾌﾗｸﾞ TA2UD:ﾀｲﾏA2ｱｯﾌﾟﾀﾞｳﾝﾌﾗｸﾞ TA3UD:ﾀｲﾏA3ｱｯﾌﾟﾀﾞｳﾝﾌﾗｸﾞ TA4UD:ﾀｲﾏA4ｱｯﾌﾟﾀﾞｳﾝﾌﾗｸﾞ TA2P:ﾀｲﾏA2二相ﾊﾟﾙｽ信号処理機能選択ﾋﾞｯﾄ TA3P:ﾀｲﾏA3二相ﾊﾟﾙｽ信号処理機能選択ﾋﾞｯﾄ TA4P:ﾀｲﾏA4二相ﾊﾟﾙｽ信号処理機能選択ﾋﾞｯﾄ	ｱｯﾌﾟﾀﾞｳﾝﾌﾗｸﾞ TA0UD:ﾀｲﾏA0ｱｯﾌﾟﾀﾞｳﾝﾌﾗｸﾞ TA1UD:ﾀｲﾏA1ｱｯﾌﾟﾀﾞｳﾝﾌﾗｸﾞ TA2UD:ﾀｲﾏA2ｱｯﾌﾟﾀﾞｳﾝﾌﾗｸﾞ bit3:予約ﾋﾞｯﾄ bit4:予約ﾋﾞｯﾄ TA2P:ﾀｲﾏA2二相ﾊﾟﾙｽ信号処理機能選択ﾋﾞｯﾄ bit6:予約ﾋﾞｯﾄ bit7:予約ﾋﾞｯﾄ
038C	TA3	ﾀｲﾏA3	予約ﾚｼﾞｽﾀ
038D	TA3	ﾀｲﾏA3	予約ﾚｼﾞｽﾀ
038E	TA4	ﾀｲﾏA4	予約ﾚｼﾞｽﾀ
038F	TA4	ﾀｲﾏA4	予約ﾚｼﾞｽﾀ
0390	TB0	ﾀｲﾏB0	予約ﾚｼﾞｽﾀ
0391	TB0	ﾀｲﾏB0	予約ﾚｼﾞｽﾀ
0399	TA3MR	ﾀｲﾏA3ﾓｰﾄﾞﾚｼﾞｽﾀ	予約ﾚｼﾞｽﾀ
039A	TA4MR	ﾀｲﾏA4ﾓｰﾄﾞﾚｼﾞｽﾀ	予約ﾚｼﾞｽﾀ
039B	TB0MR	ﾀｲﾏB0ﾓｰﾄﾞﾚｼﾞｽﾀ	予約ﾚｼﾞｽﾀ

予約レジスタにはアクセスしないでください。

M16C/62NとM16C/30LとのSFRの相違点

アドレス	シンボル	M16C/62N	M16C/30L
039C	TB1MR	ﾀｲﾏB1ﾓｰﾄﾞﾚｼﾞｽﾀ ｲﾍﾞﾝﾄｶｳﾝﾀﾓｰﾄﾞ時 TMOD0:動作ﾓｰﾄﾞ選択ﾋﾞｯﾄ TMOD1: MR0:ｶｳﾝﾄ極性選択ﾋﾞｯﾄ MR1: MR2:何も配置されていない MR3:無効 TCK1:ｲﾍﾞﾝﾄｸﾛｯｸ選択　0,1設定可能	ﾀｲﾏB1ﾓｰﾄﾞﾚｼﾞｽﾀ ｲﾍﾞﾝﾄｶｳﾝﾀﾓｰﾄﾞ時 TMOD0:動作ﾓｰﾄﾞ選択ﾋﾞｯﾄ TMOD1: MR0:ｶｳﾝﾄ極性選択ﾋﾞｯﾄ MR1: MR2:何も配置されていない MR3:無効 TCK1:ｲﾍﾞﾝﾄｸﾛｯｸ選択　0のみ設定可能　1設定禁止
03B4	FIDR	ﾌﾗｯｼｭ識別ﾚｼﾞｽﾀ	予約ﾚｼﾞｽﾀ
03B7	FMR0	ﾌﾗｯｼｭﾒﾓﾘ制御ﾚｼﾞｽﾀ0	予約ﾚｼﾞｽﾀ
03B8	DM0SL	DMA0要因選択ﾚｼﾞｽﾀ DMA0要求要因 INT0端子立ち下がりエッジ ソフトウエアトリガ タイマＡ０ タイマＡ１ タイマＡ２ タイマＡ３ タイマＡ４ INT0端子の両エッジ タイマＢ０ タイマＢ１ タイマＢ２ タイマＢ３ タイマＢ４ タイマＢ５ ＵＡＲＴ０送信 ＵＡＲＴ０受信 ＵＡＲＴ２送信 ＵＡＲＴ２受信 ＵＡＲＴ１送信 Ａ－Ｄ変換	DMA0要因選択ﾚｼﾞｽﾀ DMA0要求要因 INT0端子立ち下がりエッジ ソフトウエアトリガ タイマＡ０ タイマＡ１ タイマＡ２ INT0端子の両エッジ タイマＢ１ タイマＢ２ ＵＡＲＴ０送信 ＵＡＲＴ０受信 ＵＡＲＴ２送信 ＵＡＲＴ２受信 ＵＡＲＴ１送信 Ａ－Ｄ変換
03BA	DM1SL	DMA1要因選択ﾚｼﾞｽﾀ	予約ﾚｼﾞｽﾀ
03BC	CRCD	CRCﾃﾞｰﾀﾚｼﾞｽﾀ	予約ﾚｼﾞｽﾀ
03BD	CRCIN	CRCﾃﾞｰﾀﾚｼﾞｽﾀ	予約ﾚｼﾞｽﾀ
03BE	CRCIN	CRCｲﾝﾌﾟｯﾄﾚｼﾞｽﾀ	予約ﾚｼﾞｽﾀ
03D4	ADCON2	A-D制御ﾚｼﾞｽﾀ2 SMP:A-D変換方式選択ﾋﾞｯﾄ ADGSL0:A-D入力ｸﾞﾙｰﾌﾟ選択ﾋﾞｯﾄ ADGSL1: bit3:予約ﾋﾞｯﾄ bit4-bit7:何も配置されていない	A-D制御ﾚｼﾞｽﾀ2 SMP:A-D変換方式選択ﾋﾞｯﾄ bit1:予約ﾋﾞｯﾄ bit2:予約ﾋﾞｯﾄ bit3:予約ﾋﾞｯﾄ bit4-bit7:何も配置されていない
03D6	ADCON0	A-D制御ﾚｼﾞｽﾀ0 CH0:ｱﾅﾛｸﾞ入力端子選択ﾋﾞｯﾄ CH1: CH2: MD0:A-D動作ﾓｰﾄﾞ選択ﾋﾞｯﾄ0 MD1:　00,01,10,11設定可能 TRG:ﾄﾘｶﾞ選択ﾋﾞｯﾄ ADST:A-D変換開始ﾌﾗｸﾞ CKS0:周波数選択ﾋﾞｯﾄ0	A-D制御ﾚｼﾞｽﾀ0 CH0:ｱﾅﾛｸﾞ入力端子選択ﾋﾞｯﾄ CH1: CH2: MD0:A-D動作ﾓｰﾄﾞ選択ﾋﾞｯﾄ0 MD1:　00のみ設定可能　01,10,11設定禁止 TRG:ﾄﾘｶﾞ選択ﾋﾞｯﾄ ADST:A-D変換開始ﾌﾗｸﾞ CKS0:周波数選択ﾋﾞｯﾄ0
03D7	ADCON1	A-D制御ﾚｼﾞｽﾀ1 SCAN0:A-D掃引端子選択ﾋﾞｯﾄ SCAN1: MD2:A-D動作ﾓｰﾄﾞ選択ﾋﾞｯﾄ1 BITS:8/10ﾋﾞｯﾄﾓｰﾄﾞ選択ﾋﾞｯﾄ CKS1:周波数選択ﾋﾞｯﾄ1 VCUT:Vref接続ﾋﾞｯﾄ OPA0:外部ｵﾍﾟｱﾝﾌﾟ接続ﾓｰﾄﾞﾋﾞｯﾄ OPA1:	A-D制御ﾚｼﾞｽﾀ1 bit0:予約ﾋﾞｯﾄ bit1:予約ﾋﾞｯﾄ bit2:予約ﾋﾞｯﾄ BITS:8/10ﾋﾞｯﾄﾓｰﾄﾞ選択ﾋﾞｯﾄ CKS1:周波数選択ﾋﾞｯﾄ1 VCUT:Vref接続ﾋﾞｯﾄ OPA0:外部ｵﾍﾟｱﾝﾌﾟ接続ﾓｰﾄﾞﾋﾞｯﾄ OPA1:
03D8	DA0	D-Aﾚｼﾞｽﾀ0	予約ﾚｼﾞｽﾀ
03DA	DA1	D-Aﾚｼﾞｽﾀ1	予約ﾚｼﾞｽﾀ
03DC	DACON	D-A制御ﾚｼﾞｽﾀ	予約ﾚｼﾞｽﾀ

予約レジスタにはアクセスしないでください。

改訂履歴	M16C/30L グループデータシート

Rev.	発行日	改訂内容	
		ページ	ポイント
1.1	02/06/24	14 136 137	図 1.5.1 を変更 図 1.20.1　P7₄ を追加 図 1.20.2　P7₄ を削除

三菱シングルチップマイクロコンピュータ
M16C / 30L グループ　データシート Rev.1.1

2002 年 6 月発行
編集　三菱電機セミコンダクタ・アプリケーション・エンジニアリング株式会社
発行　三菱電機株式会社

禁無断転載
　本説明書の一部又は全部を、当社に断りなく、いかなる形でも転載又は複製することを堅くお断りします。
©2002 MITSUBISHI ELECTRIC CORPORATION